熊本県文化財調査報告第１８４集

古閑北遺跡

（こがきた）

産業展示場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９９．３

熊本県教育委員会

古閑北遺跡遠景

平成５年度調査区

平成６・７年度調査区

熊本県文化財調査報告第１８４集

古閑北遺跡

（こがきた）

産業展示場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９９．３

熊本県教育委員会

序　　文

熊本県教育委員会では、熊本県商工観光労働部商工政策課の依頼を受け、産業展示場建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施いたしました。

今回報告する古閑北遺跡の発掘調査は、平成５年度から８年度にかけて実施し、縄文時代全般及び弥生時代末期を中心とする多数の遺物が出土しました。中でも縄文時代全般にわたり出土した土器や石器及び竪穴住居跡等は、この時代の人類の生活を知るための貴重な資料となると思われます。

この報告書が、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解を深め、さらには学術研究の進展にいささかでも寄与するところがあれば、まことに喜びに堪えません。

なお、本調査を実施するにあたり、文化財保護の観点から多大の御協力を惜しまれなかった、熊本県商工観光労働部商工政策課ならびに御指導御助言をいただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。

平成11年３月31日

熊本県教育委員会

教育長　　佐々木正典

例　　言

1　本書は、熊本県商工観光労働部商工政策課の産業展示場建設事業計画に伴い、平成５年度から８年度にかけて実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査を実施した遺跡は、熊本県上益城郡益城町大字古閑字豊之内・崎久保・横道に所在する古閑北遺跡で、熊本県商工観光労働部商工政策課の依頼を受けて、熊本県教育委員会が行った。

3　現地での調査は、野田恒親、西住欣一郎、緒方徹、本山千絵、山田大輔、矢野喜久代、荒木聖子、池田由希子が行った。

4　遺物の整理、実測は、平成９・10年度に熊本県文化財収蔵庫で実施し、野田、濱田、荒木、安達、本松亜希子、牧寺俊明、知名石揚子、藤本圭司、藤木聡がこれにあたった。また、遺物実測の一部については、（有）埋蔵文化財サポートシステム及び（株）エーティック環境文化研究所に委託した。

5　本書に使用した挿図のうち、第１図は熊本土木事務所から提供を受けたものを基礎にした。また、第２図は国土地理院の２万５千分の１地形図を利用した。

6　本書の執筆および編集は、熊本県文化財収蔵庫において、野田、濱田が行った。また、第Ⅰ章第１節については、松本健郎が執筆した。

7　遺物の写真撮影は、熊本県文化財収蔵庫において、今村龍太郎が行った。

8　整理後の遺物は、熊本県文化財収蔵庫（熊本市渡鹿３丁目15－12）に保管されている。

凡　　例

1　本書に使用した測量等の基準は、第２図を除き、４級基準点測量によって導き出した、国土地理院の設定する「公共座標Ⅱ系」を使用している。このため、使用した方位はすべて公共座標上の北を指している。

2　遺構における高度は、海抜高である。

3　遺構の深さで特に断りのないものは、検出面からの深さである。

4　出土遺物観察表における計測値は現存値であるが、土器の口底径については復原値を示した。

本　文　目　次

口　絵
序　文
例言・凡例

第Ⅰ章　序　説
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1
1　調査に至る経緯 …… 1
2　調査組織 …… 2
第２節　遺跡の位置と環境 …… 3
1　遺跡の位置 …… 3
2　遺跡の地理的環境 …… 3
3　調査区の地形 …… 3
4　遺跡周辺の歴史的環境 …… 6
第３節　発掘調査の概要 …… 10
1　調査方法および調査区の設定 …… 10
2　調査の概要 …… 10
3　遺跡の基本層位 …… 17

第Ⅱ章　調査の成果
第１節　縄文時代の遺構と遺物 …… 18
1　竪穴住居跡 …… 18
2　円形周溝遺構 …… 36
3　その他の遺構 …… 43
4　土器 …… 47
5　石器 …… 68
第２節　弥生時代の遺構と遺物 …… 88
1　竪穴住居跡 …… 88
2　土器 …… 88
第３節　歴史時代の遺構と遺物 …… 91
1　溝 …… 91
2　土器 …… 92

第Ⅲ章　まとめ …… 93

写真図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　古閑北遺跡調査区位置図（施行前）…… 4
第２図　古閑北遺跡調査区位置図（施行後）…… 5
第３図　古閑北遺跡周辺遺跡分布図 …… 8
第４図　１区遺構配置図 …… 11
第５図　２・３・４区遺構配置図 …… 12
第６図　５・６・７区遺構配置図 …… 13
第７図　８区遺構配置図 …… 14
第８図　進入道路部分遺構配置図 …… 15
第９図　基本土層図 …… 17
第10図　２号住居跡及び２号住居跡出土土器（１） …… 19
第11図　２号住居跡出土土器（２）及び３・15号住居跡 …… 20
第12図　３号住居跡出土土器 …… 21
第13図　４号住居跡及び４号住居跡出土土器（１） …… 22
第14図　４号住居跡出土土器（２） …… 23
第15図　４号住居跡出土土器（３） …… 24
第16図　５・６号住居跡及び６号住居跡出土土器 …… 26
第17図　７・８号住居跡及び７号住居跡出土土器 …… 27
第18図　８・９号住居跡出土土器及び９号住居跡 …… 28
第19図　10号住居跡及び10号住居跡出土土器 …… 30
第20図　11号住居跡出土土器及び11・12号住居跡 …… 31
第21図　13・14号住居跡 …… 32
第22図　14・16号住居跡出土土器及び16・17号住居跡 …… 33
第23図　18号住居跡 …… 34
第24図　１号円形周溝遺構 …… 37
第25図　１号円形周溝遺構出土土器 …… 38
第26図　２・３号円形周溝遺構 …… 39
第27図　４・５号円形周溝遺構 …… 40
第28図　６・７・８号円形周溝遺構 …… 41
第29図　９号円形周溝遺構 …… 42
第30図　33号土坑 …… 43
第31図　２・３号埋甕遺構 …… 44
第32図　２号埋甕実測図 …… 45
第33図　３号埋甕実測図 …… 46
第34図　出土縄文土器（１） …… 49
第35図　出土縄文土器（２） …… 50
第36図　出土縄文土器（３） …… 51
第37図　出土縄文土器（４） …… 52

第38図　出土縄文土器（５）…… 53
第39図　出土縄文土器（６）…… 54
第40図　出土縄文土器（７）…… 56
第41図　出土縄文土器（８）…… 57
第42図　出土縄文土器（９）…… 58
第43図　出土縄文土器（10）…… 59
第44図　出土縄文土器（11）…… 60
第45図　出土縄文土器（12）…… 61
第46図　出土縄文土器（13）…… 62
第47図　出土縄文土器（14）…… 63
第48図　出土縄文土器（15）…… 64
第49図　出土縄文土器（16）…… 65
第50図　出土石器（１）…… 69
第51図　出土石器（２）…… 70
第52図　出土石器（３）…… 72
第53図　出土石器（４）…… 73
第54図　出土石器（５）…… 74
第55図　出土石器（６）…… 76
第56図　出土石器（７）…… 77
第57図　出土石器（８）…… 78
第58図　出土石器（９）…… 79
第59図　出土石器（10）…… 80
第60図　出土石器（11）…… 81
第61図　出土石器（12）…… 82
第62図　出土石器（13）…… 83
第63図　出土石器（14）…… 84
第64図　１号住居跡及び１号住居跡出土土器…… 89
第65図　出土弥生土器（１）…… 90
第66図　出土弥生土器（２）…… 91
第67図　出土歴史時代土器…… 92

表　目　次

第１表　古閑北遺跡周辺遺跡一覧表…… 9
第２表　住居跡出土土器観察表…… 35
第３表　１号円形周溝遺構出土土器観察表…… 42
第４表　出土縄文土器観察表（１）…… 66
第５表　出土縄文土器観察表（２）…… 67
第６表　出土石器観察表（１）…… 85

第７表　出土石器観察表（２）　……　86
第８表　出土石器観察表（３）　……　87
第９表　出土弥生土器観察表　……　91
第10表　出土歴史時代土器観察表　……　92

写　真　図　版

図版１　１区ａ全景及び遺物出土状況、１区ａ遺物出土状況、２区ｂ全景（完掘）
図版２　２区ｂ遺物出土状況、２区ｂ磨製石斧出土状況、４区ａ全景及び12・13号溝（完掘）
図版３　７区全景及び31号溝（完掘）、８区遺物出土状況、８区全景（完掘）
図版４　進入道路Ａ区全景（完掘）と作業員さん、進入道路Ｂ区全景（完掘）、進入道路Ｄ区全景（完掘）、
図版５　21号溝（完掘）、22・33号溝（完掘）、34号溝（完掘）
図版６　３号土坑遺物出土状況、33号土坑（完掘）、２号埋甕出土状況
図版７　３号埋甕出土状況、１号円形周溝遺構（遺物出土状況）、２号円形周溝遺構（完掘）
図版８　３号円形周溝遺構（完掘）、４号円形周溝遺構（完掘）、５号円形周溝遺構（完掘）
図版９　７号円形周溝遺構（完掘）、８号円形周溝遺構（完掘）、９号円形周溝遺構（完掘）
図版10　１号住居跡（遺物出土状況）、２号住居跡（完掘）、３・15号住居跡（完掘）
図版11　４号住居跡（遺物出土状況）、４号住居跡（粘土塊）、４号住居跡（炉の断面）
図版12　５号住居跡（完掘）、６号住居跡（完掘）、７号住居跡（完掘」）
図版13　７・８号住居跡（遺物出土状況）、９・11・12号住居跡（完掘）、10号住居跡（遺物出土状況）
図版14　11号住居跡（完掘）、７・８・13号住居跡（完掘）、14号住居跡（遺物出土状況）
図版15　14号住居跡（完掘）、16号住居跡（完掘）、17号住居跡（完掘）
図版16　18号住居跡（完掘）、作業風景、作業員さん
図版17　住居跡出土土器（１～６、８～11、14、15）
図版18　住居跡出土土器（７、23）
図版19　住居跡出土土器（12、13、16～21）
図版20　住居跡出土土器（22、24～33）
図版21　住居跡出土土器（34～49）
図版22　住居跡出土土器（50～56）・１号円形周溝遺構出土土器（１、２、５、６）
図版23　１号円形周溝遺構出土土器（３、４、７～10）
図版24　２、３号埋甕
図版25　出土縄文土器（１～10）
図版26　出土縄文土器（11～18）
図版27　出土縄文土器（19、20、22）
図版28　出土縄文土器（21、23～27）
図版29　出土縄文土器（28～33）
図版30　出土縄文土器（34～39）
図版31　出土縄文土器（40～49）
図版32　出土縄文土器（50、51、55～62）

図版33　出土縄文土器（52～54）
図版34　出土縄文土器（63～65、67、69、70）
図版35　出土縄文土器（66、68、71、73、74）
図版36　出土縄文土器（72、75～83）
図版37　出土縄文土器（84～92）
図版38　出土縄文土器（93～108）
図版39　出土縄文土器（109～121）
図版40　出土縄文土器（122～129）
図版41　出土縄文土器（130～146）
図版42　出土縄文土器（147～167）
図版43　出土縄文土器（168）・出土石器（１～17）
図版44　出土石器（18～41）
図版45　出土石器（42～68）
図版46　出土石器（69～88）
図版47　出土石器（89～98）
図版48　出土石器（99～105）
図版49　出土石器（106～112）
図版50　出土石器（113～122）
図版51　出土石器（123～131）
図版52　出土石器（132～141）
図版53　出土石器（142～150）
図版54　１号住居跡出土土器（１、２）
図版55　出土弥生土器（１～７、９）
図版56　出土弥生土器　（８、10～13）・出土歴史時代土器（１～７）

第Ⅰ章　　序　　説

第１節　調査に至る経緯と経過

１　調査に至る経緯

文化課では、関係各課に対して事業照会を行い、各種の開発事業と埋蔵文化財の保護との調整を図っている。産業展示場（完成後の名称は、グランメッセ熊本）について、商工労働観光部商工政策課から事前協議を受けたのは、平成３年11月５日であった。

平成４年３月25日、文化課の松本健郎（文化財調査第２係長）・野口龍彦（文化財保護主事）が現地を踏査した。当該地は、遺跡地図等に記載された周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、九州縦貫自動車道建設に伴って発掘調査された古閑遺跡の近隣であり、現地に土器の散布がみられたことから、「ごく一部の低地を除いて、ほぼ全域について試掘調査が必要」との回答を行った。

平成４年度になり、文化課と商工政策課との間での協議が本格化し、商工政策課から文書で試掘依頼があった。試掘調査は、用地の都合等により、平成４年８月26日から31日まで、西住欣一郎（文化財保護主事）が担当して行った。

試掘調査の結果、削平等により包含層や遺構が残存しない部分もあったが、縄文時代を中心として一部に中世を含み、約80,000㎡に遺跡が存在することが判明し、平成４年９月11日付けで商工政策課あて試掘調査結果を通知した。

試掘結果を受けて、両課の協議を重ねた。この時点では産業展示場の詳細な設計ができておらず、商工政策課は試掘結果を考慮して建物の位置等の設計を進め、埋蔵文化財の保存に努めること、文化課は平成５年度の調査に向けて体制を整えることを確認した。また、商工政策課から、完成までの全体の工程、建物・調整池等の施設の概要について説明があり、埋蔵文化財調査を早期に完了させるよう要請があった。

この時点では、調査面積の確定はできなかったが、建物がおよそ10,000㎡になることや調整池・道路等を含めるとおよそ30,000㎡の調査になると予測された。通常の１班編成での年間調査量は、約10,000㎡であるので、調査には３年を要すると考えられた。

このような協議を経て、平成４年10月末に平成５年度の発掘調査費用を積算した。

その後も、必要に応じて両課の協議を行った。

年度が変わった平成５年４月、両課の課長も含めて協議を行い、調査面積は30,000㎡以内とし、平成５年度～７年度に発掘調査を実施し、その後資料整理を行う、調査は①町道付け替え部分・調整池、②建物本体部分、③県道・その他の部分の順で行うことなどを確認し、予算の令達を受けて調査の準備を開始した。

２　調査組織

調査主体　熊本県教育委員会

調査責任者　大塚　正信（平成５年度、首席教育審議員兼文化課長）
桑山　裕好（平成６・７・８年度、文化課長）
平野　芳久（平成５年度、教育審議員兼課長補佐）
丸山　秀人（平成６・７年度、課長補佐・平成８年度、教育審議員兼課長補佐）

調査総括　松本　健郎（平成５・６・８年度、主幹兼文化財調査第二係長）
島津　義昭（平成７年度、主幹兼文化財調査第一係長）

調査担当　西住欣一郎（平成５・６年度、文化財保護主事）
野田　恒親（平成５・６年度、文化財保護主事・平成７・８年度、参事）
緒方　　徹（平成５年度、嘱託）
本山　千絵（平成５・６・７年度、嘱託）
山田　大輔（平成６年度、嘱託）
矢野喜久代（平成６年度、嘱託）
吉本　智明（平成７年度、嘱託）
荒木　聖子（平成８年度、嘱託）
嶋田由希子（平成８年度、嘱託）

報告書担当　野田　恒親（平成９・10年度、参事）
濱田　彰久（平成10年度、文化財保護主事）
荒木　聖子（平成９年度、嘱託）
本松亜希子（平成10年度、嘱託）

調査指導及び協力者
村上　恭通（愛媛大学、助教授）
清田　純一（城南町歴史民俗資料館、文化係参事）

写真撮影　今村龍太郎（フォト・リュウ）

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置

古閑北遺跡は、熊本県の中央にある、益城町の北西部（北緯32度47分26秒・東経130度47分36秒）に位置し、赤井川の支流木山川の北側の低い丘陵地帯に広がる縄文時代の早期から晩期及び弥生時代後期の遺跡である。

今回の産業展示場建設事業に伴う発掘調査は、遺跡の中心部に当たり、また、調査面積も合計約28,700㎡に及ぶ大規模なもので、遺跡の性格を考えるうえで重要な遺物が多数出土した。

なお、今回の調査地点及び調査面積は、平成５年度調査区が益城町大字古閑字豊之内地内を中心とする約10,000㎡、平成６年度調査区が益城町大字古閑字横道地内を中心とする約10,000㎡、平成７年度調査区が益城町大字古閑字崎久保地内の約8,000㎡、平成８年度調査区が益城町大字古閑字横道地内の約700㎡であった。

２　遺跡の地理的環境

古閑北遺跡の所在する益城町の地形は、東部・南部は九州山地から続く、城山(480.4m)・朝来山(469.5m)　船野山(307.8m)・飯田山(481.2m)などが山塊を形作る。北部には広大な益城台地がひろがり、その北方をしめる高遊原は空港として利用されている。北の台地と東・南の低地には阿蘇外輪山、冠ヶ岳に源を持つ木山川が東から西に向かって流れ、谷底平野が発達している。西は熊本平野に連なり、その東域をなす。丘陵と平野の境には豊富な湧水がみられ、いくつもの自噴池がある。木山川には赤井川・金山川・岩戸川などが注ぎ、北側台地の下を流れる秋津川と江津湖において合流し、加勢川となり有明海に連なる。この豊かな水は、低地に肥沃な平野を造るとともに、水運路としても人々の生活に役立ってきたが、降水の多い年には水害を引き起こす元凶でもあった。しかし、このような恵まれた水を有効に利用して人々の生活は今日に至っている。

また、気候は多日照・高温・多雨、すなわち「光と熱と雨」の三拍子が揃っており、熊本県の中でも穏やかな数値を示し、生活のしやすさを現している。

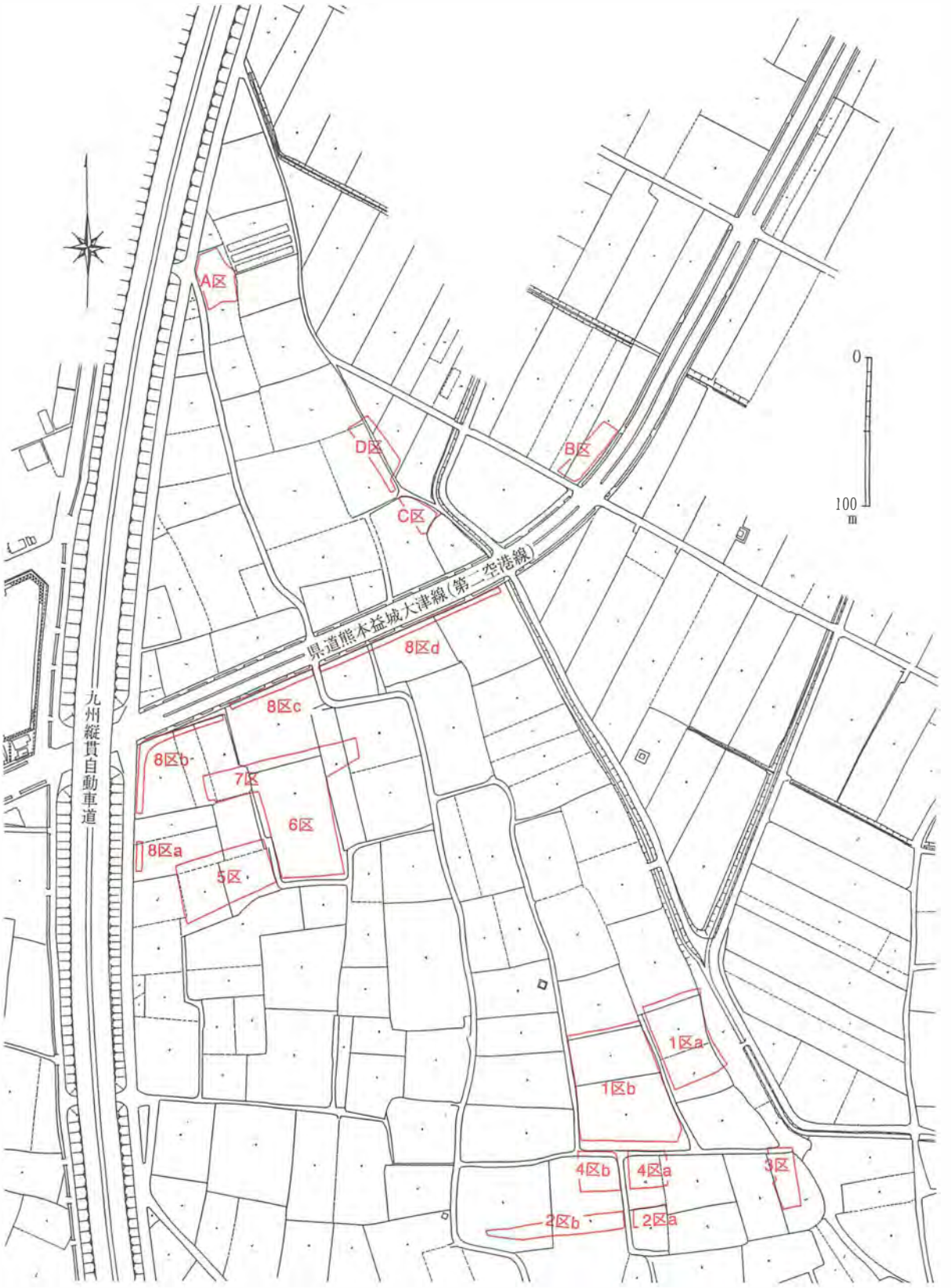
なお、一帯の地質は阿蘇溶結凝灰岩（阿蘇４火砕流）を基盤とし、上層に阿蘇４風化層、洪積世堆積層、沖積世堆積層をのせている。遺跡付近はほぼ平坦で、平均標高は約30mである。

３　調査区の地形（第１、２図）

古閑北遺跡は熊本県上益城郡益城町大字古閑字豊之内・横道・崎久保地内にある。遺跡名は旧来の古閑遺跡の北側約１㎞に位置するということで「古閑北遺跡」とした。

遺跡は益城台地の南側に位置し、平均標高は約30mであり、九州自動車道を挟んで、東側に古閑北遺跡があり、西側に同時期に益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴って発掘調査された梨木遺跡がある。

古閑北遺跡は、ほぼ中央部を県道熊本・益城・大津線（第二空港線）が東西に貫き、北側に東部環境工場、東側に井関農機熊本工場、南側には広安西小学校がある。



第１図　古閑北遺跡調査区位置図（施行前）

第２図　古閑北遺跡調査区位置図（施行後）

４　遺跡周辺の歴史的環境

古閑北遺跡の周辺には、各時代の遺跡が集中的に分布しており、益城町内でも有数の遺跡群を形成している。詳しくは「古閑北遺跡周辺遺跡分布図」（第３図）及び「古閑北遺跡周辺遺跡一覧表」（第１表）にまとめたが、ここでは周辺の主な遺跡について、簡単にまとめてみたい。

(1)　旧石器時代

熊本地方における歴史上の最初の痕跡である旧石器時代の遺跡であるが、最近では発見される遺跡数も増加し、次第にこの時代の文化の様相が明らかにされつつある。益城町でも、塔の平遺跡（大字小池）から細石器・スクレイパー・剥片・礫器（輝緑凝灰岩）が表面採集されている。また、近隣の「くまもと未来国体」の主会場予定地である熊本市平山町の石の本遺跡からは約22,000年前の火山灰堆積層である「姶良・丹沢(AT)層」の下にあたる赤褐色土層から局部磨製石斧や剥片石器などの石器が出土し、熊本のみならず九州でも最も古い段階の石器群として注目されている。

(2)　縄文時代

益城町内には、点々と縄文時代の土器や石器が出土する場所があり、長い縄文時代に、かなり多くの人の生活が営まれたと思われるが、残念ながらその実体は良く分かっていない。ここでは、正式な発掘調査を行った二カ所の遺跡を紹介し、この時代を考えてみたい。

櫛島遺跡（大字島田）からは、押型文土器の他に、塞ノ神式土器の立派なものが出土した。縄文時代の早い時期のものでありながら、土器の表面の文様には、後の時代に流行する、網目の外を線で区画したり、あるいはその中に列点を入れ飾ったり、趣向を凝らしたものがある。また、土器以外の生活の道具である石槍や石斧なども出土した。

古閑遺跡（大字古閑）からは、のちに「古閑式」と呼ばれる縄文晩期の土器が出土した。縄文後期から晩期にかけての土器の移り変わりはよくわからなかったが、古閑遺跡の調査により、三万田式から始まる、九州縄文土器の発展の最後の姿を、古閑遺跡出土の土器が示していることがわかった。

(3)　弥生時代

弥生時代の遺跡は、発掘調査の事例は極めて少ないが、特に八反田遺跡（大字砥川）から出土した甕棺は、弥生前期の板付式土器と縄文的色彩の強い夜臼式土器が使用されており、当時の縄文時代から弥生時代への移行期の時代相を反映したものとみられる。

木山川左岸に位置する秋永遺跡（大字小池）では、弥生時代の竪穴住居跡と思われるものが検出され、免田式土器を含む弥生時代後期の土器が多量に出土した。また、弥生時代中期と思われる甕棺墓も検出された。その他、典型的な弥生期の環濠の一部と思われる断面Ｖ字形の溝や、弥生時代後期の水田遺構も検出された。

平田遺跡（大字平田）では、弥生時代後期の甕型土器がほぼ完全な形で出土した。宮園遺跡（大字木山）では、大形甕棺（須玖式）や黒髪式などの小形の甕棺も出土した。また、東無田遺跡（大字島田）や下原遺跡（大字島田）では、弥生時代中期の甕棺が出土している。

(4)　古墳時代

熊本平野の東部に位置する益城町には、幾内政権と強く関わりのある人物の墳墓と考えられる前方後円墳は存在しないが、木山川沿いの湿地帯の縁の方からの開田による水稲耕作と、台地上の畑作物を生産基盤とした在地の大小の支配者階層の人々の墳墓がみられる。

前期から中期にかけての墳墓としては、安山岩製板石で造られた箱式石棺が、大字小池の台地上、大字広崎から大字寺迫に至る台地の縁辺部、大字福原の台地上、大字上陳の台地上などに分布している。このうち発掘調査されたものは少ないが、鏡を副葬していた大字寺迫の城の本古墳を始めとする円墳、大字小池の秋永遺跡にみられる方形周溝墓などがある。

中期の後半には、益城町に隣接した上益城郡嘉島町に装飾壁画のある井寺古墳（円墳・横穴式石室）が造られ益城町内各地の支配者もその首長の支配下に置かれたものと考えられる。

後期になると、熊本平野東部の勢力の中心は上益城郡御船町の台地上へ移行したとみられ、そこに装飾壁画を持つ今城大塚古墳（前方後円墳・横穴式石室）が造られている。益城町大字小池の鬼塚古墳、大字寺迫の遠見塚古墳、大字福原の鬼ノ窟古墳（いずれも円墳で横穴式石室）は、その勢力下にある各地域の豪族の墳墓とみられる。

また、後期の横穴墓は、県道熊本・高森線に沿った大字寺迫から大字田原にかけての崖面と、大字福原地区にみられ、大字寺中の上神内横穴墓群の発掘調査からみると、副葬品は豊かではないが、鉄刀や装身具類を伴うことから一般民衆の墳墓とは考えにくく、各地域の豪族のもとにおかれた官人層ともいうべき支配者層一族の墳墓と理解できるのではないだろうか。

(5)　歴史時代

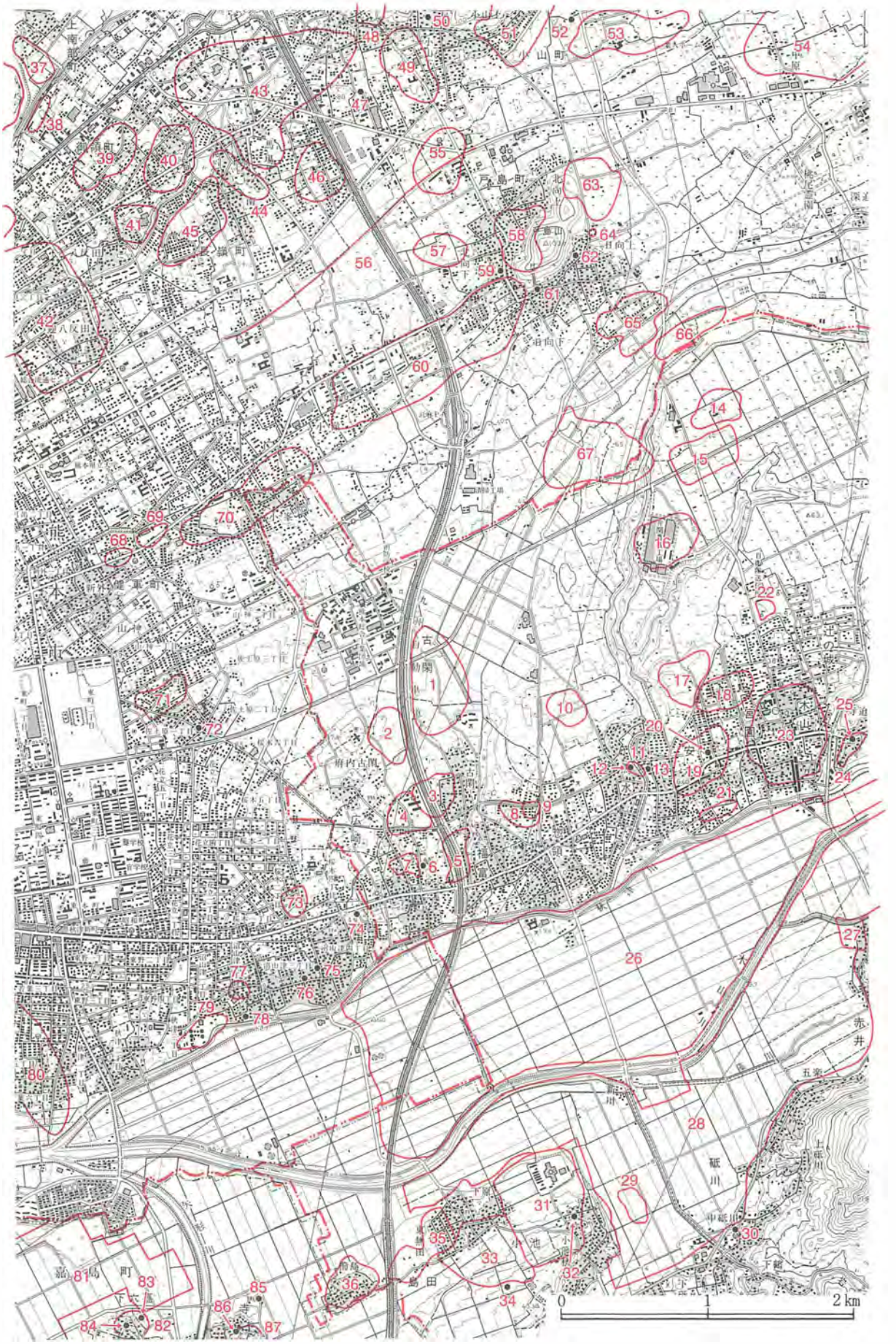
奈良・平安時代になると、律令体制の導入に伴い、肥後国においても行政組織の整備、条里制の施行が進められ、その影響が周囲に及んでくる。益城町の多くは益城郡に属し、「和名抄」に見える小按郷に比定する説がある。益城郡の条里は大きな河川を中心とした自然条件に作用され、御船川・緑川・木山川（赤井川）の３流域に見られる。当町域の条里遺構は木山川を中心にして、北は益城台地縁辺部から、南は船野・飯田両山麓まで、流れに沿って東西へ網羅的に展開している。古代の官衙・寺院に限られて使用されたとされる布目瓦が古閑遺跡（大字古閑）・塔の平遺跡（大字小池）から出土している。又、奈良朝に始まるとされる僧侶・官人の火葬骨を納めた須恵器の骨壺や、大陸産陶磁器の褐釉水注などが福田寺跡（大字福原）から出土している。

中世には、大字広崎及び古閑などは木山郷に属していた。なお、中世の城跡には赤井城、砥川城や飯田城などがある。

近世になり肥後藩は、寛永９（1632）年に加藤氏の移封に伴い細川氏の支配に属し、古閑・広崎の各村等は沼山津手永に属した。また、このころから、台地上の開拓が行われるようになり、特に面積増加の著しい村は、木山川中流域、あるいは木山川右岸益城台地東部の台地であり、現在の熊本空港寄りにあたる。

現在の遺跡周辺は、熊本市のベッドタウンとして宅地化が進み、熊本市への通勤者も多い。また、造成によって旧地形が削られるなど、急速に昔の面影を失いつつある。

なお、交通混雑の緩和、市街地化に伴う道路・施設などの環境整備が早急な課題となり、県道熊本・益城・大津線（第二空港線）が拡幅されたり、グランメッセ熊本（国際産業展示場）が建設されたり、益城熊本空港インターチェンジが建設されつつある。


0
1
2 km

第１表　古閑北遺跡周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種　別	指定	群内遺跡名	備　考
1	古閑北	益城町古閑　崎久保・横道	縄文～弥生	包蔵地			
2	梨木	広崎　梨木	縄文～弥生	包蔵地			
3	古閑	古閑　宅地	縄文・弥生	包蔵地			縄文・弥生、土師器外の遺物包含
4	広崎六本木	広崎　六本木		包蔵地			
5	福富	古閑　石井川ほか	縄文・弥生	包蔵地			縄文・弥生、土師器外の遺物包含、瓦片
6	葉山古墳	広崎　葉山	古墳	古墳			稲荷さん
7	葉山	広崎　葉山・西原	弥生～古代	包蔵地			
8	高木箱式石棺	惣領　高木	古墳	古墳			石棺多数
9	惣領	惣領　高木		埋葬			
10	大辻	馬水　大辻	縄文～平安	包蔵地			
11	駿河原	馬水　駿河原	縄文・弥生	包蔵地			
12	狐塚古墳	馬水　駿河原	古墳	古墳			埴輪片、須恵器
13	馬水製鉄所跡	馬水　駿河原	古代・中世	生産			ふいご羽口、鉱滓、青磁、土師器
14	遠見塚	木山　遠見塚	縄文～古代	包蔵地			
15	宮園B	木山　遠見塚ほか	縄文・弥生	包蔵地			縄文～弥生中期土器
16	小久保	上小久保　下小久保	縄文～中世	包蔵地			
17	宗曽利	安永　宗曽利	縄文～中世	包蔵地			
18	辻	宮原　辻	縄文～中世	包蔵地			
19	安永	安永　居屋敷・火迫ほか		包蔵地			
20	火迫石棺群	安永　火迫	古墳	古墳			
21	古川	安永　古川		住居・集落			
22	下辻	木山　下辻	縄文～中世	包蔵地			
23	宮園A	木山　遠見塚ほか	弥生	包蔵地			弥生中期土器
24	木山城跡	寺迫　城ノ本	弥生	城			下部に弥生後期、住居址群
25	城ノ本古墳	寺迫　城ノ本	古墳	古墳			円墳、箱式石棺（移転）
26	条里跡		古代・中世	生産			
27	赤井	赤井　登町	古代	包蔵地			土師器
28	条里跡		古代・中世	生産			
29	八反田	砥川　八反田	弥生	埋葬			弥生中期甕棺
30	砥川城跡	砥川　城の尾	中世	城			（城の尾城跡）
31	秋永	小池　秋永ほか	弥生	集落			弥生中・後期、土師器
32	秋永石棺群	小池　秋永・麻生原	古墳	古墳			
33	東無田	島田　東無田居敷	弥生	包蔵地			弥生中期土器、甕棺
34	鬼塚古墳	小池　鬼塚	古墳	古墳			消滅
35	立石	島田　立石	弥生	包蔵地			弥生土器
36	櫛島	島田　南島	縄文	包蔵地			縄文土器
37	王田遺跡	熊本市上南部町　王田	縄文～平安	包蔵地			黒髪式合口甕棺
38	平ノ山	上南部町		包蔵地			
39	北小迫	御領町		包蔵地			
40	南小迫	御領町	縄文～平安	包蔵地			
41	八反田居屋敷	長嶺町		包蔵地			
42	乾原・迎八反田	長嶺町　乾原・迎八反田	縄文～平安	包蔵地		乾原遺跡・迎八反田遺跡・田の迎遺跡	乾原：縄文後晩期中心 迎八反田：縄文早期中心
43	長嶺遺跡群	長嶺町	縄文～平安	包蔵地		長嶺遺跡・中山叶遺跡・中山五輪塔遺跡（若殿塚遺跡）・馬場居屋敷遺跡・長嶺南遺跡・坂田長者屋敷跡・長嶺石神碑・坂田家墓地	石神碑：天文18年銘
44	長嶺南	長嶺町　南居屋敷	弥生・中世	包蔵地		長嶺広福寺跡・長嶺南遺跡・長嶺共有墓地	須玖式甕棺、寛文・延宝・元禄・正徳の記念碑銘
45	八反田遺跡群	長嶺町　八反田	縄文・中世	包蔵地		殿山古墳参考地	縄文後晩期、土偶
46	長嶺池出	長嶺町		包蔵地			
47	中山奇犬管理所五輪塔	小山町	中世	建造物			同所出土
48	中山	小山町	縄文～平安	包蔵地			
49	小山山伏塚	小山町	弥生	墳墓		馬場氏裏山板碑	甕棺墓、銅剣出土？
50	樫国寺境内古塔碑群	小山町	中世	建造物			宝きょ印塔、一字一石、五輪塔
51	小山上	小山町	弥生	散布地			
52	御船塚墓地群	小山町	中世	墓地			
53	御船塚	小山町　御船塚	縄文・中世	散布地			
54	中原道明	小山町	縄文	包蔵地			縄文早期、後晩期。
55	上黒迫（二岡中学校校庭）	戸島町	縄文・中世	包蔵地			
56	南郷往還跡	長嶺町、戸島町	近世	交通			
57	戸島京塚	戸島町	縄文～中世	包蔵地			
58	戸島北向（戸島西）	戸島町	縄文・中世	包蔵地		札の辻遺跡・戸島香福寺跡・戸島神社境内古塔碑群	
59	北向下の五輪塔	戸島町	中世	建造物			農家の庭先、近くに寺院か
60	葉山遺跡群	戸島町　葉山	旧石器・縄文	包蔵地		葉山遺跡・葉山B遺跡・日向下六地蔵	
61	戸島神社入口古塔碑群	戸島町	中世	建造物			宝きょ印塔、五輪塔
62	円通寺跡	戸島町	中世	寺社			地蔵堂、観音堂、塔碑
63	戸島東	戸島町　日向	縄文	包蔵地			
64	戸島経塚跡	戸島町　日向	縄文・中世	包蔵地			経塚一字一石埋納
65	戸島桑鶴	戸島町	縄文～平安	包蔵地			
66	下佐土原	戸島町	縄文～平安	包蔵地			
67	日向桟敷尾	戸島町　日向	縄文	包蔵地		日向遺跡	
68	新外A	健軍町　小峰	縄文	包蔵地			
69	新外B	健軍町　小峰	縄文～平安	包蔵地			
70	小嶺	健軍町　小峰	縄文～平安	包蔵地			
71	佐土原	健軍町　佐土原	縄文・古墳～平安	包蔵地			
72	佐土原芥川板碑	健軍町　佐土原	中世	石造物			線刻観音板碑
73	沼山津	秋津町	弥生～平安	包蔵地			
74	横井小楠の墓	秋津町沼山津	明治	墓			明治2年
75	沼山津板碑群	秋津町	中世	石造物			天文9年、永禄11年
76	沼山津会所跡	秋津町	江戸	包蔵地			
77	下津代里	秋津町	縄文～平安	包蔵地			
78	四時軒及び四時軒跡	秋津町沼山津	江戸	建造物	市		市指定建造物及び史跡
79	沼山津貝塚	秋津３丁目、沼山津　貝原	縄文	貝塚			縄文中・後期
80	江津湖遺跡群	神水、画図町、水源ほか	縄文～中世	包蔵地		上江津大曲遺跡・堀内邸石造遺物・神水若宮・神祇寺跡・弁天石・古屋敷遺跡	
81	矢形川流域条里跡	嘉島町下六嘉　上島・鮫ほか	古代・中世	生産			
82	西光寺	下六嘉　西光寺	縄文～中世	包蔵地			
83	西光寺甕棺群	下六嘉　西光寺	弥生	埋葬			
84	下六嘉の五輪塔	下六嘉	中世	石造物			
85	手水鉢	井寺　浮島	中世	石造物			
86	井寺古墳	井寺　富屋敷	古墳	古墳	国		横穴式石室墳、幾何文様あり、直刀
87	井寺	井寺　富屋敷	縄文～中世	包蔵地			

第３節　発掘調査の概要

１　調査方法および調査区の設定

（１）　調査方法

調査方法は、10m四方のグリッド法を採用した。具体的には、第Ⅰ層の表土を重機を使用し一括して剥ぎ取った後、縄文時代から弥生時代の遺物包含層である、第Ⅱ層および第Ⅲ層までを土層観察用の幅60cmの畦を適宜確保しながら、一区画（10m×10m）毎に人力で掘り下げていく方法をとった。こうして掘り出した遺物は、出土位置及び高度を記入した上で、取り上げを行ったが、遺物の出土量が多い区画では、同一の作業を繰り返し行う手順となる。なお、畦は遺物取り上げ後取り外した。

これらの遺物の取り上げ作業が終了した時点で、区画毎に清掃を行い、第Ⅳ層の上面で遺構の有無を確認した。存在が確認された遺構については、引き続き調査を行い、全体を１／20、部分（埋甕など）を１／10の縮尺で実測図を作成したほか、遺構の配置を確認するための全体図としては、1／200の地形測量図を作成することとした。また、それぞれの調査段階において、適宜写真撮影を実施した。

なおそのほか、土層の観察と縄文時代以前の文化層の有無の確認のため、任意に数カ所の深堀の試掘坑を設定し、第Ⅶ層まで人力によって掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。

（２）　調査区の設定

本調査に先立って平成３・４年度に、「産業展示場（仮称）」建設事業予定地内の買収済みの建設用地に任意に試掘坑を設定して、遺跡の分布調査を実施した。その結果、試掘対象地区のうち約８割以上の用地から縄文及び弥生時代の遺物が多量に確認された。

その後、平成７・８年度にも本調査を実施しながら、新たに買収された建設用地については随時試掘調査を実施し、遺跡の広がりを随時確認しながら実際の調査区を決定し、最終的に９カ所の調査区で、合計約28,700㎡の発掘調査を行った（第１図）。

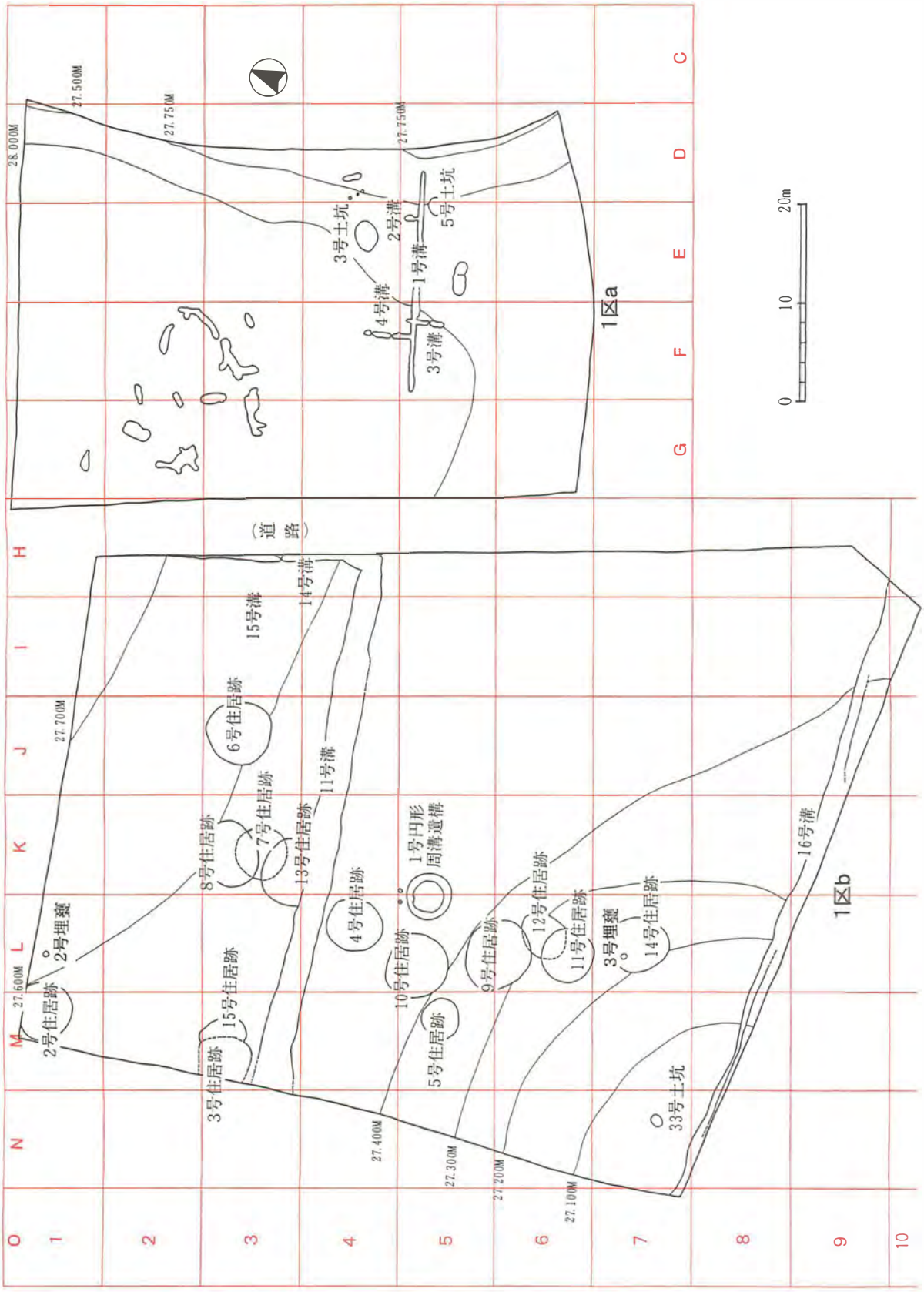
なお、調査区には、測量の基準とするための調査用グリッド（区画）を10mの間隔で設定した。グリッドの設定方向は、調査が開始された平成５年度の１区ａの調査区の中心部分を任意に垂直に設定した。このことにより、１区から７区までの調査区は、おおよそ北から南に向かって算用数字で、また直行する側を東から西へアルファベットで表した（第４～６図）。また、８区は道路の拡幅部分であるため細長いので、中心部分に10m間隔で杭を打ち、九州縦貫道沿いの部分は縦を東西に分け、それに直行する方向をイ～リと設定し、第二空港線沿いの部分は縦を南北に分け、それに直行する方向を１～20と設定した（第７図）。９区の進入道路部分は４級基準点測量によって導き出した国土座標Ⅱ系のメッシュの方向に沿ったもので、北から南に向かって算用数字で、また直行する側を西から東へカタカナで表した（第８図）。

２　調査の概要（第４～８図）

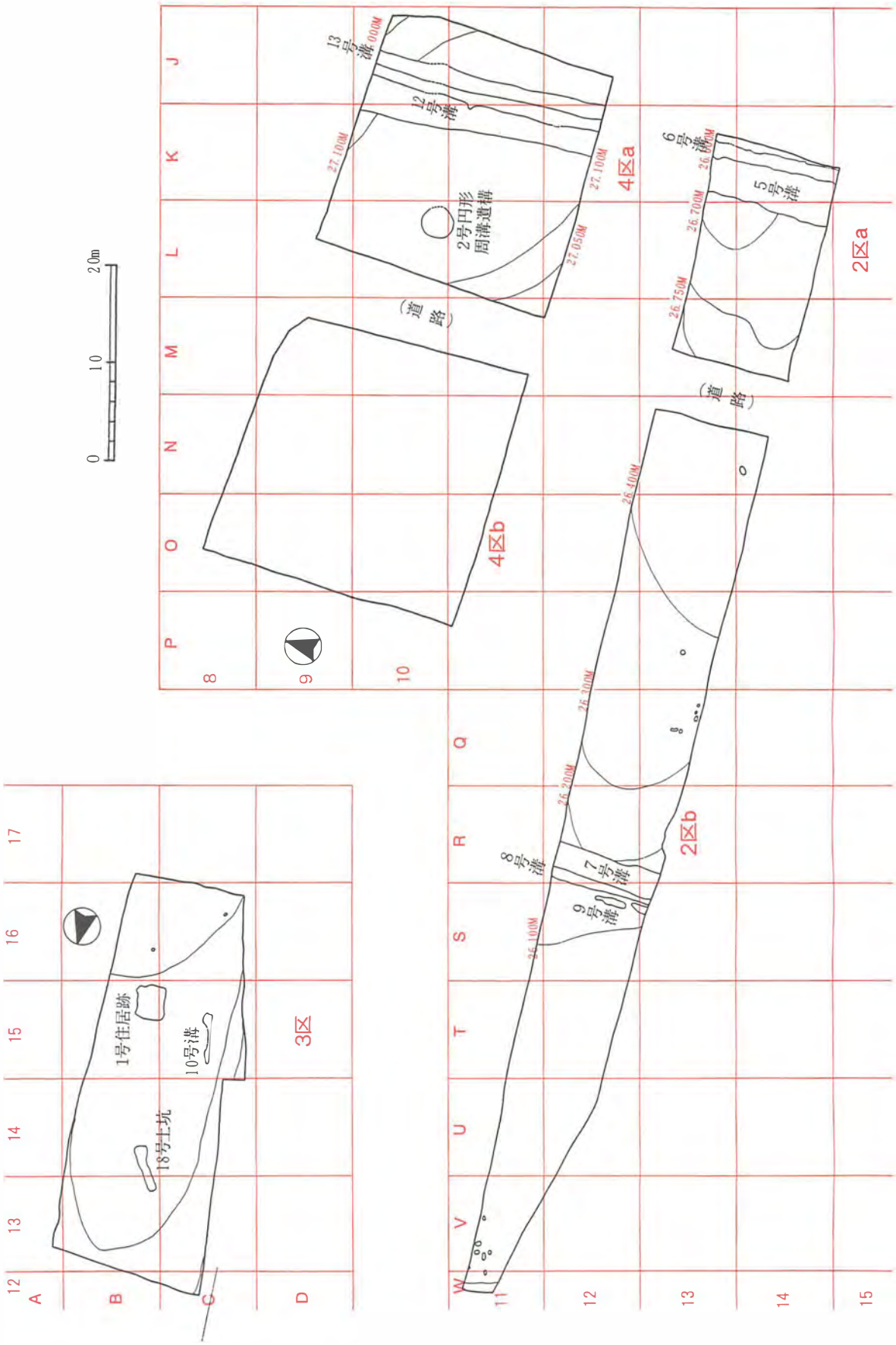
発掘調査の経過を発掘調査日誌から月別に記載することとした。

平成５年

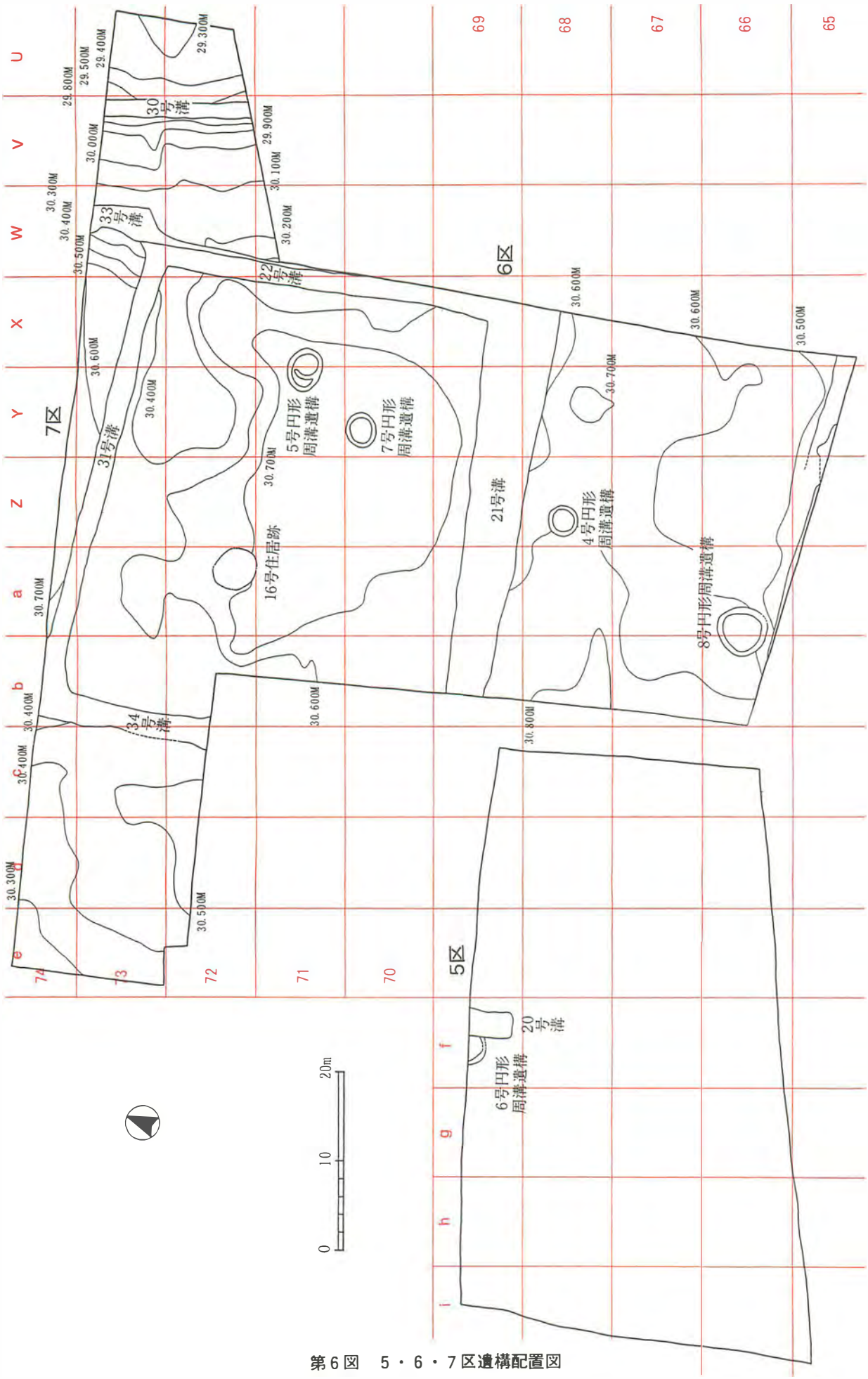
６月　発掘調査の準備及び調査の開始、14日（月）。上益城郡益城町大字古閑字豊之内に調査事務所設置。表土剥ぎ作業及び調査区画の設置。調査区（１区ａ）の清掃作業及び遺構確認作業。包含層発掘。


1区a
1区b
28.000M
27.500M
27.750M
27.750M
27.700M
27.600M
27.400M
27.300M
27.200M
27.100M
3号土坑
2号溝
5号土坑
4号溝
1号溝
3号溝
(道路)
15号溝
14号溝
6号住居跡
8号住居跡
7号住居跡
13号住居跡
11号溝
1号円形
周溝遺構
4号住居跡
10号住居跡
5号住居跡
9号住居跡
12号住居跡
11号住居跡
3号埋甕
14号住居跡
33号土坑
16号溝
2号埋甕
2号住居跡
15号住居跡
3号住居跡
0
10
20m

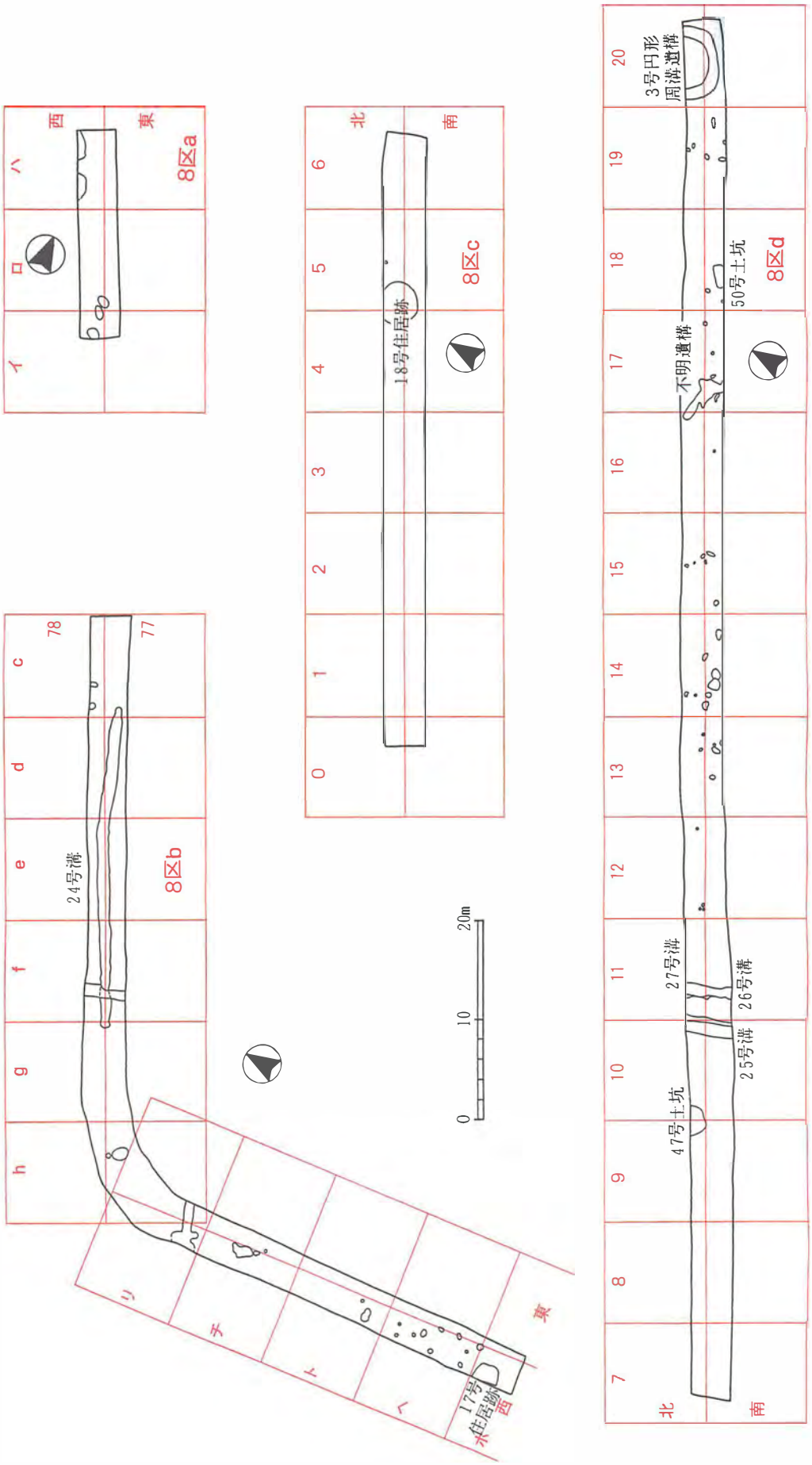
第４図　１区遺構配置図



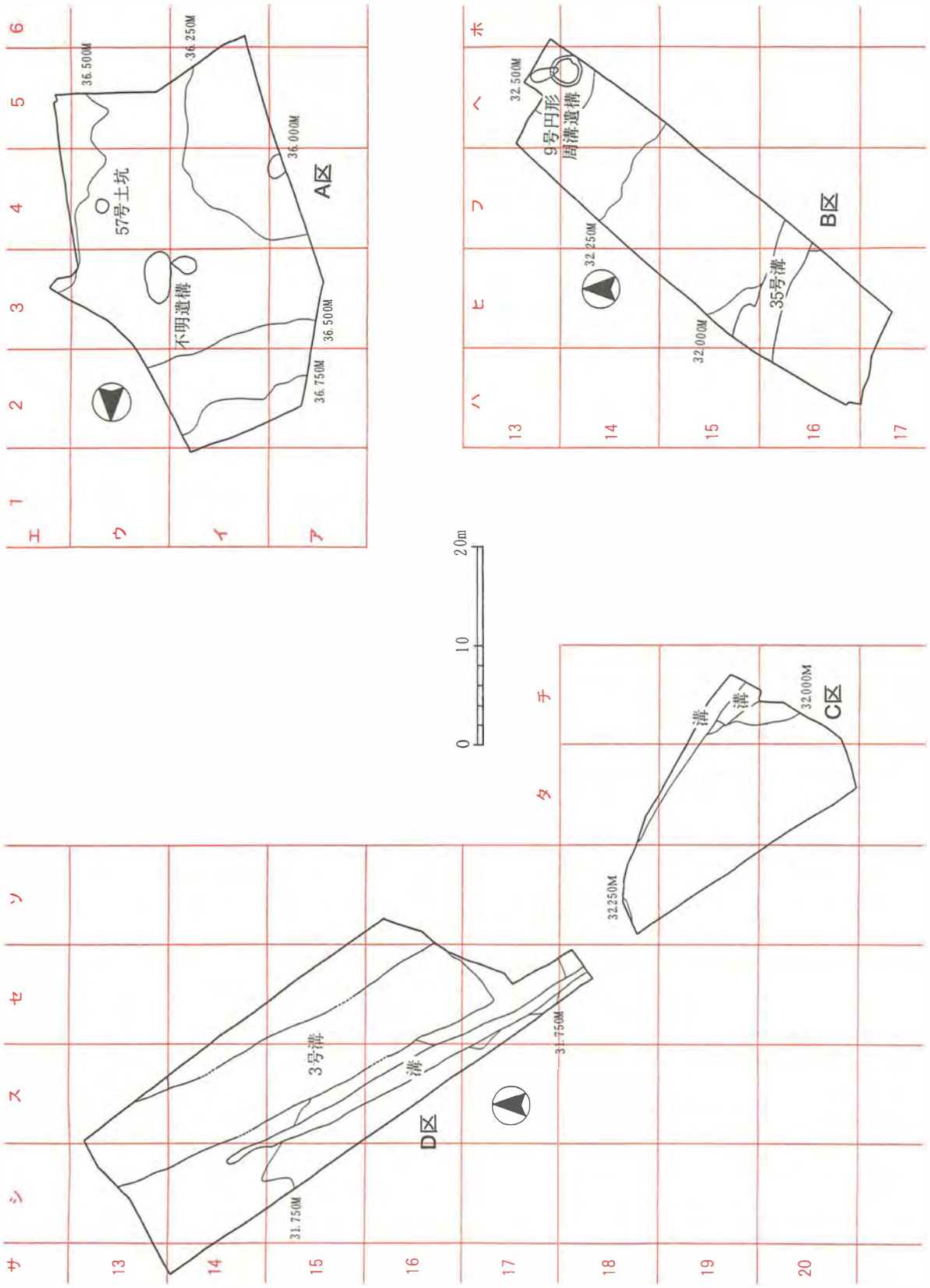
第５図　２・３・４区遺構配置図



第6図　5・6・7区遺構配置図


8区a
8区b
8区c
8区d
24号溝
18号住居跡
17号住居跡
3号円形周溝遺構
50号土坑
不明遺構
27号溝
26号溝
25号溝
47号土坑
78
77
0
10
20m
西
東
北
南

第７図　８区遺構配置図



第８図　進入道路部分遺構配置図

７月　１区ａの包含層発掘及び中央を東西に走る１号溝及び土坑の発掘。

８月　次回の調査区（２区ａ・ｂ）の表土剥ぎ作業。２区ａの包含層及び５号溝の発掘。

９月　２区ｂの包含層発掘。２区ａの５号溝完掘後６号溝の発掘。１区ａ調査完了。

10月　２区ｂの包含層及び７・８・９号溝の発掘。次回の調査区（３区及び１区ｂ）の表土剥ぎ作業。２区ａ・ｂ調査完了。

11月　１区ｂの包含層発掘。３区の土器集中部分実測及び１号住居跡検出。

12月　１区ｂで２号埋甕検出及び大型の11号溝の発掘。３区の調査完了。

平成６年

１月　１区ｂの残部及び４区ａの表土剥ぎ作業。２・４号住居跡検出。１号円形周溝遺構検出。

２月　１区ｂの包含層発掘。４・５・６・７・８号住居跡検出。12・13号溝発掘。

３月　４・５・６・７・８号住居跡実測。12・13号溝実測。３号埋甕検出。２号円形周溝遺構検出。

４月　新年度になり、調査員４名で調査を開始するが、すぐ２名になる。11・12・13・14・15号溝調査終了。２号円形周溝遺構発掘・実測終了。４区ｂの表土剥ぎ作業。

５月　３・９・10・11・12・13号住居跡検出。33号土坑（陥し穴）検出・発掘。

６月　14・15号住居跡発掘。17日（金）に調整池及び道路部分の調査完了。地形図や必要な図面の作成。遺跡遠望の写真撮影の実施。

（産業展示場の本体部分の設置場所が未定のため一時発掘調査を中断）

11月　発掘調査事務所を益城町大字古閑字崎久保地内に設置し、本体部分の調査を８日（火）から再開。次回の調査区（５区）の表土剥ぎ作業。

12月　５区の包含層発掘。次回の調査区（６区）の表土剥ぎ作業。

平成７年

１月　６区の包含層発掘。

２月　６区の包含層発掘。16号住居跡検出。道路の拡幅部分の表土剥ぎ作業（８区）。８区は道路沿いのため、安全性を考慮して仮囲いを設置する。

３月　17・18号住居跡検出。24～27号溝の発掘。８区ａ・ｂは道路に隣接するため、安全性を考慮し調査終了後すぐ埋め戻し作業を実施する。６区を拡大する部分の表土剥ぎ作業（７区）

４月　新年度になり、３名で調査を開始する。７区及び８区ｃ・ｄの包含層発掘。

５月　７区の包含層発掘。３号円形周溝遺構検出。益城熊本空港インターチェンジ予定地内の試掘調査に参事江本直が来跡。

６月　４・５・６・７号円形周溝遺構検出。31・34号溝発掘。

７月　８号円形周溝遺構検出。21・31・34溝実測。21日（金）で本体部分及び道路拡幅部分の調査が完了、地形図や必要な図面の作成。遺跡遠望の写真撮影や空中写真撮影の実施。

最後の調査対象区である進入道路部分の確認調査の準備。

８月　進入道路部分の確認調査。その結果、四カ所（Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区と呼称）から埋蔵文化財が確認。21日（月）から、進入道路部分の発掘調査の開始。Ａ区の表土剥ぎ作業及び包含層発掘。

９月　Ａ区包含層発掘。Ｂ区表土剥ぎ作業。

10月　Ｂ区包含層発掘。９号円形周溝遺構検出。Ｃ・Ｄ区の表土剥ぎ作業。益城熊本空港インターチェンジ予定地内の試掘調査に学芸員長谷部善一が来跡。

11月　Ｃ・Ｄ区包含層発掘。Ｄ区に硬化面（道路状遺構）検出。

12月　Ｄ区の調査区の拡張のため、表土剥ぎ作業。溝Ⅰ・Ⅱ発掘。

平成８年

１月　発掘調査事務所解体、コンテナハウス１棟となる。溝Ⅲ発掘。19日（金）産業展示場本体への進入道路部分の調査が終了。地形図や必要な図面の作成及び遺跡遠望の写真撮影の実施。

４月　熊本空港インターチェンジの側道に連結する道路部分の確認調査。

５月　熊本空港インターチェンジの側道沿いの道路部分の調査。

以上の経過により、平成５年度から実施した、産業展示場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は無事完了した。

３　遺跡の基本層位（第９図）

古閑北遺跡の層序は、熊本平野に基本的に見られるもので、阿蘇山の火山灰堆積土層である。

Ⅰ層は、耕作土層であり、色調は主に灰褐色である。

Ⅱ層は、黒色土層で通称「クロボク」と呼ばれ、開田によりほとんど削平され、部分的にしか残存していない。

Ⅲ層は、しまりのない、サラサラした褐色土層で、上部の暗褐色土をａ、下部の淡褐色土をｂと区分した。

Ⅳ層は、黄褐色土層で、やや粘質性があり、いわゆる「アカホヤ」と称される土層である。

Ⅴ層は、暗褐色土層であるが、上部はかなり暗く、下部は明るい色調である。

Ⅵ層は、「ニガシロ」と通称される黒色土層で、層全体が塊状に硬化している。中には長石、石英、火山ガラスなどを多量に含んでいる。

Ⅶ層は、明褐色ローム質土層で、いわゆる「ハードローム」と称されるものに類似し、かなり硬くしまっている。

なお、遺物出土状況は概ね次のようであった。Ⅱ層が弥生時代後期、Ⅲａ層が縄文時代後・晩期、Ⅲｂ層～Ⅳ層上面が縄文時代早・前・中期であった。

第９図　基本土層図

第Ⅱ章　調査の成果

第１節　縄文時代の遺構と遺物

１　竪穴住居跡（第10～23図）

縄文時代の住居跡と思われる遺構が今回の調査で、１区ｂから14基、６区から１基、８区ｂから１基、８区ｃから１基の合計17基が検出された。以下、それぞれの特徴を見ていきたい。

なお、出土した遺物については、主要なものを図化し、住居跡ごとに掲載し、個別の計測値及び観察結果については「住居跡出土土器観察表」（第２表）にまとめた。

２号住居跡（第10図）

１区ｂのＭ－１及びＬ－１グリッドから検出された。ほぼ円形で、直径約5.7ｍ、遺構検出面からの深さ約20㎝で、覆土は単層で固く締まった褐色土である。中央部に直径約70㎝、床面からの深さ約20㎝の炉跡がある。覆土は２層に分層でき、①層はややパサパサした明黒褐色土で焼土粒と炭粒を含み、②層は固く締まったやや粘性がある暗黒褐色土で、焼土粒をわずかに含む。床面からは柱穴と思われる小土坑を８基検出した。

出土した土器のうち、主なものを７点掲載した（第10、11図）。いずれも縄文後晩期のものと思われる。１、２、７は深鉢形土器片で、外に開く頸部から立ち上がる口縁帯をもつ。２、７は無文であるが、１は口縁帯外側に平行沈線を３条施す。３も深鉢形土器で、外に開く直口口縁である。４は浅鉢形土器で、胴部から頸部にかけて内側に屈曲し、頸部から立ち上がる口縁帯をもつ。波状口縁で波頂部に押点があり、口縁帯外面に沈線１条をもつ。５も浅鉢形土器で、くの字形に小さく屈曲する頸部をもち、口縁上部には段をもつ。６は底部の破片である。上げ底で、胴部が外反し、ほぼ垂直に底部端に連なる。

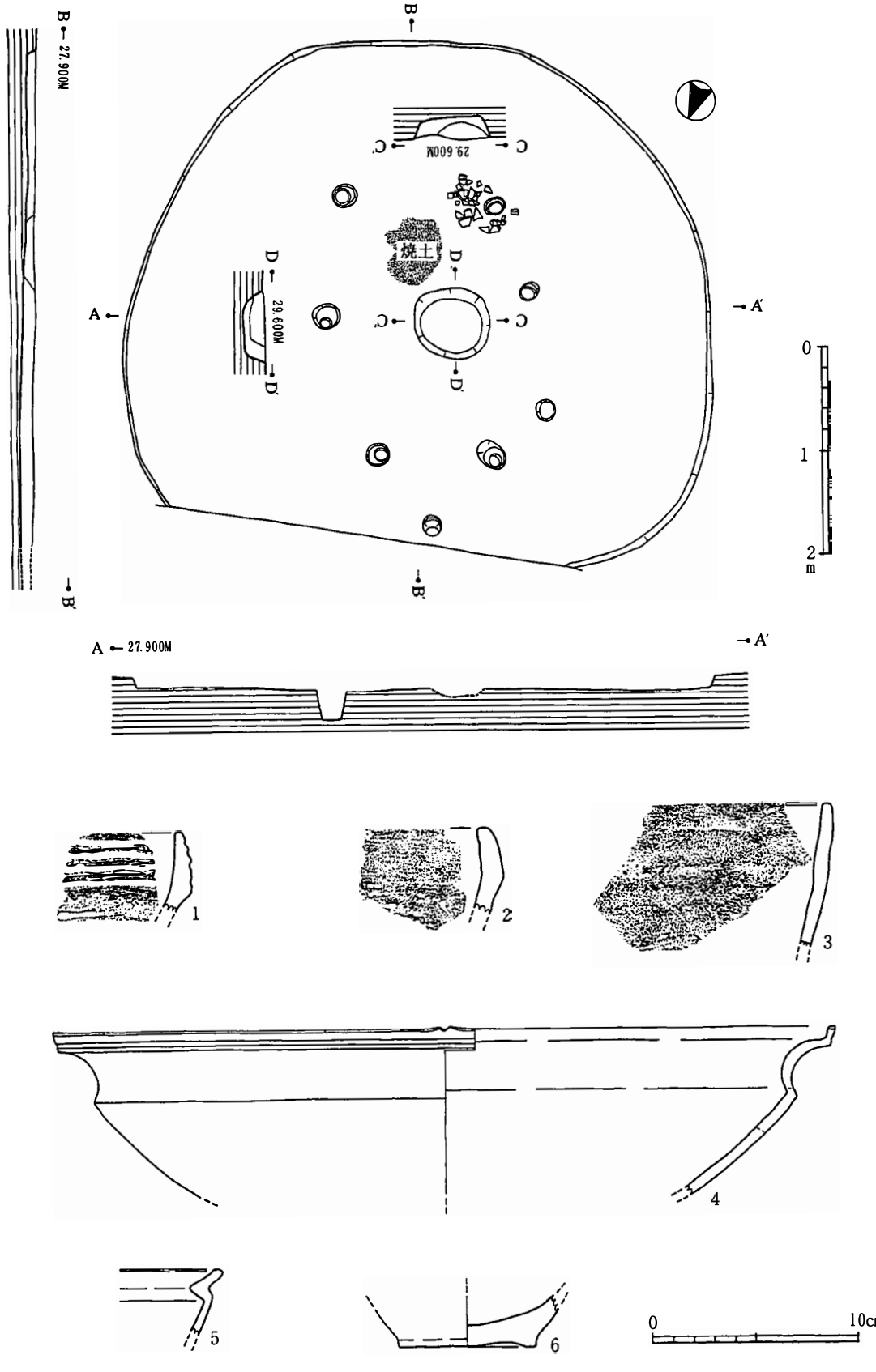
３号住居跡（第11図）

１区ｂのＭ－３グリッドから、15号住居跡を切る形で検出された。調査区の隅にあり、特に調査区の西側は道路に接し、またイモ穴が多く並んでいて土が汚れて柔らかく、住居跡の立ち上がりがはっきりしなかった。復元すると変則的な楕円形になり、床面もあまりはっきりしなかった。直径約5.4ｍで、遺構検出面からの深さは約20㎝を測る。覆土は５層に分層でき、①層はパサパサして柔らかい暗黄褐色土、②層は固く締まって粘質性がある暗褐色土、③層は①層が固く締まり、焼土粒と炭粒を含み、④層は①層に類似しているが固く、⑤層は①層に焼土粒子と炭粒を微量に含んだ層である。また、中央部に直径約60㎝、床面からの深さ約20㎝の炉跡がある。覆土はかなり固い暗褐色土の単層で、焼土粒と炭粒を含んでいた。

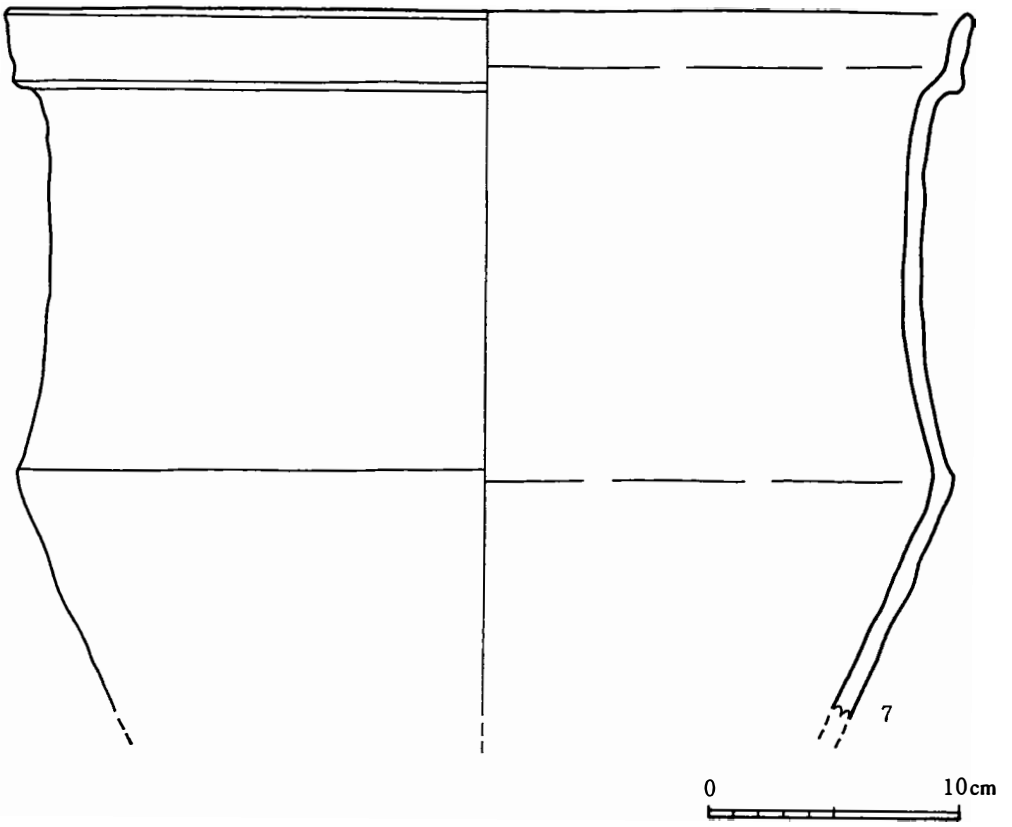
出土した土器のうち、主なものを10点掲載した（第12図）。いずれも縄文後晩期のものと思われる。８～14は深鉢形土器片で、外に開く頸部から立ち上がる口縁帯をもつ。８は波状口縁で波頂部に押点があり、口縁帯外面に沈線２条、内面屈曲部に沈線１条をもつ。９～12は口縁帯外面に３～４条の沈線をもち、９は内面屈曲部に沈線１条をもつ。15は浅鉢形土器で、胴部から頸部にかけて内側に屈曲し、頸部から立ち上がる口縁帯をもち、口縁帯外面に沈線１条、内面屈曲部に沈線１条をもつ。16、17は底部である。いずれも上げ底で、胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なる器形をもつ。

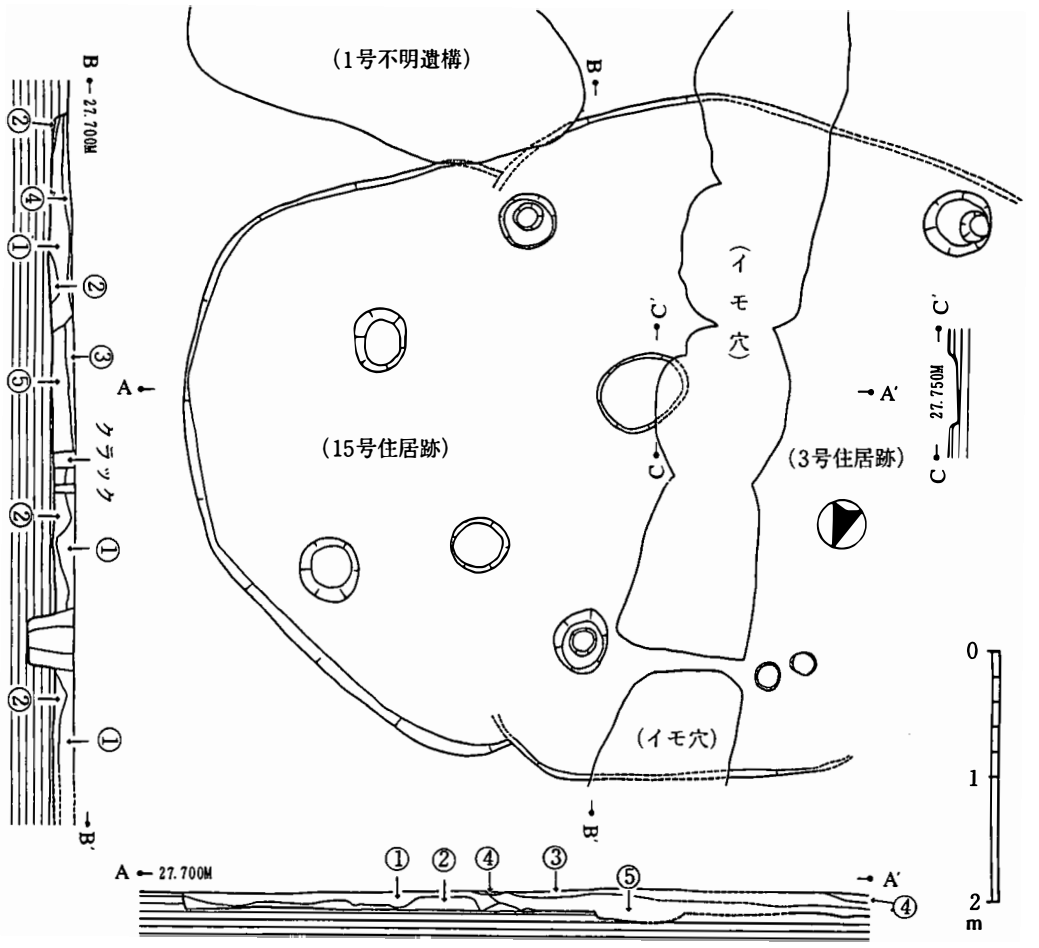
４号住居跡（第13図）

１区ｂのＬ－４グリッドから検出された。直径約5.5ｍの円形で、遺構検出面からの深さは約20㎝である。覆土は４層に分層でき、①層はパサパサして固い暗黄褐色土、②層は炭化した堅果類を含む締まった暗褐色土、③層は②層に少量の焼土粒子と炭粒を含み、④層は明黒褐色土で粒子が細かく締まっている。遺構の中

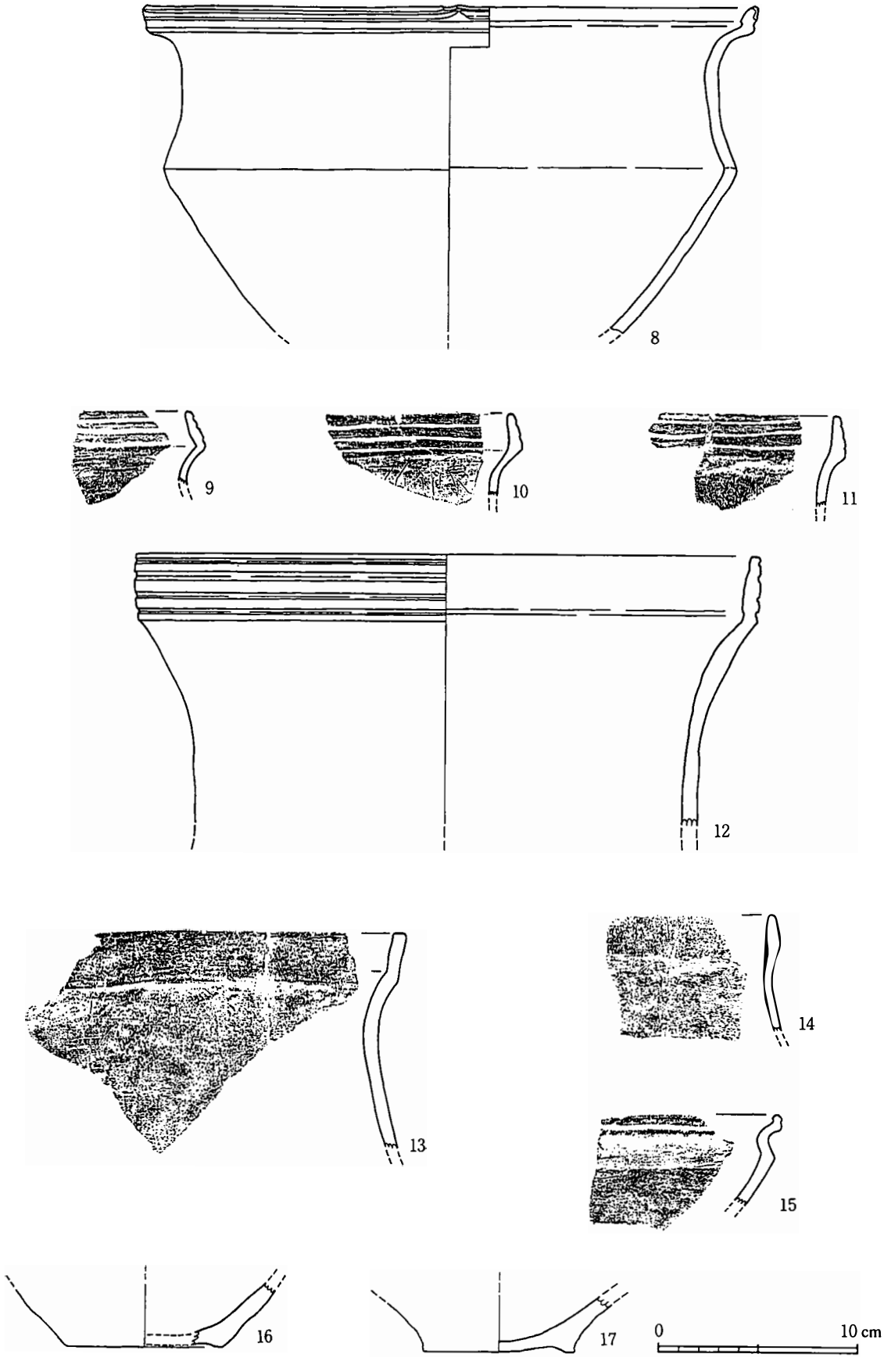


第10図　2号住居跡及び2号住居跡出土土器(1)

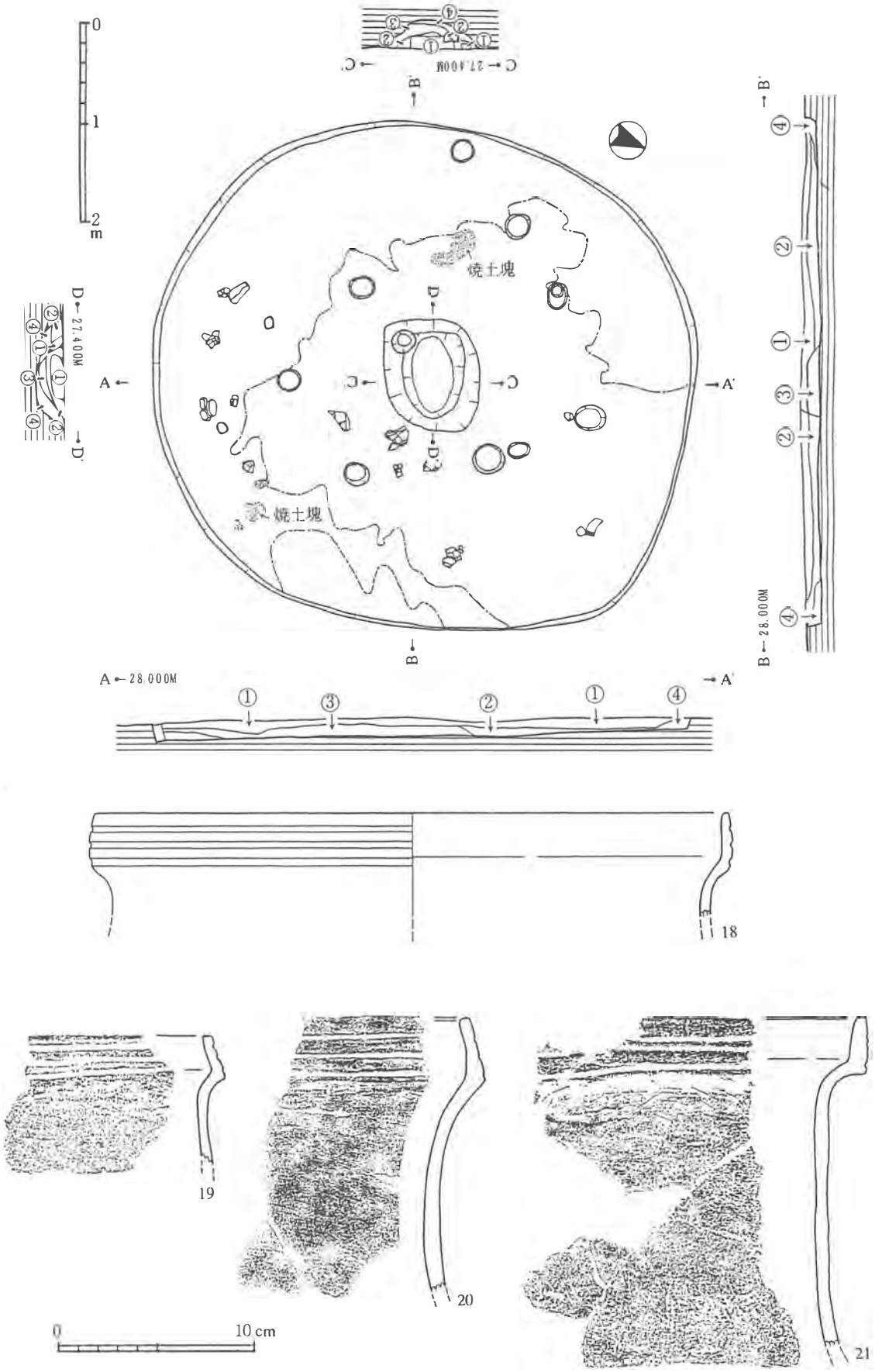




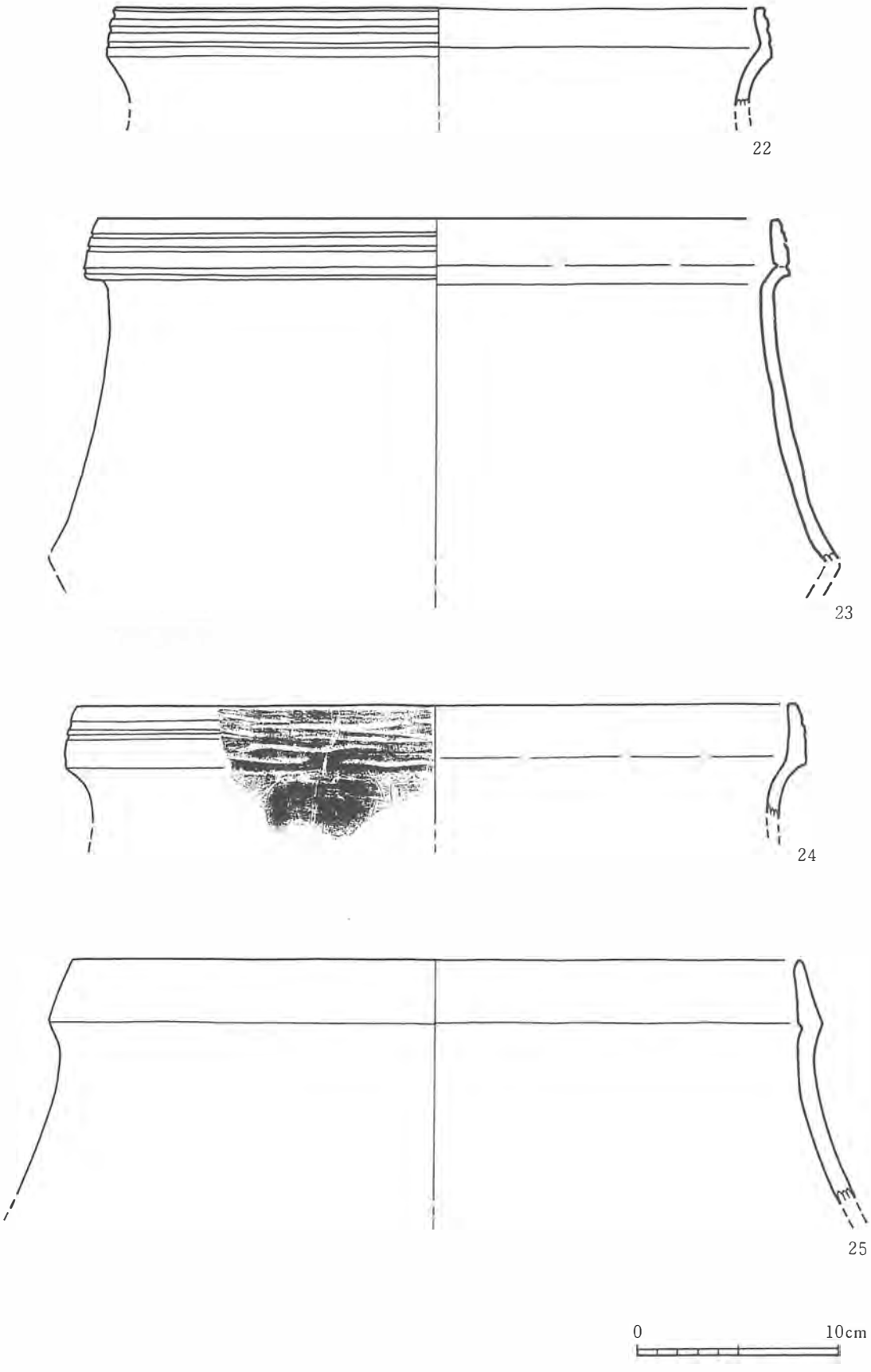
第11図　２号住居跡出土土器(２)及び３・15号住居跡



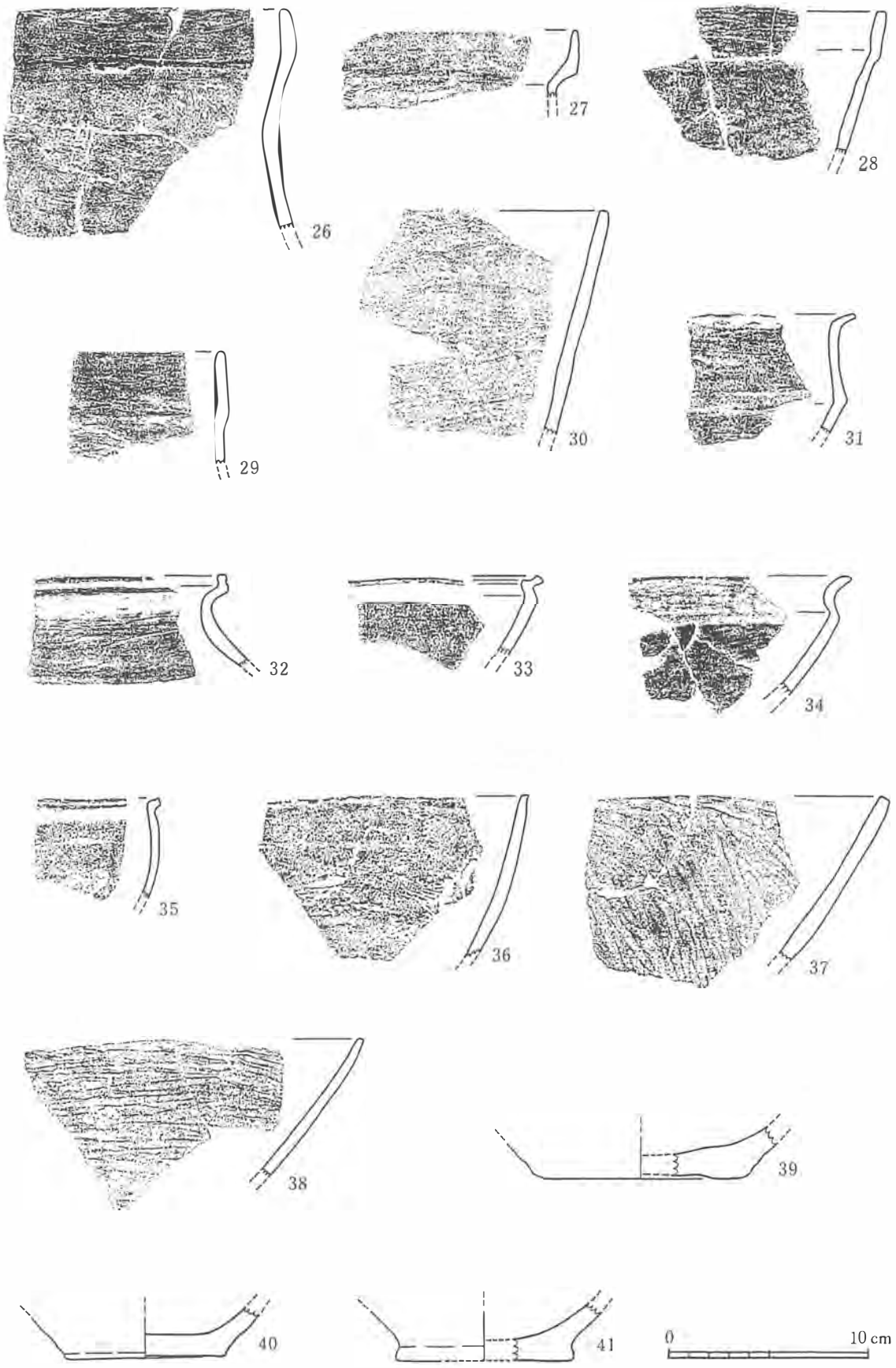
第12図　3号住居跡出土土器



第13図　４号住居跡及び４号住居跡出土土器（１）



第14図　4号住居跡出土土器(2)



第15図　４号住居跡出土土器（３）

央部には直径約100㎝、床面からの深さ約30㎝の炉跡があり、焼土の範囲より一回り大きく掘り込まれている。覆土は４層に分層でき、①層は焼土主体の堅い赤色土、②層は焼土粒が混入した暗赤褐色土、③層は灰混じりのブロックを含む灰褐色土、④層は焼土粒子や炭粒をわずかに含む褐色土である。床面全体に厚さ２～５㎝の硬化面が存在し、下位から土器が数点検出されたが、柱穴は検出されなかった。

この遺構からは土器が多量に出土したが、ほとんどが縄文後晩期のものであると思われる。このうち主要なもの24点を実測して記載した（第13～15図）。18～29は深鉢形土器で、外に開く頸部から立ち上がる口縁帯をもつ。このうち18～23は口縁帯外面に３条の平行沈線、24は横方向の条痕を施す。また、18と25は内面屈曲部に沈線１条をもつ。30も深鉢形土器で、外に開く直口口縁である。31は内弯する頸部から急角度で外反する口縁をもつ。32～38は浅鉢形土器である。32は内側に屈曲する頸部から立ち上がる口縁帯をもち、口縁帯内外面に１条ずつ沈線をもつ。33はくの字形に小さく屈曲する頸部から低く立ち上がる口縁をもつ。34は頸部が内側に屈曲し、口縁は外反する。35は胴部のふくらむ器形で、小さく屈曲する頸部からわずかに立ち上がる口縁をもち、口唇には沈線１条をもつ。36～38は外に開く直口口縁である。39～41は底部片で、39、40は胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なり、41は底部端が外に張り出す。

５号住居跡（第16図）

１区ｂのＭ－５グリッドから検出された。直径約3.7～4.1ｍの楕円形で、遺構検出面からの深さは約５㎝と浅く土層観察はできなかった。柱穴らしきものを４基検出したが、床面には硬化面も炉跡も検出できなかった。

６号住居跡（第16図）

１区ｂのＪ－３グリッドから検出された。直径約6.0～6.8ｍの楕円形で、遺構検出面からの深さは約５㎝と浅く土層観察はできなかった。遺構のほぼ中央部で炉跡らしき遺構を２基検出した。大きい方は直径約90㎝、床面からの深さ約60㎝を測る。覆土は３層に分層でき、①層はニガ土が混入した暗褐色土、②層は細かいニガ土が混入した暗褐色土、③層は暗褐色土であった。小さい方は直径約60㎝、床面からの深さ約30㎝で、覆土は３層に分層でき、④層は焼土粒子が混入したややパサパサした暗黄褐色土、⑤層は固く粘質性がある暗褐色土、⑥層はやや柔らかい暗褐色土である。

主要な土器を１点掲載した。42は胴部がややふくらんだ浅鉢形土器で、外反する頸部からわずかに立ち上がる口縁をもち、口唇には沈線１条をもつ。

７号住居跡・８号住居跡（第17図）

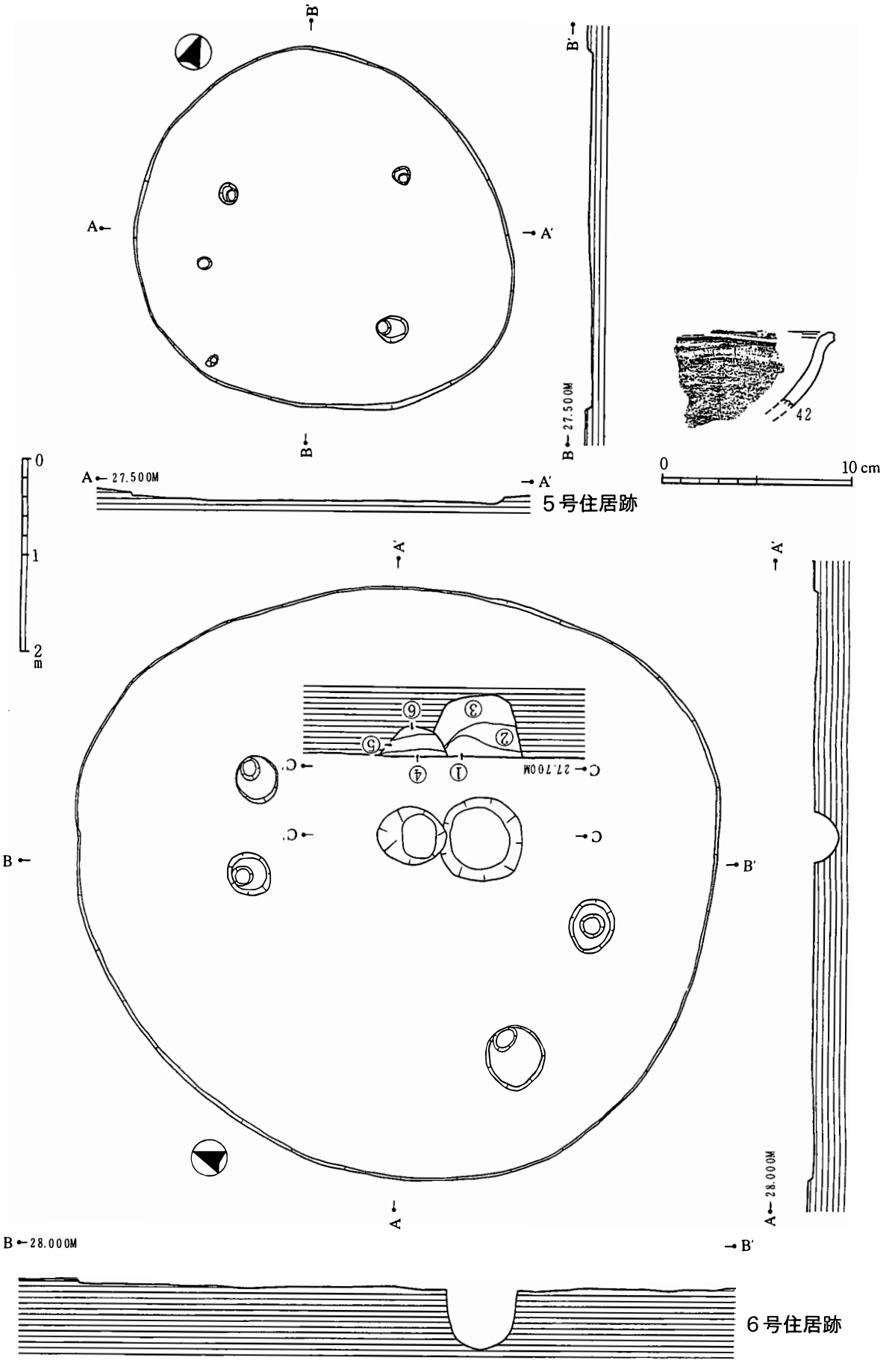
１区ｂのＫ－３グリッドから、７号住居跡が８号住居跡を切る形で検出された。７号住居跡は直径約5.0ｍの円形で、遺構検出面からの深さは約10㎝であった。また、８号住居跡は楕円形で直径約5.5～6.5ｍ、遺構検出面からの深さ約10㎝で、ほぼ中央に直径約120㎝、床面からの深さ約20㎝の炉跡が検出された。

これらの住居跡の覆土は７層に分層できた。①層は固い暗黄褐色土、②層は柔らかい暗褐色土、③層は炉の上部の暗褐色土で、焼土粒と炭粒の量によりａ・ｂに細分化した。④層は固い黒褐色土、⑤層は①層に類似した暗黄褐色土、⑥層は焼土粒と炭粒を微量に含む暗黄褐色土、⑦層は焼土粒と炭粒を微量に含む暗褐色土である。

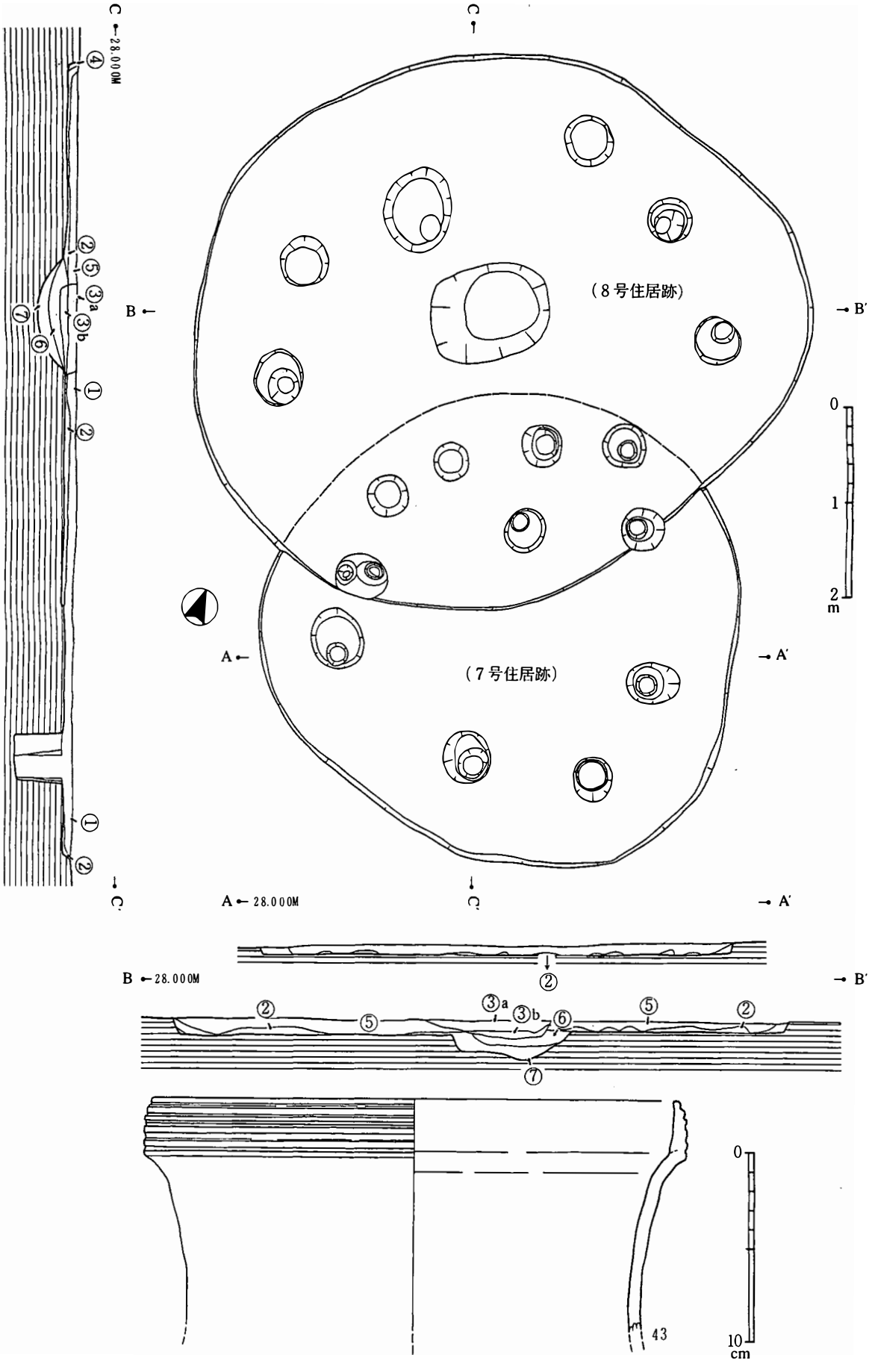
主な出土土器を７号住居跡から１点（第17図）、８号住居跡から２点掲載した（第18図44、45）。43は口縁帯をもつ深鉢形土器で、口縁帯外面に５～６条の平行沈線を施す。44は内側に屈曲する頸部から立ち上がる口縁帯をもち、口縁帯内外面に１条ずつ沈線をもつ。45は底部片である。

９号住居跡（第18図）

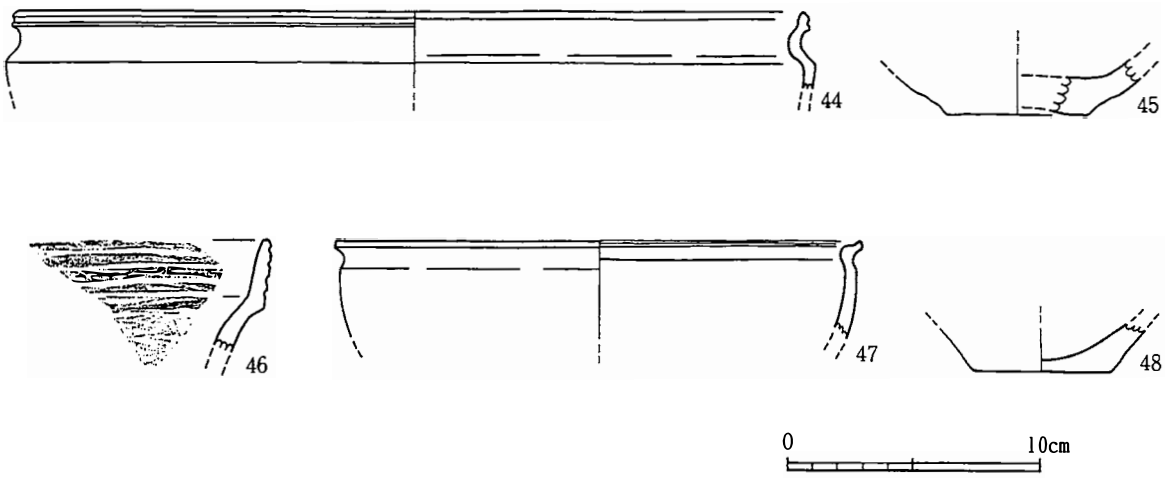
１区ｂのＬ－５及びＬ－６グリッドから検出された。直径約6.5～8.3ｍの楕円形で、検出した際には一部床の硬化面が露出した状態であったため、壁面の立ち上がりに気づかずに掘りすぎてしまった。また、当初

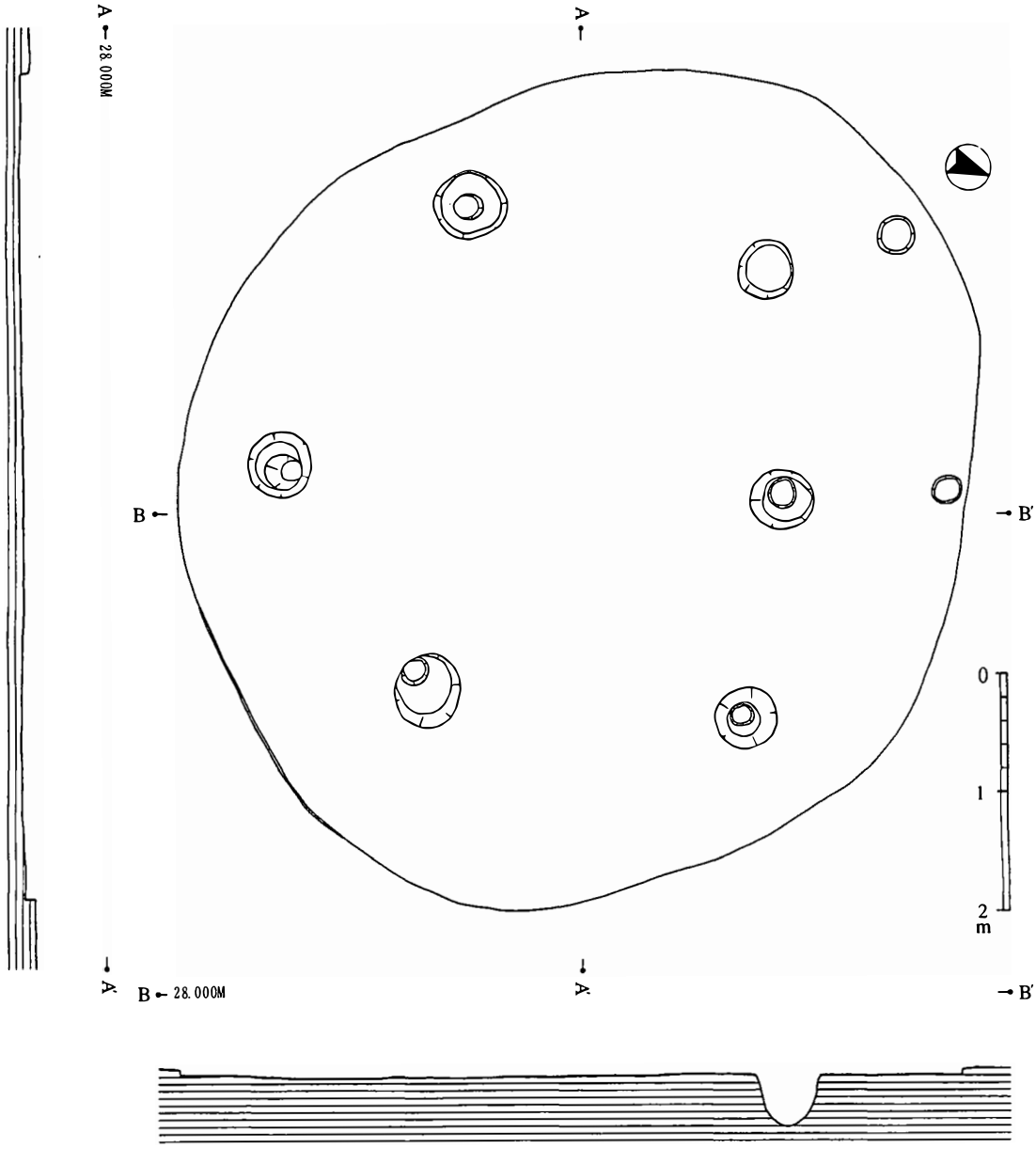


第16図　５・６号住居跡及び６号住居跡出土土器



第17図　7・8号住居跡及び7号住居跡出土土器





第18図　８・９号住居跡出土土器及び９号住居跡

硬化面が確認できたが、乾燥状態が続いたため、床面の痛みが激しくわからなくなった。柱穴と思われる小土坑は５基確認した。また、北側の小土坑２基は入口施設に伴う柱穴の可能性がある。炉跡は検出されなかった。

主な出土土器を３点掲載した（第18図46～48）。46は口縁帯をもつ深鉢形土器で、口縁帯外面に４条の平行沈線を施す。47は内側に屈曲する頸部からわずかに立ち上がる口縁をもつ。48は底部片である。

10号住居跡（第19図）

１区ｂのＬ－５グリッドから検出された。直径約6.0～6.3ｍの楕円形で、遺構検出面からの深さは約10㎝である。覆土は４層に分層できた。①層はややパサパサして柔らかい暗黄褐色土、②層は固く締まった暗褐色土、③層は①層に焼土粒子と炭粒が混入したもの、④層は②層に焼土粒子と炭粒が混入したものである。遺構のほぼ中央に直径約70㎝、床面からの深さ約10㎝の炉跡が検出されたが、焼土はごく少量であった。また、硬化面ははっきりせず、柱穴も検出することができなかった。

主要な土器４点を記載した。49は直口口縁の深鉢形土器で、外面には条痕調整が施されている。50、51は無文の口縁帯をもつ深鉢形土器である。52は底部片である。

11号住居跡（第20図）

１区ｂのＬ－６及びＬ－７グリッドから、12号住居跡を切る形で検出された。直径約5.0～5.2ｍの楕円形で、遺構検出面からの深さは約10㎝を測る。覆土は２層に分層でき、①層はややパサパサして柔らかい暗黄褐色土、②層はやや粘質性があり固く締まった暗褐色土である。床面出土の遺物はなく、硬化面の発達も弱い。一応、柱穴らしき遺構を６基検出することができた。主要な出土土器を１点掲載した。53は内側に屈曲する頸部から立ち上がる口縁帯をもつ浅鉢形土器である。波状口縁で、波頂部及びその下の頸部、胴部の屈曲部にそれぞれ押点をもつ。また、口縁帯外面に浅い凹線を１条もつ。

12号住居跡（第20図）

１区ｂのＬ－６グリッドから、11号住居跡に切られた形で検出された。直径約4.3ｍのいびつな楕円形で、遺構検出面からの深さは約５㎝と浅く、土層観察はできなかった。床面出土の遺物はなく、硬化面の発達も弱く、柱穴もよくわからなかった。

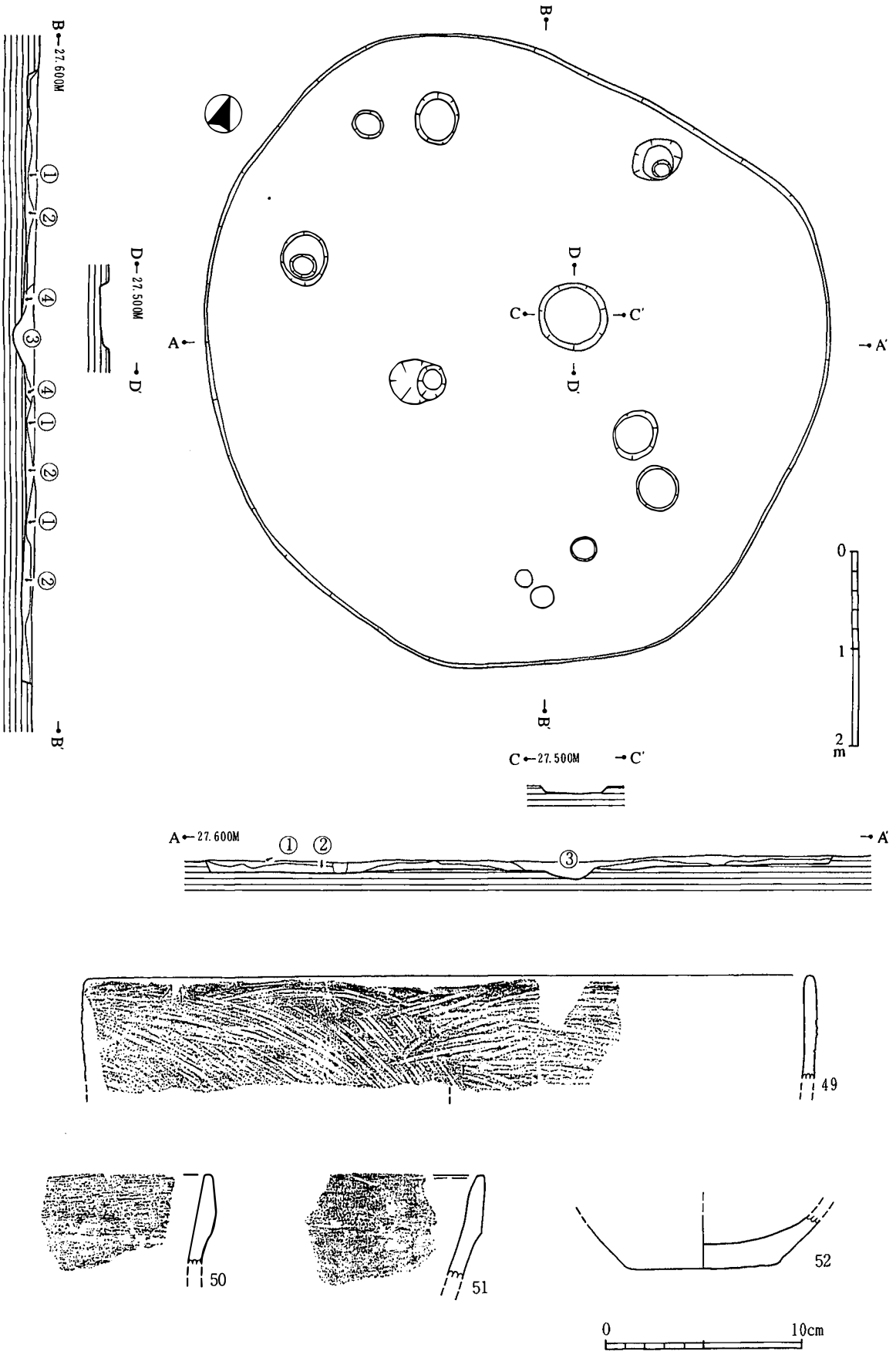
13号住居跡（第21図）

１区ｂのＫ－３及びＫ－４グリッドから、北側を７号住居跡、南側を11号溝に切られた形で検出された。直径約6.5ｍのほぼ円形と推定され、遺構検出面からの深さは約20㎝である。覆土は４層に分層できた。①層はややパサパサして粘質性が弱い暗黄褐色土、②層は粘質性があり固く締まった暗褐色土、③層は柔らかい暗褐色土、④層は①層に焼土粒と炭粒が少量混入したものである。遺構のほぼ中央と思われる箇所に直径約80㎝、床面からの深さが約10㎝の炉跡が検出されたが、焼土粒はごく少量であった。また、炉内に深さ約30㎝の柱穴があり、覆土は褐色土で焼土粒と焼土塊が数個検出できた。

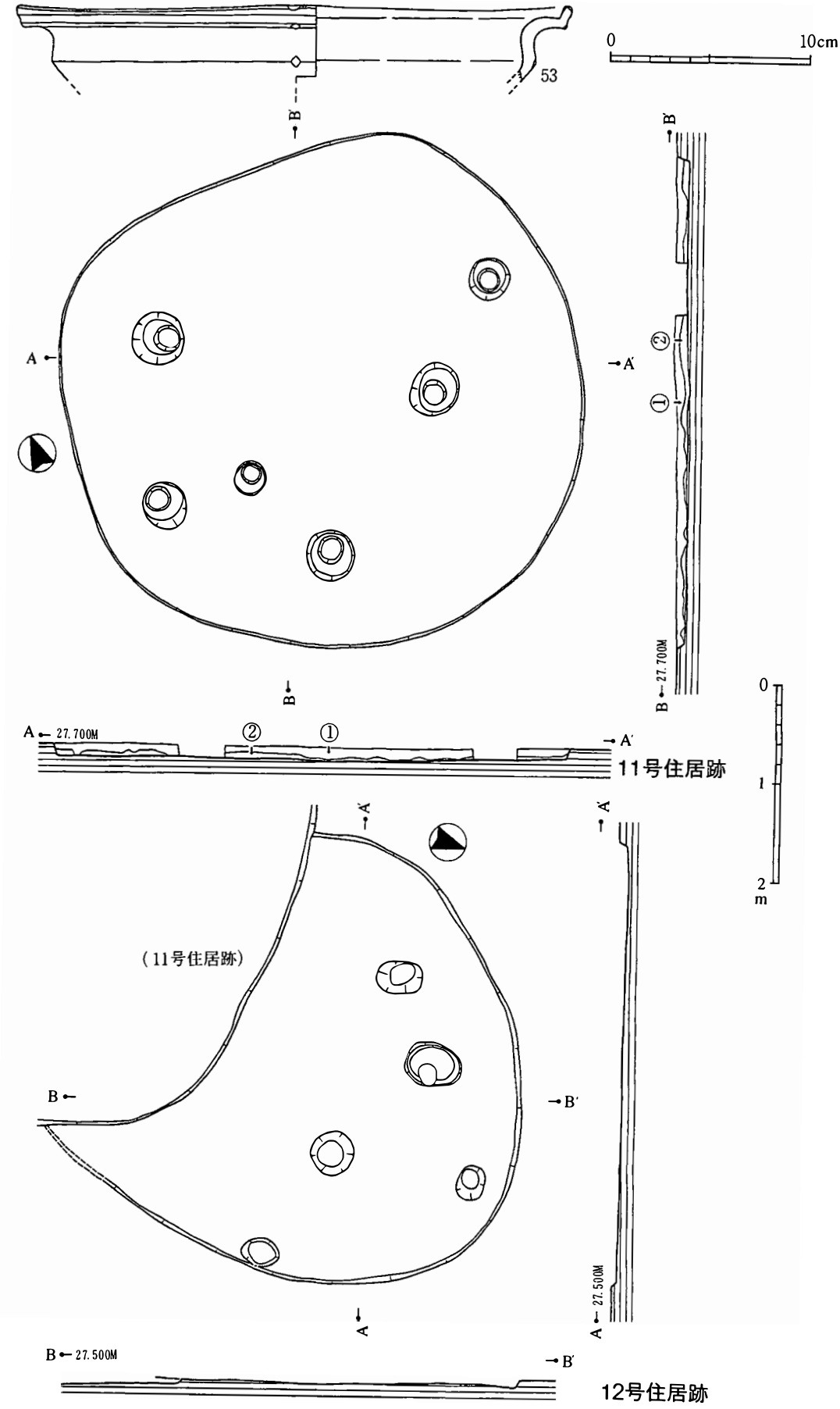
14号住居跡（第21図）

１区ｂのＬ－４グリッドから検出された。直径約5.5～6.5ｍの楕円形で、遺構検出面からの深さは約10㎝であったが土層観察はできなかった。床面からは土器が数点出土したが、硬化面の発達も弱く、炉跡もなく、柱穴も並ばなかった。また、埋甕が覆土中に１基埋葬されていた（３号埋甕）。

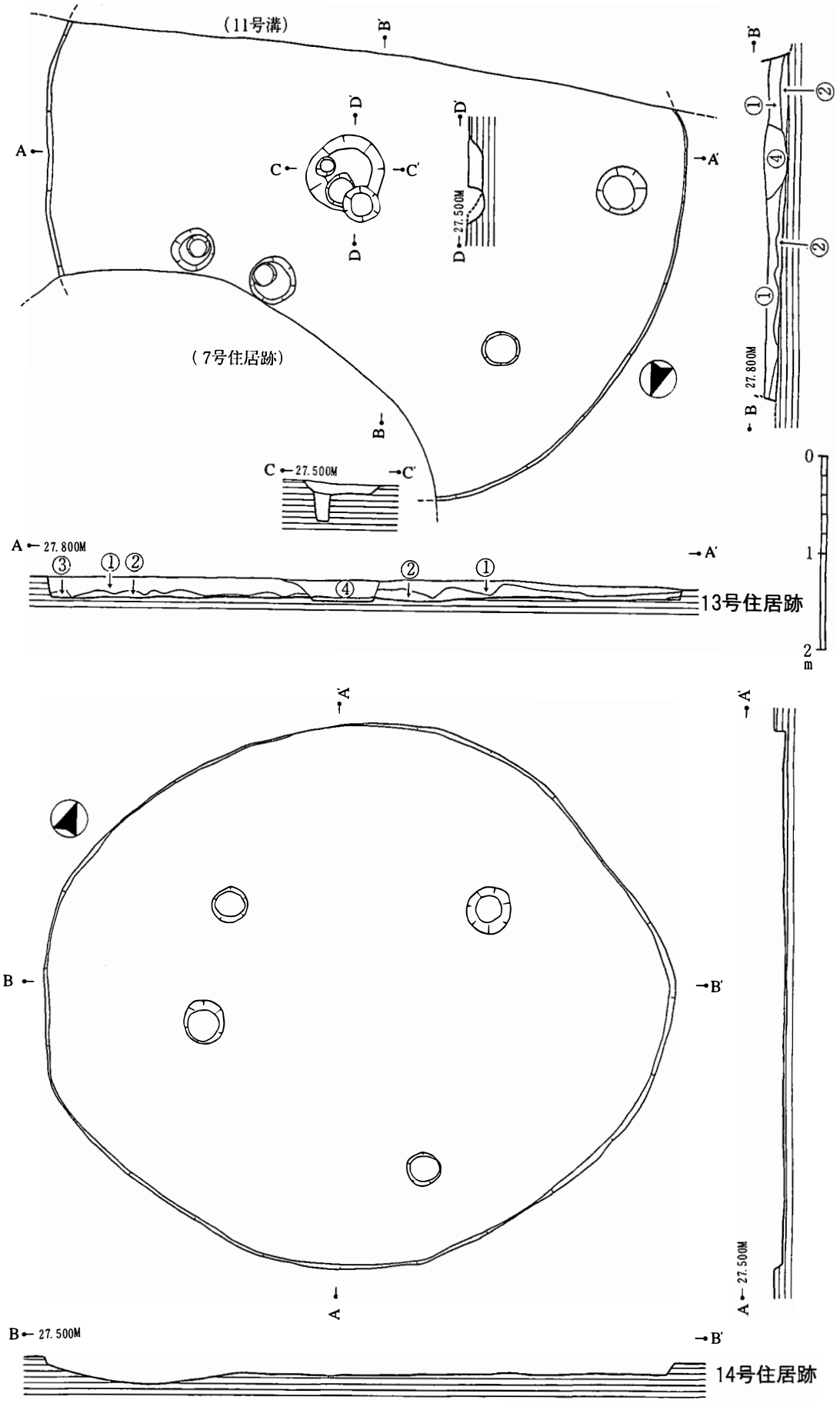
主な出土土器を２点掲載した（第22図54、55）。54は口縁帯をもつ深鉢形土器で、口縁帯外面に５条の平行沈線を施す。55は口縁帯をもつ浅鉢形土器である。波状口縁で波頂部に押点をもつ。また、口縁帯外面に沈線を１条もつ。



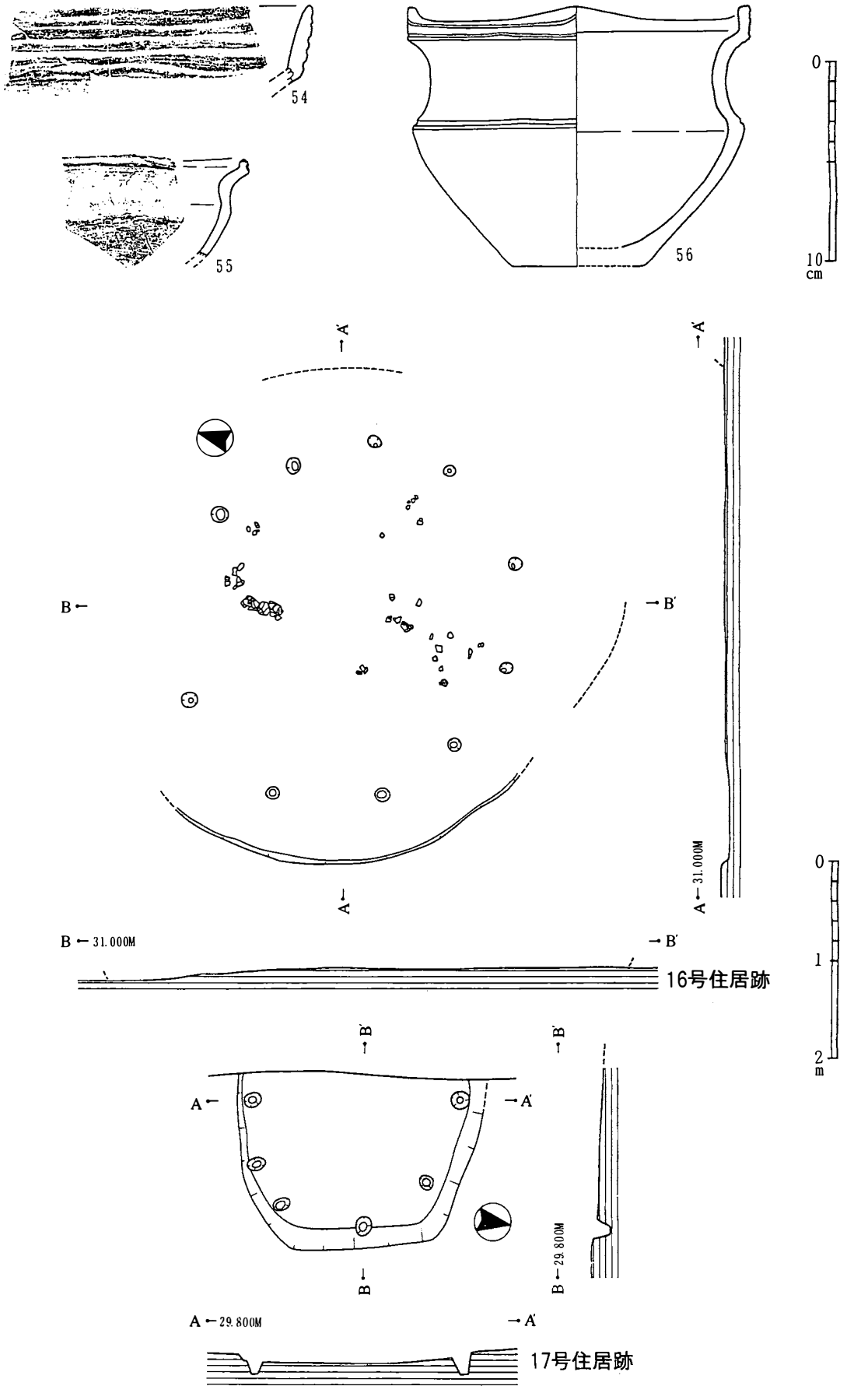
第19図　10号住居跡及び10号住居跡出土土器



第20図　11号住居跡出土土器及び11・12号住居跡



第21図　13・14号住居跡



第22図　14・16号住居跡出土土器及び16・17号住居跡

15号住居跡（第11図）

１区ｂのＭ－３グリッドから、３号住居跡に切られる形で検出された。炉の位置から３号が15号を切るのであろう。床面の高さもほぼ同じであった。南側の切り合いは判然としないが、壁面では観察できなかった。直径約5.4ｍの楕円形で、遺構検出面からの深さは約20cmを測る。覆土は３号住居跡とおなじで５層に分層できた。①層はパサパサして柔らかい暗黄褐色土、②層は固く締まって粘質性がある暗褐色土、③層は①層が固く締まり、焼土粒子と炭粒を含んだもの、④層は①層に類似しているが固く、⑤層は①層に焼土粒子と炭粒を微量に含んだ層である。

16号住居跡（第22図）

６区のａ－72グリッドから検出された。形態は不明確で、掘り込みも確認できず、土層観察もできなかった。床上の硬化面の発達も弱く、炉跡も確認できず、また、小さな穴が10基検出されたが柱穴かどうかは不明である。

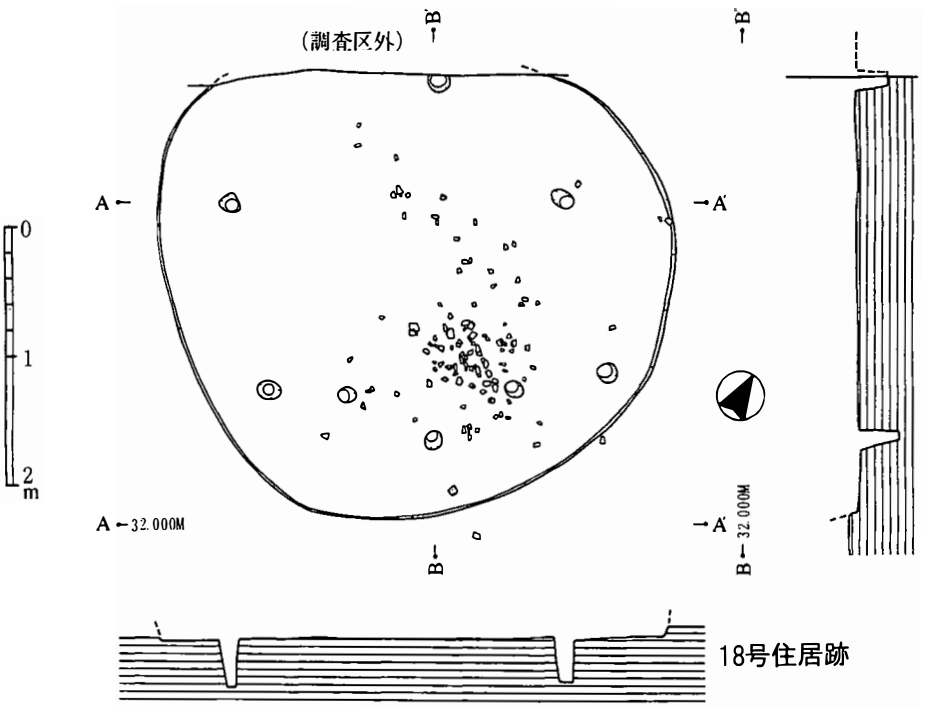
主要な出土土器１点を掲載した（第22図56）。平底で、胴部で屈曲し、いったん内弯して外に開く頸部から立ち上がる口縁帯をもつ。波状口縁で、口縁帯には平行沈線を２条、胴屈曲部に沈線を１条施している。

17号住居跡（第22図）

８区ｂの西－ホグリッドから検出された。全容はわからないが、直径約2.5ｍの円形になると思われる。遺構検出面からの深さは約５cmと浅く、土層観察はできなかった。また、床上の硬化面の発達も弱く、炉跡も確認できなかったが、柱穴らしき遺構が６基検出された。

18号住居跡（第23図）

８区ｃの南－５及び北－５グリッドから検出された。直径約4.0ｍの楕円形で、非常に浅かったため、掘り込みが確認できず、土層観察もできなかった。 炉跡も焼土も見られなかったが、わずかに南西の隅に炭粒が見られた。



第23図　18号住居跡

第２表　住居跡出土土器観察表

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調（内面）	整（外面）	色（内面）	調（外面）	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	深鉢口縁			3.9	ナデ	沈線４条、ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-1	2住5	
2	深鉢口縁			4.2	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-1	2住15	
3	深鉢口縁			6.9	ミガキ	ナデ	暗灰黄(2.5Y6/2)	黄灰(2.5Y4/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-1	2住51	内面スス付着
4	浅鉢口縁	38.0		7.9	沈線1条、ミガキ	波状口縁、沈線２条、押点、ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-1	2住81他	内・外面スス付着
5	浅鉢口縁			3.3	ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-1	2住25	内面スス付着
6	鉢底部		6.8	2.5	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-1	2住139	
7	深鉢口縁	38.4		27.8	ナデ	ナデの後ミガキ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-1	2住156他	内・外面スス付着
8	浅鉢口縁	30.8		16.3	ミガキ、ナデ	波状口縁、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-3	3住314他	外面スス付着
9	浅鉢口縁			3.8	沈線１条、ナデ	沈線３条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石を含む	良好	1b	M-3	3住78	
10	深鉢口縁			4.1	ミガキ	沈線３条、ミガキ	灰黄褐(10YR4/2)	褐灰(10YR4/1)	粗砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	M-3	3住269	
11	深鉢口縁			4.6	ナデ	沈線３条、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石含む	良好	1b	M-3	3住31	
12	深鉢口縁	31.4		13.4	ナデ	沈線４条、ミガキ	にぶ黄(2.5Y6/3)	黒褐(10YR3/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-3	3住62他	
13	深鉢口縁			10.8	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	M-3	3住81	外面スス付着
14	深鉢口縁			5.8	ナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-3	3住267	
15	浅鉢口縁			4.6	沈線1条、ミガキ	沈線１条、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR6/3)	微砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	M-3	3住224	内面スス付着
16	鉢底部		8.0	3.2	ナデ	ナデ	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄橙(10YR6/4)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-3	3住173	
17	鉢底部		7.6	2.9	ミガキ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-3	3住23	
18	深鉢口縁	32.2		5.2	沈線１条、ナデ	沈線３条、ナデ	褐灰(10YR4/1)	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住138	
19	深鉢口縁			6.5	ナデ	沈線３条、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	浅黄(5Y7/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住119	外面スス付着
20	深鉢口縁			13.5	ナデ	ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住464	外面スス付着
21	深鉢口縁			16.6	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住743	外面スス付着
22	深鉢口縁			4.8	ナデ	沈線３条、ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	1b	L-4	4住742	
23	深鉢口縁	24.0		17.3	ミガキ、ナデ	沈線３条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-4	4住32他	
24	深鉢口縁			5.6	ナデ	沈線３条、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住159	
25	深鉢口縁	36.4		11.9	沈線１条、ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄褐(10YR5/3)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住789	外面スス付着
26	深鉢口縁			10.9	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住433	
27	深鉢口縁			3.3	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR6/6)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-4	4住1049	
28	深鉢口縁			7.1	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住729	
29	深鉢口縁			5.5	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ橙(7.5YR7/4)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住470	外面スス付着
30	深鉢口縁			11.0	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住274他	
31	深鉢口縁			6.0	ナデ	ミガキ	にぶ橙(7.5YR6/4)	灰黄(2.5Y7/2)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	L-4	4住50	
32	浅鉢口縁			4.5	沈線1条、ミガキ	沈線１条、ミガキ	にぶ橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/3)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住618	
33	浅鉢口縁			3.9	ミガキ	ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	1b	L-4	4住542	外面スス付着
34	浅鉢口縁			5.9	ミガキ	ミガキ	黒褐(10YR3/1)	黄灰(10YR4/1)	微砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	L-4	4住985	
35	浅鉢口縁			5.0	ナデ	沈線1条、ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	灰黄褐(10YR4/2)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-4	4住922	内・外面スス付着
36	深鉢口縁			8.0	ナデ	ナデ	浅黄(2.5Y7/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住384	外面スス付着
37	深鉢口縁			8.5	ナデ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/3)	明褐(10YR6/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住897	外面スス付着
38	深鉢口縁			7.7	ミガキ	ミガキ	褐灰(10YR4/1)	黒褐(10YR3/1)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住84他	
39	鉢底部		10.8	1.7	ナデ	ナデ	褐灰(10YR5/1)	にぶ黄橙(10YR6/4)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住441	
40	鉢底部		8.0	2.1	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/6)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住984	
41	鉢底部		9.0	2.9	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR6/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4住699	内面スス付着
42	浅鉢口縁			3.9	沈線１条、ナデ	沈線１条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/2)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	6住5	
43	深鉢口縁	27.9		12.1	ナデ	沈線５条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	褐(7.5YR4/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	7住23他	内・外面スス付着
44	浅鉢口縁	31.4		3.0	沈線１条、ナデ	沈線１条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	8住3	
45	鉢底部		5.6	2.2	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	8住36	
46	深鉢口縁			4.4	ナデ	沈線４条、ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-5,6	9住141	外面スス付着
47	浅鉢口縁	22.8		3.9	ミガキ	沈線１条、ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	微砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	L-5,6	9住14	
48	鉢底部		5.4	1.9	ナデ	ナデ	明オリーブ灰(5GY7/1)	にぶ黄(2.5Y6/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-5,6	9住110	
49	深鉢口縁	18.7		5.8	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石を含む	良好	1b	L-5	10住183他	内・外面スス付着
50	深鉢口縁			4.6	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/2)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-5	10住一括	外面スス付着
51	深鉢口縁			5.3	ナデ	ミガキ	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-5	10住187	外面スス付着
52	鉢底部		7.7	2.8	ナデ	ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-5	10住54	内・外面スス付着
53	浅鉢口縁	28.2		3.5	ミガキ	凹線１条、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	にぶ黄橙(10YR7/4)	微砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-6	11住42	
54	深鉢口縁			3.9	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-7	14住63	外面スス付着
55	浅鉢口縁			4.9	ミガキ	波状口縁、ミガキ	灰黄褐(10YR4/2)	灰黄褐(10YR4/2)	微砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-7	14住81	
56	浅鉢口縁	17.2		16.8	ミガキ	ミガキ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	a-72	16住23他	外面スス付着

２　円形周溝遺構（第24～29図）

円形周溝遺構が今回の調査で１区ｂから１基、４区ａから１基、５区から１基、６区から４基、８区ｄから１基、進入道路Ｂ区から１基の合計９基が検出された。以下、それぞれの特徴を見ていきたい。

１号円形周溝遺構（第24図）

１区ｂのＫ－５及びＬ－５グリッドから検出された。周溝外径は約4.6m、周溝内径は約3.2m、溝の幅約0.6～0.7m、溝の深さ約0.5～0.6mを測る。覆土は単層で黒褐色土であった。

また、この遺構からは、かなり多量の土器が出土したが、ほとんどが縄文後晩期のものであると思われる。この中から主要な土器を10点掲載した（第25図）。１～５は口縁帯をもつ深鉢形土器である。１は口縁帯外面と胴屈曲部の上にそれぞれ凹線１条、口唇に押点をもつ。６、７は口縁帯をもつ浅鉢形土器である。６は口縁帯外面と胴屈曲部の上にそれぞれ沈線１条、口唇と頸部の屈曲部に押点をもつ。７も口縁帯外面に沈線１条をもつ。８～10は底部で、いずれも胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なる形状をしている。

２号円形周溝遺構（第26図）

４区ａのＬ－10及びＬ－11グリッドから検出された。周溝外径は約3.2～3.4m、周溝内径は約2.2～2.4m、溝の幅約0.3～0.5m、溝の深さ約0.2～0.3mであった。覆土は２層に分層でき、①層は柔らかくきめ細かな黒褐色土で、②層は粘質性があるしまった暗褐色土であった。

３号円形周溝遺構（第26図）

８区ｄの南－20及び北－20グリッドから、道路の拡幅部分に遺構の北側を切られる状態で検出された。全容はわからないが、かなり大型の遺構である。周溝外径は約8.2m、周溝内径は約5.1m、溝の幅は約0.9～1.1m、溝の深さは約0.7～1.0mであった。覆土は７層に分層でき、①層は暗褐色土でやや粘質性があり、固く締まり、赤褐色粒や黄褐色粒を含んでいる。②層は褐色土で①に類似し、固く締まっている。③層は黒褐色土で①・②に類似し、固くて締まりがよい。④層は暗褐色土で①・②・③に比べると締まりが弱く、赤褐色粒や黄褐色粒が少ない。⑤層はａ・ｂに分けられ、⑤ａ層は褐色土で④に比べて柔らかく、焼土粒・炭粒をわずかに含み、⑤ｂ層は褐色土で焼土粒・炭粒を含んでいない。⑥層は④にローム塊が混入した明褐色土で、締まりはよくない。⑦層は黄褐色土でロームが汚れたような土であり、締まりはよくない。

４号円形周溝遺構（第27図）

６区のＺ－68及びａ－68グリッドから検出された。周溝外径は約3.4m、周溝内径は約2.5～2.6m、溝の幅は約0.4～0.5m、溝の深さは約0.2～0.3mを測る。覆土は２層に分層でき、①層は粒子が小さくさらさらした暗褐色土、②層は粘質性のある茶褐色土であった。

５号円形周溝遺構（第27図）

６区のＸ－71及びＹ－71グリッドから検出された変形の円形周溝遺構である。周溝外径は約3.7～4.6m、周溝内径は約2.5～3.7m、溝の幅は約0.5m、溝の深さは約0.2～0.4mであった。覆土は２層に分層でき、①層は粒子が小さくさらさらした黒褐色土、②層はきめ細かな粘質の茶褐色土である。遺構の形態から、一旦作られた円形周溝遺構が再度作り直されたものと考えられる。

６号円形周溝遺構（第28図）

５区のｆ－69グリッドから検出された。遺構の東側が20号溝に切られ、かつ調査区外に遺構の北側がほとんど隠れる状態で検出されたので、全容はほとんどわからない。周溝外径・周溝内径とも不明であり、溝の幅は約0.4～0.6m、溝の深さは約0.3mであった。覆土は３層に分層可能で、３層とも暗褐色土であり、下層

にいくにしたがい粘性が強くなる。

７号円形周溝遺構（第28図）

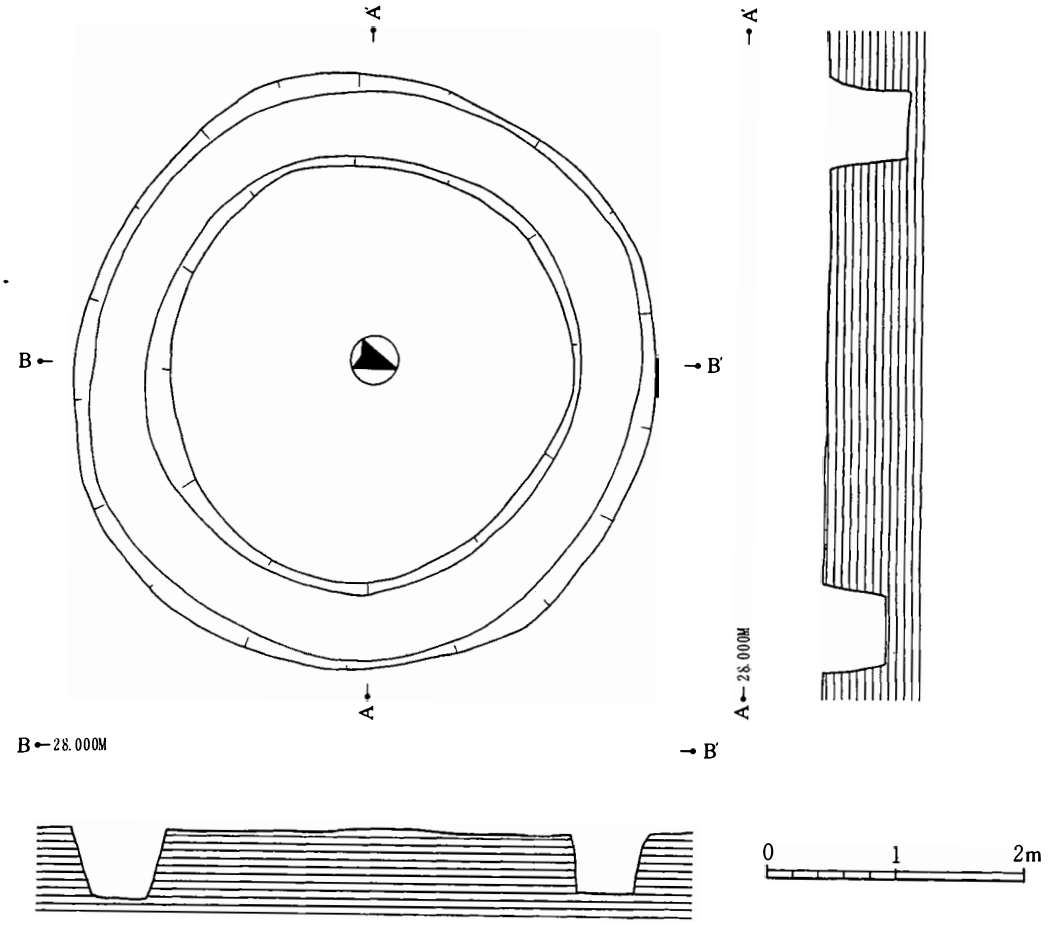
６区のＹ－70グリッドから検出された。周溝外径は約3.4～3.7m、周溝内径は約2.6～2.8m、溝の幅は約0.4m、溝の深さは約0.1～0.2mであった。覆土は２層に分層でき、①層は粒子が小さくさらさらした黒褐色土で、②層はきめ細かな粘質の茶褐色土であった。

８号円形周溝遺構（第28図）

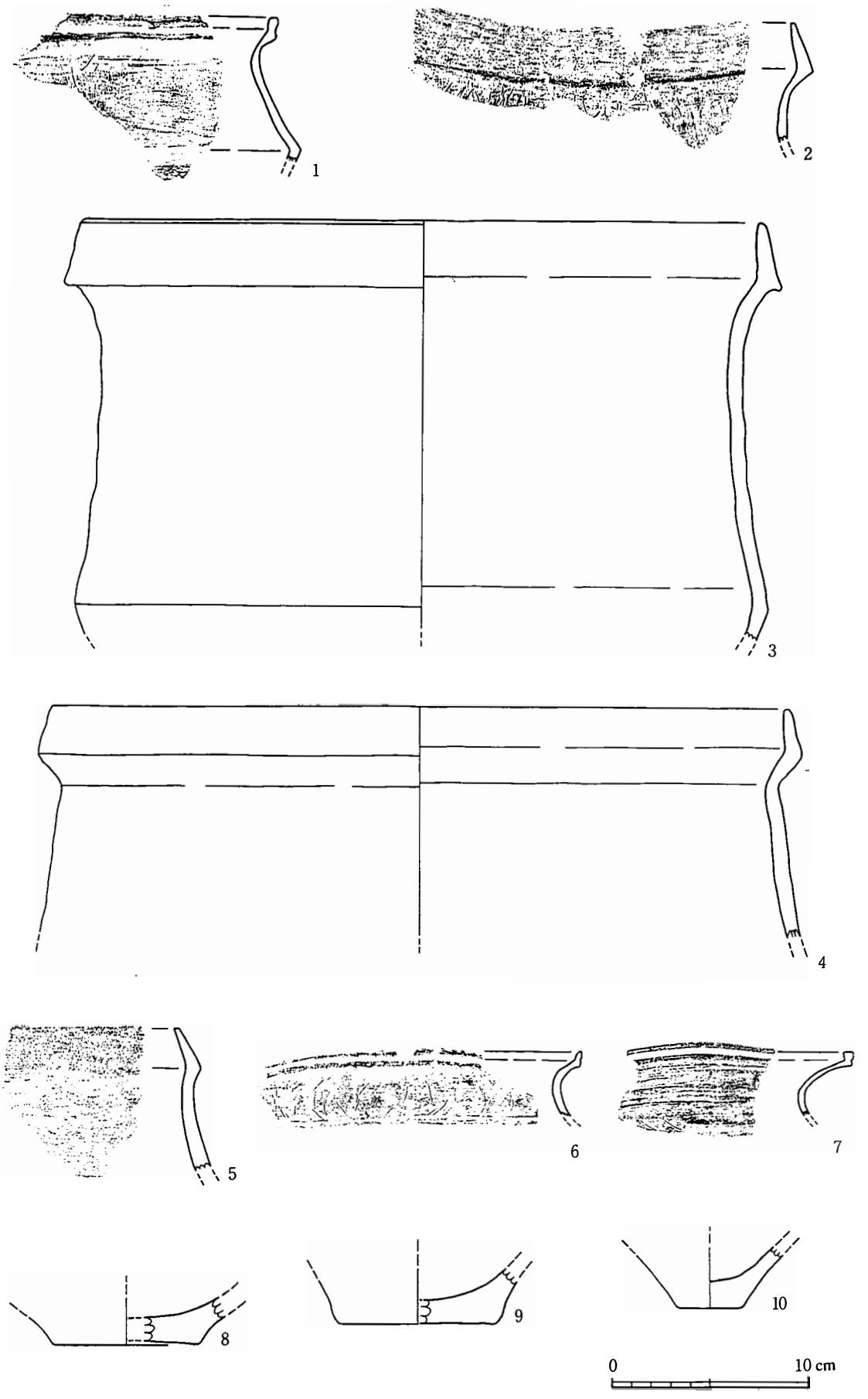
６区のａ－66及びｂ－66グリッドから検出された。周溝外径は約5.4～5.5m、周溝内径は約4.0～4.2m、溝の幅は約0.6～0.7m、溝の深さ約0.2mであった。覆土は２層に分層でき、①層は粒子が小さくさらさらした黒褐色土で、②層はきめ細かな粘質の茶褐色土であった。

９号円形周溝遺構（第29図）

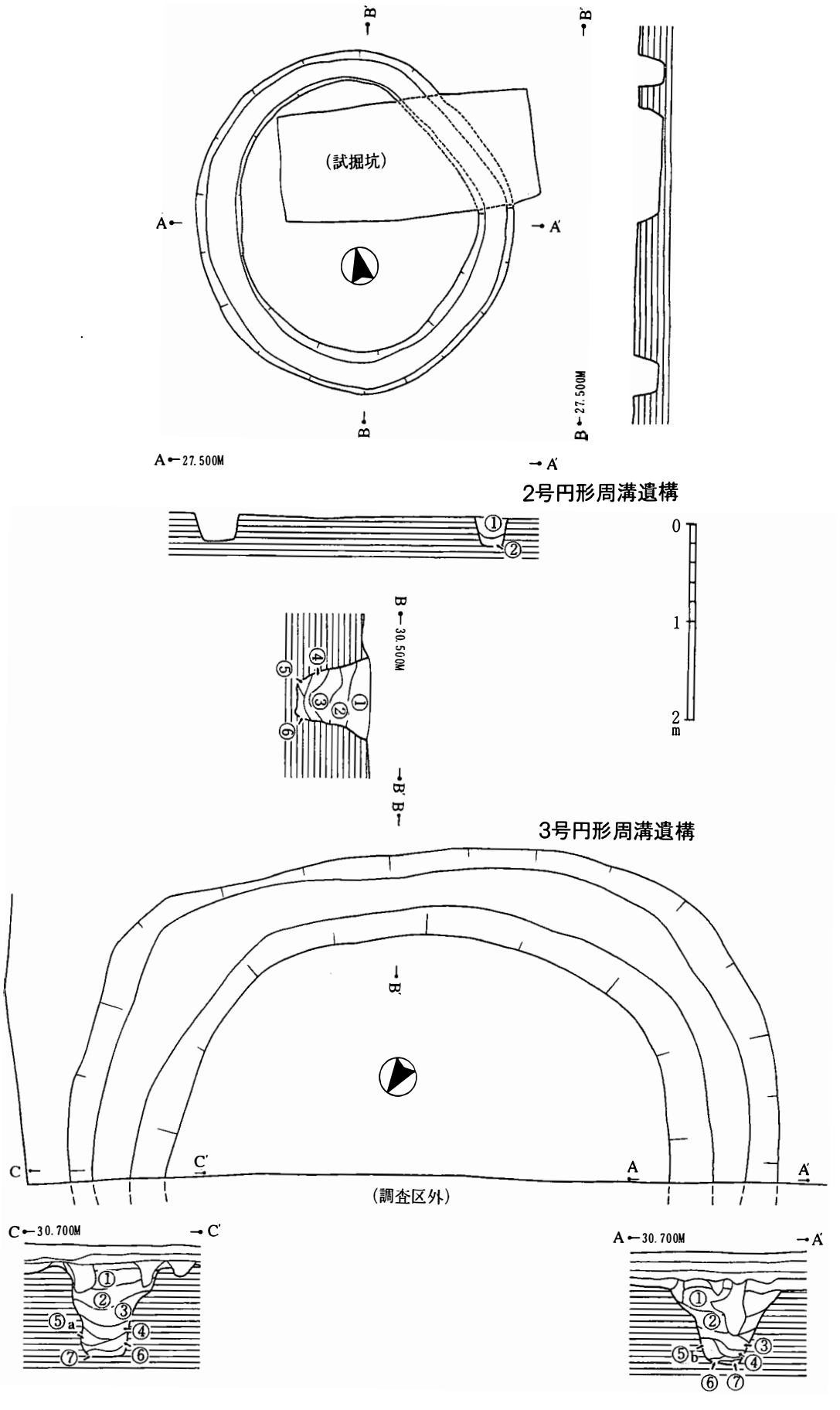
進入道路Ｂ区のへ－13及びへ－14グリッドから検出された。周溝外径は約3.1～3.2m、周溝内径は約2.4～2.5m、溝の幅は約0.3～0.4m、溝の深さ約0.1mであった。覆土は２層に分層でき、①層は粘質性がある黒褐色土で、②層はローム塊が混入した黒褐色土である。



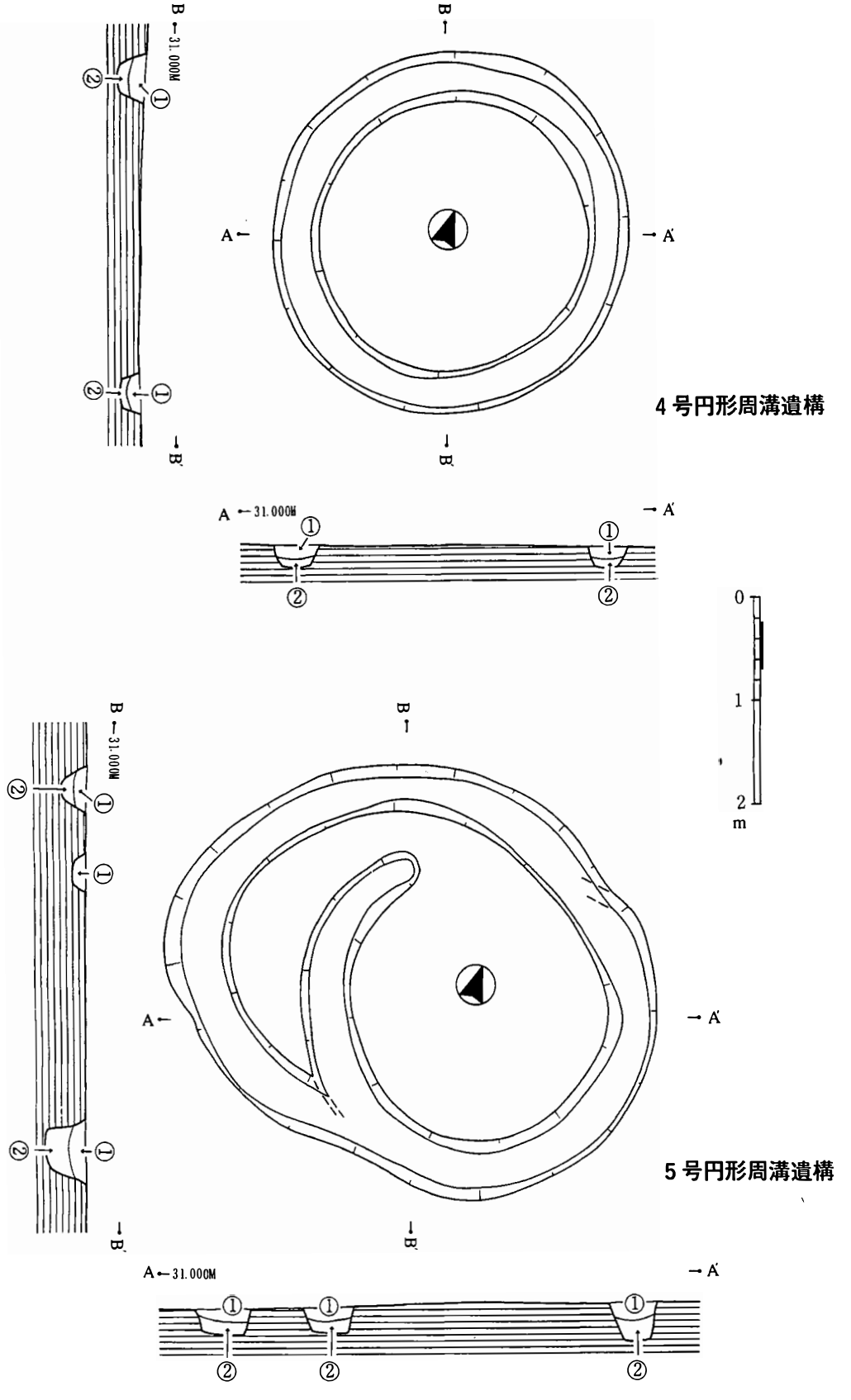
第24図　１号円形周溝遺構



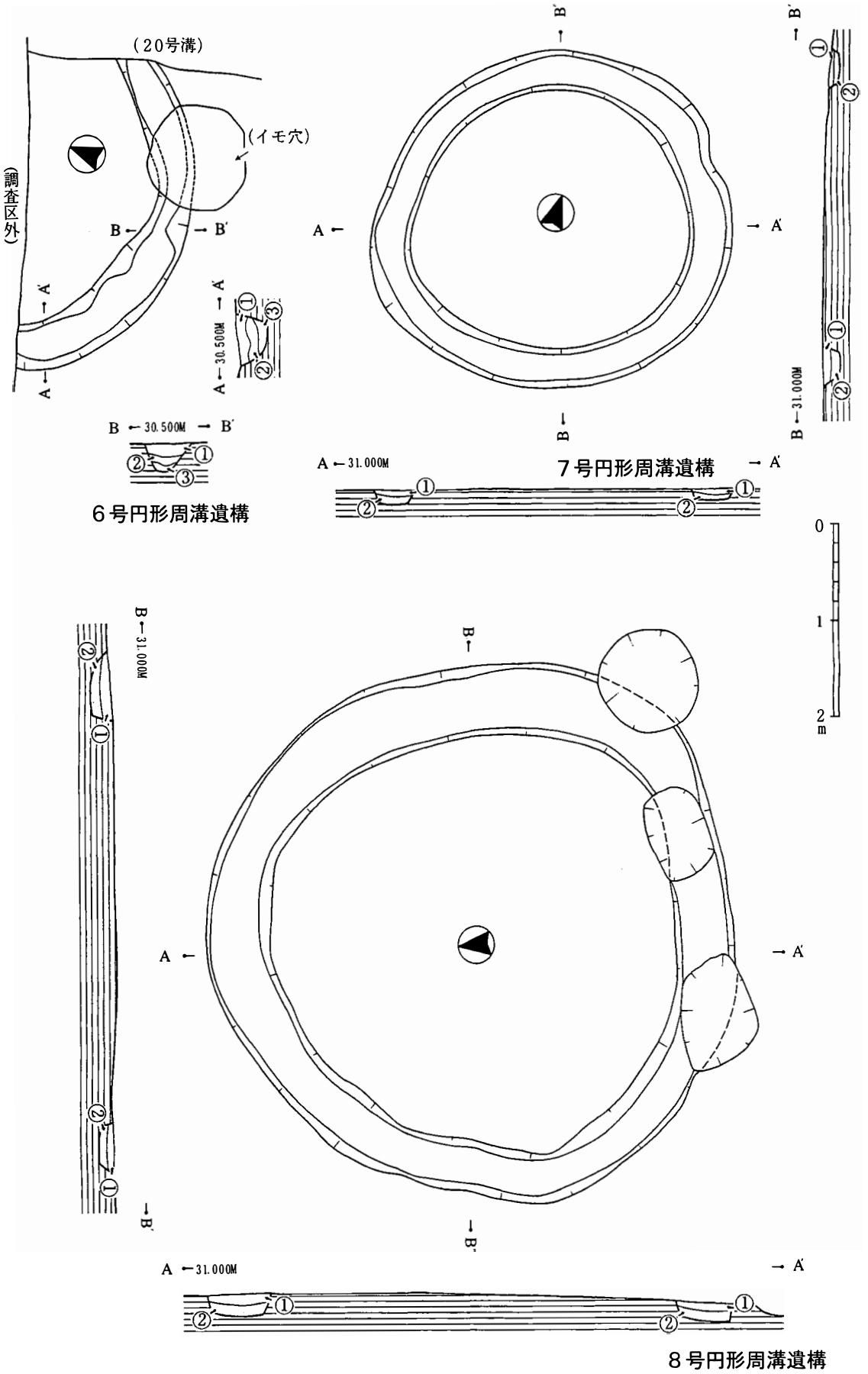
第25図　１号円形周溝遺構出土土器



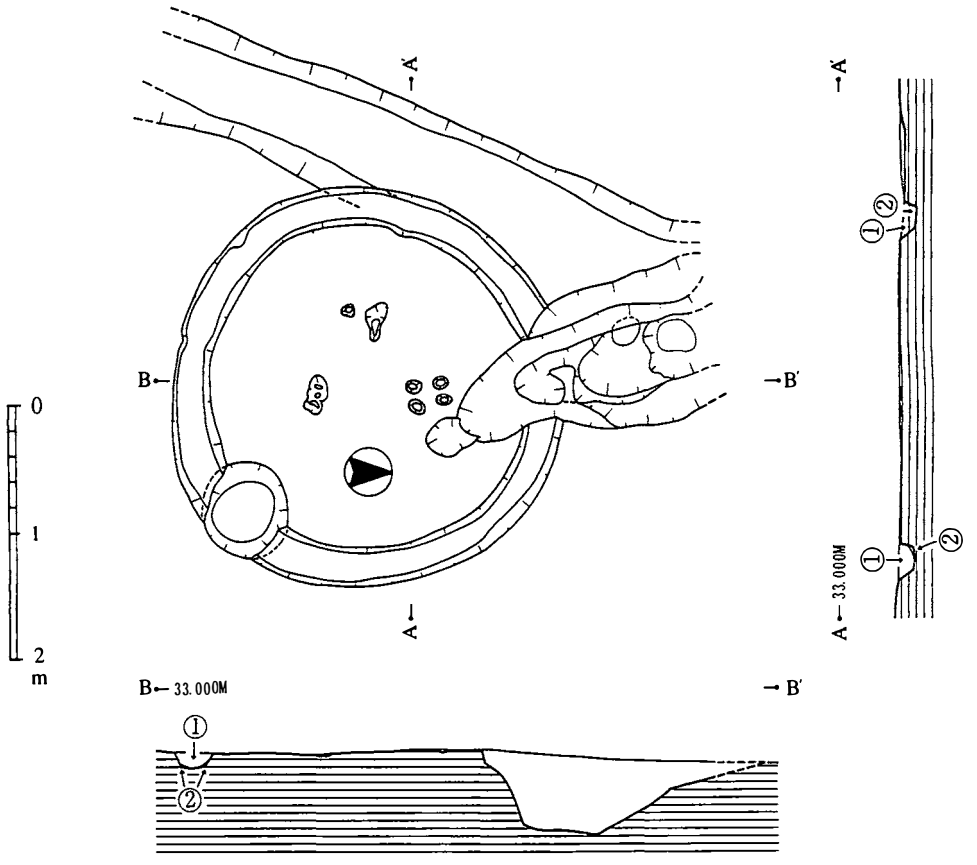
第26図　2・3号円形周溝遺構



第27図　４・５号円形周溝遺構



第28図　6・7・8号円形周溝遺構



第29図　９号円形周溝遺構

第３表　１号円形周溝遺構出土土器観察表

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調（内面）	整（外面）	色（内面）	調（外面）	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	鉢口縁			7.2	ミガキ	凹線１条、押点、胴部凹線１条、ミガキ	黒褐(10YR3/2)	灰黄褐(10YR4/2)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形71	内・外面スス付着
2	鉢口縁			6.0	ミガキ	ミガキ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形66他	内・外面スス付着
3	深鉢口縁	35.3		21.1	ミガキ、ナデ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形79他	内・外面スス付着
4	深鉢口縁	37.7		11.5	ナデ	ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ褐(7.5YR5/4)	粗砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形258	内・外面スス付着
5	深鉢口縁			7.2	ミガキ	ミガキ	にぶ褐(7.5YR6/3)	灰褐(7.5YR4/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形139	外面スス付着
6	浅鉢口縁			3.3	ミガキ	沈線１条、押点、胴部沈線１条、ミガキ	黒(2.5Y2/1)	黒(10YR1.7/1)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形190	
7	浅鉢口縁			3.2	ミガキ	沈線１条、ミガキ	浅黄(2.5Y7/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形231	外面スス付着
8	鉢底部		7.5	2.2	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	黄橙(10YR8/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形151	
9	鉢底部		8.1	2.8	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形48	外面スス付着
10	鉢底部		3.3	3.0	ナデ	ナデ	黒(7.5YR2/1)	浅黄橙(7.5YR8/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1	L, K-5	1円形170	

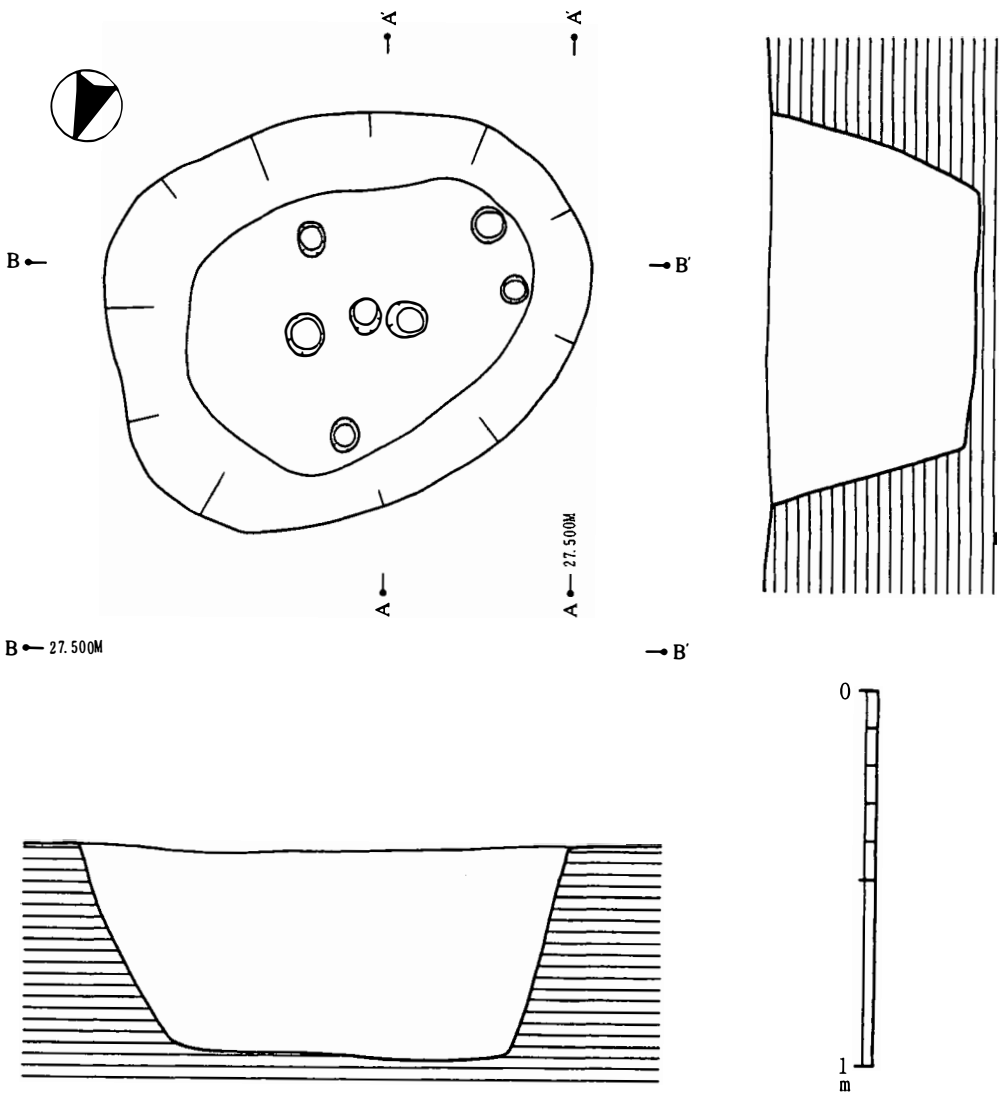
3　その他の遺構（第30～33図）

（1）土坑

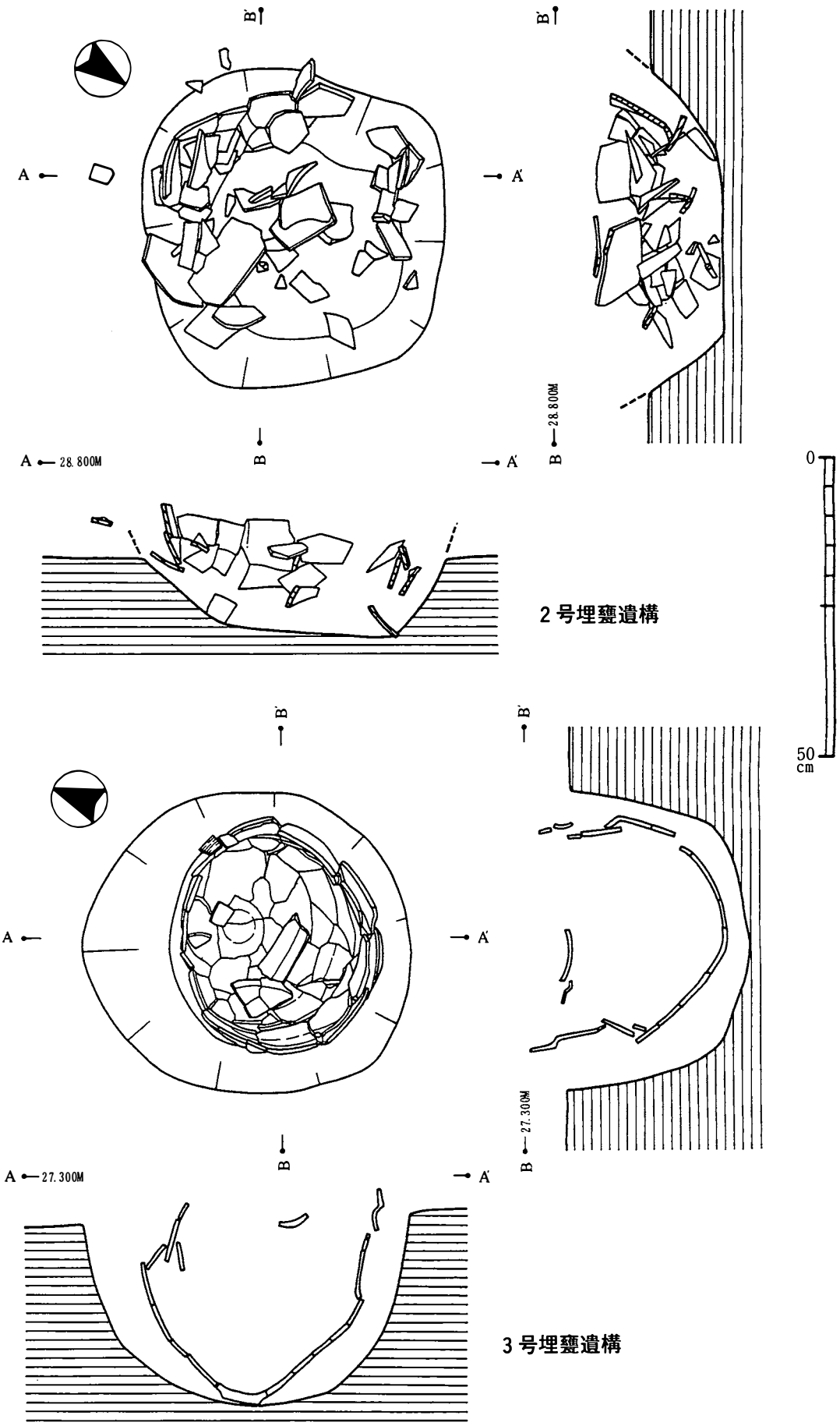
33号土坑（第30図）

数十基の土坑が検出されたが、ほとんどが不明遺構であったため、１区ｂのＮ－７グリッドから検出された土坑１基のみ記載した。

外径約1.0～1.3m、底径約0.7～1.0mで深さが約0.5mの楕円形の遺構で、床面に直径約10cmの小穴を７個検出した。このような土坑は九州では検出例が少ないが、近年では大丸・藤ノ迫遺跡、狸谷遺跡、白鳥平Ａ遺跡などで検出されている。埋土は黒褐色の単層で、堅くてきめ細かな土質であり、埋土中からは遺物等は検出されなかった。このような遺構のあり方は、東日本で検出されている「Ｔピット」と呼称されているものと同じと捕らえられ、陥し穴と考えられるものであろう。



第30図　33号土坑



第31図　２・３号埋甕遺構

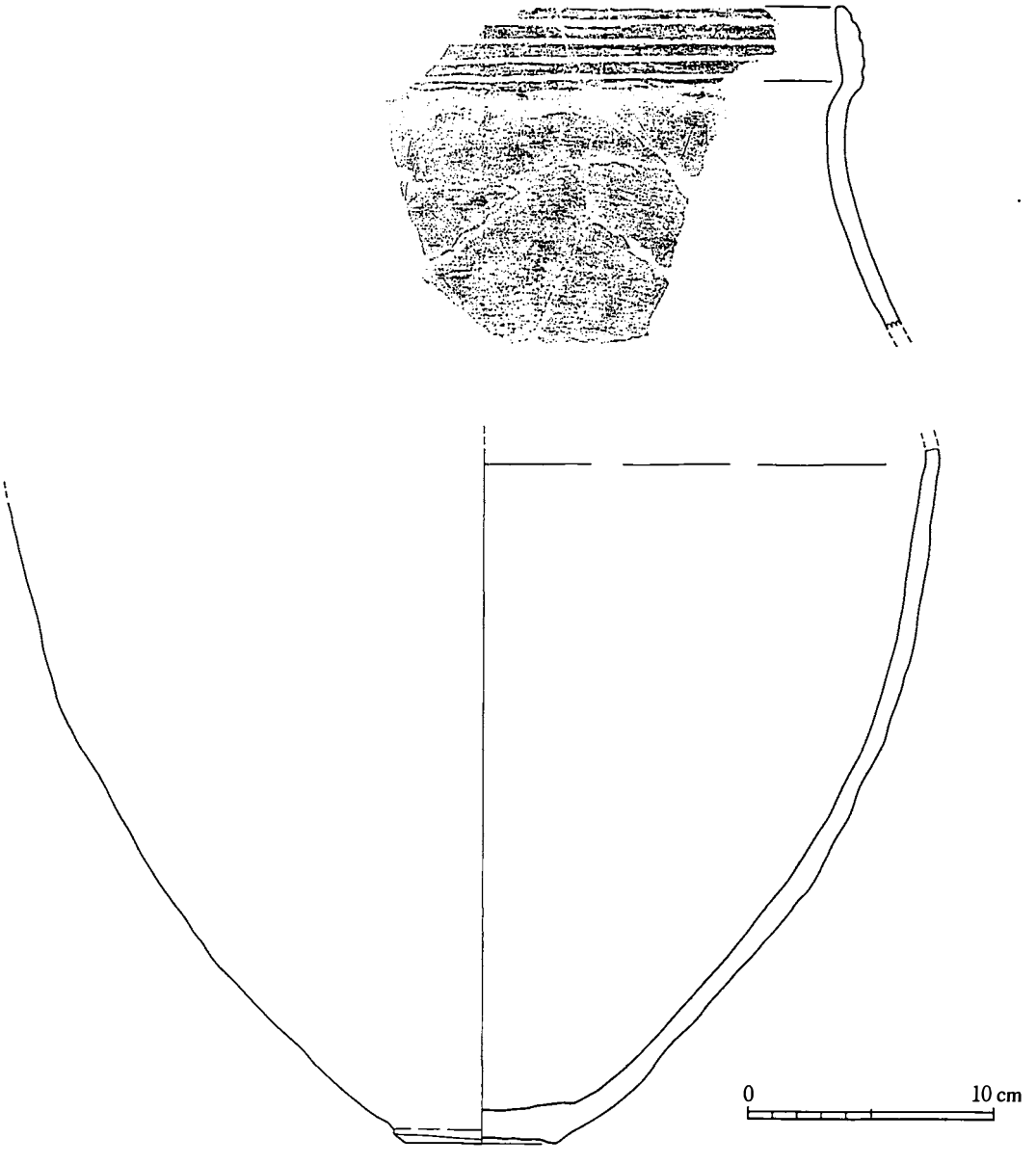
（2）埋甕

縄文時代の埋甕と思われる遺構が１区ｂから２基検出された。以下それぞれの特徴を見ていきたい。

２号埋甕（第31、32図）

Ｌ－１グリッドの２号住居跡のすぐ近くから検出された。土坑はあまりはっきりせず、覆土は黒色土であるが、大部分は堅くかなりしまっており、Ⅳ層（アカホヤ火山灰層）に切り込む形で検出された。

出土した土器は縄文後晩期の深鉢形土器で、口縁部は器内に落ち込み、底部も一部を除いては倒れており、かなり破損した状態で出土した。胴部で屈曲し、いったん内弯して外に開く頸部から立ち上がる口縁帯をもつ。口縁帯は内傾気味で、外面には平行沈線が４条施されている。底部は上げ底気味で、胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なる。また外面はほぼ全体が研磨されている。

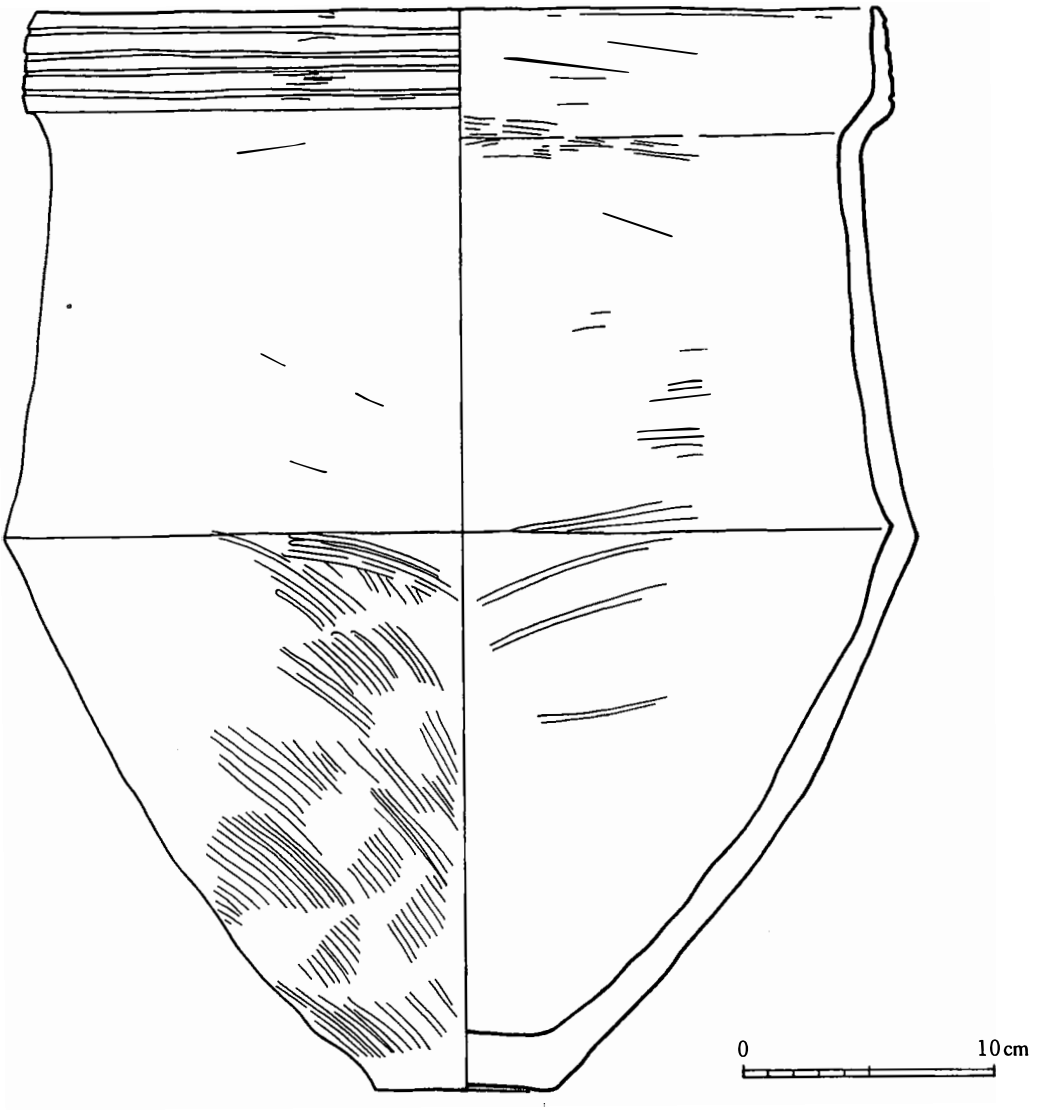


第32図　２号埋甕実測図

３号埋甕（第31、33図）

Ｌ－７グリッドで、14号住居跡の中から検出された。土坑は深くはっきりした掘り込みで、覆土は黒色で固くかなりしまつており、Ⅳ層（アカホヤ火山灰層）に切り込む形で検出された。

出土した土器は縄文後晩期の深鉢形土器で、口縁部が器内に一部落ち込んではいるが、ほぼ完全な形をした状態で出土した。口径33.2cm、底径7.4cm、器高42.4cmを測る。口縁部はやや内弯ぎみで、丁寧な器面調整の後、口縁帯外面に４本の平行沈線を施している。底部は上げ底気味で、胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なる。内面はナデ調整、外面は条痕調整の後に研磨、ナデを施してあり、内外面ともススが付着している。



第33図　３号埋甕実測図

４　土器（第34～60図）

古閑北遺跡から出土した縄文土器の時期は、早期前半と中期から晩期までのものであるが、特に後期後半から晩期にかけての黒色磨研土器がその多くを占めている。この中から、口縁部と底部を中心に器形の推定が可能なものを168点掲載した。以下、これらの土器について時期別に見ていきたい。

なお、個別の土器の計測値および観察結果については「出土縄文土器観察表」（第４、５表）にまとめている。

（１）縄文早期土器

早期前半の押型文土器は、８区から出土した１点（１）を除いて、すべて１区から出土した。

押型文土器（１～６）

口縁部１点、胴部５点を掲載した。１は外反する波状口縁で、外面は横位の楕円文で、内面には口縁部に縦位の撚糸圧痕文を施し、その下に横位の楕円文が施文されている。２～６は胴部で、２～４は外面に横位楕円文、５、６は外面に横位の山形文が施文されている。

（２）縄文中期、後期前半土器

並木式土器、阿高式土器、出水式土器などが出土した。良好な資料が少なく、中期土器と後期土器を明確に区分する事はできなかったが、口縁部・胴部と底部の特徴をもとに分類を行った。

並木式土器（７、８）

７は口縁に近い胴部の破片である。外面に凹線文を施し、間の無文部に１列の爪状押引文を施す。８は凹線文の後に１列の竹管状施文具による押引文が施されている。

阿高式土器（９～12、21）

ほとんどが深鉢形であると思われるが、施文の位置と特徴をもとに、Ⅰ類～Ⅲ類に分類した。

Ⅰ類（９）

上半部に単一の施文が行われているものをⅠ類としたが、はっきりとしたものは出土しなかった。９は口縁部の破片であるが、器形は胴部から口縁にかけてほぼ直立するものと推定される。文様は凹線文と凹点文の組み合わせ文で、口縁部に突起をもつ。

Ⅱ類（10～12）

文様帯が複数あるものをⅡ類とした。器形は胴部から口縁にかけてほぼ直立するもの（12）と胴部上半がいったんくびれて口縁が直立あるいは外反気味になるもの（10）がある。10は上部に草茎状工具による２列単位の押引文、下部に同一の棒状工具によると思われる直線的な凹線文と凹点文の組み合わせ文が施され、口唇は棒状工具による連続押圧で刻目状になっている。11は胴部片であるが、文様の特徴からⅡ類とした。凹線文に加えて、刻目突帯や橋状把手をもつ。12は上部に長短２列の縦直線の凹線文、下部に凹線文と凹点文の組み合わせ文を施文している。

Ⅲ類（21）

口縁部に連続凹点文をもつものをⅢ類とした。21は口縁が内弯気味の器形で、２列の連続凹点文とその下に１条の浅い凹線を施している。

南福寺式土器（14、16、20）

やや肥厚した口縁部をもち、胴部上半がいったんくびれて口縁が直立あるいは外反気味になる。14は口唇

に波状の突起をもち、口縁部に浅い平行凹線文が施文されている。16も口唇に波状突起をもつが、無文である。20は口唇に波状の突起、胴部上半に橋状把手をもち、口縁部に２列の連続凹点文、その下に直線状の凹線文を施文している。

出水式土器（13、15、17～19、22、23）

胴部上位がふくらみ、頸部がゆるく内弯して、直立あるいは外反気味で肥厚する口縁をもつ。13は沈線に近い凹線文と押点文の組み合わせ文が施され、口唇に波状の突起をもつ。15は口縁部に縦位の連続凹線文と連続凹点文が施文され、口唇は連続押圧で波状になっている。17は口唇に波状突起をもち、口縁部は斜位の連続凹線文が施文されている。18は無文であるが、口唇は連続押圧で波状になっている。19は口唇がへら状工具による連続刺突で浅い波状を呈し、肥厚した口縁帯には指頭痕が連続して押圧されている。22は深鉢形で胴部外面にはヘラケズリ調整が行われている。また、口唇が面をなして棒状工具による連続刺突文が施され、口縁帯には平行沈線文と連続刺突文が施文されている。23も深鉢形で、胴部外面にはヘラケズリ調整がされており、口唇は連続押圧で波状になっている。

御手洗Ａ式土器（29）

29は直口の波状口縁で、口縁の内外面および波頂部に連続刺突文をもつ土器で、御手洗Ａ式土器に近似した特徴を持っている。

北久根山式土器（24～28、30、31、33）

肥厚した外反口縁をもち、胴部がふくらみ、頸部がしまる器形をもつ。24は肥厚した口縁帯に多数の刺突文が施文されている。25は肥厚した口縁に綾杉状の短沈線文を施している。26はやや肥厚した口縁部に斜位の短沈線文が２列施文されている。27は無文で、外反する波状口縁をもつ。28は口縁帯に横位の短沈線文が施文され、口唇に蛇状の突起をもつ。30は幅狭の口縁肥厚部に斜位の短沈線文が施文されている。31も同様の器形であるが、頸部に貼付文をもつ。33は胴部の破片で、上半に直線的な沈線文と磨消疑似縄文が施文されている。

福田Ｋ２式土器（32）

外反する胴部から屈曲して内傾する口縁部をもつ。口縁に把手状突起をもち、外面には帯状の磨消縄文が施文されている。

底部（34～40）

７点を掲載した。いずれも平底で、底部端が外に張り出すもの（34、35）と胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なるもの（36～40）がある。また、35、38の底面には鯨の脊椎骨と思われる圧痕を残す。

（３）縄文後期後半、晩期土器

器形から深鉢形土器と浅鉢形土器に分け、さらに残存部、形態の特徴をもとに細分を行った。

深鉢形土器（41～89）

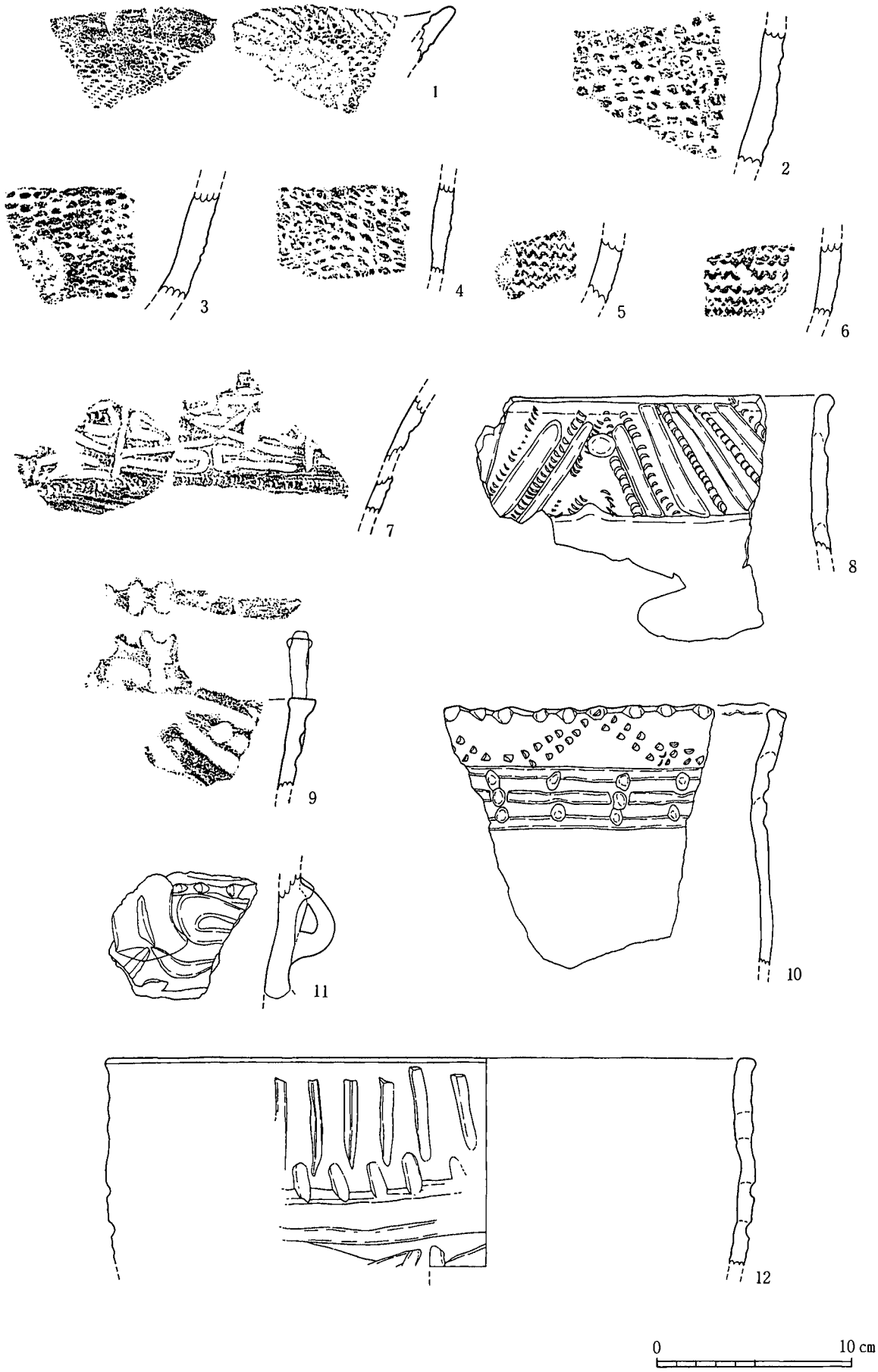
形態によってＡ～Ｄ類に分類した。

Ａ類（41～76）

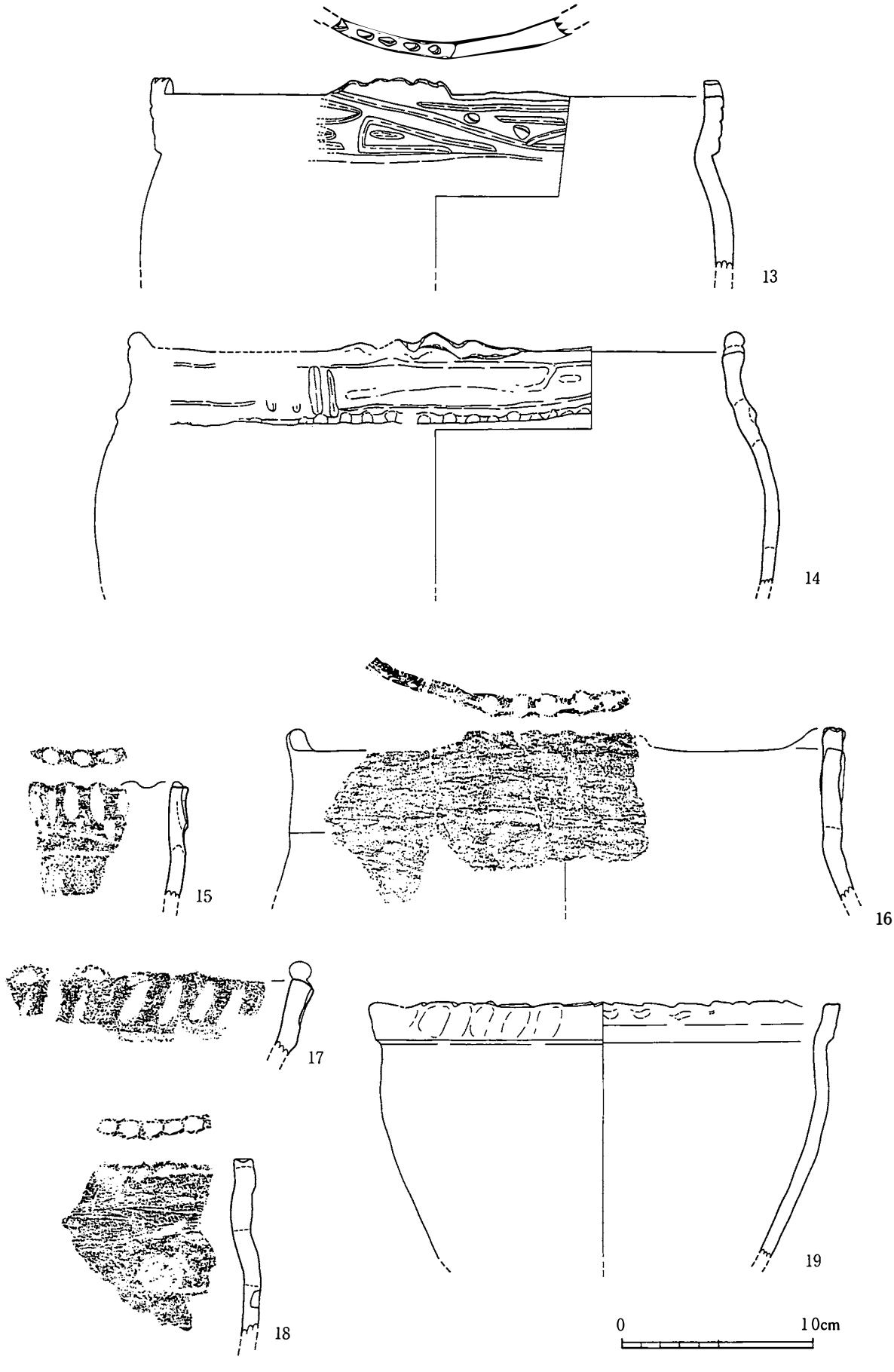
胴部で屈曲し、いったん内弯して外に開く頸部から立ち上がる口縁帯をもつもの。３類に細分した。

Ａ１類（41、44～46）

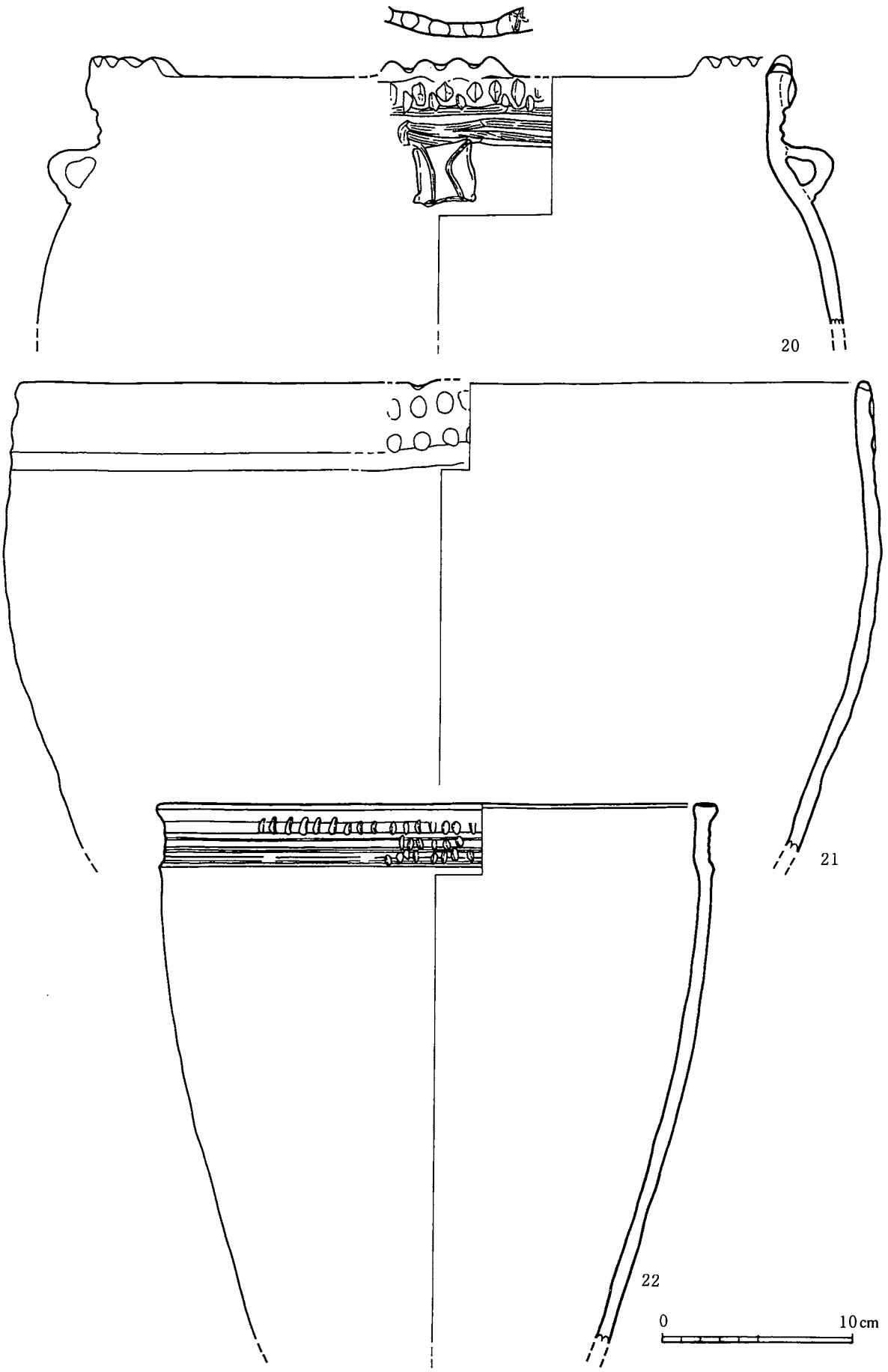
口縁帯が狭く、２～３条の平行凹線をもつもの。口縁帯はくの字型に屈曲して内傾するものが多い。41は胴部の屈曲部の上に凹線をもつ。



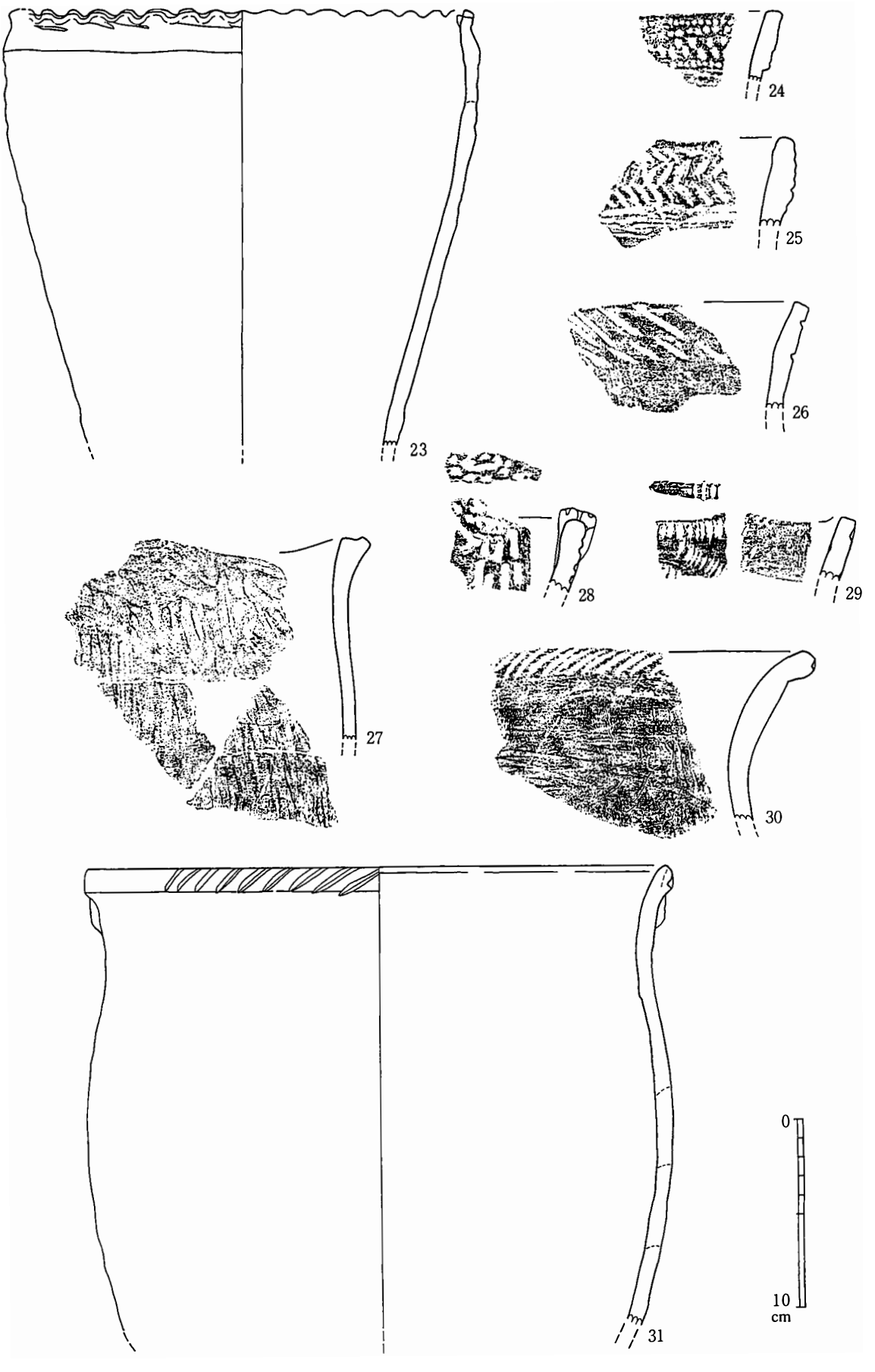
第34図　出土縄文土器(1)



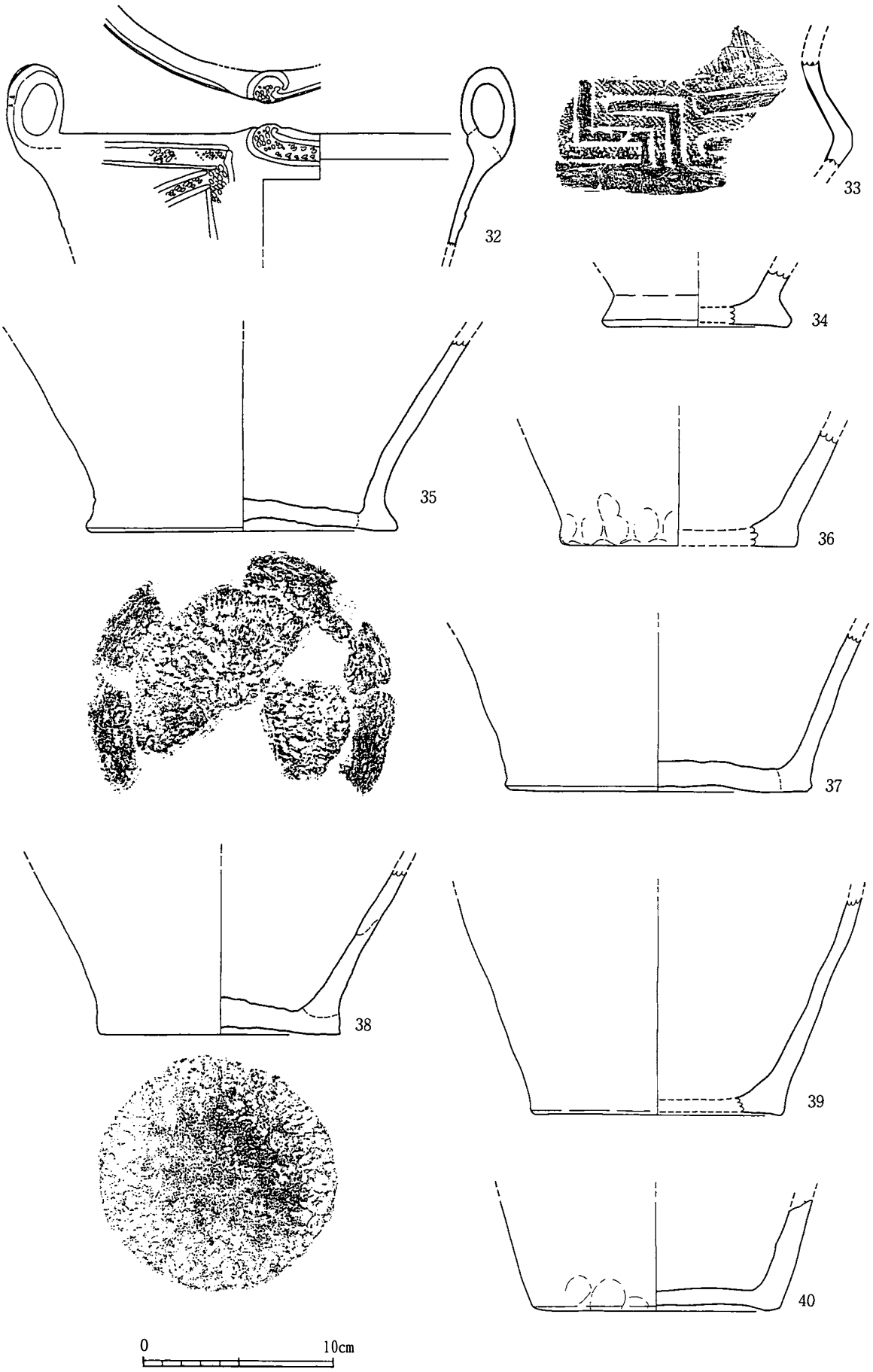
第35図　出土縄文土器(2)



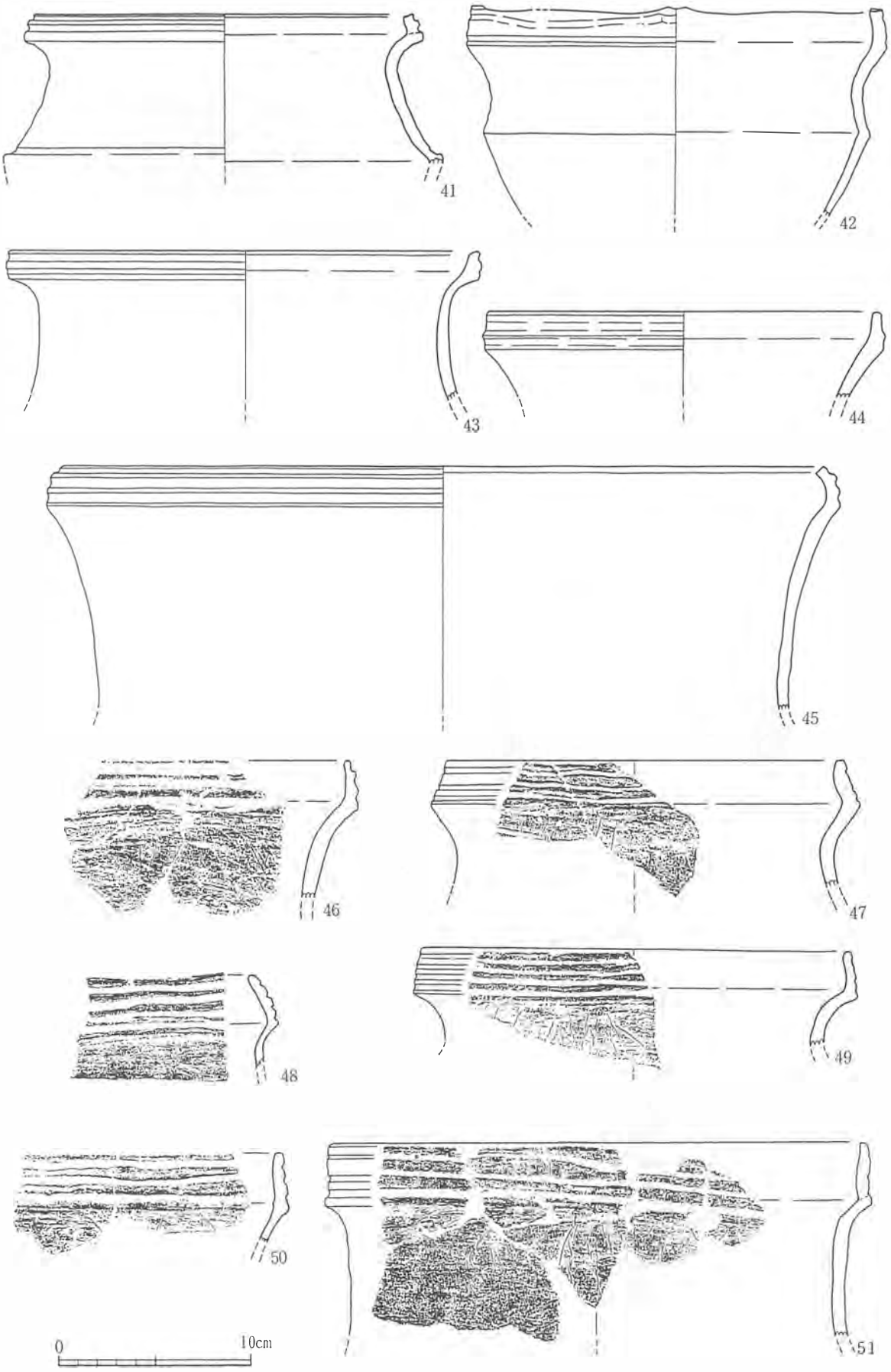
第36図　出土縄文土器(3)



第37図　出土縄文土器(4)



第38図　出土縄文土器(5)



第39図　出土縄文土器(6)

Ａ２類（42、43、47～73）

口縁帯はやや幅広で屈曲は緩くなり、直立ないし外傾するものが多くなる。２～４条の平行沈線をもつもの（42、43、47～61）、山形の沈線文を施すもの（62）、無文のもの（63～71）、貝殻条痕を施したもの（72、73）がある。42は波状口縁で、波頂部下の屈曲部に押点文を持つ。また、60も波状口縁である。

Ａ３類（74～76）

薄手で長めの口縁帯をもつもの。74は外反する口縁帯に条痕を施している。75、76は内弯する口縁帯をもち、75は無文、76は外面に６～７条の平行沈線が施されている。

Ｂ類（77）

頸部でくの字形に屈曲し、外傾する口縁をもつもの。77は外面に貝殻条痕を施したあと、ナデ調整を行っている。

Ｃ類（78～87）

胴部で屈曲し、いったん内弯して外反する口縁で、口縁帯をもたないもの。79～82は胴屈曲部の上に凹線をもつ。また、87は口縁部外面に小突帯を２条もつ。

Ｄ類（88、89）

口唇部に刻目突帯をもつもの。いわゆる「突帯文土器」である。

浅鉢形土器（90～125）

形態によってＥ～Ｊ類に分類した。

Ｅ類（90～114）

胴部から頸部にかけて内側に屈曲し、頸部から立ち上がる口縁帯をもつもの。いずれも内外面は研磨されている。２類に細分した。

Ｅ１類（90、91、95、102、112～114）

やや幅広の口縁帯がほぼ直立するもの。外面に１～２条の凹線または沈線文をもつもの（90、91、95、102）と、山形の沈線文を施すもの（112～114）がある。91は波状口縁で波頂部下の屈曲部に押点文をもち、屈曲部の内面に沈線を１条もつ。102も波状口縁で頸部屈曲部の内面に沈線をもつ。

Ｅ２類（92～94、96～101、103～111）

口縁帯の幅が狭く、外面に凹線または沈線文を１～２条もつもの。92は波状口縁で波頂部とその下の屈曲部に押点文をもち、屈曲部の内面に沈線を１条もつ。93は胴屈曲部の上に凹線をもつ。96は頸部の屈曲部の内面に沈線をもち、胴屈曲部の上には凹線をもつ。97は波状口縁で波頂部に押点文をもつ。101は低い波状口縁で波頂部とその下の屈曲部に押点文をもつ。103、110、111は頸部屈曲部の内面に沈線をもつ。

Ｆ類（115、116）

大きく外に開く体部から立ち上がる口縁帯をもつもの。いずれも内外面は研磨されている。口縁帯は内傾し、外面に２条の凹線文をもつ。

Ｇ類（122）

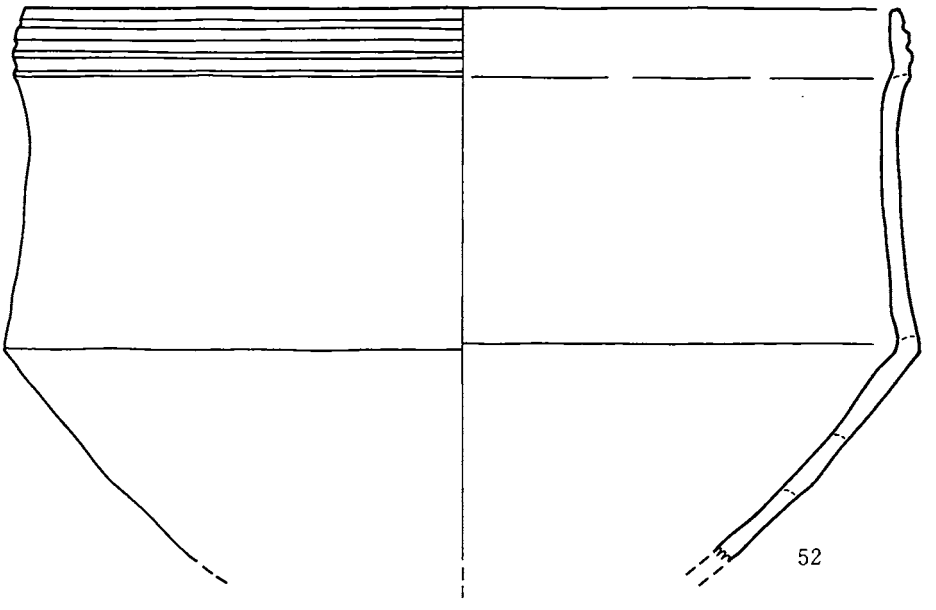
大きく外に開く体部をもち、頸部は小さくくの字型に屈曲して外反する口縁をもつ。内面は研磨され、外面は条痕の後ナデ調整が行われている。

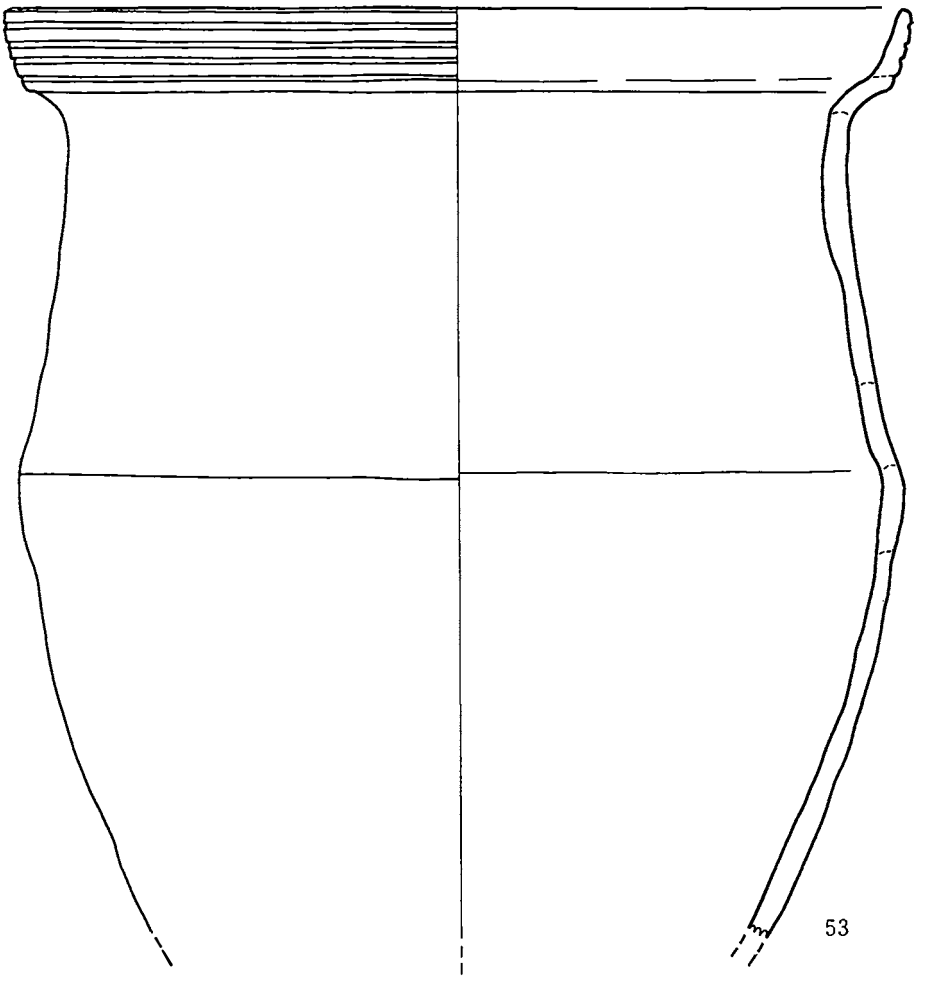
Ｈ類（117～121）

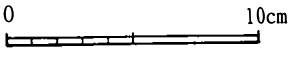
椀状の器形で、頸部はくの字形に小さく屈曲するもの。いずれも内外面は研磨されている。２類に細分した。

Ｈ１類（117、118、121）

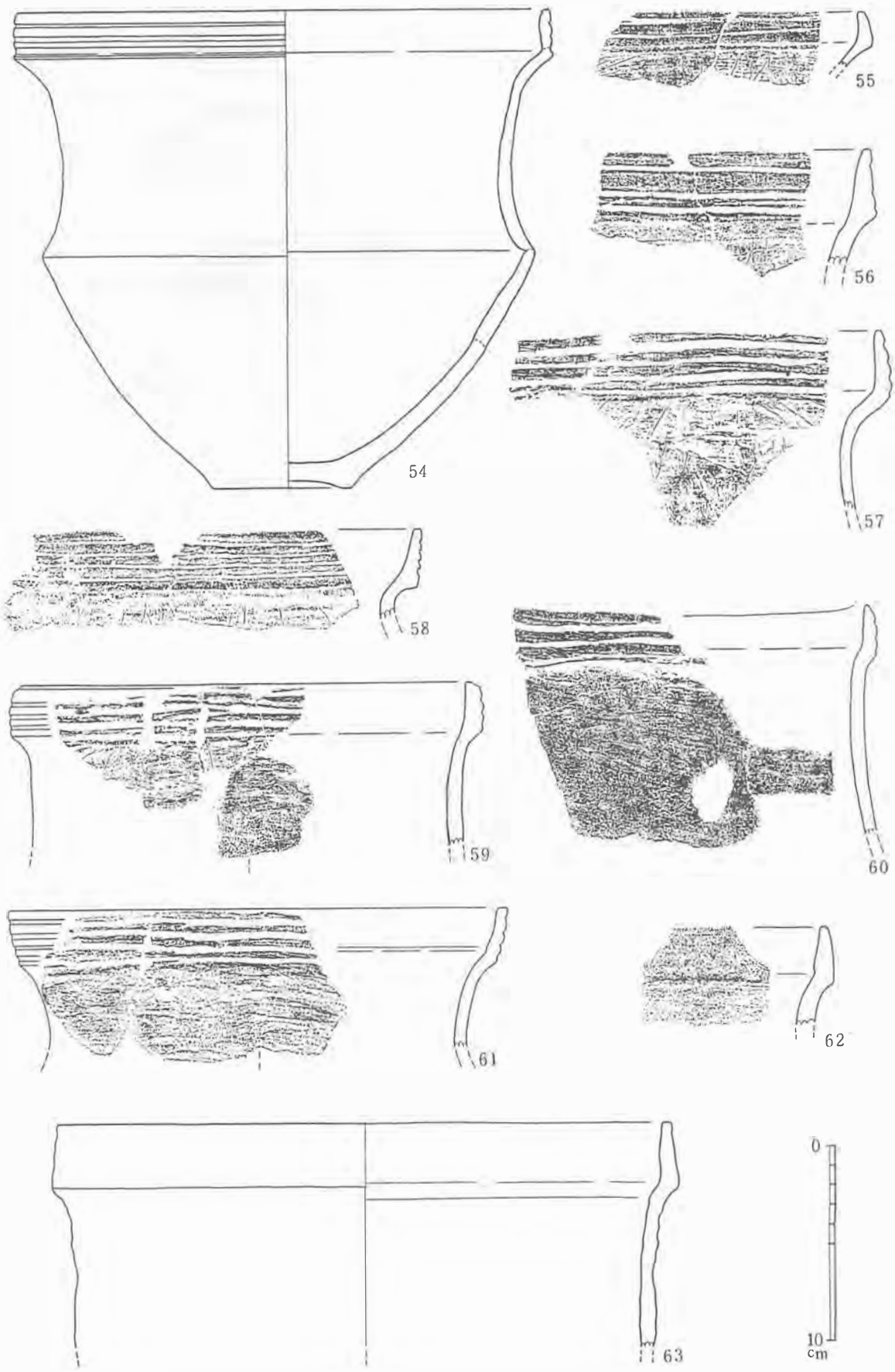
口縁が低く立ち上がるもの。



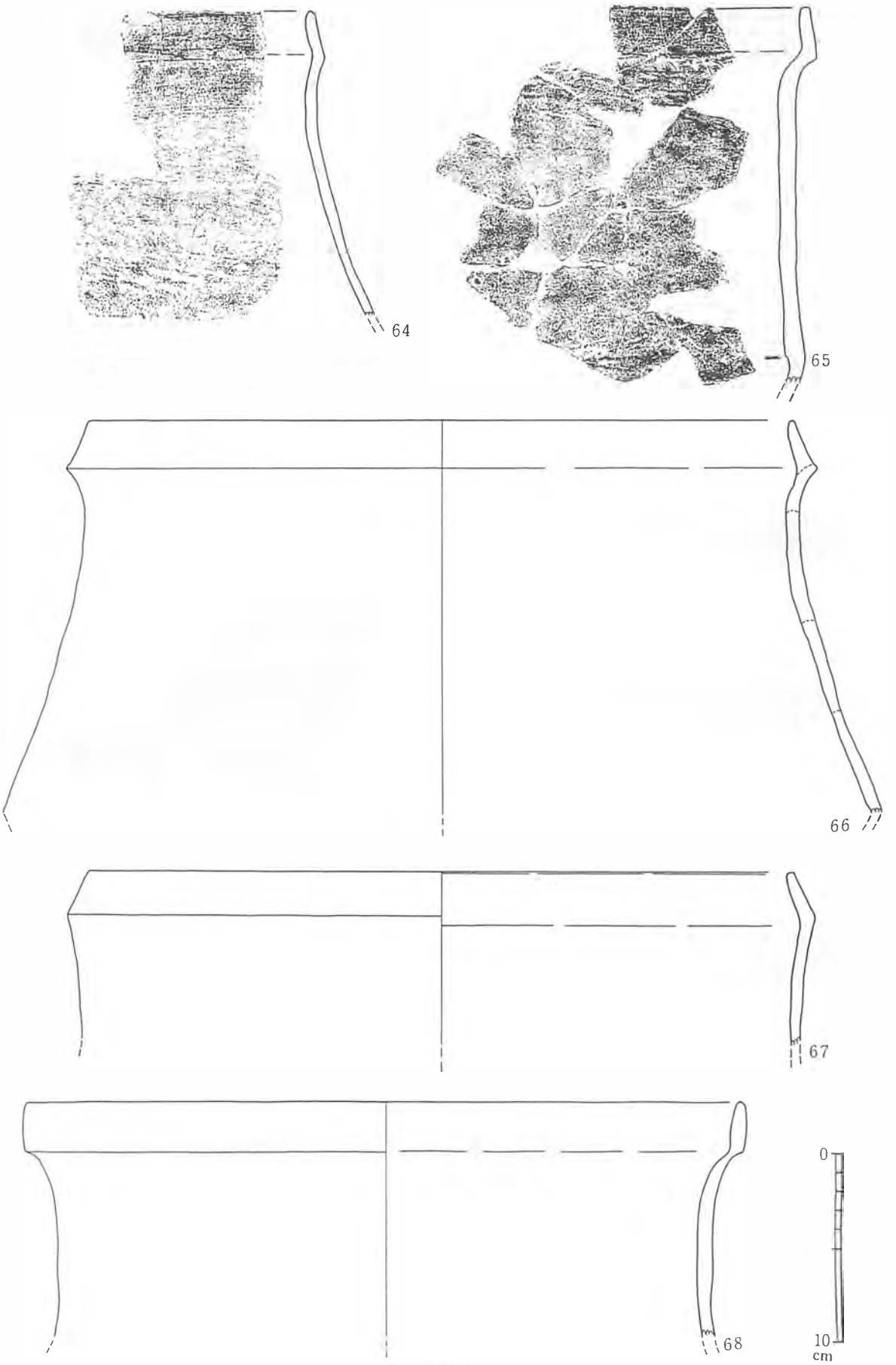




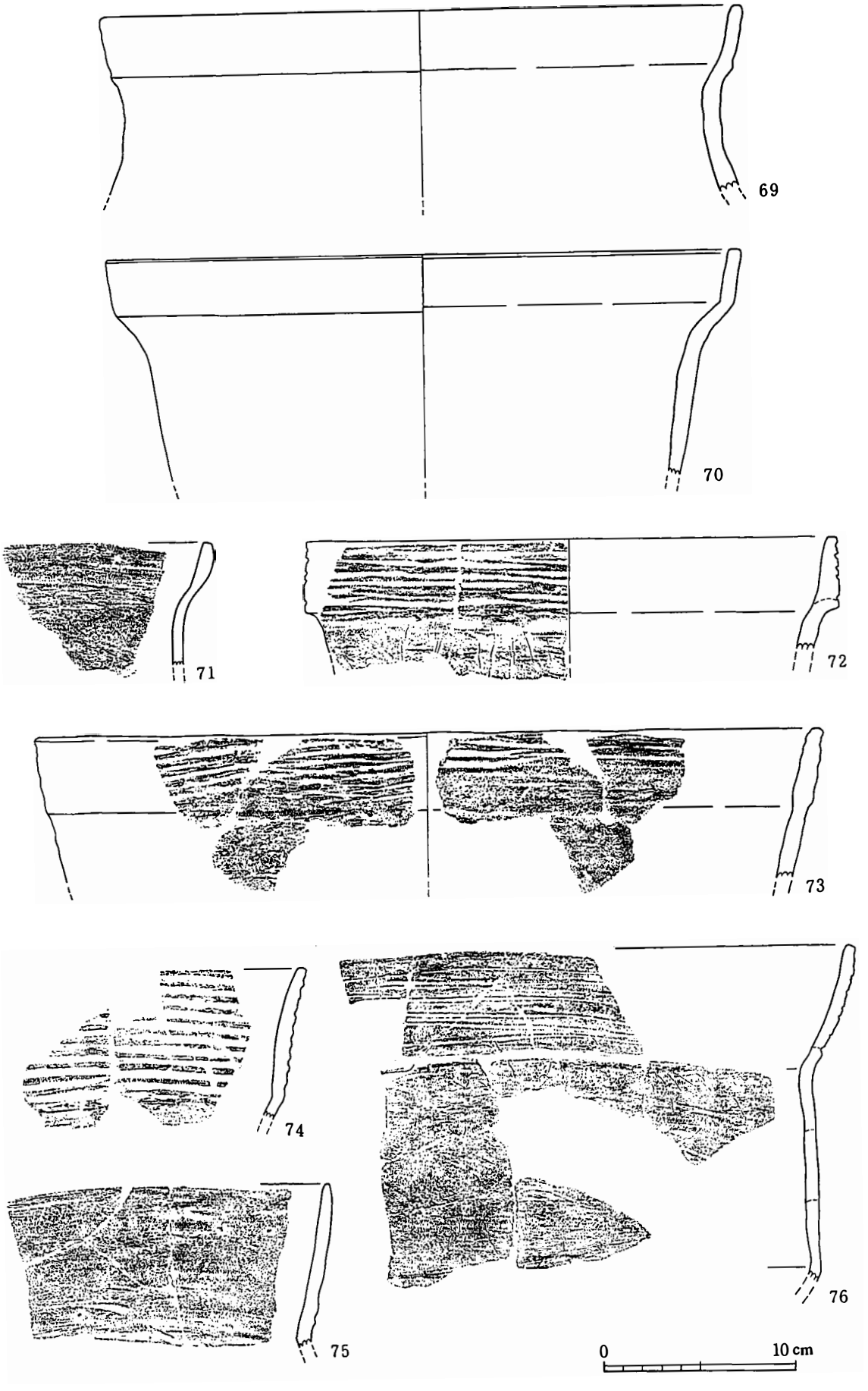
第40図　出土縄文土器(7)



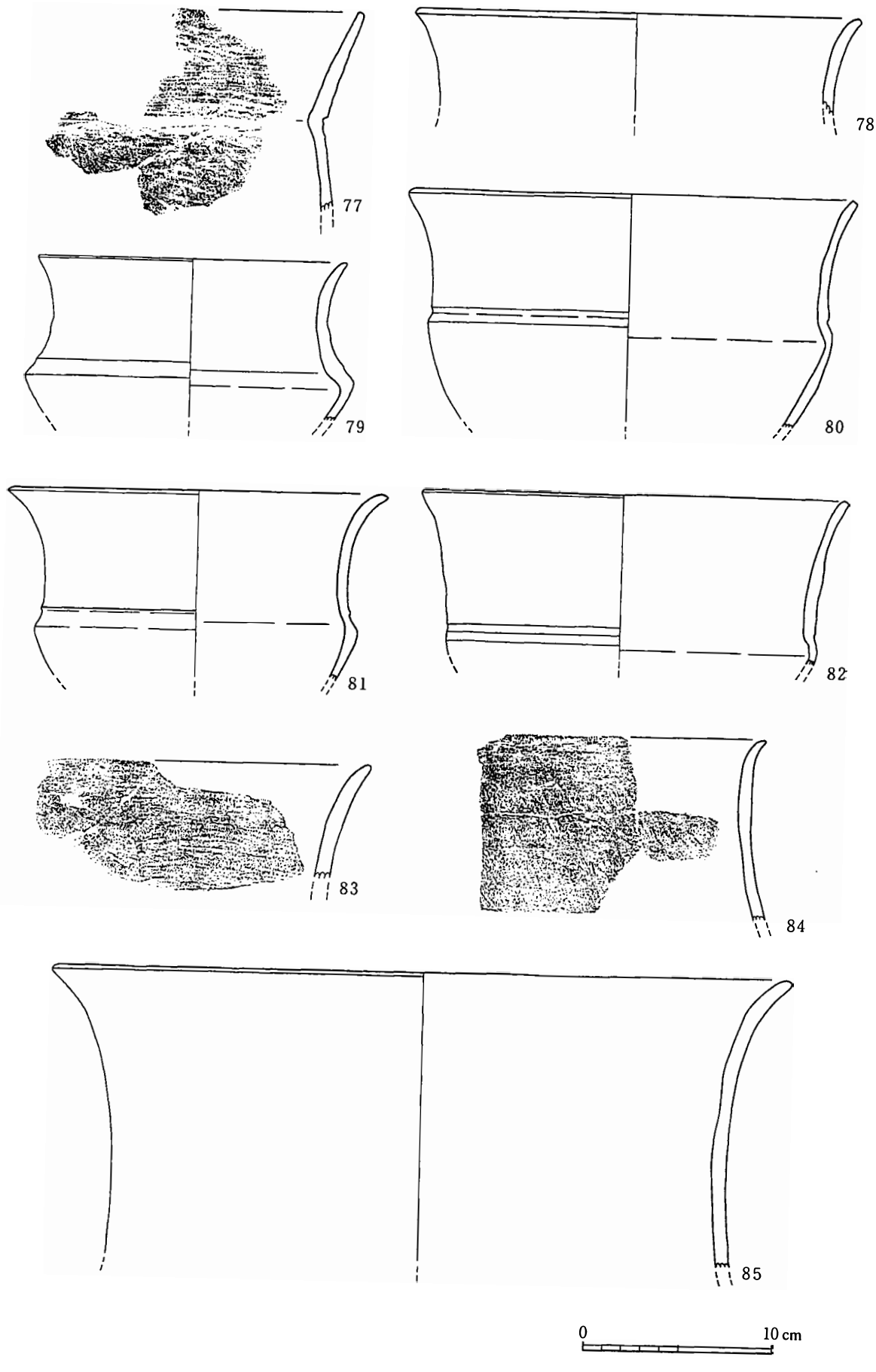
第41図　出土縄文土器(8)



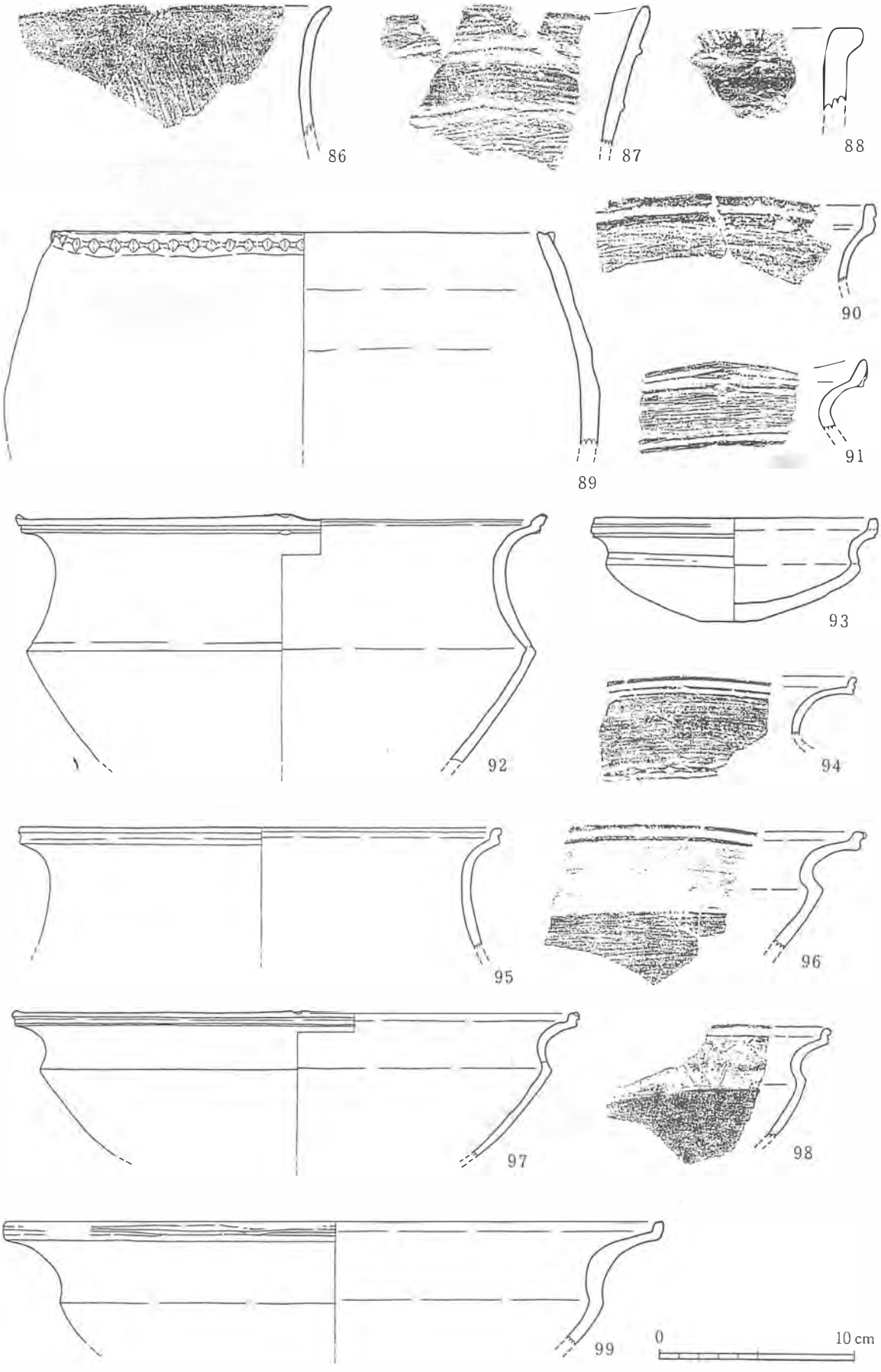
第42図　出土縄文土器(９)



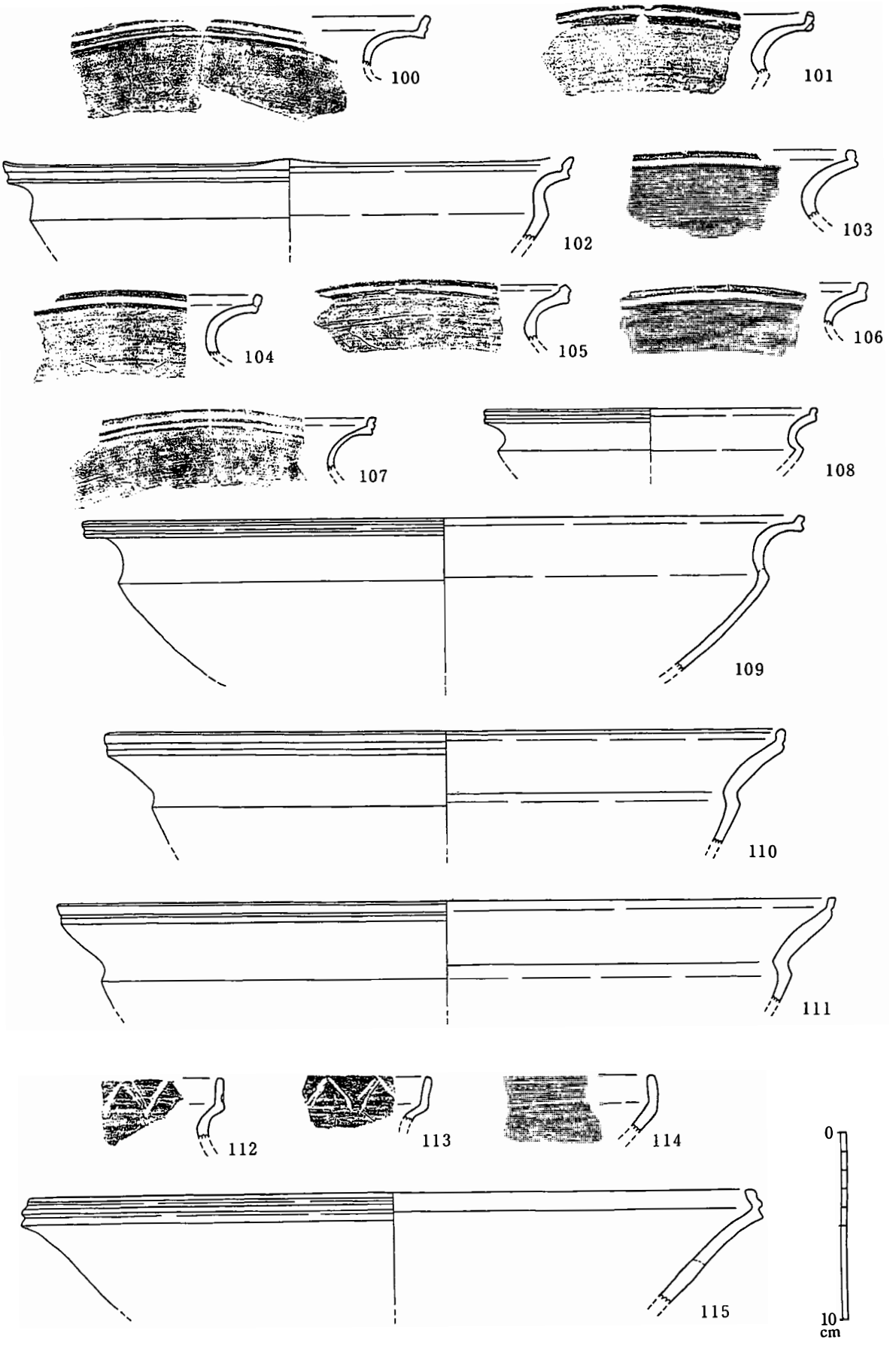
第43図　出土縄文土器（10）



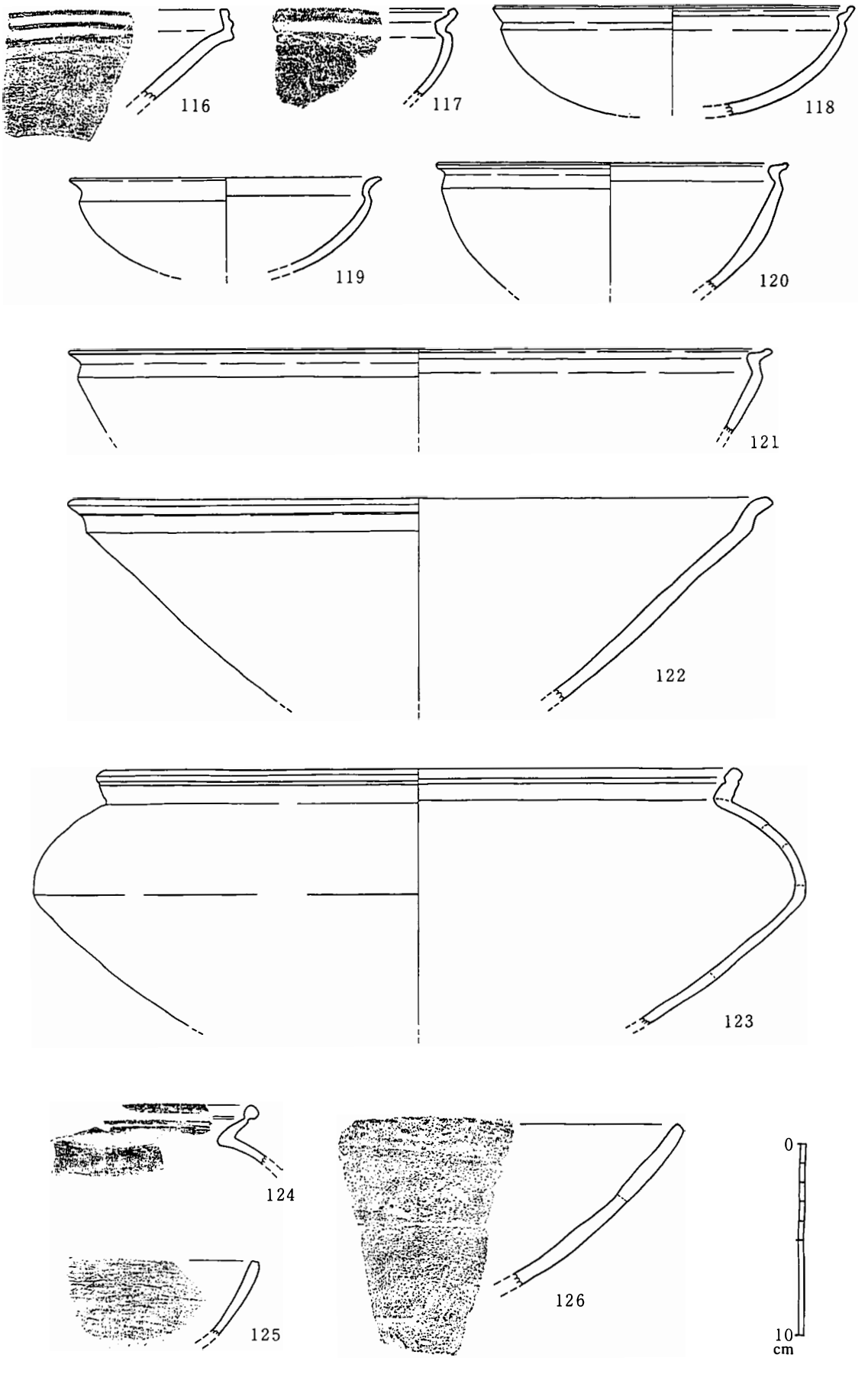
第44図　出土縄文土器（11）



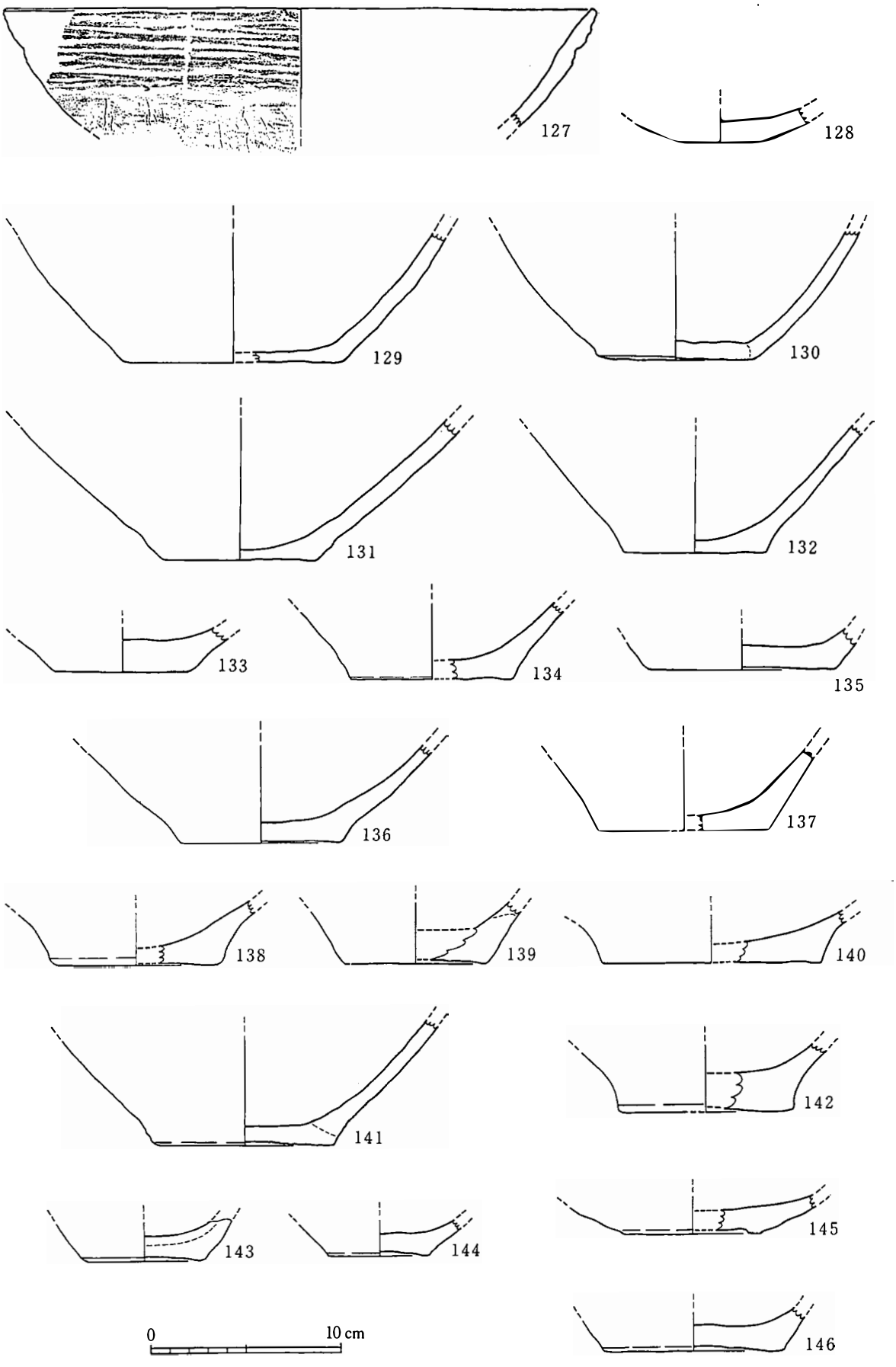
第45図　出土縄文土器（12）



第46図　出土縄文土器（13）



第47図　出土縄文土器(14)



第48図　出土縄文土器（15）

Ｈ２類（119、120）

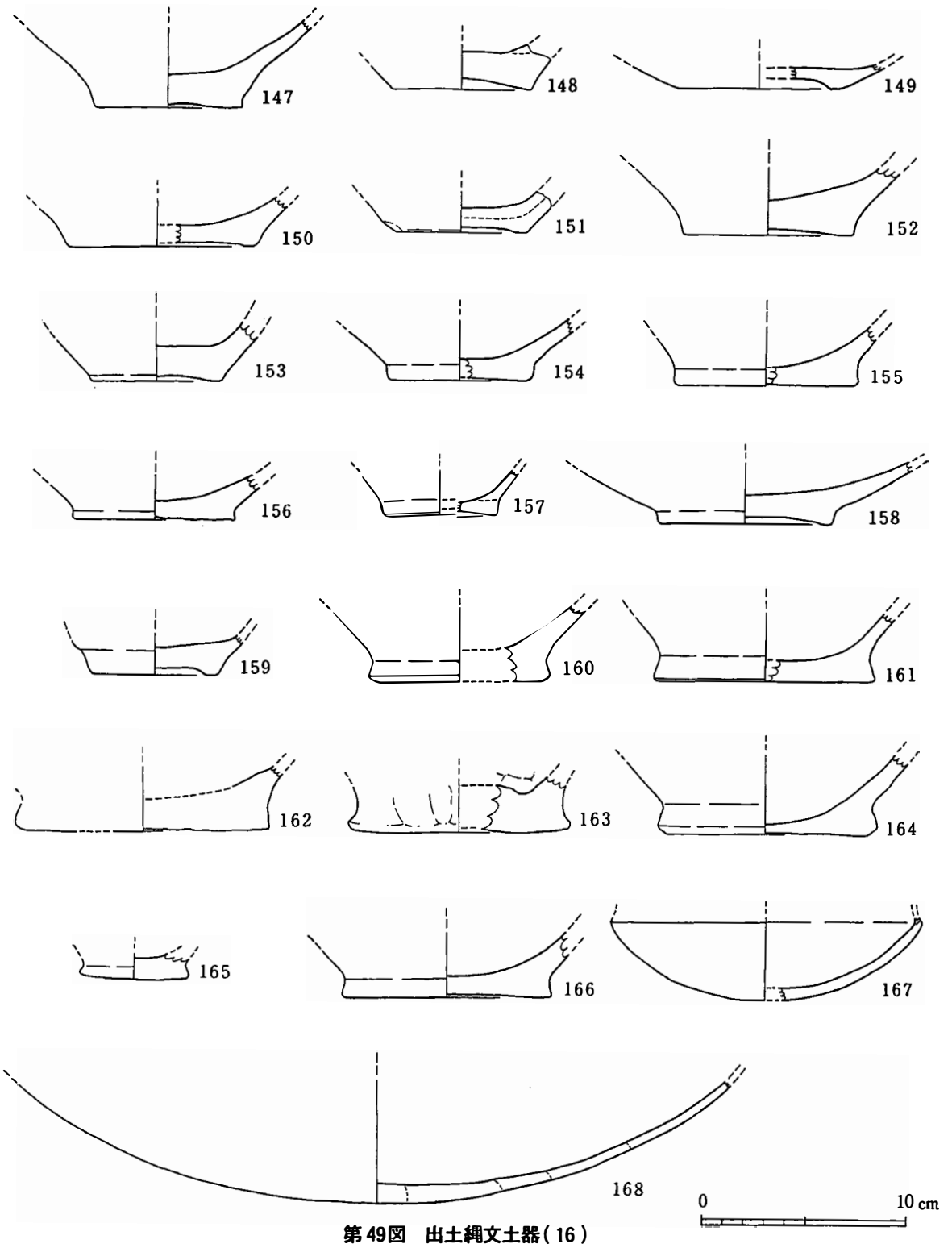
口縁内面に沈線を１条もち、口唇がわずかに起きるもの。

Ｉ類（123、124）

胴部のふくらむ器形で、頸部で屈曲し、外傾して立ち上がる。口縁内外面に沈線を１条ずつもつ。内外面とも丁寧に研磨されている。

Ｊ類（125～127）

直口口縁で丸底の土器である。125は内外面とも丁寧に研磨されている。126、127は条痕の後ナデ調整が行われており、127は口縁部外面に条痕を残している。



第49図　出土縄文土器（16）

底部（128～168）

形態によりＫ～Ｏ類に分類した。

Ｋ類（128）

丸底に近い平底のもの。

Ｌ類（129～153）

胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なるもの。底面の形状により、上げ底のＬ１類（141～153）と、平底のＬ２類（129～140）の２つに細分できる。

Ｍ類（154～159）

胴部が外反し、ほぼ垂直に底部端に連なるもの。底面の形状により、上げ底のＭ１類（156～159）と、平底のＭ２類（154～156）の２つに細分できる。

Ｎ類（160～166）

底部端が張り出すもの。

Ｏ類（167、168）

丸底のもの。

第４表　出土縄文土器観察表（1）

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	鉢口縁			4.5	撚糸圧痕文、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、波状口縁	にぶ橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	8d	南-10	10022他	
2	鉢胴部				ナデ	楕円押型文、ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ橙(7.5YR6/4)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-5	2321	
3	鉢胴部				ナデ	楕円押型文、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-7	8629	
4	鉢胴部				ナデ	楕円押型文	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-6	80	
5	鉢胴部				ナデ	山形押型文	にぶ黄褐(10YR5/4)	明赤褐(2.5YR5/8)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	I-3	一括	
6	鉢胴部				ナデ	山形押型文	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	I-3	一括	
7	鉢胴部				ナデ	爪形押引文、沈線文	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒多量、滑石、石英、長石を含む	良好	7	d-73	10450	
8	深鉢口縁	32.6		12.6	条痕	竹管状押引文、凹線文	黄灰(2.5YR4/1)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、滑石、石英、長石を含む	良好	1a	D-6	327	
9	深鉢口縁			8.2	ナデ	凹線文、波状口縁	にぶ赤褐(5YR4/4)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒多量、石英、長石、角閃石、雲母を含む	良好	5	f-69	一括	
10	深鉢口縁	31.2		14.7	ナデ	凹線文の上凹点文、押引文、連続押圧文	橙(5YR7/6)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、滑石、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	k-9	8911	外面スス付着
11	深鉢口縁			6.5	ナデ	刻目突帯、橋状把手、凹線文	にぶ褐(7.5YR5/4)	赤褐(5YR4/6)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	5	f-69	一括	
12	深鉢口縁	33.8		10.6	ナデ	凹線文の上凹点文、凹線文	にぶ褐(7.5YR5/3)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	c-74	10360他	外面スス付着
13	深鉢口縁			9.6	ナデ	波状口縁、凹線文と押点文、ナデ	橙(7.5YR6/6)	黒褐(2.5Y3/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	1b	k-7	7188他	内面スス付着
14	深鉢口縁	32.0		13.1	ナデ	波状突起、凹線文、押圧文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	c-73	10372他	
15	深鉢口縁			5.9	ナデ	波状口縁、凹線文、凹点文、ナデ	にぶ褐(7.5YR5/3)	にぶ褐(7.5YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	やや良	1a	F-5	165	内面スス付着
16	深鉢口縁	28.8		8.8	ミガキ	波状口縁、ミガキ	にぶ褐(7.5YR5/4)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-7	8661他	
17	深鉢口縁			4.9	ナデ	波状突起、凹線文	明赤褐(2.5YR5/6)	にぶ赤褐(5YR4/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-5	一括	
18	深鉢口縁			9.2	ナデ	波状口縁、ナデ	褐灰(10YR4/1)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	5	h-69	一括	
19	深鉢口縁	14.5		13.2	ナデ	波状口縁、指頭圧痕、ナデ	黒褐(10YR3/1)	灰褐(7.5YR4/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	B	ハ-16	1066他	外面スス付着
20	深鉢口縁	37.2		14.2	ナデ	波状突起、橋状把手、凹線文、ナデ	褐(7.5YR4/3)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	B	ヲ-14	11019他	内面スス付着
21	深鉢口縁	44.8		25.0	ナデ	波状口縁、凹線文、凹点文、ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	8d	南-19	10305他	内面スス付着
22	深鉢口縁	29.8		28.3	ナデ	連続刺突文、平行沈線文、ヘラケズリ	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ橙(7.5YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	B	ハ-16	8他	内面スス付着
23	深鉢口縁	24.1		22.4	ナデ、指頭痕	波状口縁、ナデ、ヘラケズリ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	b-73	10572他	外面スス付着
24	鉢口縁			3.7	ナデ	列点文	黄褐(10YR5/8)	明赤褐(5YR5/8)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	8c	南-5	1054	
25	鉢口縁			4.5	ナデ	鋸歯状短沈線文、ナデ	にぶ褐(7.5YR6/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	5	i-67	9372他	
26	鉢口縁			5.5	ナデ	斜位短沈線文、ナデ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	b-73	溝一括	
27	鉢口縁			10.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	灰黄(2.5Y6/2)	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂粒多量、黒曜石、角閃石、長石を含む	良好	5	h-67	9476他	
28	鉢口縁			4.4	ナデ	蛇状突起刺突文、沈線文	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	8c	北-3	9827	
29	鉢口縁			3.3	ナデ、刺突文	波状口縁、連続刺突文、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	8c	北-5	10046	
30	鉢口縁			9.2	ナデ	斜沈線文、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、角閃石、長石、雲母を含む	良好	4a	J-10	一括	
31	深鉢口縁	30.2		23.7	ナデ	斜沈線文、貼付文、ミガキ、ナデ	浅黄(2.5Y7/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	8c	南-6	9980他	外面スス付着
32	深鉢口縁	25.0		9.6	ナデ、ミガキ	把手状突起、磨消縄文、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、角閃石、長石、雲母を含む	良好	1b	L-7	8190他	内面スス付着
33	鉢胴部				ミガキ	沈線文と磨消縄文、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR6/2)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	8d	北-15	10209他	
34	鉢底部		9.6	2.6	ナデ	ナデ	褐灰(7.5YR5/1)	灰褐(5YR5/2)	砂粒多量、滑石、石英、長石を含む	良好	4a	J-11	一括	
35	鉢底部		16.1	9.8	ナデ、指頭痕	ケズリ、ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ赤褐(2.5YR4/4)	砂粒少量、石英、角閃石を含む	良好	2b	U-11	5	底部に鯨骨圧痕
36	鉢底部		12.2	5.5	ナデ	ナデ、指頭痕	にぶ赤褐(5YR5/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	粗砂粒少量、長石、石英、角閃石を含む	やや良	1b	M-6	一括	
37	鉢底部		16.0	8.3	ナデ、指頭痕	ミガキ、ナデ、指頭痕	灰褐(7.5YR4/3)	にぶ赤褐(5YR4/4)	砂粒多量、長石、石英、雲母を含む	良好	2b	Q-12	2406他	内・外面スス付着
38	鉢底部		12.6	8.5	ナデ	ナデ	にぶ赤褐(5YR5/4)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	8c	北-3	996他	底部に鯨骨圧痕
39	鉢底部	13.0		11.2	ナデ	ナデ、指頭痕	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ褐(7.5YR5/3)	粗砂粒多量、石英、長石を含む	やや良	1b	k-8	754他	
40	鉢底部		13.0	5.8	ナデ	ケズリ、指頭痕	にぶ橙(5YR6/4)	明赤褐(5YR5/6)	粗砂粒多量、滑石、石英、角閃石、長石を含む	良好	5	f-68	一括	
41	深鉢口縁	19.4		7.5	ミガキ	凹線2条、胴部凹線1条、ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	F-5	2364他	
42	深鉢口縁	21.2		10.5	ナデ、ミガキ	波状口縁、押点文、沈線2条、ナデ、ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/4)	灰褐(10YR4/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	F-5	2061他	外面スス付着
43	深鉢口縁	24.5		7.6	ミガキ	沈線2条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	A	ア-4	10771他	
44	深鉢口縁	20.3		4.4	ナデ	凹線2条、ミガキ	にぶ褐(7.5YR7/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石を含む	良好	8b	西-ヘ	9634	内・外面赤色顔料
45	深鉢口縁	39.4		12.4	ナデ、ミガキ	凹線3条、ミガキ	橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR6/8)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-1	62他	
46	深鉢口縁			7.0	ミガキ	凹線3条、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	8c	南-4	9874他	
47	深鉢口縁	20.0		6.0	ナデ	沈線3条、ミガキ	明黄褐(10YR7/6)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-5	6408	
48	深鉢口縁			4.8	ミガキ	沈線4条、ミガキ	黄灰(2.5YR4/1)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	L-5	6497	内面スス付着
49	深鉢口縁	22.2		4.9	ミガキ	沈線4条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	F-5	溝一括	
50	深鉢口縁			4.5	ミガキ	沈線3条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	k-4	溝一括	
51	深鉢口縁	17.8		9.9	ナデ、ミガキの後ナデ	沈線3条、ミガキ	にぶ褐(7.5YR6/4)	褐(7.5YR4/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	D-5	土器集中	外面スス付着
52	深鉢口縁	36.0		21.5	ナデ、ミガキ	沈線3条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	D-5	土器集中	内・外面スス付着
53	深鉢口縁	36.0		36.4	ナデ、ミガキ	沈線4条、ミガキ、条痕	にぶ黄橙(10YR7/3)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-6	8162他	内・外面スス付着
54	深鉢	27.2	7.1	24.0	ナデ、ミガキ	沈線3条、ナデ、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	黒褐(7.5YR3/1)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	A	イ-4	10893他	内・外面スス付着
55	深鉢口縁			2.8	ミガキ	沈線3条、ミガキ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-4	一括	
56	深鉢口縁			5.6	ナデ	沈線3条、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	J-3	一括	
57	深鉢口縁			9.1	ナデ	沈線4条、ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-6	一括	内面スス付着
58	深鉢口縁			4.5	ナデ	沈線4条、ナデ	黄灰(2.5YR5/1)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	N-6	8312他	内・外面スス付着
59	深鉢口縁			8.2	ナデ	沈線3条、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	一括	外面スス付着
60	深鉢口縁			11.3	ミガキ	波状口縁、沈線3条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	D-5	1253他	
61	深鉢口縁	25.4		7.1	ミガキ	沈線4条、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR4/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	1b	L-1	3322他	内・外面スス付着
62	深鉢口縁			5.0	ナデ	沈線文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-1	3239	
63	深鉢口縁	31.2		11.3	ナデ、指頭痕	条痕の後ナデ、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	5883他	外面スス付着
64	深鉢口縁			15.7	ミガキ	ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-5	160他	内・外面スス付着
65	深鉢口縁			19.4	ナデ	ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	灰黄褐(10YR4/2)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	J-3	6965他	外面スス付着

第5表　出土縄文土器観察表(2)

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	色調(内面)	色調(外面)	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
66	深鉢口縁	37.0		20.2	ナデ	ナデの後ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-6	7920他	外面スス付着
67	深鉢口縁	37.0		9.0	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-5	169	内・外面スス付着
68	浅鉢口縁	37.8		12.2	ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	G-4	1210	外面スス付着
69	深鉢口縁	33.3		9.6	ミガキ	ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	5	h-69	9314他	
70	深鉢口縁	33.0		11.4	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	4792他	
71	深鉢口縁			6.3	ミガキ	ナデの後ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR4/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	4236他	
72	深鉢口縁	27.6		5.7	ナデ	条痕文、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	8d	南-4	10013他	
73	深鉢口縁	40.8		7.6	ナデ	条痕文、ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR6/2)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1a	D-5	1767他	
74	深鉢口縁			7.7	ナデ	条痕文、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-3	5022他	
75	深鉢口縁			8.6	ミガキ	ミガキ	にぶ黄(2.5Y6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	1b	L-8	8898他	
76	深鉢口縁			17.3	ミガキ	沈線文、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	8c	南-3	9797他	
77	深鉢口縁			10.4	条痕の後ナデ、ナデ	条痕の後ナデ、ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR4/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2b	Q-12	2402他	
78	深鉢口縁	23.2		5.1	ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	e-73	10501他	
79	深鉢口縁	16.0		8.1	ナデ	凹線、ミガキ	褐灰(7.5YR4/1)	黒褐(7.5YR3/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	Z-72	一括	
80	深鉢口縁	23.0		11.7	ミガキ	凹線、ミガキ	灰黄褐(10YR5/2)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-5	1511他	
81	深鉢口縁	20.0		9.7	ナデ	凹線、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	暗褐(10YR3/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	A	ア-4	10815	
82	深鉢口縁	23.4		8.5	ミガキ	凹線、ミガキ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-4	1160他	内・外面スス付着
83	深鉢口縁			5.8	ミガキ	ミガキ	橙(7.5YR7/6)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	5	i-68	一括	
84	深鉢口縁			9.3	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	D-5	701他	内・外面スス付着
85	深鉢口縁	43.8		15.0	ミガキ	ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	D-5	678他	
86	深鉢口縁			6.6	ミガキ	ミガキ	浅黄橙(2.5Y7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、長石を含む	やや良	1b	L-7	8742他	内・外面スス付着
87	深鉢口縁			6.9	ミガキ	波状口縁、小突帯2条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	暗灰黄(2.5Y4/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	8c	南-3	9809他	内・外面スス付着
88	深鉢口縁			4.3	ナデ	沈線による斜線文、ナデ	橙(7.5YR7/6)	黒(7.5YR2/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-4	一括	外面スス付着
89	深鉢口縁	26.0		10.8	ナデ	刻目突帯、ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	浅黄(2.5Y7/3)	粒多量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	1b	L-1	3298他	
90	浅鉢口縁			4.0	ミガキ	沈線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-4	一括	内・外面スス付着
91	浅鉢口縁			3.6	ミガキ	波状口縁、押点文、沈線1条、ミガキ	褐灰(10YR4/1)	黒(2.5Y2/1)	粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-5	一括	内・外面スス付着
92	浅鉢口縁	27.5		12.5	沈線1条、ミガキ	波状口縁、押点文、沈線1条、ミガキ、ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	にぶ黄(2.5Y6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-6	1917他	
93	浅鉢	14.2		5.3	ミガキ	沈線2条、胴部凹線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	F-5	2314	内・外面スス付着
94	浅鉢口縁			3.0	ミガキ	沈線2条、ミガキ	黒(10YR2/1)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	M-5	一括	
95	浅鉢口縁	25.0		6.2	沈線1条、ナデ	沈線1条、胴部凹線1条、ナデ	にぶ黄褐(10YR4/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	M-4	5346	外面スス付着
96	浅鉢口縁			6.0	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黒褐(5YR2/1)	黒褐(5YR3/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	4255他	
97	浅鉢口縁	19.4		7.3	ミガキ	波状口縁、押点文、沈線1条、ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR5/2)	粒少量、石英、長石を含む	良好	不明	不明	不明	内面スス付着
98	浅鉢口縁			5.6	ミガキ	沈線1条、ミガキ	褐灰(10YR5/1)	にぶ黄橙(10YR7/3)	粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	N-7	7235他	
99	浅鉢口縁	34.4		6.3	ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	L-2	3566	内・外面スス付着
100	浅鉢口縁			2.6	ミガキ	沈線2条、ミガキ	黒(2.5Y2/1)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	K-7	一括	
101	浅鉢口縁			3.1	ミガキ	波状口縁、沈線1条、押点文、ミガキ	黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-6	7680	
102	浅鉢口縁	30.0		4.3	ミガキ	波状口縁、沈線1条、ミガキ	黒(2.5Y2/1)	オリーブ黒(5Y3/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-2	5390他	
103	浅鉢口縁			3.5	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黄橙(10YR8/6)	明黄褐(2.5Y7/6)	砂粒少量、長石を含む	良好	1b	L-5	一括	
104	浅鉢口縁			3.1	ミガキ	沈線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	粒少量、石英、長石、雲母を含む	良好	D	シ-15	一括	
105	浅鉢口縁			2.8	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黒褐(2.5Y3/1)	黄灰(2.5Y4/1)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-5	一括	
106	浅鉢口縁			2.3	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黒褐(10YR3/2)	黒(10YR2/1)	微砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	L-4	4933	
107	浅鉢口縁			2.8	ミガキ	沈線2条、ミガキ	褐灰(10YR4/1)	灰黄褐(10YR5/2)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-7	7373他	内面スス付着
108	浅鉢口縁	17.4		2.8	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	褐灰(10YR4/1)	微砂粒多量、石英、長石を含む	良好	1b	L-2	3550	
109	浅鉢口縁	38.0		8.0	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	黒褐(10YR3/1)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-5	土器集中	外面スス付着
110	浅鉢口縁	35.8		5.9	ミガキ	沈線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	e-73	10499他	
111	浅鉢口縁	40.8		5.4	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黒(10YR1.7/1)	灰黄褐(10YR5/2)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	e-73	10505他	
112	浅鉢口縁			3.0	ミガキ	沈線による斜線文、ミガキ	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄橙(10YR7/3)	微砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	K-7	一括	
113	浅鉢口縁			2.3	ミガキ	沈線による斜線文、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	褐灰(10YR4/1)	微　粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	K-2	一括	
114	浅鉢口縁			3.0	ナデ	沈線による斜線文、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-1	一括	
115	浅鉢口縁	38.5		6.2	ミガキ	凹線2条、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	F-5	1796他	外面スス付着
116	浅鉢口縁			4.6	ミガキ	凹線2条、ミガキ	にぶ褐(7.5YR6/4)	橙(5YR6/6)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	Y-73	一括	
117	浅鉢口縁			4.5	ミガキ	ミガキ	黒褐(2.5Y3/1)	灰黄褐(10YR5/2)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	G-2	一括	
118	浅鉢口縁	18.4		5.6	ミガキ	ミガキ	黒(10YR2/1)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	5	i-68	9439他	
119	浅鉢口縁	16.2		4.8	沈線1条、ミガキ	ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	微砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-7	一括	内・外面スス付着
120	浅鉢口縁	18.0		6.4	沈線1条、ミガキ	ミガキ	オリーブ黒(7.5Y3/1)	黒褐(10YR3/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	F-5	200	
121	浅鉢口縁	36.2		4.3	ミガキ	ミガキ	黄灰(2.5YR4/1)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒少量、長石を含む	良好	1b	M-5	92	
122	浅鉢口縁	36.6		10.5	ミガキ、ナデ	ナデ	黄灰(2.5YR4/1)	灰褐(10YR4/1)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-1	126他	
123	浅鉢口縁	33.6		13.1	沈線1条、ミガキ	沈線1条、ミガキ	灰黄(2.5Y6/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	1b	K-6	7163他	
124	浅鉢口縁			4.1	沈線1条、ミガキ	沈線1条、ミガキ	褐灰(10YR4/1)	褐灰(10YR4/1)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-2	一括	
125	浅鉢口縁			3.9	ミガキ	ミガキ	褐灰(10YR4/1)	黒褐(10YR3/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-5	2154	
126	浅鉢口縁			8.3	ナデ	条痕の後ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-2	一括	外面スス付着
127	浅鉢口縁	30.8		5.9	ミガキ	条痕の後ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	粗　粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-5	142他	
128	鉢底部		3.9	1.8	ナデ	ナデ	にぶ黄(2.5Y6/4)	明黄褐(10YR7/6)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	5	h-69	一括	
129	鉢底部		11.1	6.7	ミガキ	ミガキ	黒褐(2.5Y3/2)	にぶ褐(7.5YR5/3)	粗　粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	D	ス-15	一括	内面スス付着
130	鉢底部		8.1	6.6	ナデ、指頭痕	条痕の後ナデ、ナデ	黄灰(2.5YR5/1)	橙(7.5YR7/6)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	F-5	2063他	
131	鉢底部		8.0	6.7	ナデ	ケズリ、ナデ	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-4	一括	
132	鉢底部		7.4	6.2	ナデ	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-4	5126他	
133	鉢底部		6.8	2.3	ナデ	ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	1b	J-2	一括	
134	鉢底部		8.7	3.9	ナデ	ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	にぶ黄橙(10YR7/4)	粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-4	一括	
135	鉢底部		9.6	2.1	ナデ	ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	にぶ黄橙(10YR7/4)	粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-2	一括	
136	鉢底部		8.4	4.6	ナデ	ナデ	灰白(10YR8/2)	浅黄橙(10YR8/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-7	8623他	
137	鉢底部		8.8	3.8	ナデ	ナデ	にぶ黄(2.5Y6/3)	明黄褐(10YR7/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	I-4	一括	
138	鉢底部		8.4	2.7	ナデ	ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ赤褐(5YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	1b	M-6	7533他	
139	鉢底部		7.4	3.2	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	4304	
140	鉢底部		11.4	2.7	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	不明	一括	
141	鉢底部		9.3	6.5	ナデ	ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	D-5	1290	
142	鉢底部		8.8	3.4	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	一括	
143	鉢底部		5.8	2.0	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	一括	
144	鉢底部		5.3	1.8	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	7	e-73	10482	
145	鉢底部		7.0	2.0	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-1	3664	
146	鉢底部		9.2	1.7	ナデ	ミガキ、ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	1b	L-3	一括	
147	鉢底部		7.2	4.0	ナデ	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	にぶ橙(7.5YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-6	7752	
148	鉢底部		6.8	2.2	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR6/4)	微　粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	5882	
149	鉢底部		8.0	1.1	ミガキ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	橙(7.5YR7/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-5	6676他	
150	鉢底部		8.6	1.9	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	D-4	一括	
151	鉢底部		6.5	2.0	ミガキ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	不明	不明	一括	内面スス付着
152	鉢底部		8.2	3.1	ナデ	ナデ	灰白(10YR7/1)	浅黄橙(7.5YR8/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-3	4981	外面スス付着
153	鉢底部		6.2	2.2	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	明黄褐(10YR7/6)	微砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-3	一括	
154	鉢底部		7.1	3.0	ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(5YR7/6)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-5	土器集中	内面スス付着
155	鉢底部		9.0	2.9	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-5	一括	
156	鉢底部		7.9	2.2	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	I-4	一括	
157	鉢底部		5.4	2.2	ナデ	ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	B	ア-14	11046	
158	鉢底部		8.4	3.0	ミガキ	ミガキ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	8d	南-18	10290	
159	鉢底部		6.2	1.8	条痕の後ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	粒少量、長石を含む	良好	1b	M-5	25	
160	鉢底部		8.3	3.6	ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ褐(7.5YR5/3)	粒少量、長石を含む	良好	5	i-66	一括	
161	鉢底部		10.3	3.3	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	H-6	一括	
162	鉢底部		12.1	3.2	ナデ	ナデ	明黄褐(10YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	粗　粒多量、角閃石、長石を含む	良好	6	Y-66	一括	
163	鉢底部		10.8	2.7	指頭痕、ナデ	指頭痕、ナデ	灰褐(7.5YR4/2)	にぶ褐(7.5YR5/4)	粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	5	i-66	9449	
164	鉢底部		9.9	3.5	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	L-6	7670他	
165	鉢底部		5.4	1.3	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	橙(7.5YR7/6)	砂粒少量、長石を含む	良好	1b	L-4	5226他	
166	鉢底部		10.3	2.8	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-2	一括	
167	鉢底部			4.0	ミガキ	ミガキ	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	微砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	L-7	8695他	
168	鉢底部			6.0	ミガキ、ナデ	ミガキ	黒褐色(10YR3/2)	にぶ褐(7.5YR5/3)	粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1a	E-5	土器集中	内・外面スス付着

５　石器（第50～63図）

古閑北遺跡から出土した縄文時代の石器の主要な遺物150点を掲載した。その内訳は、有舌尖頭器１点、石鏃81点、石錘３点、楔形石器３点、石匙４点、削器４点、尖頭状石器１点、円盤状石器２点、打製石斧16点、磨製石斧14点、石錘３点、砥石３点、磨石・敲石２点、二次加工のある石器３点、使用痕のある剥片６点、であり、石鏃と石斧が多くを占めている。以下、器種ごとに、特徴について見ていきたい。

なお、それぞれの遺物の計測値については、「出土石器観察表」（第６、７、８表）にまとめている。

有舌尖頭器（１）

基部にわずかな舌部をもつ「柳又型」に分類できる、サヌカイト製の有舌尖頭器が１点出土した。

石鏃（２～82）

石鏃は、総数81点出土した。石材としては黒耀石製が46点、安山岩製が27点、チャート製が６点、頁岩製が２点となっている。また、出土した石鏃の中に１点だけ有茎鏃があった。その形状によって、正三角形を呈するもの（１類）、二等辺三角形を呈するもの（２類）、その他の形を呈するもの（３類）の３種類に分類できる。さらに、基部の形状の特徴から、平基のもの（ａ）、浅い抉りが入るもの（ｂ）、Ｖ字状に抉りが入るもの（ｃ）、Ｕ字状に抉りが入るもの（ｄ）に細かく分類することができ、この２つを組み合わせた12類のうち、３ｃ類以外の11類が出土し、２ｂ類が27点で一番多く、次いで２ｃ類が23点、２ｄ類が19点出土しており、一番少ないのが１ｂ類、１ｃ類、１ｄ類、３ｂ類、３ｄ類の１点であった。。

１ａ類（２、３）

正三角形で、平基の石鏃である。２点出土した。２は表裏面ともに剥片素材が残っている。３は安山岩製で風化が進んでいる。

１ｂ類（４）

正三角形で、基部に浅い抉りの入る石鏃である。１点出土した。裏面に素材剥離面を残している。

１ｃ類（５）

正三角形で、基部がＶ字状に抉られた凹基の石鏃である。１点出土した。黒耀石製の小型の石鏃であり、表裏面に丁寧な調整が施されている。

１ｄ類（６）

正三角形で、基部がＵ字状に抉られた凹基の石鏃である。１点出土した。小型の石鏃で、細かい調整がなされ、両側縁が鋸歯状になっている。

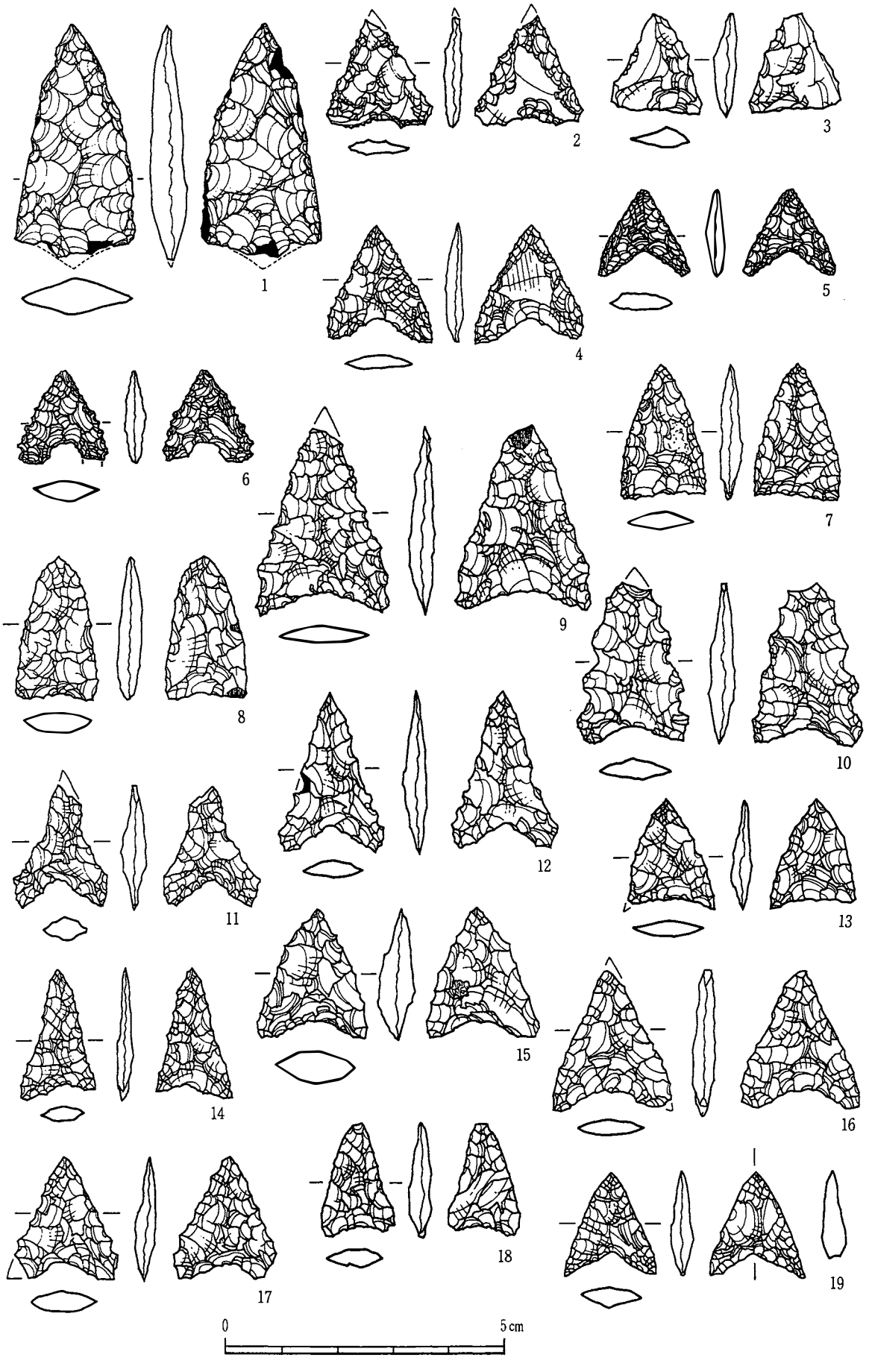
２ａ類（７、８）

二等辺三角形で、平基の石鏃である。２点出土した。７は黒耀石製で表面に原石面を残している。８は安山岩製で、風化が激しい。

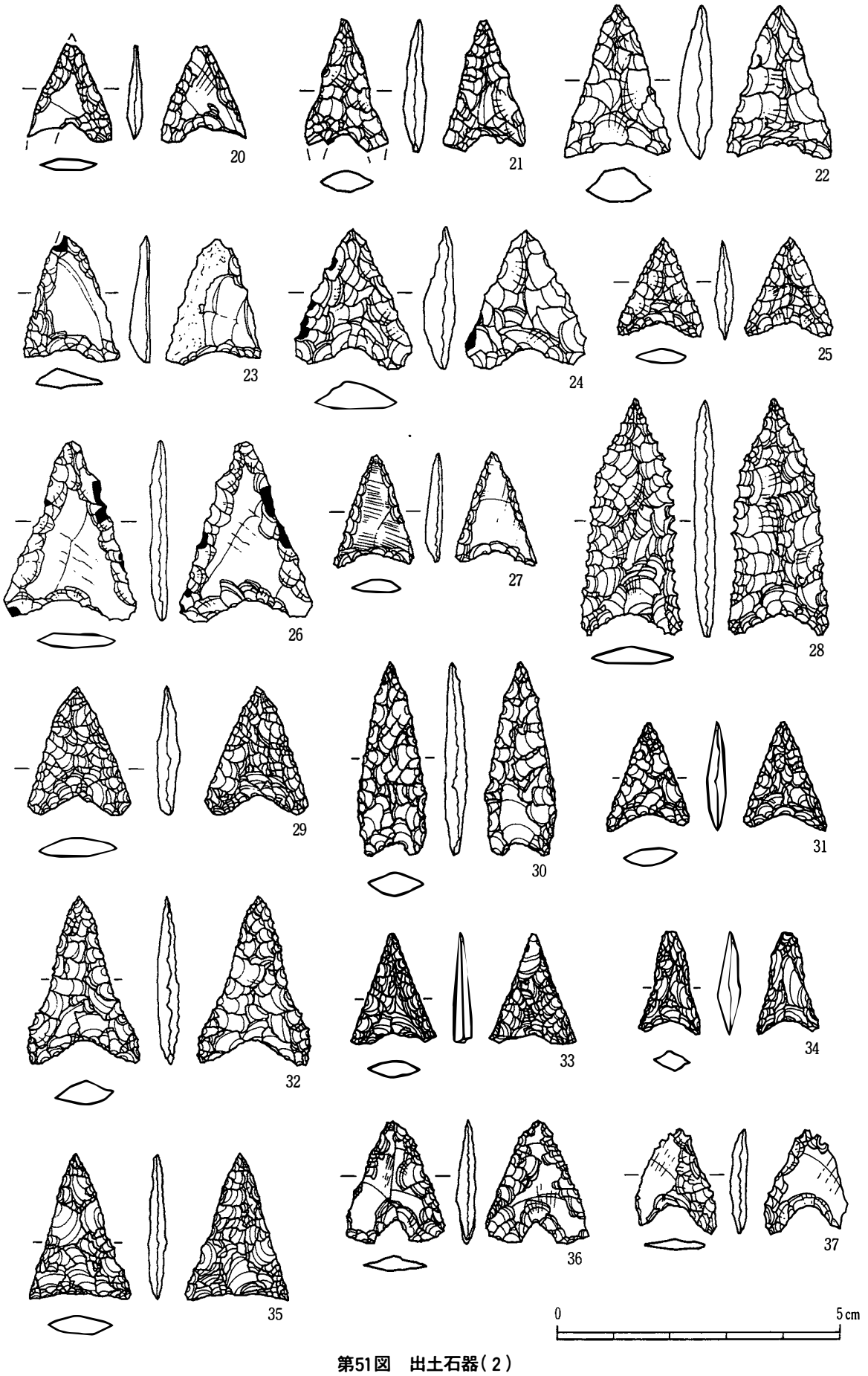
２ｂ類（９～35、81）

二等辺三角形で、基部に浅い抉りの入る石鏃である。28点出土した。形態は側縁部が直線状のものが大部分であるが、外弯した側縁を持つもの（13、15）と内弯した側縁を持つもの（11、21、32、34、81）もある。また、大きさは中型のものが大部分を占めるが、大型のものは９、26、28、32の４点、小型のものは18、19、20、25、27、34の６点である。

９、10、12、28は両側縁に鋸歯状の調整が施してある。18は小型の黒耀石製で裏面に素材剥離面を残している。23は安山岩製で風化が激しく、先端部を欠損し裏面に原石面を残している。27は小型の安山岩製で、表裏面に磨きがみられ磨製鏃とも考えられる。30は黒耀石製で丁寧な調整が施してあり、基部が短く細長い



第50図　出土石器（1）



第51図　出土石器（２）

石鏃である。81は黒耀石製で両側縁基部に浅い抉りがある。

２ｃ類（36～58）

二等辺三角形で、基部がＶ字状に抉られた凹基の石鏃である。23点出土した。側縁が直線状のものが大部分であるが、側縁の途中に抉りがあるもの（42）、側縁が外弯しているもの（38、44、46）もある。 また、大きさは中型のものが大部分を占めるが、大型のものは40、42、47の３点、小型のものは51、53、54、56、58の５点である。

36、37、47はは剥片鏃である。38はチャート製の石鏃で側縁が少し外弯し、右脚を欠損している。42は黒耀石製で左脚を欠損し、表裏面に素材剥離面を残している。43は安山岩製で風化が進み、先端部を欠損している。44は安山岩製で側縁が少し外弯した、鋸歯状の石鏃である。46は安山岩製で側縁が外弯した、表裏面に原石面を残した石鏃である。49、50はともに細長い石鏃で、左脚を欠損している。

２ｄ類（59～77）

二等辺三角形で、基部がＵ字状に抉られた凹基の石鏃である。19点出土した。側縁が直線状のものが大部分であるが、外弯した側縁を持つもの（62、74）と内弯した側縁を持つもの（64）がある。また、大きさは中型が大部分を占めるが、大型のものは68、70、71の３点、小型のものは64、72、74、76の４点である。

59、61、62はは剥片鏃である。60は先端部が欠損しており、裏面には素材剥離面が残っている。63は黒耀石が風化しており、左脚は欠損し、側縁部は鋸歯状である。64は小型で内弯した側縁をもつ、ロケット型の石鏃である。65は安山岩製で左脚が短く、表面に素材剥離面がみられる。67は安山岩製の少し厚みのある石鏃である。68、69、70、71は鍬形鏃と呼ばれている石鏃であり、69、70は裏面に素材剥離面がみられ、70は左脚を大きく欠損している。72はチャート製の小型の石鏃であり、表裏面とも丁寧な調整が施されている。73は黒耀石製で表裏面に素材剥離面を残している。74は小型の黒曜石製で、外弯した側縁を持ち、円脚鏃のようでもある。75、77は側縁が鋸歯状である。76は安山岩製の小型の石鏃である。

３ａ類（78、79）

不定形で、平基の石鏃である。２点出土した。78は粗い鋸歯状で八角形を形づくっている。79は有茎鏃で基部が欠損し平基を形づくっている。

３ｂ類（80）

不定形で、基部に浅い抉りの入る石鏃である。１点出土した。小型の安山岩製でブーメランの形をしている。

３ｄ類（82）

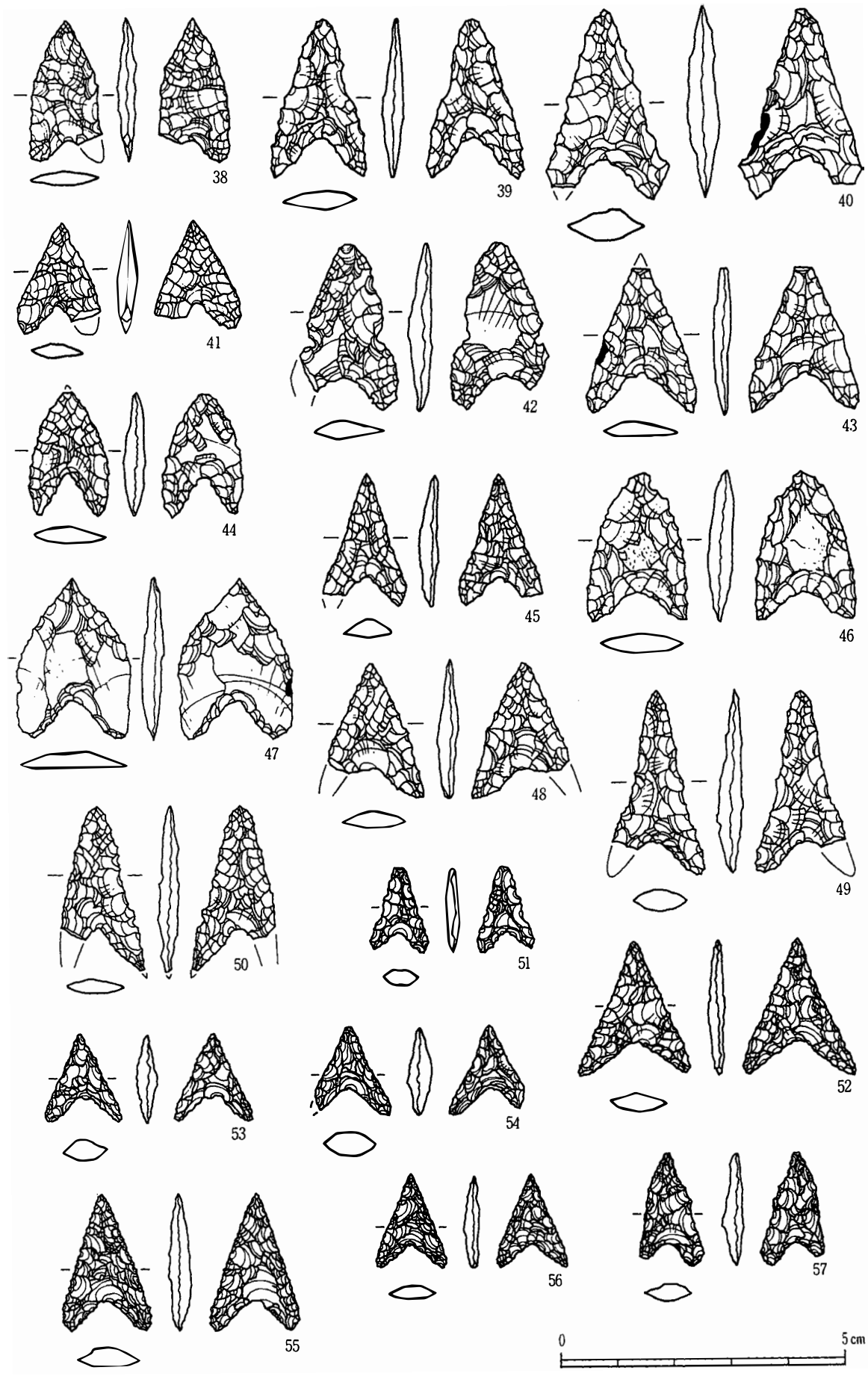
不定形で、基部がＵ字状に抉られた凹基の石鏃である。１点出土した。剥片鏃で調整は先端と基部のみであり、右脚部は大きく欠損している。

石錐（83～85）

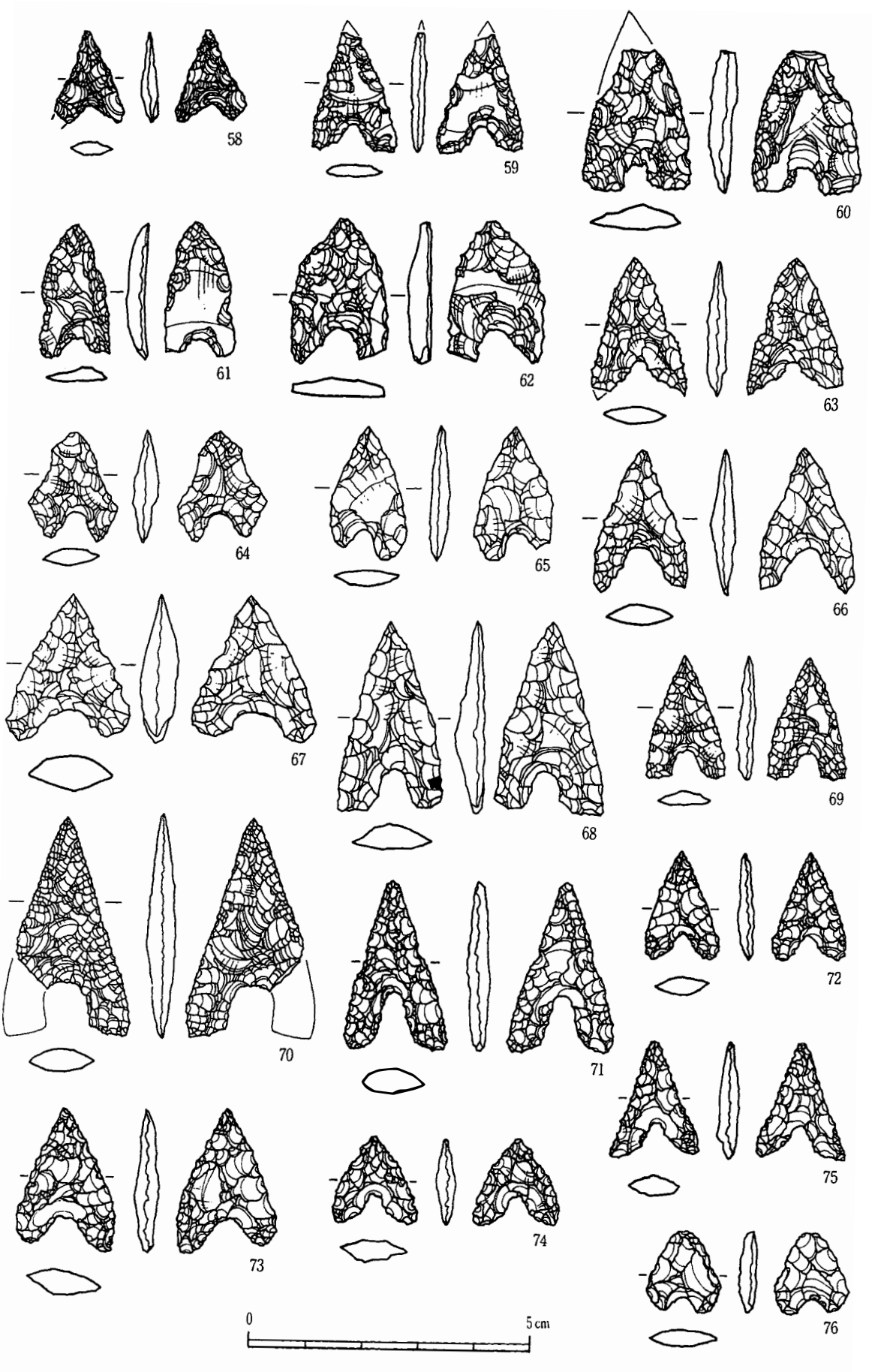
全部で３点出土した。83は黒耀石製で、かなり丁寧な調整が施してあり、つまみ部には素材剥離面を残しており、先端部は欠損している。84は頁岩製で風化がひどく、先端部が欠損している。85は黒耀石製で、つまみ部には原石面を残し、先端部分はつるつるになるほど摩耗している。

楔形石器（86～88）

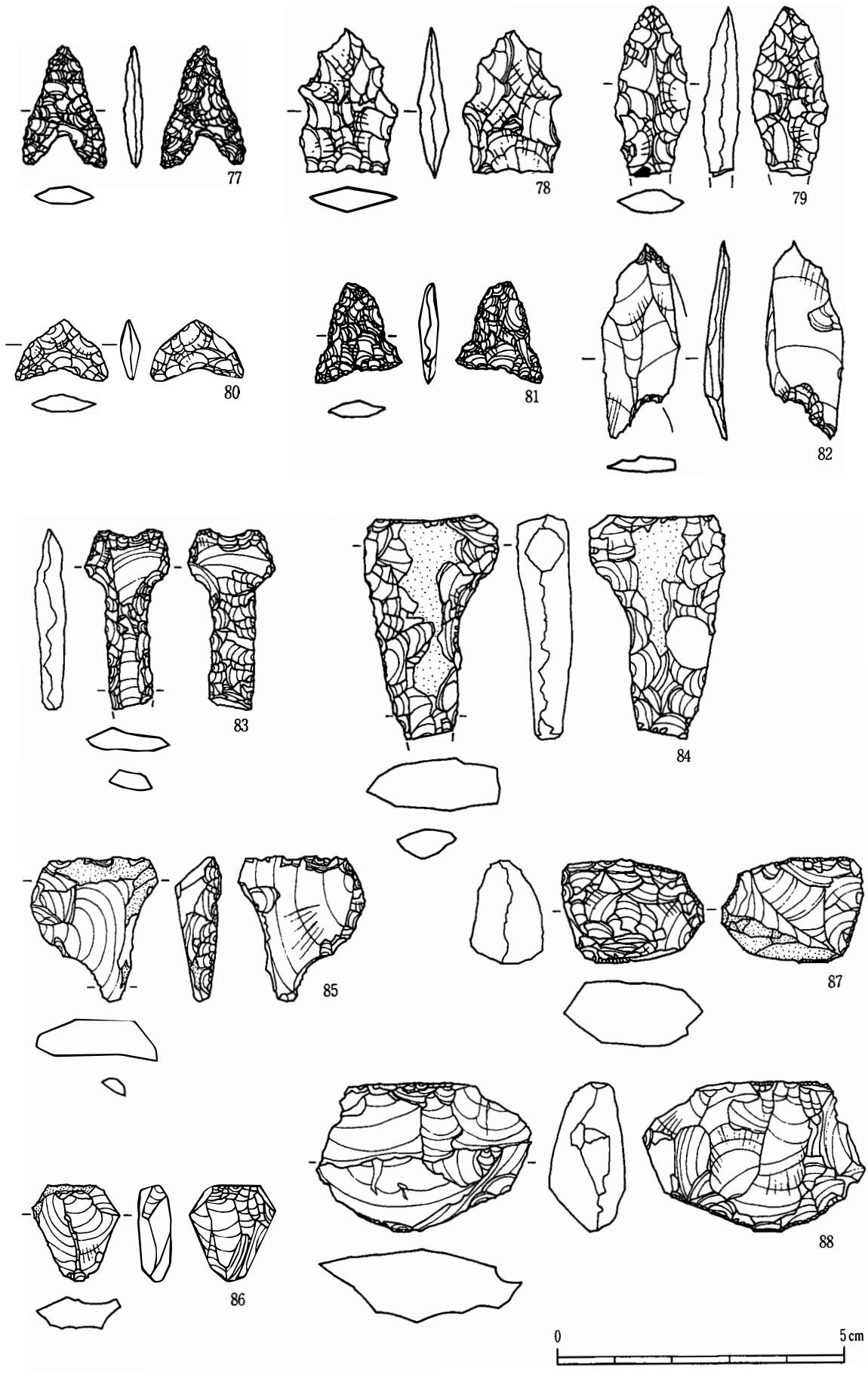
３点出土し、３点とも黒耀石製である。３点ともおおよそ四角形をしており、用途がクサビのように対象物とハンマーの間で使用される石器なので、相対する側辺に使用による潰痕がみられる。また、この石器の特徴として両側辺には上下両端からの縦に長い剥離痕がみられる。おそらく使用によって生じた剥離であろう。



第52図　出土石器（３）



第53図　出土石器（4）



第54図　出土石器（５）

石匙（89～92）

全部で４点出土した。内訳は、縦型が１点（89）で他の３点（90、91、92）は横型であった。89は安山岩製の大型の石匙であり、つまみ部に原石面を残している。90は小型の黒耀石製で表面に原石面、裏面に素材剥離面を残している。91、92は安山岩製の石匙で、２点とも丁寧な調整が施してある。

削器（93～96）

剥片の側縁部に連続的に調整を加えて作られた刃部を持つ石器を削器として扱った。全部で４点出土した。石材は４点ともが安山岩製である。

93は側縁部には原石面、刃部には使用痕がみられる。94は側縁剥離面が急角度で調整を施してある。95は側縁部に原石面と素材剥離面を残し、表裏面にも素材剥離面がみられ、また刃部には丁寧な調整が施してある。96は刃部に丁寧な調整が施してあり、縦に長い削器と思われる。先端部と基部が折れている。

尖頭状石器（97）

先端に潰痕がある安山岩製の尖頭状石器が１点出土した。

円盤状石器（98～99）

２点出土した。98は砂岩製で直径約５㎝の小型の石器であり、99は安山岩製の直径約10㎝の大型の石器である。特徴として２点とも全周に刃部がまわり、刃部は両刃である。

打製石斧（100～115）

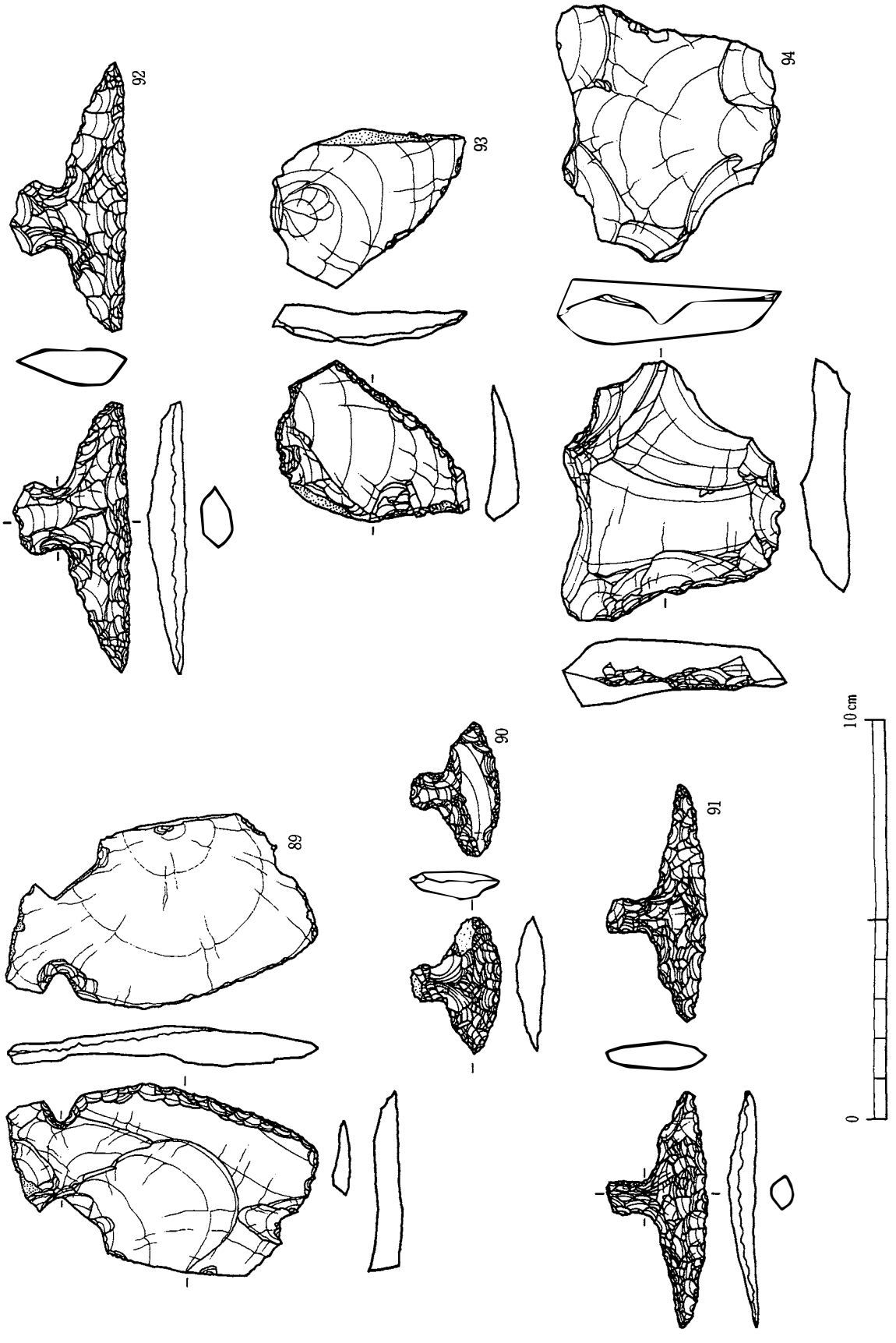
打製石斧は、16点で、110、115の２点以外は１区からの出土である。石材は安山岩製が11点、砂岩製が２点、緑色片岩製が２点、蛇紋岩製が１点である。また､形態は106が分銅形に属し、他は両側縁がほぼ平行な短冊形（長方形）に属するものであった。

ほとんどの石器の刃部に使用痕、また､左右両側縁に潰れ痕がみられた。101は表裏面に部分的ではあるが磨きが施してある。106は片側側縁部に凹みがあり、基部には原石面が残っている。107は蛇紋岩製の大形の石斧で基部を少し欠損している。108は側縁部に凹みがあり､装着痕の可能性が考えられる。109～115は石器中位部から基部にかけて欠損している。

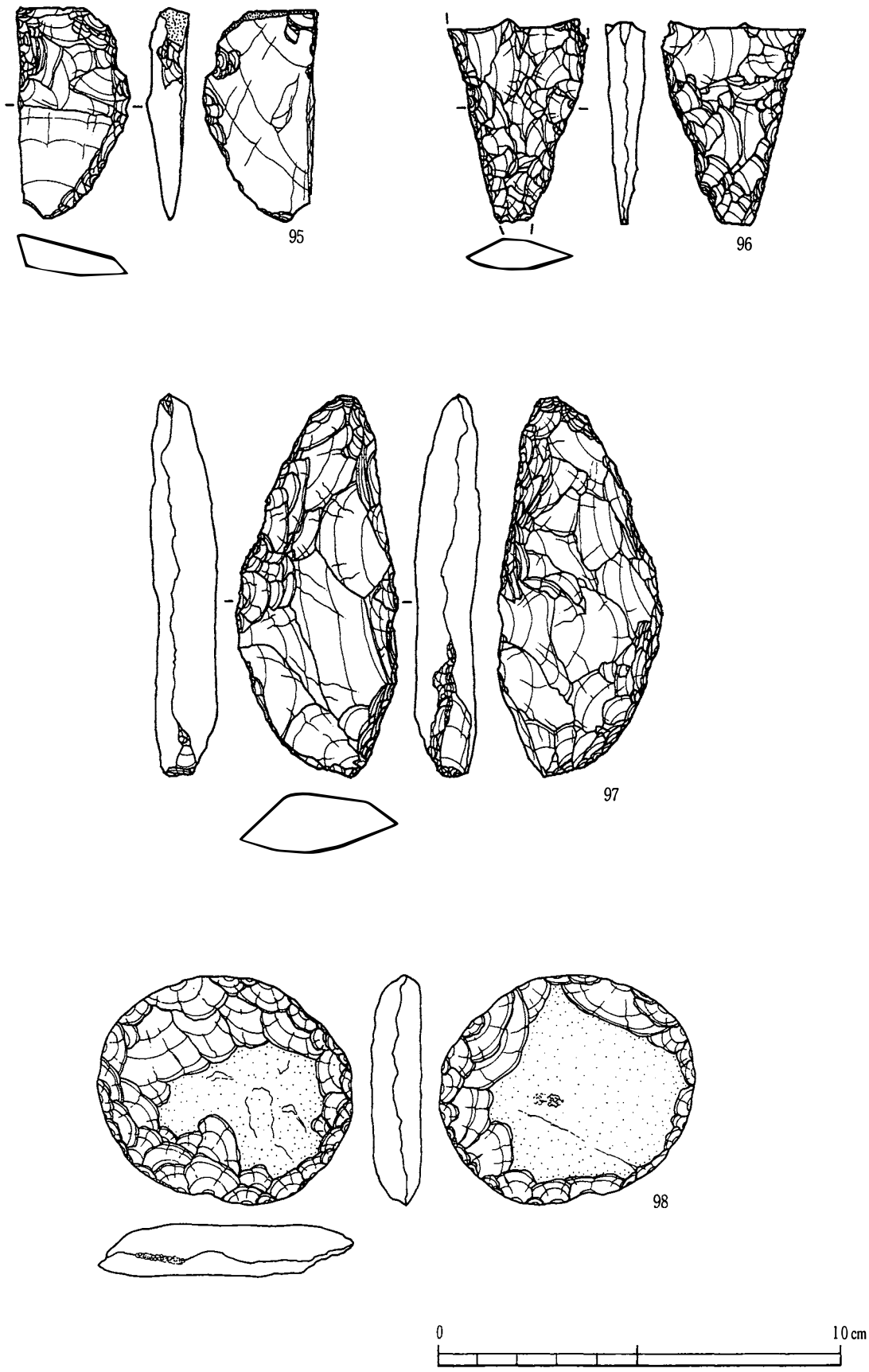
磨製石斧（116～129）

磨製石斧は、14点出土した。石材は砂岩製８点、安山岩製が４点、蛇紋岩製２点である。

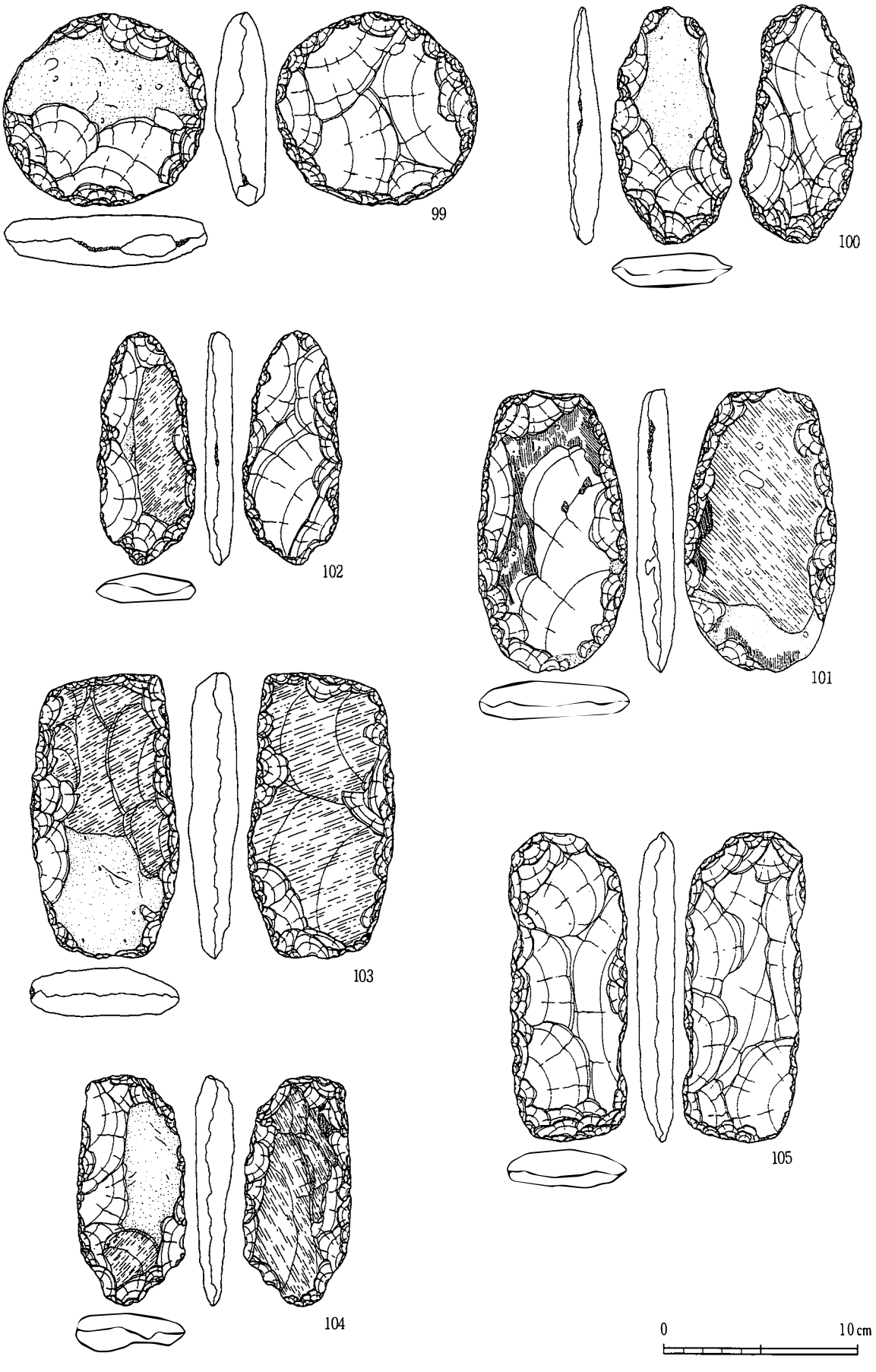
116は小型の完形品で刃部は両刃である。側縁に敲打痕があり､石器中位の左右両側縁に潰れ痕が認められ装着痕の可能性が考えられる。117はの完形品で､刃部は両刃で丁寧にみがいてあり、基部や石器中位部には敲打痕がある。また、基部よりに凹みがあり､装着痕の可能性が考えられる。118は小型の石斧であり、石器中位の左右両側縁に潰れ痕が認められ装着痕の可能性が考えられる。119は刃部が欠損している｡基部や石器中位部には敲打痕がある。また、石器中位部に凹みがあり､装着痕の可能性が考えられる。120は接合することができた。表面の基部にはび敲打痕があり裏面は大きく剥離している。121は小型の完形品で､刃部は両刃で丁寧にみがいてあり、基部には敲打痕がある。また、石器中位部に凹みがあり、装着痕の可能性が考えられる。122は接合することができた。刃部は両刃で丁寧にみがいてあり､基部には敲打痕がある。石器中位部の左右両側縁に潰れ痕が認められ装着痕の可能性が考えられる。123は大型の完形品で､刃部は両刃で丁寧にみがいてあり、基部には敲打痕がある。また、石器中位部に凹みがあり、装着痕の可能性が考えられる。
124は表裏面の大部分は剥離しており、刃部に少し磨製部分が残っているだけである。125は基部側から石器中位面にかけて大きく欠損しているが、石器中位部に凹みがあり、装着痕の可能性が考えられる。また、刃部もかなり使用されている。126は蛇紋岩製の薄い石斧で基部側から石器中位面にかけて大きく欠損している。127、128、129は基部側から石器中位面にかけて大きく欠損している。



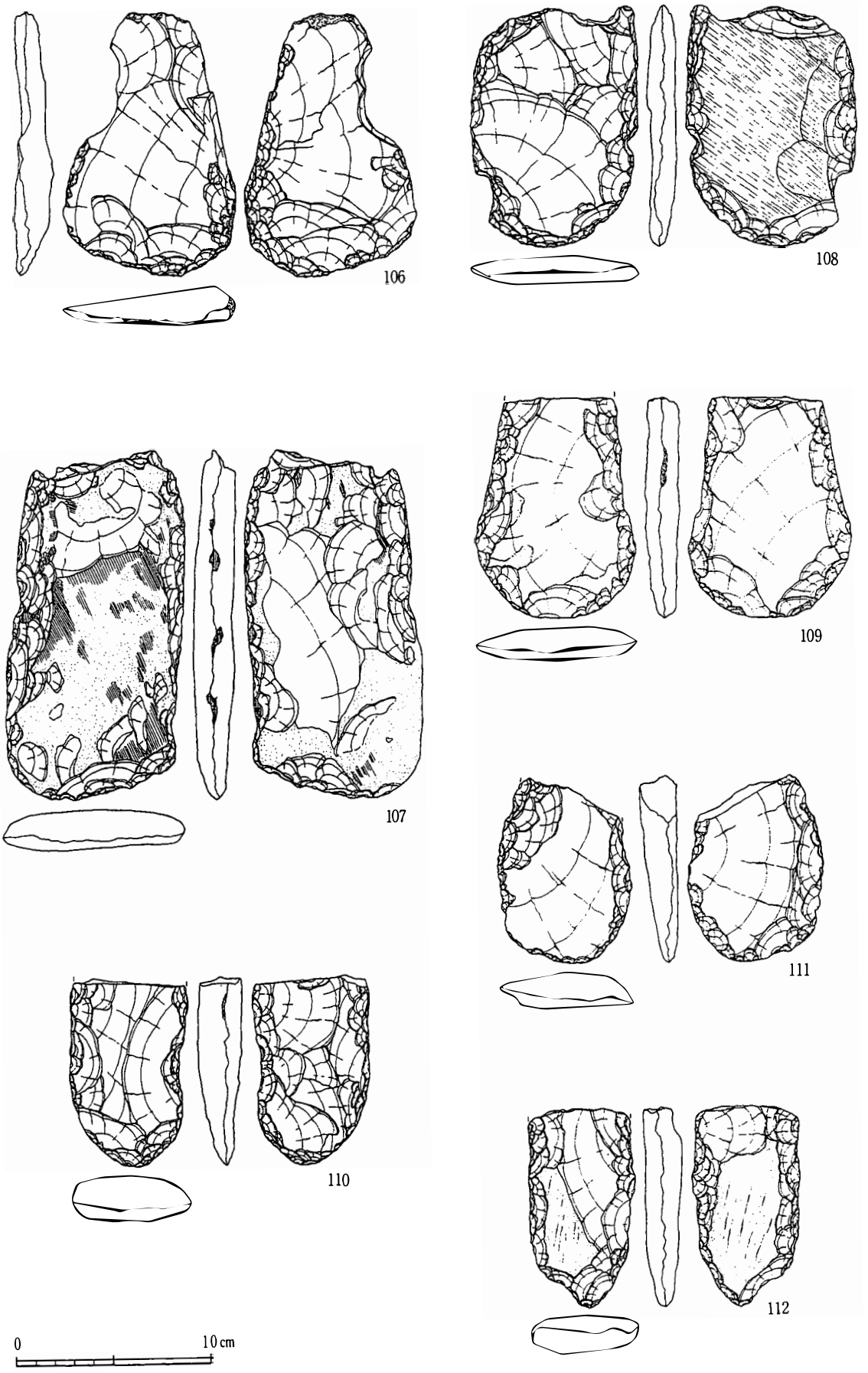
第55図　出土石器（６）



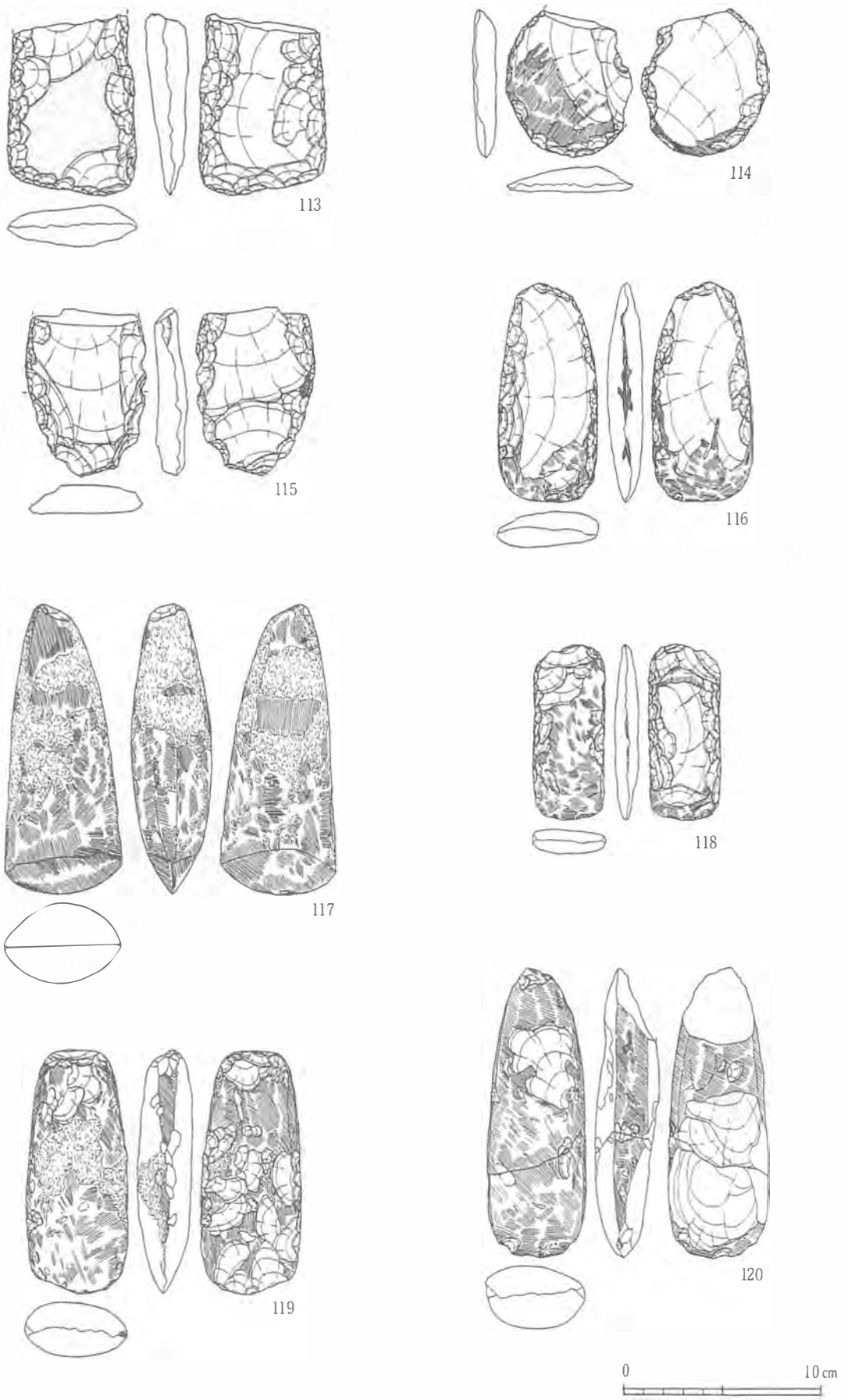
第56図　出土石器（7）



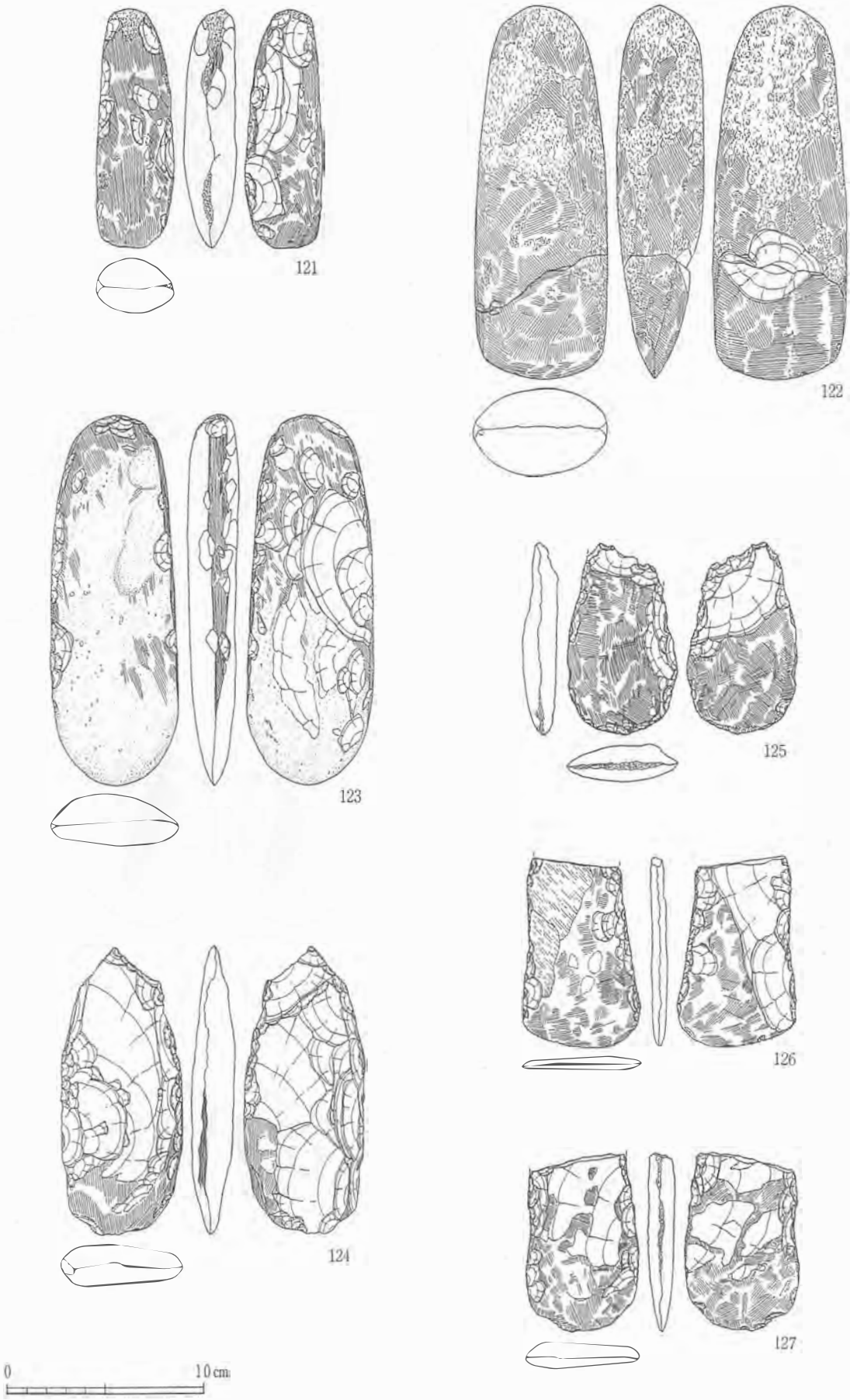
第57図　出土石器（８）



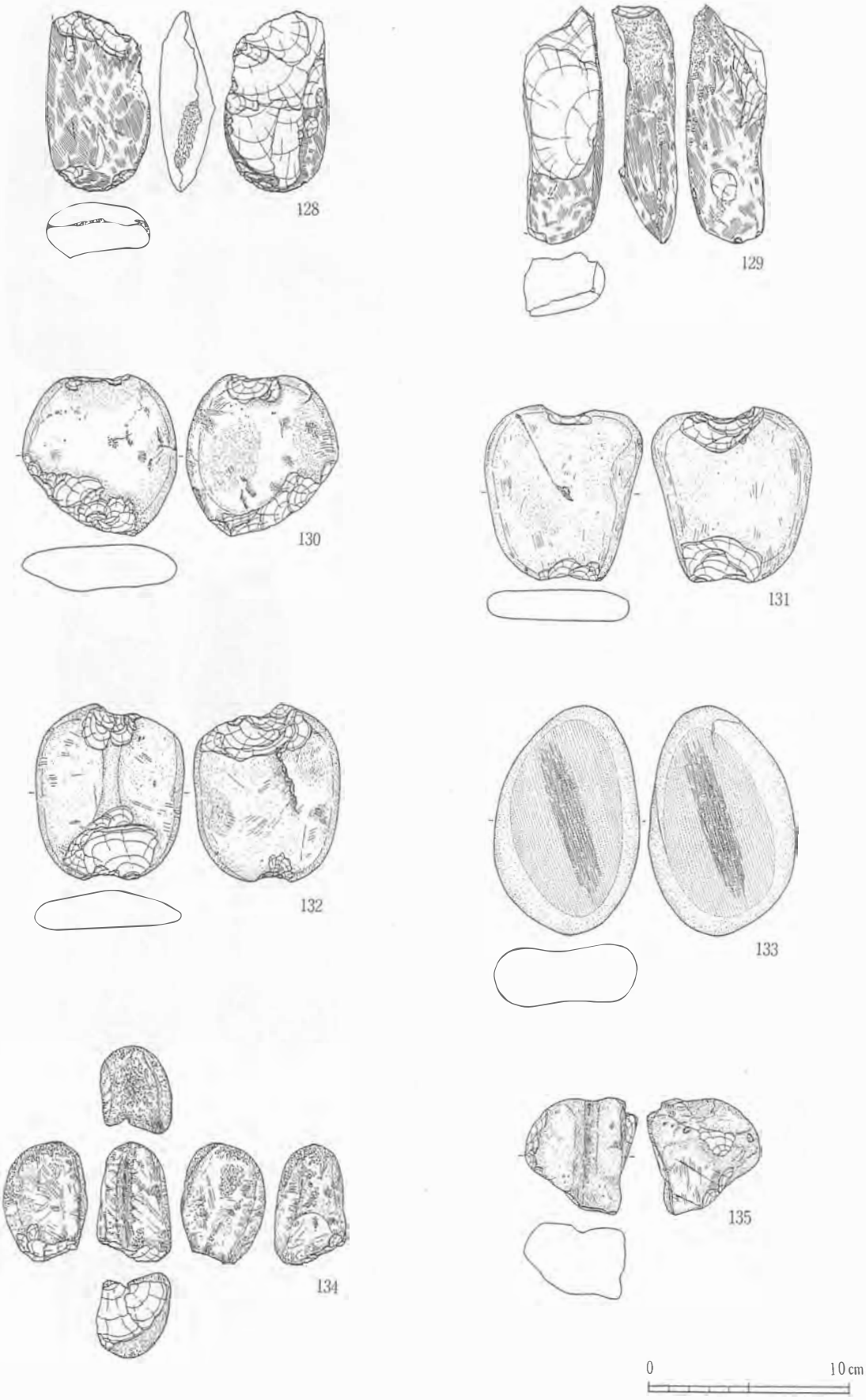
第58図　出土石器(9)



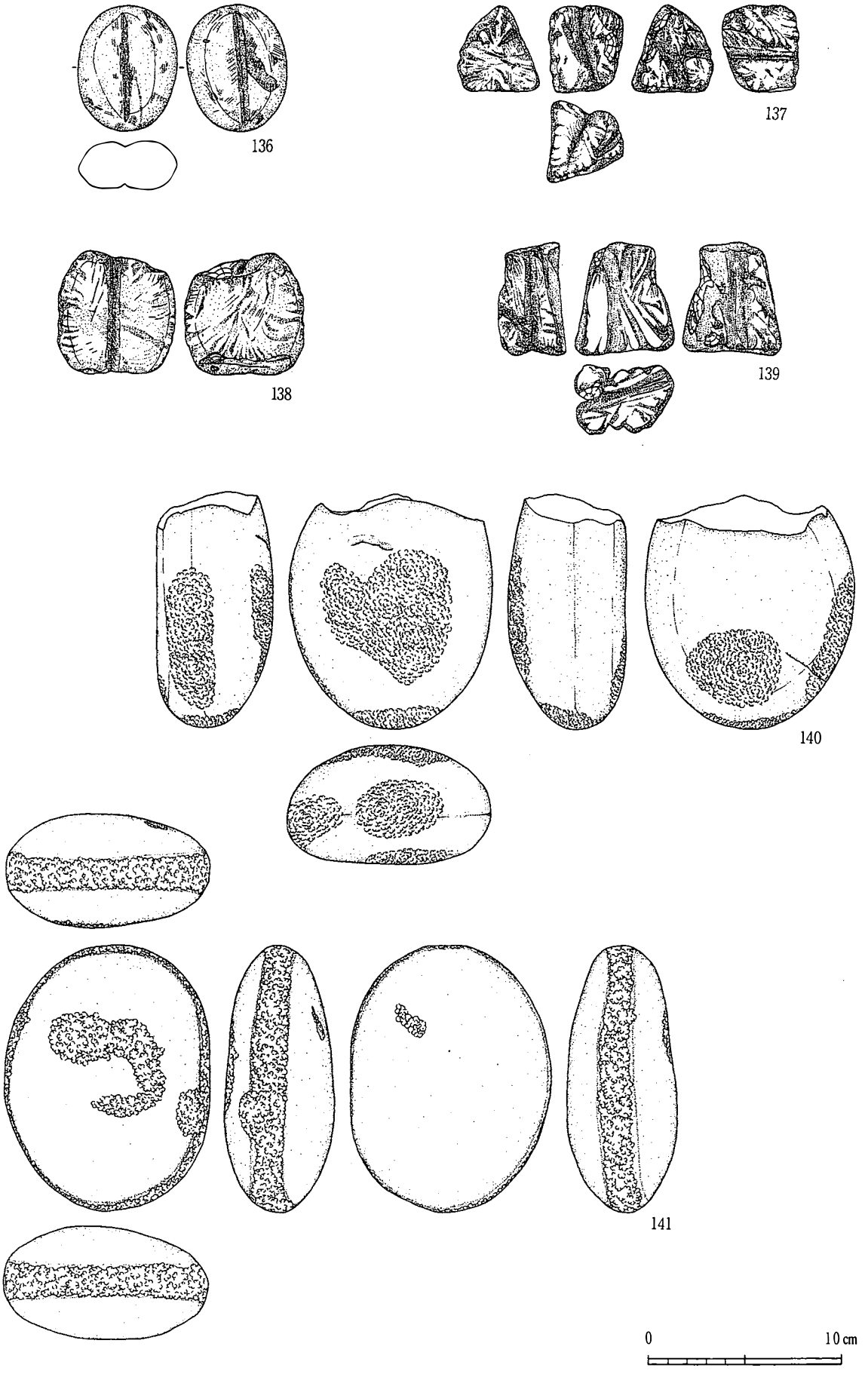
第59図　出土石器（10）



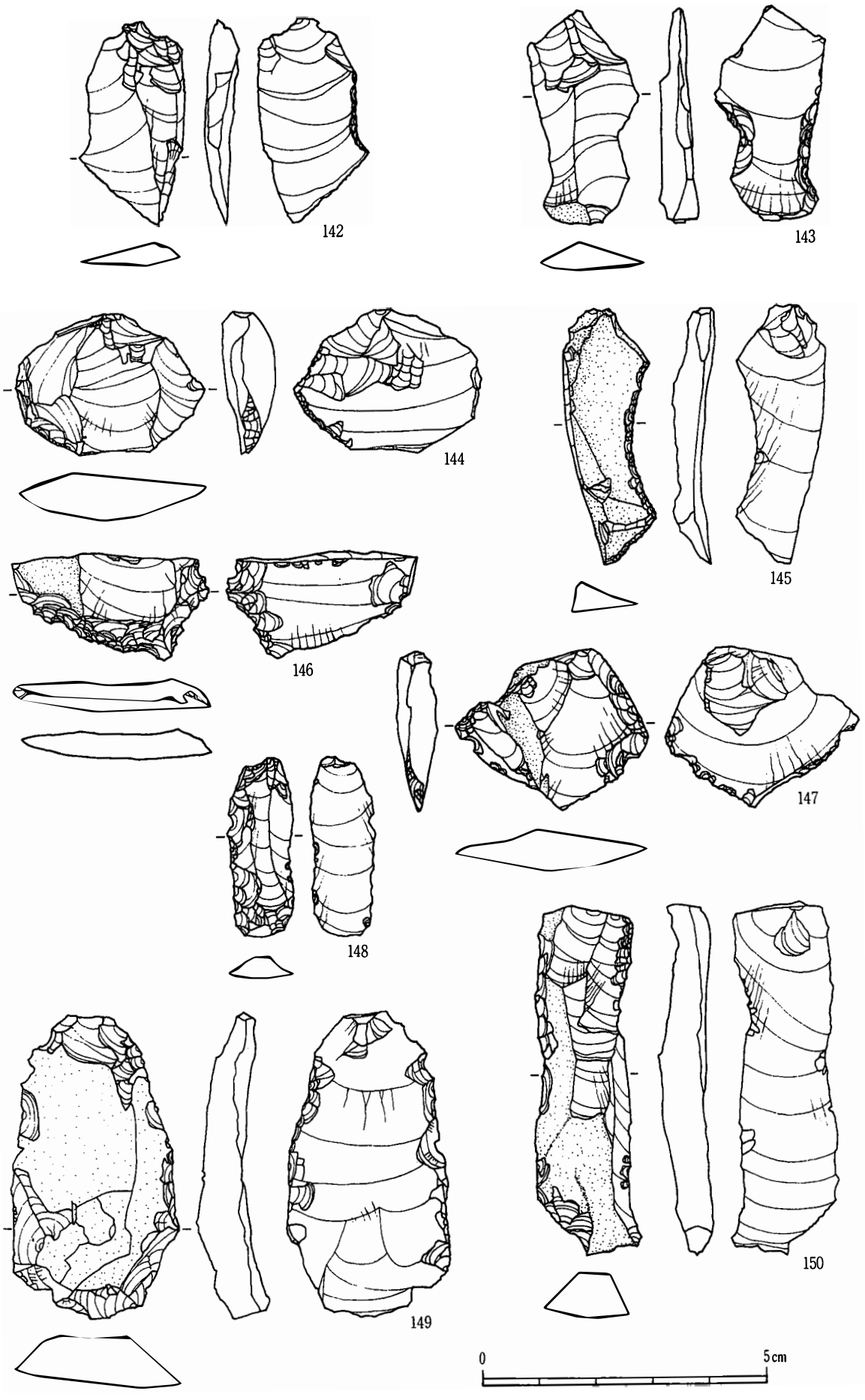
第60図　出土石器(11)



第61図　出土石器(12)



第62図　出土石器（13）



第63図　出土石器（14）

第６表　出土石器観察表(1)

遺物番号	器種	石材	計測値（残存部） 長さ (cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	有舌尖頭器	サヌカイト	4.10	2.10	0.60	4.0	1b	j-9	一括	柳又型
2	石鏃	黒耀石	1.90	1.87	0.35	0.8	B	ヘ-13	撹乱	剥片鏃?、先端部欠損
3	石鏃	安山岩	1.72	1.61	0.40	0.6	5	g-69	撹乱	風化が進んでいる
4	石鏃	黒耀石	2.01	1.90	0.30	0.6	A	ウ-3	10600	裏面に素材剥離面
5	石鏃	黒耀石	1.50	1.60	0.40	0.40	6	Y-65	撹乱	
6	石鏃	黒耀石	1.60	1.60	0.40	0.60	1b	J-9	撹乱	鋸歯状
7	石鏃	黒耀石	2.25	1.50	0.40	1.0	1b	L-4	撹乱	表面に原石面
8	石鏃	安山岩	2.59	1.43	0.40	1.4	5	g-66	撹乱	風化が進んでいる
9	石鏃	黒耀石	3.20	2.40	0.40	2.2	8d	南-19	10309	先端部欠損、鋸歯状
10	石鏃	黒耀石	2.80	2.00	0.40	1.6	6	b-70	撹乱	鋸歯状
11	石鏃	黒耀石	2.14	1.71	0.50	0.8	1a	E-5	2084	先端部欠損
12	石鏃	安山岩	2.72	1.95	0.40	1.0	1b	M-5	撹乱	鋸歯状
13	石鏃	黒耀石	1.89	1.50	0.30	0.6	8a	西-ハ	9712	
14	石鏃	チャート	2.25	1.30	0.30	0.6	1b	M-7	7369	
15	石鏃	安山岩	2.21	2.00	0.60	1.6	1b	K-5	撹乱	
16	石鏃	黒耀石	2.40	2.07	0.40	1.0	4b	O-10	撹乱	先端部欠損
17	石鏃	安山岩	2.19	1.80	0.40	1.0	8d	南-19	10300	左脚欠損
18	石鏃	黒耀石	1.96	1.31	0.40	0.6	1b	M-4	5350	裏面に素材剥離面
19	石鏃	黒耀石	1.86	1.61	0.40	0.6	3	B-14	2718	
20	石鏃	黒耀石	1.69	1.40	0.30	0.4	7	d-73	10442	左脚欠損
21	石鏃	安山岩	2.30	1.48	0.40	0.8	1a	F-4	983	両脚欠損
22	石鏃	安山岩	2.60	1.86	0.70	1.8	1b	M-5	263	
23	石鏃	安山岩	2.21	1.67	0.40	1.0	8b	北-9	9991	先端部欠損、裏面に原石面
24	石鏃	安山岩	2.43	2.10	0.60	1.8	6	X-69	一括	
25	石鏃	安山岩	1.70	1.51	0.35	0.6	1a	E-4	1058	
26	石鏃	安山岩	2.64	2.38	0.30	2.0	1b	M-5	撹乱	
27	石鏃	安山岩	1.99	1.43	0.30	0.6	1b	M-2	撹乱	局部磨製鏃
28	石鏃	黒耀石	4.19	1.81	0.30	2.8	1b	M-4	5347	鋸歯状
29	石鏃	チャート	2.25	1.80	0.40	0.8	8b	西-ヘ	9649	
30	石鏃	黒耀石	3.40	1.30	0.40	1.40	6	Z-70	撹乱	
31	石鏃	黒耀石	1.90	1.50	0.40	0.50	4b	N-10	撹乱	
32	石鏃	黒耀石	3.00	2.00	0.40	1.30	1a	E-4	1899	
33	石鏃	チャート	2.00	1.50	0.30	0.80	4b	N-11	一括	
34	石鏃	頁岩	1.80	1.10	0.40	0.40	8d	南-19	10303	先端部欠損
35	石鏃	チャート	2.60	1.80	0.30	1.00	1a	F-5	1720	
36	石鏃	黒耀石	2.19	1.81	0.30	0.8	5	h-68	撹乱	剥片鏃
37	石鏃	安山岩	1.80	1.39	0.30	0.6	1b	K-6	7145	剥片鏃
38	石鏃	チャート	2.46	1.20	0.30	0.8	6	Z-70	撹乱	右脚欠損
39	石鏃	安山岩	2.70	1.71	0.30	1.0	D	セ-15	溝一括	
40	石鏃	安山岩	3.23	2.16	0.60	2.1	6	Y-71	撹乱	左脚欠損
41	石鏃	黒耀石	1.90	1.50	0.30	0.4	5	g-68	撹乱	右脚欠損
42	石鏃	黒耀石	2.90	1.70	0.40	1.4	D	ス-15	溝一括	左脚欠損、素材剥離面
43	石鏃	安山岩	2.50	1.91	0.30	0.8	D	ス-15	溝一括	先端部欠損、風化が激しい
44	石鏃	安山岩	2.10	1.34	0.40	0.8	8a	東-ロ	9554	裏面に素材剥離面、鋸歯状
45	石鏃	黒耀石	2.29	1.50	0.40	0.6	4b	N-10	撹乱	左脚欠損
46	石鏃	安山岩	2.52	1.73	0.40	1.6	1a	E-5	2117	表裏面に原石面
47	石鏃	安山岩	2.78	2.01	0.30	1.6	3	C-14	2745	剥片鏃
48	石鏃	黒耀石	2.32	1.70	0.40	0.8	1b	L-6	一括	左脚欠損
49	石鏃	安山岩	3.23	1.60	0.40	1.2	2b	Q-13	2621	左脚欠損
50	石鏃	黒耀石	2.90	1.50	0.30	0.8	1a	E-5	2111	左脚欠損
51	石鏃	黒耀石	1.50	1.10	0.30	0.20	1b	L-6	8095	先端部欠損
52	石鏃	黒耀石	2.30	2.00	0.30	0.70	1b	K-5	撹乱	
53	石鏃	黒耀石	1.60	1.40	0.40	0.30	1a	F-5	2296	
54	石鏃	黒耀石	1.60	1.40	0.50	0.50	A	ウ-3	一括	左脚欠損
55	石鏃	黒耀石	2.40	1.60	0.40	0.80	1b	L-7	14住 67	
56	石鏃	黒耀石	1.70	1.30	0.30	0.30	1b	H-9	撹乱	
57	石鏃	黒耀石	2.00	1.10	0.40	0.50	B	ヒ-15	11049	
58	石鏃	黒耀石	1.60	1.30	0.30	0.30	1b	L-5	10住	
59	石鏃	黒耀石	2.10	1.51	0.25	0.6	7	c-73	10425	剥片鏃、先端部欠損
60	石鏃	黒耀石	2.40	1.85	0.45	1.6	D	セ-16	溝一括	裏面に素材剥離面、先端部欠損
61	石鏃	黒耀石	2.29	1.22	0.30	0.8	2a	K-14	5溝一括	剥片鏃
62	石鏃	黒耀石	2.44	1.43	0.45	1.4	1a	D-4	1321	剥片鏃
63	石鏃	黒耀石	2.43	1.62	0.30	0.6	1b	K-5	撹乱	左脚欠損、鋸歯状
64	石鏃	黒耀石	1.88	1.59	0.40	0.6	1b	L-3	撹乱	
65	石鏃	安山岩	2.30	1.39	0.30	0.8	8b	西-ヘ	17住床直	表面に素材剥離面
66	石鏃	安山岩	2.51	1.63	0.40	0.8	A	ア-3	620	
67	石鏃	安山岩	2.60	2.20	0.80	2.0	6	X-71	一括	
68	石鏃	安山岩	3.33	1.86	0.50	2.0	C	不明	撹乱	鍬形鏃

第７表　出土石器観察表(2)

遺物番号	器種	石材	計測値（残存部） 長さ（cm）	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	調査区	出土地点	取上番号	備考
69	石鏃	黒耀石	2.11	1.36	0.30	0.6	1b	L-6	7801	鍬形鏃、裏面に素材剥離面
70	石鏃	黒耀石	3.81	2.00	0.50	2.2	1a	G-4	1723	鍬形鏃、左脚欠損
71	石鏃	黒耀石	3.00	1.90	0.40	1.40	6	X-71	一括	鍬形鏃、裏面に素材剥離面
72	石鏃	チャート	1.90	1.30	0.30	0.50	1b	L-3	撹乱	
73	石鏃	黒耀石	2.50	1.80	0.40	1.30	6	X-71	撹乱	表裏面に素材剥離面
74	石鏃	黒耀石	1.60	1.50	0.40	0.50	1b	J-8	撹乱	
75	石鏃	黒耀石	2.10	1.60	0.40	0.60	8d	南-20	318	鋸歯状
76	石鏃	頁岩	1.40	1.30	0.30	0.50	8c	南-4	9904	
77	石鏃	黒耀石	2.10	1.50	0.30	0.60	7	Z-73	一括	鋸歯状
78	石鏃	安山岩	2.45	1.71	0.50	1.6	1a	F-5	128	鋸歯状
79	石鏃	安山岩	2.93	1.29	0.60	2.0	A	イ-3	10672	有茎鏃、基部欠損
80	石鏃	安山岩	1.01	1.61	0.35	0.4	1b	L-5	10住 164	風化激しい
81	石鏃	黒耀石	1.70	1.50	0.40	0.60	1b	L-8	撹乱	先端部欠損
82	石鏃	黒耀石	3.35	1.40	0.30	1.0	2b	R-13	2600	剥片鏃、右側縁大きく欠損
83	石錐	黒耀石	3.20	1.50	0.60	1.8	5	e-69	撹乱	
84	石錐	頁岩	3.90	2.40	1.00	1.6	A	ア-2	一括	
85	石錐	黒耀石	2.50	2.20	0.80	3.2	5	d-66	一括	
86	楔形石器	黒耀石	1.70	1.50	0.60	1.5	1b	k-4	11溝一括	
87	楔形石器	黒耀石	1.80	2.50	1.30	5.9	1b	L-5	撹乱	
88	楔形石器	黒耀石	2.60	3.80	1.80	10.5	1b	k-3	6109	
89	石匙	安山岩	7.90	4.80	1.10	29.1	1b	L-5	6244	
90	石匙	黒曜石	2.25	3.40	0.70	3.2	1b	K-3	一括	原石面、素材剥離面を残す
91	石匙	安山岩	2.60	5.90	0.70	5.5	4a	L-10	2号円形	
92	石匙	安山岩	3.00	6.80	0.90	11.6	1b	J-7	撹乱	
93	削器	安山岩	5.00	4.10	1.10	13.4	1b	M-3	15溝一括	
94	削器	安山岩	5.60	6.50	1.70	51.3	1b	M-3	15溝一括	
95	削器	安山岩	5.20	2.90	1.10	15.6	1b	L-8	8854	
96	削器	安山岩	5.10	3.60	1.00	13.7	6	Y-67	撹乱	
97	尖頭状石器	安山岩	2.15	1.50	0.45	1.0	1b	I-2	2988	
98	円盤状石器	砂岩	5.60	6.40	1.30	56.4	1b	K-2	一括	
99	円盤状石器	安山岩	10.00	10.50	2.70	331.4	1b	L-4	5236	
100	打製石斧	安山岩	12.10	6.20	1.80	145.1	1b	K-3	9821	
101	打製石斧	安山岩	14.40	7.80	2.00	287.6	1b	L-1	3385	表裏面に磨き有り
102	打製石斧	安山岩	12.10	5.20	1.50	112.1	1b	L-4	撹乱	
103	打製石斧	安山岩	14.70	7.70	2.60	361.9	1b	J-2	一括	
104	打製石斧	安山岩	11.90	5.60	2.00	116.3	1b	H-2	溝一括	
105	打製石斧	緑色片岩	15.90	6.30	2.00	268.9	1b	M-3	一括	
106	打製石斧	安山岩	13.50	8.90	2.10	185.8	1b	M-6	8261	基部に原石面
107	打製石斧	蛇紋岩	17.80	9.30	2.20	500.0	1b	L-1	3321	基部欠損
108	打製石斧	緑色片岩	12.30	8.70	1.50	200.1	1b	L-3	撹乱	
109	打製石斧	安山岩	11.30	8.30	1.80	223.8	1b	I-9	撹乱	中位部から基部欠損
110	打製石斧	安山岩	9.70	6.00	2.30	167.9	8d	南-10	一括	中位部から基部欠損
111	打製石斧	安山岩	9.50	6.90	1.90	140.5	1a	F-5	溝一括	中位部から基部欠損
112	打製石斧	安山岩	10.30	5.50	2.00	142.0	1b	L-4	4524	中位部から基部欠損
113	打製石斧	安山岩	9.20	6.50	2.20	144.0	1b	K-4	溝一括	中位部から基部欠損
114	打製石斧	砂岩	8.50	6.40	1.10	66.2	1b	K-2	撹乱	中位部から基部欠損
115	打製石斧	砂岩	9.40	6.10	1.60	88.9	8c	南-3	9804	中位部から基部欠損
116	磨製石斧	安山岩	10.90	5.10	1.80	130.2	1b	K-5	撹乱	
117	磨製石斧	砂岩	14.60	5.90	3.50	446.1	1b	K-2	4126	
118	磨製石斧	安山岩	8.70	3.70	1.20	60.5	1b	M-4	7133	
119	磨製石斧	砂岩	12.40	5.10	2.80	262.7	1b	K-3	撹乱	
120	磨製石斧	砂岩	14.60	5.00	3.20	268.7	1b	L-4	4807	接合資料
121	磨製石斧	砂岩	11.90	4.00	2.70	204.0	1b	K-2	撹乱	
122	磨製石斧	砂岩	18.60	6.80	4.50	800.0	1a	F-4	776	接合資料
123	磨製石斧	砂岩	18.40	6.50	2.60	459.0	1b	K-3	4176	
124	磨製石斧	安山岩	14.60	6.20	2.20	226.2	1b	K-3	4158	
125	磨製石斧	蛇紋岩	9.70	5.60	1.90	108.0		表採		
126	磨製石斧	蛇紋岩	9.60	6.00	0.90	67.8	6	Z-71	撹乱	
127	磨製石斧	安山岩	9.10	5.80	1.40	106.1	6	b-69	撹乱	
128	磨製石斧	砂岩	9.00	5.20	2.70	148.3	1b	K-3	撹乱	
129	磨製石斧	砂岩	11.60	4.10	3.20	198.3	5	h-68	9303	
130	石錘	砂岩	7.90	7.70	1.10	189.9	1a	F-4	966	
131	石錘	砂岩	8.80	8.00	1.50	182.0	1b	K-3	5889	
132	石錘	粘板岩	8.90	7.30	1.90	170.1	1b	L-4	4743	
133	砥石	砂岩	11.40	7.30	1.70	367.9	2b	T-12	2513	磨石・敲石？、一部赤変
134	砥石	砂岩	6.00	3.70	4.20	119.9	1a	F-4	939	
135	砥石	砂岩	5.90	5.60	2.70	148.6	1b	L-4	4住 107	
136	砥石	砂岩	6.70	5.20	1.40	125.2	1b	K-3	撹乱	

第８表　出土石器観察表(3)

遺物番号	器種	石材	計測値（残存部） 長さ（cm）	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	調査区	出土地点	取上番号	備考
137	砥石	砂岩	4.50	3.90	4.20	89.2	1b	L-4	4住 1080	
138	砥石	砂岩	6.50	6.20	2.10	128.1	1b	K-2	撹乱	
139	砥石	砂岩	6.00	5.20	3.60	120.6	1b	L-5	10住 32	
140	磨石・敲石	凝灰岩	12.05	10.90	6.10	1050.0	1b	L-4	4住 1051	一部欠損
141	磨石・敲石	砂岩	13.70	10.70	5.80	1000.0	1b	L-5	6425	
142	二次加工	黒耀石	3.60	1.90	0.70	2.8	1b	M-3	3住 379	
143	二次加工	黒耀石	3.70	1.90	0.70	3.0	8d	南-15	10257	
144	二次加工	黒耀石	3.00	3.30	1.00	6.5	1b	J-2	撹乱	
145	使用痕	黒耀石	4.50	1.60	0.80	3.1	1a	D-5	164	
146	使用痕	黒耀石	1.90	3.50	0.40	3.1	1b	N-7	撹乱	
147	使用痕	黒耀石	2.80	3.90	0.70	4.4	7	c-73	34溝一括	
148	使用痕	黒耀石	3.10	1.20	0.30	1.5	7	a-73	撹乱	
149	使用痕	黒耀石	5.40	3.00	1.80	14.2	1b	L-5	撹乱	
150	使用痕	黒耀石	6.20	1.90	1.00	9.3	1b	K-2	撹乱	

石錘（130～132）

砂岩製（130、131）、粘板岩製（132）の３点の出土である。石錘はその用途は別にして、縄または網掛け用のくぼみを打ち欠いたものと溝を彫ったものとに分けられる。打ち欠いたものは「礫石錘」と呼ばれており、３点とも上下が欠けておりこれに属する。

砥石（133～139）

全部で７点出土した、石材は全て砂岩製である。ここでは、溝を持った石器を砥石として記載したが、１点だけ平砥石（133）として認定した。

134、135は幅が１cm弱の直線的なU字状の溝が１本みられ、おそらく玉類等の研磨に使用されたと考えられる。136、137、138 は幅の狭い直線的なV字状の溝が１、２本みられ石斧の刃を研いでいたのではないかと考えられる。139は幅の狭い直線的なV字状の溝が約10本ほどみられる。

磨石・敲石（140、141）

磨石・敲石は、２点出土した。石材は140が凝灰岩製で、141は砂岩製である。ともに円盤状の礫を使用し、一部に磨痕、あるいは敲打痕を残している。また、140は一部を欠損している。

二次加工のある石器（142～144）

３点出土し、３点とも黒耀石製である。142は不整形の縦長剥片を素材とし、裏面右側縁部に細かな調整加工を施してあり、その他の部分は素材剥片の状態のままである。143は不整形の縦長剥片を素材とし、裏面両側縁部に細かな調整加工を施してあり、その他の部分は素材剥片の状態のままである。144は台形状の剥片を素材とし、表面左側縁部及び裏面左側縁部に細かな調整加工が施してあり、その他の部分は素材剥片の状態のままである。

使用痕のある剥片（145～150）

６点出土し、すべて黒耀石製である。145は不整形の縦長剥片を素材とし、先端部及び右側縁部に使用痕が観察される。表面に原石面、裏面に素材剥離面を大きく残す。146は不整形の横長剥片を素材とし、使用痕は剥片先端部の左右両側縁部に観察される。表面に原石面及び素材剥離面、裏面に素材剥離面を残す。147は幅広の不整形の剥片を素材とし、表面に原石面及び素材剥離面、裏面に素材剥離面を残す。使用痕は縁辺に観察される。148は小型の縦長剥片を素材とし、両側縁部に使用痕が観察され、表裏面に素材剥離面を残す。149は大型の縦長剥片を素材とし、両側縁部に使用痕が観察され、表面に原石面、裏面に素材剥離面を大きく残す。150は不整形の縦長剥片を素材とし、両側縁部に使用痕が観察され、表面に原石面及び素材剥離面、裏面に素材剥離面を残す。

第２節　弥生時代の遺溝と遺物

１　竪穴住居跡

今回の調査で出土した竪穴住居跡のうち、弥生時代のものと思われる住居跡が３区から１基検出された。

１号住居跡（第64図）

３区Ｂ－15及びＣ－15グリッドで確認された。隅丸の長方形で長軸が約3.5ｍで短軸が約2.9ｍを測り、長軸の方位はＮ－12°－Ｅである。遺構はⅣ層（アカホヤ火山灰層）に切り込み、覆土は黒褐色でかなり硬く、ほとんど床面部分しか残っていなかったが、床面よりやや上に炭化物や焼土が広く散っていた。炉跡らしき部分は確認されたが、窪みの範囲は明確ではなく、焼土が深い部分まで点々と見られ、炉内には長さ４㎝、幅２㎝程の炭があった。また、灰の掻き出し部分は炉の南側になると思われる。柱穴は可能性のあるものとして一個だけ検出できたものの、確実なものではない。

主要な出土遺物を２点掲載した。１は長胴の甕で、くの字型に屈曲して外傾する口縁部をもち、胴部中央に最大径をもつ。底部を欠損しているが、脚台状になると思われる。口径19.8㎝、現存高43.2㎝を測る。内外面ともハケメの後にナデ調整を行っている。２は丸底の壺または鉢で、口縁部を欠損し、現存高9.1㎝を測る。内面はナデ調整、外面はハケメの後ナデ調整を行っており、内外面共にススが付着している。

２　土器（第65、66図）

包含層から出土した弥生土器のうち、主要なものを13点掲載した。以下、これらの土器について時期別に見ていきたい。

なお、個別の土器の計測値及び観察結果については「出土弥生土器観察表」（第９表）にまとめている。

（１）弥生中期土器

甕（１～３、５）

１～３は弥生中期の甕の口縁部である。１は口縁外側に分厚い突帯を貼り付けている。２、３は口縁外側の突帯が長く伸び、内側に小さな張り出しをもつ。また、口縁上面は平坦に仕上げられている。５は脚の一部である。

壺（４）

４は外反する壺の口縁部と思われる破片である。明確な時期の特定はできないが、弥生中期に含めた。

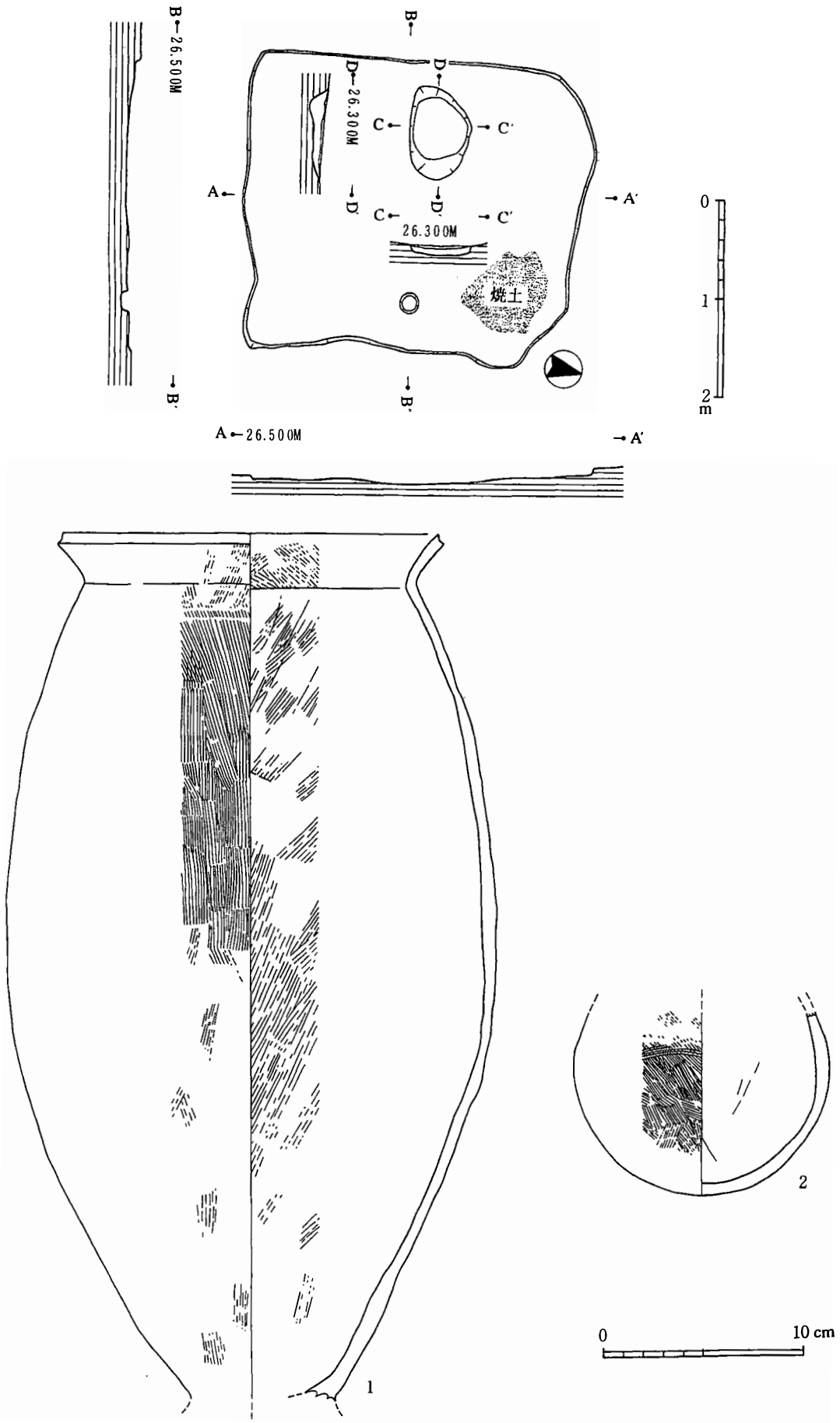
（２）弥生後期土器

甕（６～８）

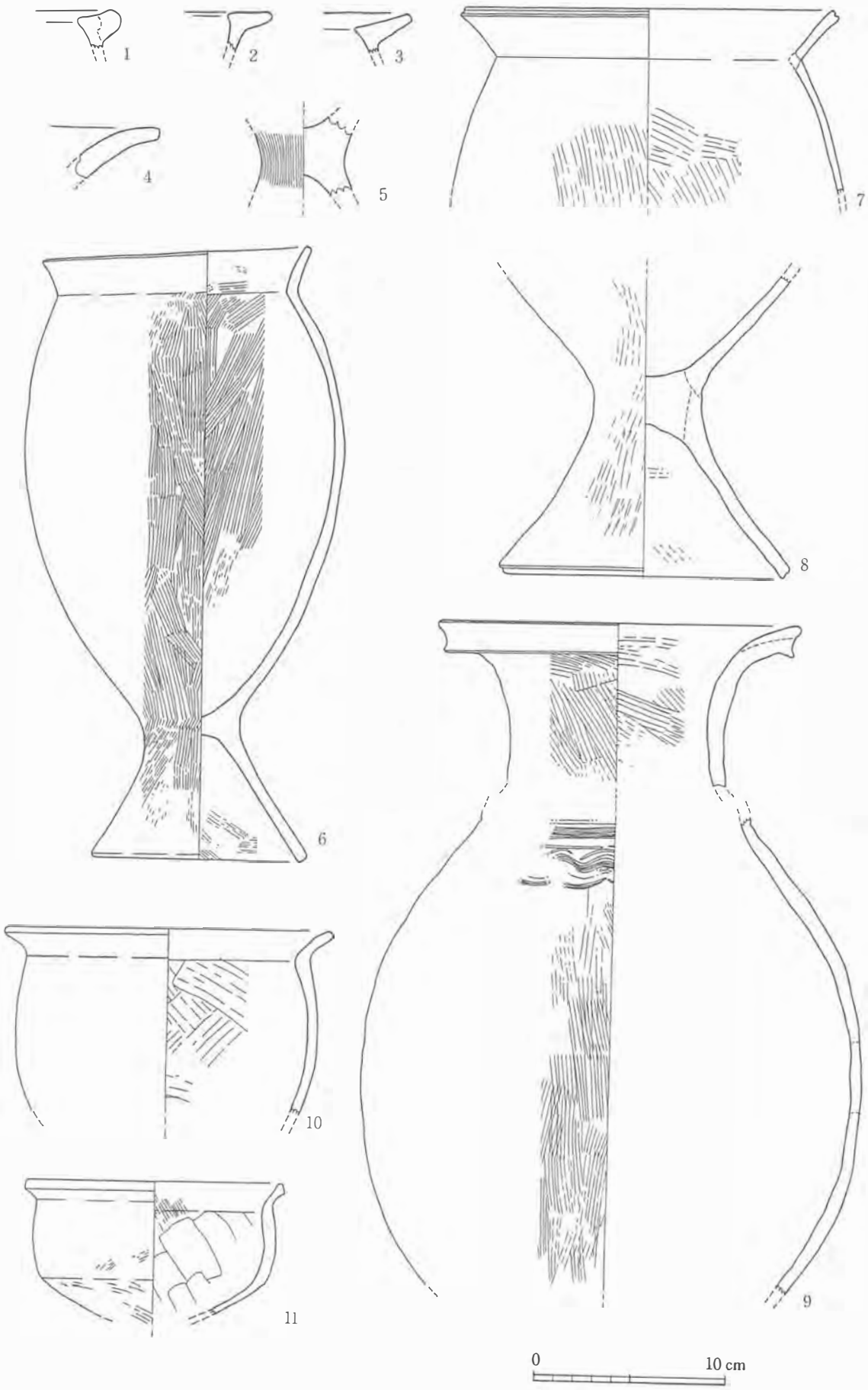
６は弥生後期の甕で、ほぼ全体が復原できた。胴部中位に最大径をもつ長胴形で、口縁はくの字型に屈曲し、やや高めの脚をもつ。内外面ともハケ目調整がされている。７は上半部、８は脚部であるであるが、同一個体になると思われる。口縁はくの字型に屈曲し、口唇は面をなして１条の沈線をもつ。内外面ともハケ目調整がされ、脚はやや高めである。

壺（９）

９は同一個体の口縁部と胴部である。口縁部は大きく外反し、口唇を分厚くし、凹線を施して複合口縁状



第64図　1号住居跡及び1号住居跡出土土器



第65図　出土弥生土器(１)

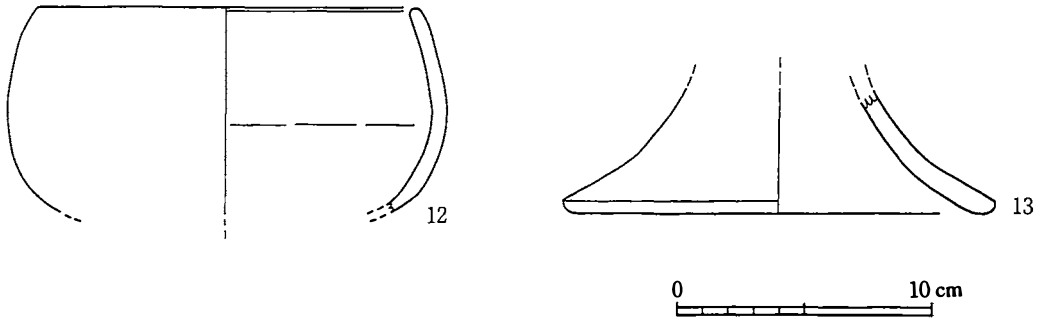
にしている。長胴形で、胴部中位に最大径をもち、内外面にハケ目調整がされている。頸部屈曲部の下に櫛描文をもつ。

鉢（10～12）

10は鉢形土器の上半部である。くの字型に屈曲し、外反気味の口縁をもつ。外面はナデ調整、内面は粗いハケ目調整が施されている。11は胴部下半で屈曲して立ち上がり、頸部から外反する口縁をもつ。口唇は面をなす。外面はハケの後ナデ調整、内面は粗いハケ目調整が施されている。12は内弯する直口口縁で、内外面ともナデ調整がされている。

高坏（13）

13は高坏あるいは甕の脚部である。



第66図　出土弥生土器（2）

第9表　出土弥生土器観察表

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調（内面）	整（外面）	色（内面）	調（外面）	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	甕			2.0	ナデ	ナデ	にぶ橙(5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/3)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1b	N-8	一括	
2	甕			2.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明黄褐(10YR7/6)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石を含む	良好	5	d-68	一括	
3	甕			2.0	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	微砂粒少量、石英、角閃石を含む	良好	1b	L-3	一括	
4	壺			2.7	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	粗砂粒多量、石英、長石を含む	良好	B	ヒ-15	一括	
5	甕			5.1	ナデ	ナデ、ハケ目	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	D	シ-13	一括	
6	甕	16.7	11.2	30.5	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄(2.5Y7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	キ-17	5526他	内・外面スス付着
7	甕	19.6		9.3	ナデ、ハケ目	沈線1条、ナデ、ハケ目	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	d-73	105他	
8	甕		15.0	15.3	ナデ	ナデ、ハケ目の後ナデ	明赤褐(5YR5/6)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	d-73	30他	外面スス付着
9	壺	18.8			ハケ目の後ナデ	櫛描文、ナデ、ハケ目	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	7	d-73	123他	外面スス付着
10	鉢	17.1		9.4	ナデ、ハケ目	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/2)	黒褐(10YR3/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	A	ウ-3	一括	
11	鉢	13.6		6.9	ハケ目の後ナデ	ハケ目の後ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	A	ア-3	10617他	
12	鉢	15.0		7.5	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR7/4)	微砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1b	M-3	一括	
13	高坏		17.0	4.8	ナデ	ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	微砂粒少量、石英、長石を含む	良好	A	ウ-5	10747	

第3節　歴史時代の遺構と遺物

1　溝

今回の調査では、全体で大小約50本の溝状遺構が検出された。時期は不確定であるが、覆土から近世の陶磁器片が出土しているので近世以降のものと考えられる。また、1区bの11号溝や進入道路部分D区の3号溝などの中程に幅約0.30m×厚約0.15mの黒褐色土の硬化面が検出された。これは、人々の往来により踏み固められた道路状遺構と考えられる。なお、これらの溝状遺構は概ね現在の田圃及び畑の畦道に並行しており、土地の所有上の区画であったとも考えられないことはない。

２　土器（第67図）

今回の調査で出土した歴史時代の遺物のうち、主要なものを７点掲載した。以下、これらの土器について器種別に見ていきたい。なお、個別の土器の計測値及び観察結果については「出土歴史時代土器観察表」（第10表）にまとめている。

土師器（１）

１は土師器の甕である。わずかに外反する口縁をもち、外面はナデ調整の後ヘラケズリ、内面はヘラケズリと指頭による調整が行われている。

須恵器（２、３）

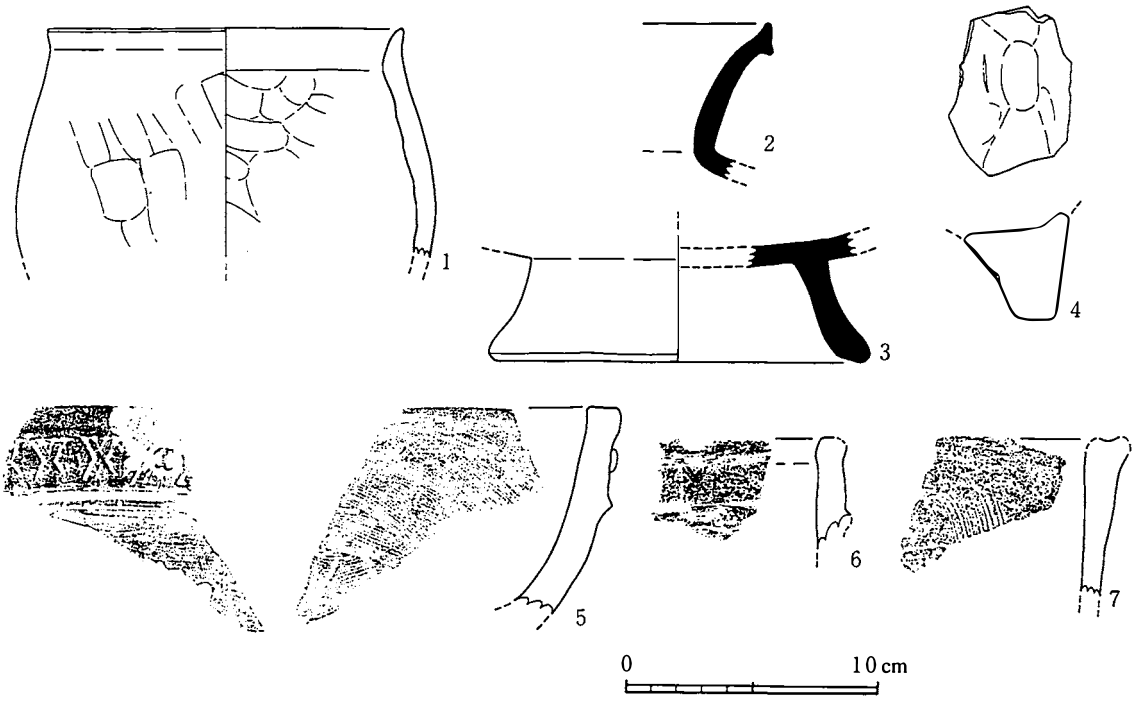
２は壺の口縁部の破片である。頸部で屈曲して外に開く口縁部をもち、口唇は複合口縁状になっている。３は鉢の脚部と思われる破片である。

瓦質土器（４～７）

４～７は鎌倉～室町時代の瓦質土器の破片である。４は火鉢の脚である。５、６は口縁部で、外面にＸ字状の印文や貼付文をもつ。７は摺鉢の口縁部片で、内面には摺り目がある。

第10表　出土歴史時代土器観察表

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	土師甕	14.0		8.9	ケズリ、摺頭痕	ナデ、ケズリ	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR5/2)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	B	ヒ-16	溝一括	
2	須恵壺			6.0	ナデ	沈線１条、ナデ、	灰(5Y6/1)	灰(5Y5/1)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	8b		溝一括	ロクロ使用
3	須恵鉢	14.6		5.0	ナデ	ナデ	灰(5Y6/1)	灰(5Y6/1)	微砂粒少量を含む	良好	7	Z-73	溝一括	外面スス付着
4	瓦質			4.1		ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	D	シ-14	溝一括	
5	瓦質			8.1	ハケ目	貼付文、印文、ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微砂粒少量、雲母を含む	良好	7	X-73	一括	外面スス付着
6	瓦質			4.4	ナデ	印文	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	微砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1b	K-3	一括	
7	瓦質			9.3	ナデ、摺目	ナデ	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	粗砂粒多量、石英、長石を含む	良好	B	ヒ-16	溝一括	



第67図　出土歴史時代土器

第Ⅲ章　まとめ

1　縄文時代

縄文時代のものと考えられる竪穴住居跡は合計17基検出した。切り合いもあり、確実に大きさを判断できないものもあるが、平面形は円形を呈しているものがほとんどで、遺構の規模は直径が５～６ｍとほぼ平均している。このうち、炉のあるものは７基であり、直径が60～100㎝、床面からの深さが20～60㎝のものがほとんどであった。住居跡内からの出土土器を見ると、後期後半から晩期の土器が出土しており、住居跡の多くはこの時期に位置づけることができる。特に、多くの土器が出土した２号住居跡と４号住居跡では、前半の天城式にあたる時期の土器が多くを占めている。

円形周溝遺構は合計９基検出された。遺構の形は５号を除くとほぼ円形である。遺構の規模は３号だけは特別に大きいが、他を平均すると外径が３～５ｍ、内径が２～４ｍ、溝の深さは浅いもので0.1ｍ､深いものでは0.6ｍあった。多くの遺構からは遺物がほとんど出土せず、明確な時期等は不明である。しかし､１号円形周溝遺構からは、縄文時代晩期の土器が多数出土した。器形の特徴から、ほとんどが天城式の土器と考えられ、１号円形周溝遺構はこの時期に位置づけることができる。このことから、他の円形周溝遺構もこの時期にあたるものと考えられる。

埋甕は２基検出された。２基とも天城式の深鉢形土器で、１基は２号住居跡のすぐ近く、もう１基は14号住居跡の内部から検出されている。

土坑は数十基が検出されたが、形が不定形で、実測に耐え難い土坑や溝状遺構と区別が付かないような不明な遺構であったため、本書には１基だけを記載した。平面は楕円形で、外径約1.0×1.3m、底径約0.7×1.0m、深さ約0.5mで、床面に直径約10㎝の小穴を７個検出した。このような土坑は東日本で検出されている「Ｔピット」と呼称されているものと同じととらえられ、陥し穴と考えられるものであろう。県内における出土例は少ないが、近年では大丸・藤ノ迫遺跡や狸谷遺跡や白鳥平Ａ遺跡などで検出されている。

包含層からは、縄文時代早期前半の押型文土器、中期の並木式・阿高式、後期前半の南福寺式・出水式・御手洗Ａ式・北久根山式・福田Ｋ２式、後期後半～晩期の御領式・天城式・古閑式・突帯文土器などの土器と、石鏃・尖頭状石器・石匙・石錐・削器・楔形石器・円盤状石器・打製石斧・磨製石斧・石錘・砥石・二次加工のある石器・使用痕のある剥片・磨石・敲石などの石器が出土している。出土土器のうち大部分が後期後半～晩期の黒色磨研系の土器で、特に天城式に当たる時期のものが主体をなしている。また、縄文時代後期に属すると考えられる剥片鏃が数点出土している。

以上のことから、古閑北遺跡における縄文時代の集落は、後期から晩期にかけて形成され、天城式にあたる時期に最盛期を迎えたものと推定される。特に１区ｂにおいては住居跡14基、円形周溝遺構１基、埋甕２基が確認され、また石器も調査区の南側から多くが出土する傾向にあることから、この調査区がある遺跡の南側が当時の集落の中心であった可能性が強い。また、この付近には湧水地があり、当時の人々はこの湧水を利用して生活していた可能性もある。一方、遺跡西側の５区・６区・７区からは円形周溝遺構が計５基確認されており、集落とは別の性格を持つ空間であった可能性がある。また、石斧の製造過程で製造を放棄したような石斧が数点見受けられ、この地で石斧を製造する集団が存在していた可能性も考えられる。

サヌカイト製の有舌尖頭器について

１区ｂからはサヌカイト製の有舌尖頭器が１点出土した。撹乱からの出土であり、層位などは不明である。この有舌尖頭器は、東日本を中心に縄文時代草創期に分布する特徴的な石器であり、旧石器時代終末期に同

地域に展開する神子柴・長者久保文化に認められる槍先形尖頭器から形態変遷したことが指摘されている。また、この種の石器の存続期間は、比較的短く、九州では数例認められるのみで、草創期に組成することは稀である。古閑北遺跡においては、草創期に属する遺物としては、有舌尖頭器のみであり同時期の組成は不明である。検出された石器の形態は、基部にわずかな舌部をもつ「柳又型」に分類できる属性を有している。このような形態の有舌尖頭器が組成される遺跡としては、大分県目久保第１遺跡，愛媛県上黒岩洞穴等があげられ、隆起線文土器を伴出している。そのため、古閑北遺跡の有舌尖頭器の所属時期についても同様の時期を当てることが可能であろうか。

縄文晩期土器を伴う円形周溝遺構について

今回の調査において、合計９基の円形周溝遺構が確認された。また、隣接する九州縦貫道の益城熊本インターチェンジ建設事業に伴って行われた、遺跡の南西部および西隣の梨木遺跡の調査においても７基の円形周溝遺構が確認されている。このことから、遺跡周辺部一帯には多くの円形周溝遺構が分布しているものと推定される。

円形周溝遺構は、共伴土器をもつものが少なく、付随する施設も持たないものが多いことから、その性格はよく分かっていない。ただ、弥生土器を伴出する例があることや、弥生の住居跡と同時に確認されることが多く、弥生時代のものという考え方が一般的である。また、梨木遺跡においても、明確な時期の特定はできなかったが、１基から弥生後期の甕の脚部片が出土したことから、弥生時代のものとして扱っている。

一方、今回の調査において、１号円形周溝遺構から出土した土器は、ほとんどが周溝の覆土中からのもので、全て破片であるが、残存状態の良いものもある。また、時期は縄文晩期の天城式にあたるものがほとんどで、弥生時代のものは出土していない。このことから、１号円形周溝遺構は縄文時代晩期のものである可能性が高い。縄文時代晩期土器を伴出する円形周溝遺構の例は、現在のところ他に見ないが、このことによって、改めて時期についての再検討が必要になるものと思われる。

２　弥生時代

３区から弥生時代の住居跡が１基確認された。長軸3.5ｍで短軸2.9ｍを測る隅丸の長方形で、出土土器は後期のものである。また、包含層からは、中期から後期にかけての土器が出土している。このうち、大部分が後期に属する土器であり、中心的な時期は後期と見て良さそうである。

他に住居跡を検出することはできなかったものの、弥生時代にもこのあたりに集落が存在したことは確かなようである。ただ、遺構の数や出土遺物の量から見ると小規模なものであったと推定される。

３　歴史時代

全調査区から大小約50本の溝状遺構が検出された。時期は不確定であるが、覆土から近世の陶磁器片が出土しているので、近世以降と考えられる。また、１区ｂの11号溝や進入道路部分Ｄ区の３号溝などの中程に幅約0.30ｍ×厚約0.15ｍの黒褐色土の硬化面が検出された。これは、人々の往来により踏み固められた道路状遺構と考えられる。なお、これらの溝状遺構は概ね現在の畑地の区画割りに沿っており、この地の畑地が形成されるようになってきた近代以降のものと思われる。

参考文献

『益城町史』通史編　益城町　1990

『角川日本地名大辞典43熊本県』角川書店　1987

『熊本大百科事典』熊本日日新聞社　1982

『熊本県の地名』日本歴史地名体系　1985

鈴木道之助『石器入門事典　縄文』柏書房　1991

江坂輝彌他『日本考古学小辞典』ﾆｭｰ･ｻｲｴﾝｽ社　1983

大川清他『日本土器事典』雄山閣　1996

戸沢充則『縄文時代研究事典』東京堂　1994

可児通宏「押型文系土器様式」『縄文土器大観』小学館　1989

新東晃一「九州貝殻文系土器様式」『縄文土器大観』小学館

田中良之「阿高式土器様式」『縄文土器大観』小学館

本田道輝「市来・一湊式土器様式」『縄文土器大観』小学館

松永幸男「九州磨消縄文系土器様式」『縄文土器大観』小学館

島津義昭「黒色磨研系土器様式」『縄文土器大観』小学館

緒方勉『福富・横道遺跡調査報告』益城町教育委員会　1993

『伊木力遺跡』同志社大学文学部文化学科　1990

平岡勝昭『竜田陳内遺跡』熊本県教育委員会　1988

木崎康弘『狸谷遺跡』熊本県教育委員会　1987

濱田彰久『庵ノ前遺跡Ⅲ』熊本県教育委員会　1997

宮坂孝宏『白鳥平Ａ遺跡』熊本県教育委員会　1993

宮坂孝宏『白鳥平Ｂ遺跡』熊本県教育委員会　1994

坂田和弘『深水谷川遺跡』熊本県教育委員会　1994

坂田和弘『鶴羽田遺跡』熊本県教育委員会　1998

木崎康弘『無田原遺跡』熊本県教育委員会　1995

木崎康弘『蒲生・上の原遺跡』熊本県教育委員会　1996

木崎康弘他『狩尾遺跡群』熊本県教育委員会　1993

古森政次『ワクド石遺跡』熊本県教育委員会　1994

丸山伸治他『陣山遺跡』熊本県教育委員会　1996

丸山伸治他『大原天子遺跡』熊本県教育委員会　1993

隈昭志他『古保山・古閑・天城』熊本県教育委員会　1980

片岡宏二「「周溝状遺構」の検討（その４）」『福岡考古第17号』福岡考古懇話会　1996

写 真 図 版

1 区 a 全景及び遺物出土状況

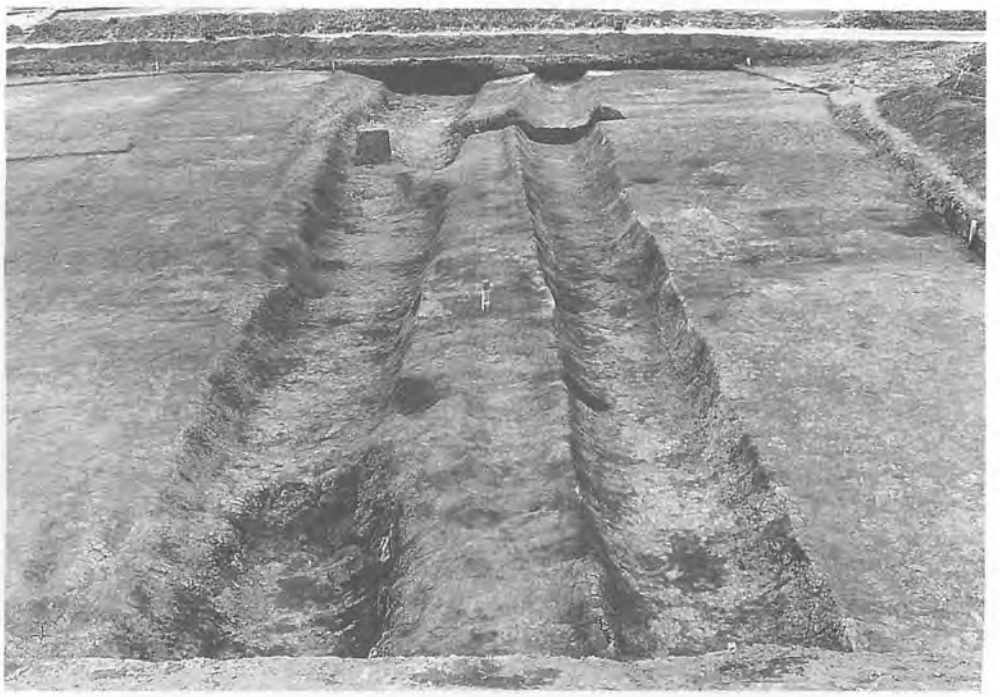
1 区 a 遺物出土状況

2 区 b 全景（完掘）

図版２

２区ｂ遺物出土状況

２区ｂ磨製石斧出土状況



４区ａ全景及び12・13号溝（完掘）

７区全景及び31号溝（完掘）

８区遺物出土状況

８区全景（完掘）

図版４

進入道路Ａ区全景（完掘）と作業員さん

進入道路Ｂ区全景（完掘）

進入道路Ｄ区全景（完掘）

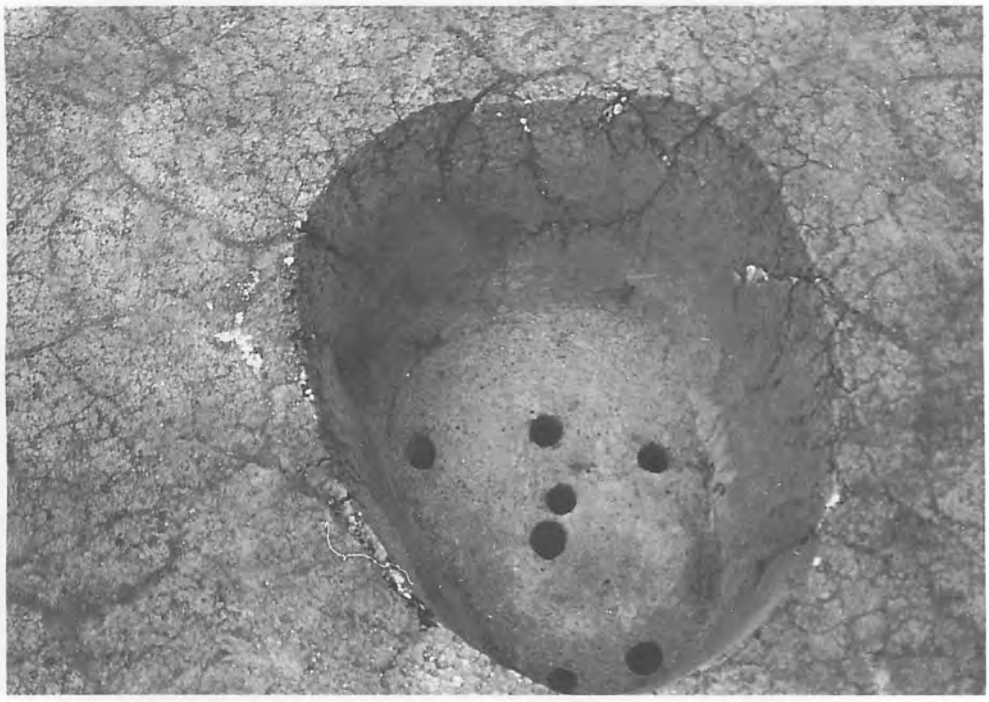
21号溝（完掘）

22・33号溝（完掘）

34号溝（完掘）

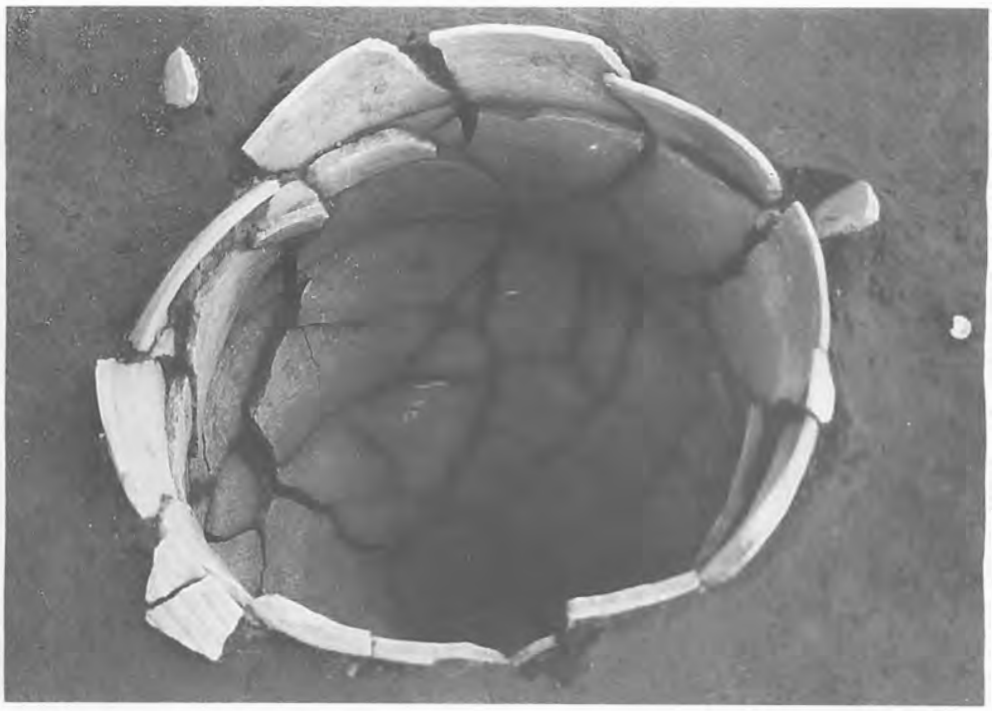
図版6

3号土坑遺物出土状況

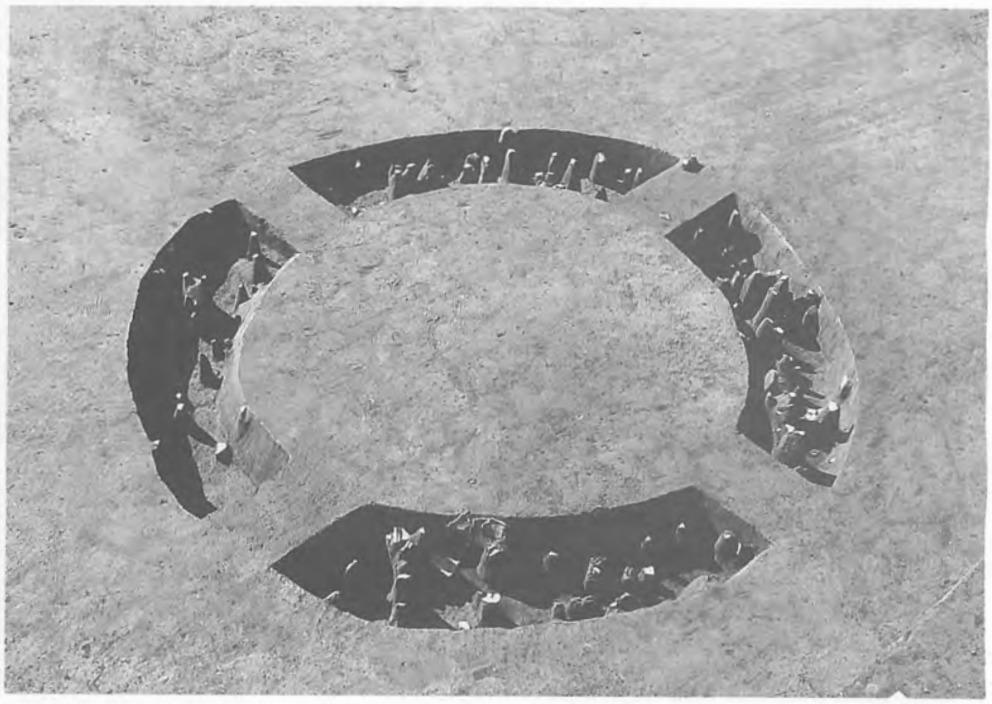


33号土坑（完掘）

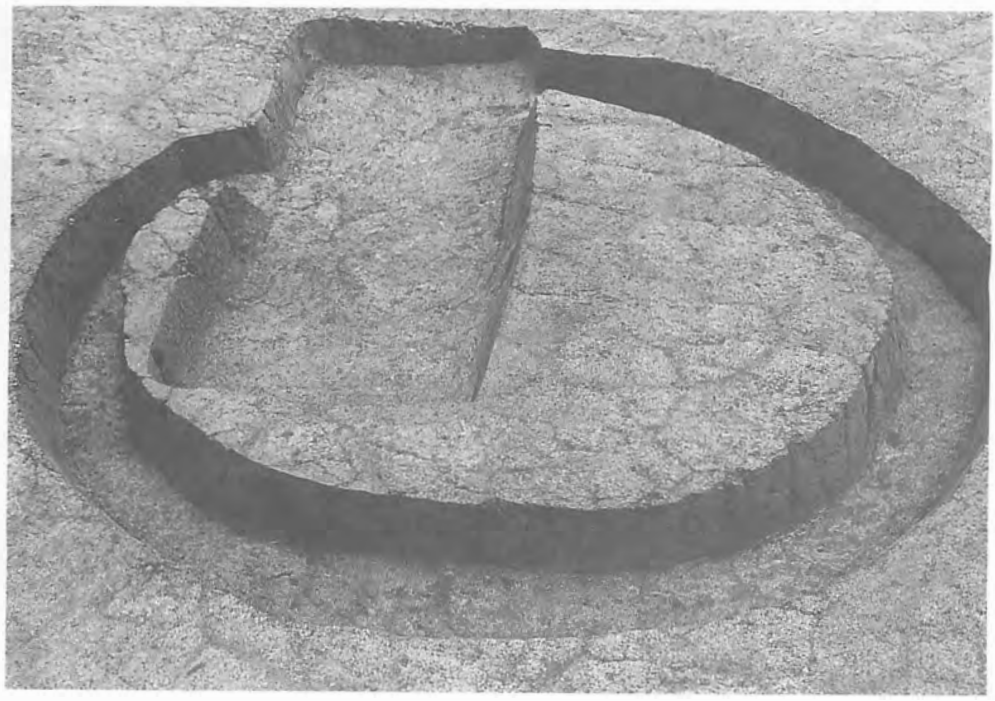
2号埋甕出土状況



３号埋甕出土状況

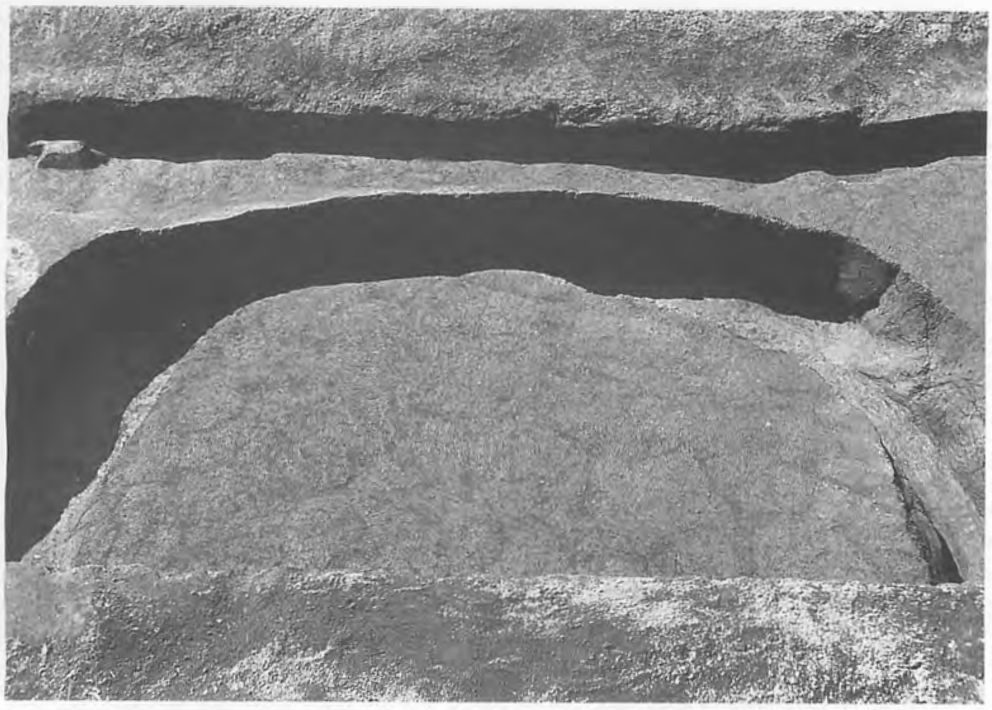


１号円形周溝遺構（遺物出土状況）

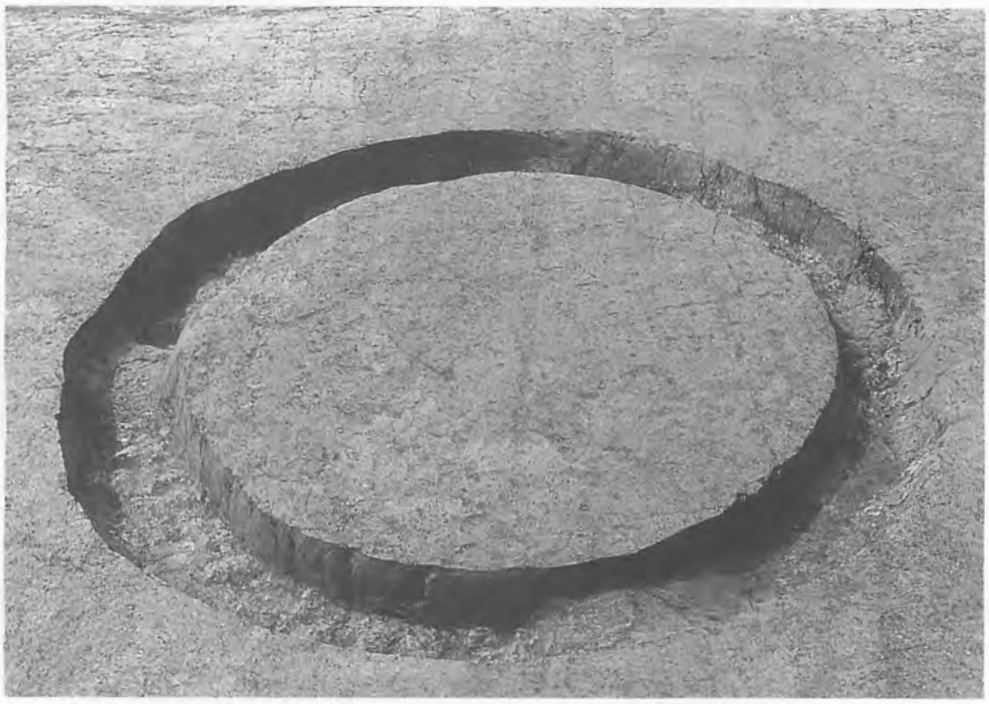


２号円形周溝遺構（完掘）

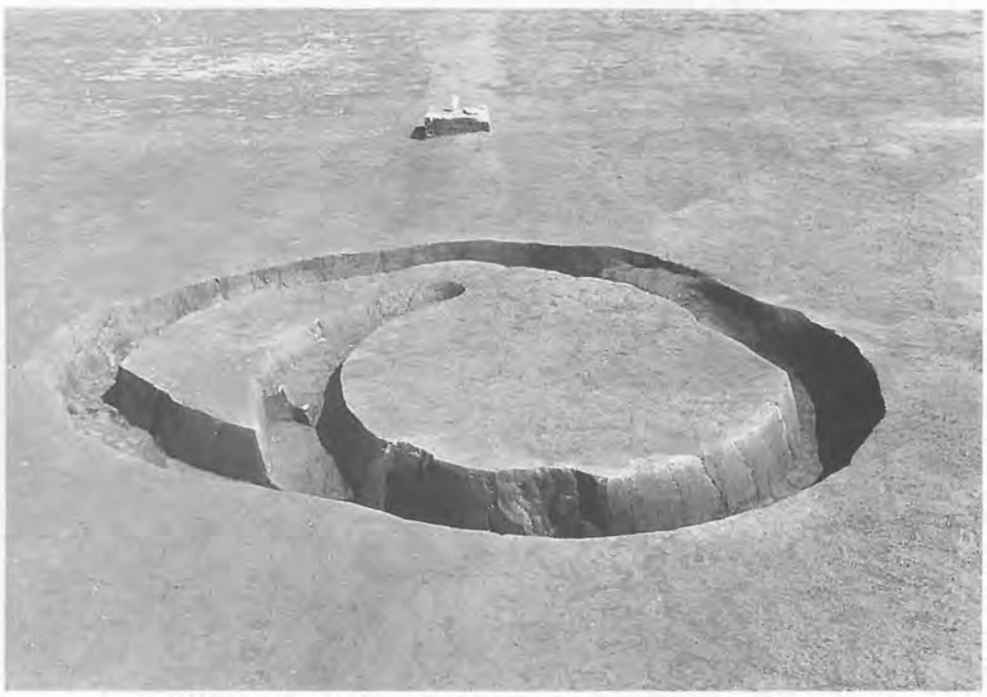
図版８



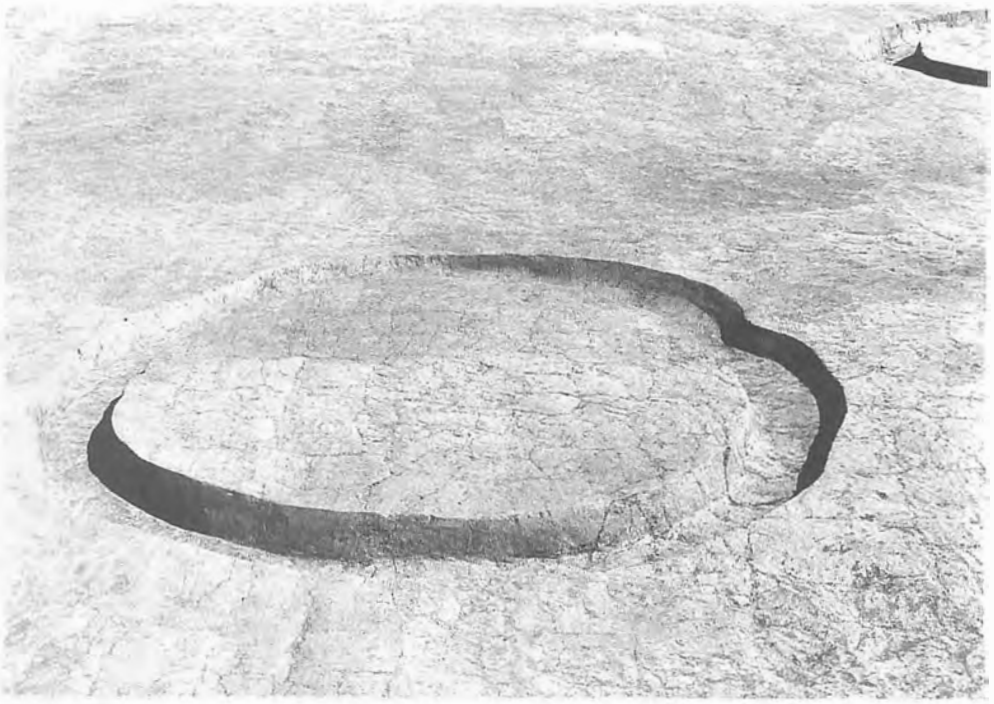
３号円形周溝遺構（完掘）



４号円形周溝遺構（完掘）

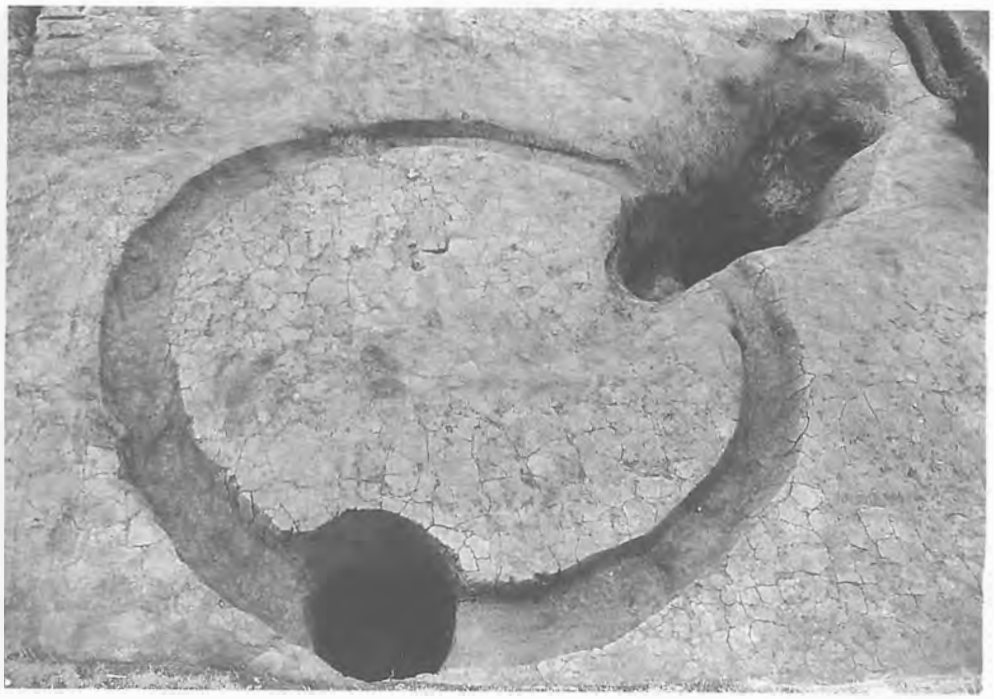


５号円形周溝遺構（完掘）



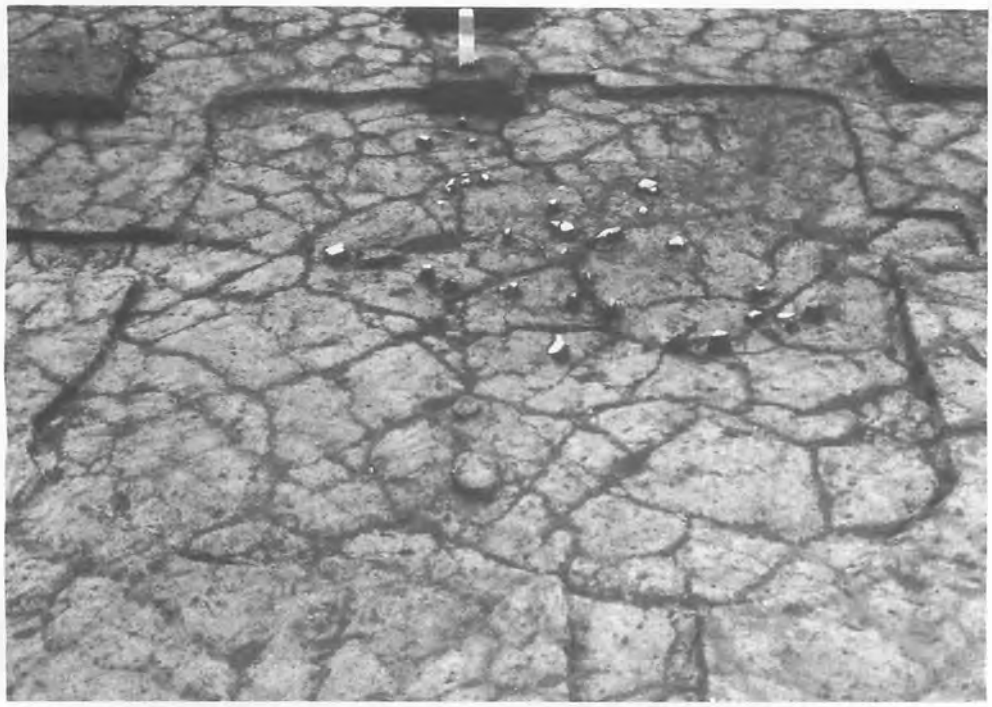
7 号円形周溝遺構（完掘）

8 号円形周溝遺構（完掘）



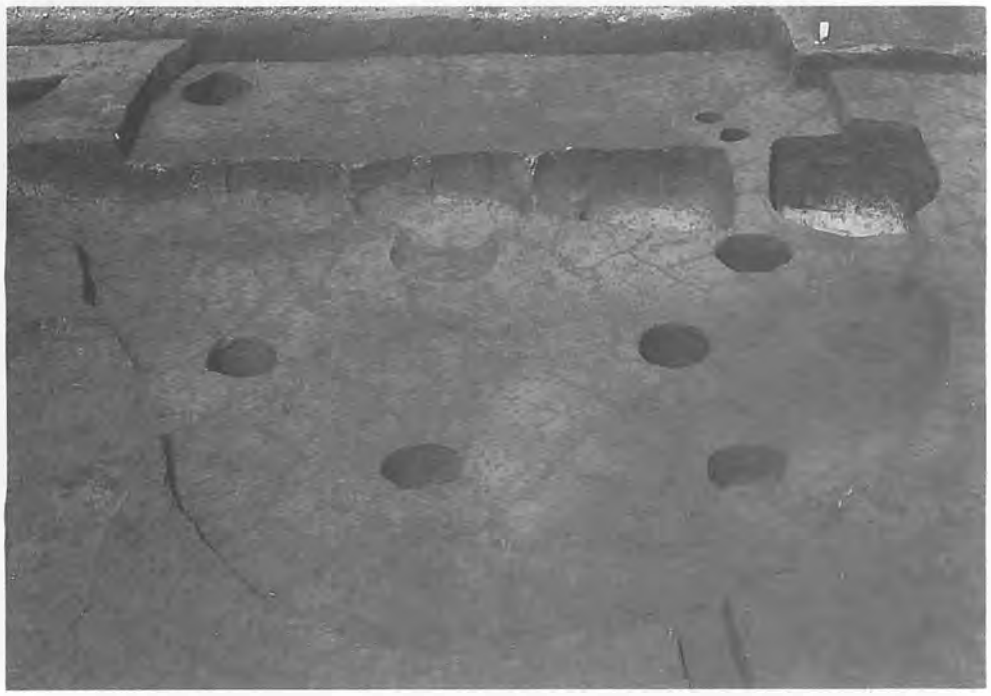
9 号円形周溝遺構（完掘）

図版10

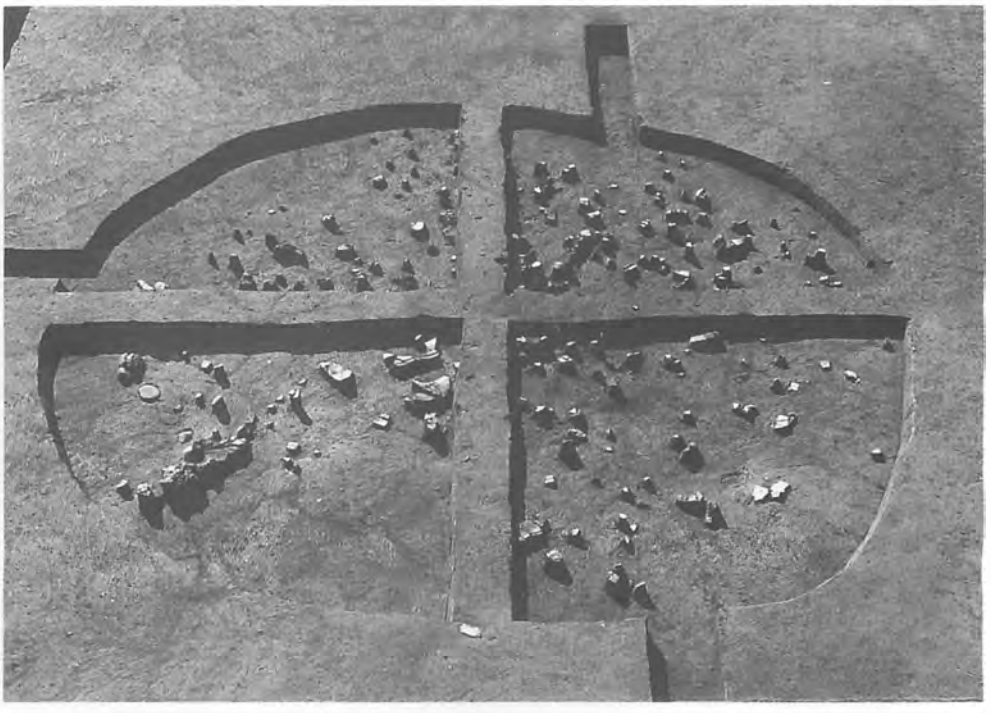


1号住居跡（遺物出土状況）

2号住居跡（完掘）



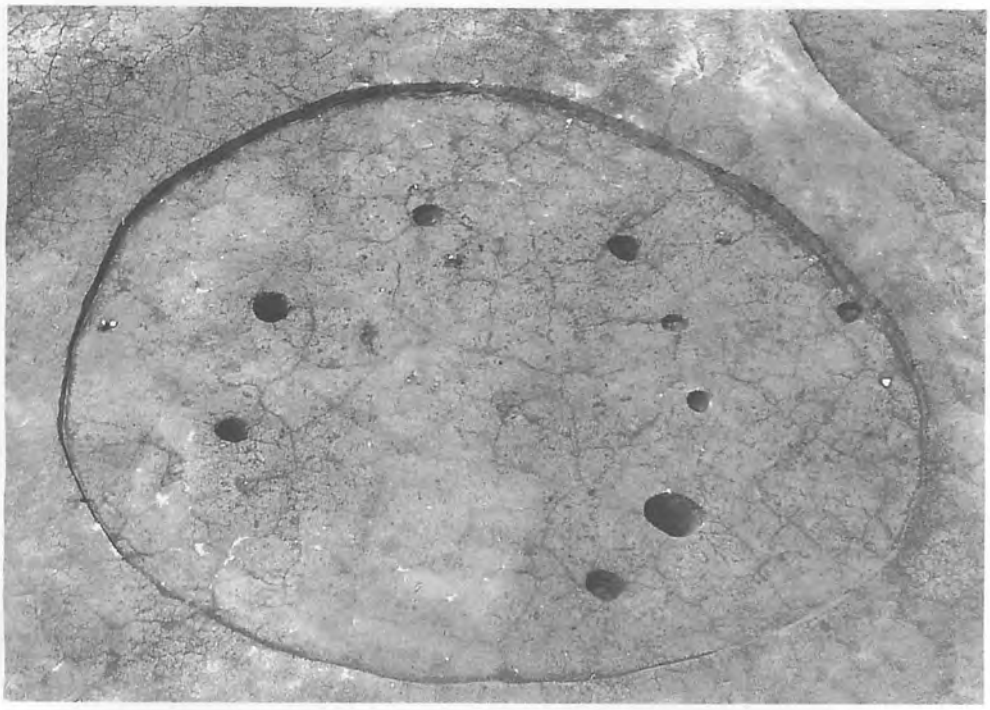
3・15号住居跡（完掘）



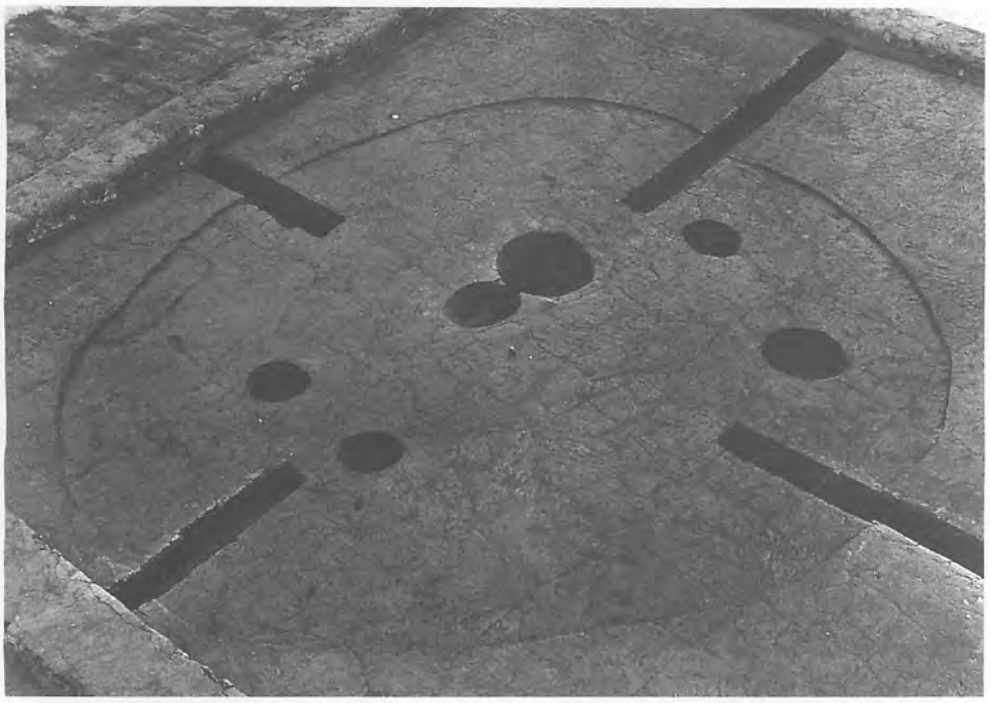
4号住居跡（遺物出土状況）

4号住居跡（粘土塊）

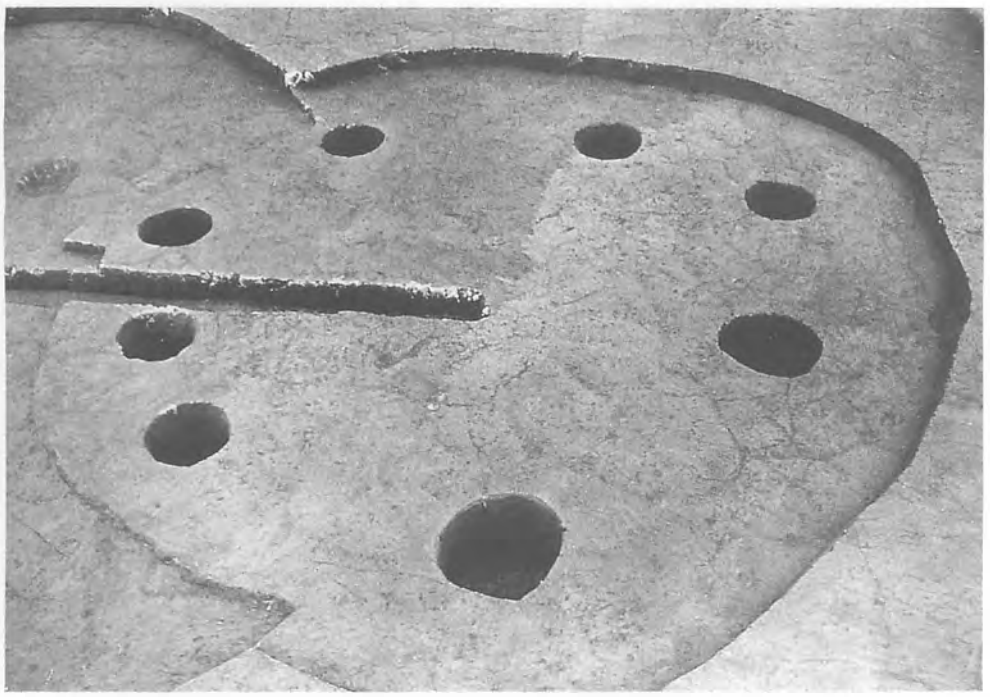
4号住居跡（炉の断面）



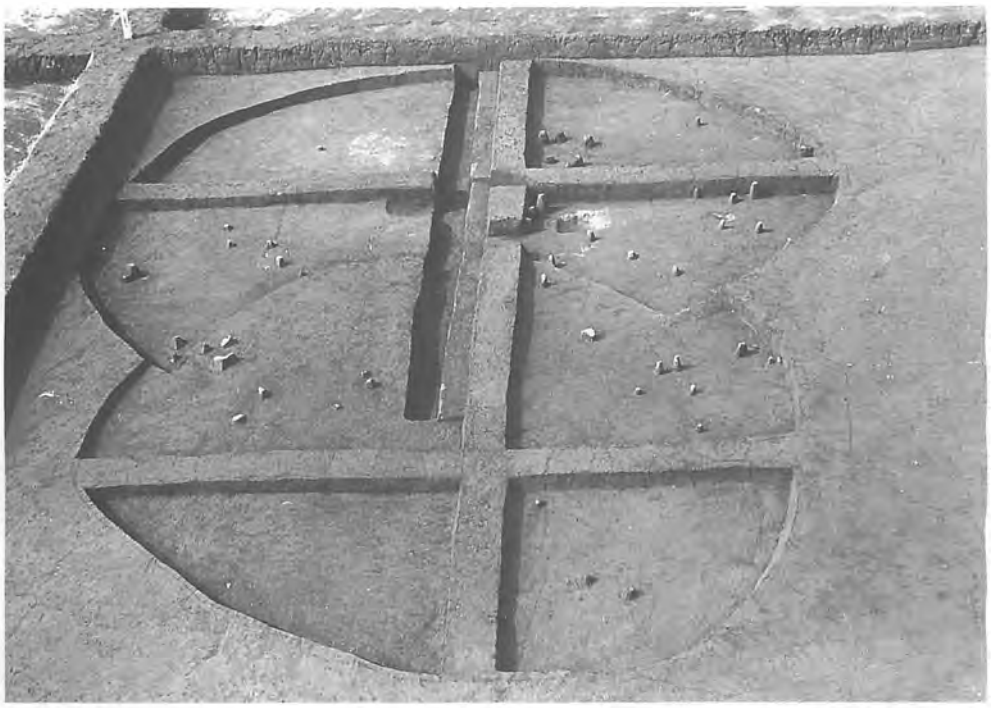
5号住居跡（完掘）



6号住居跡（完掘）

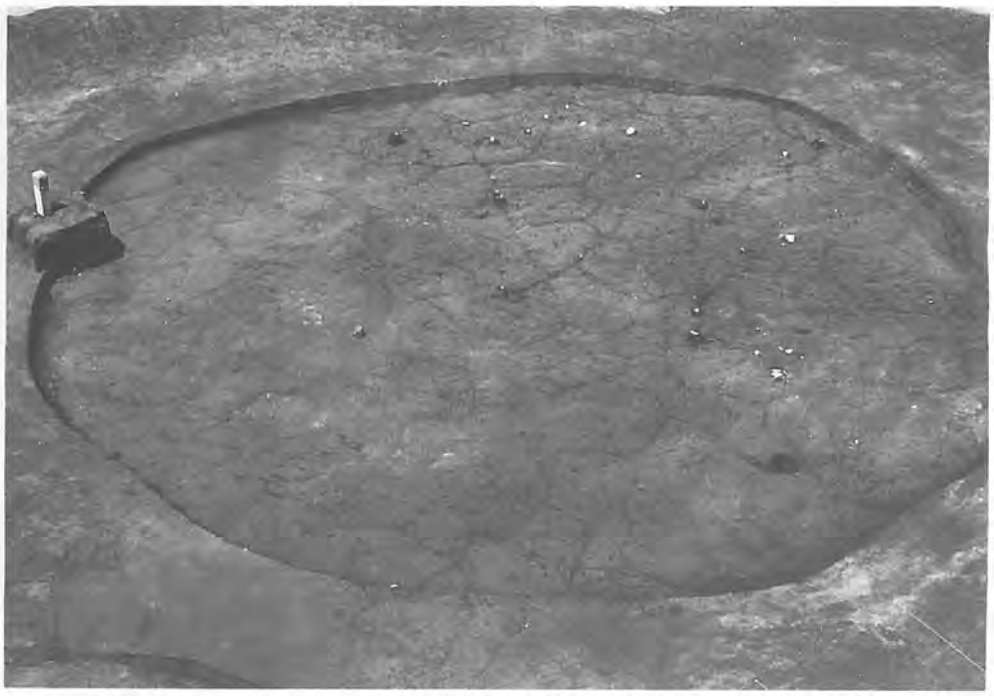


7号住居跡（完掘）



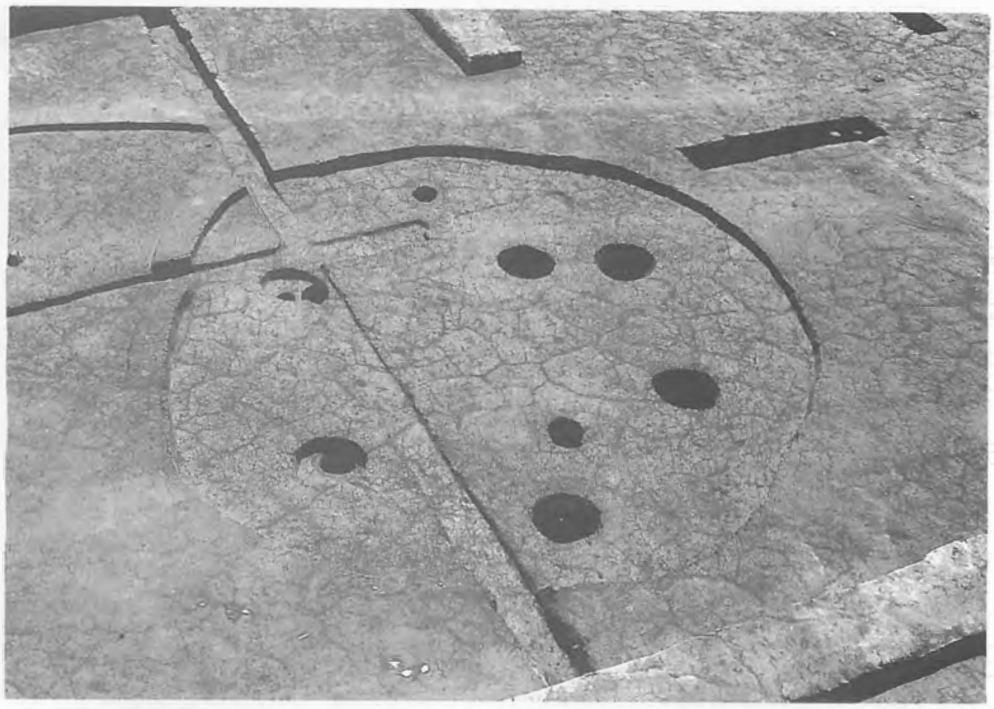
7・8号住居跡（遺物出土状況）

9・11・12号住居跡（完掘）

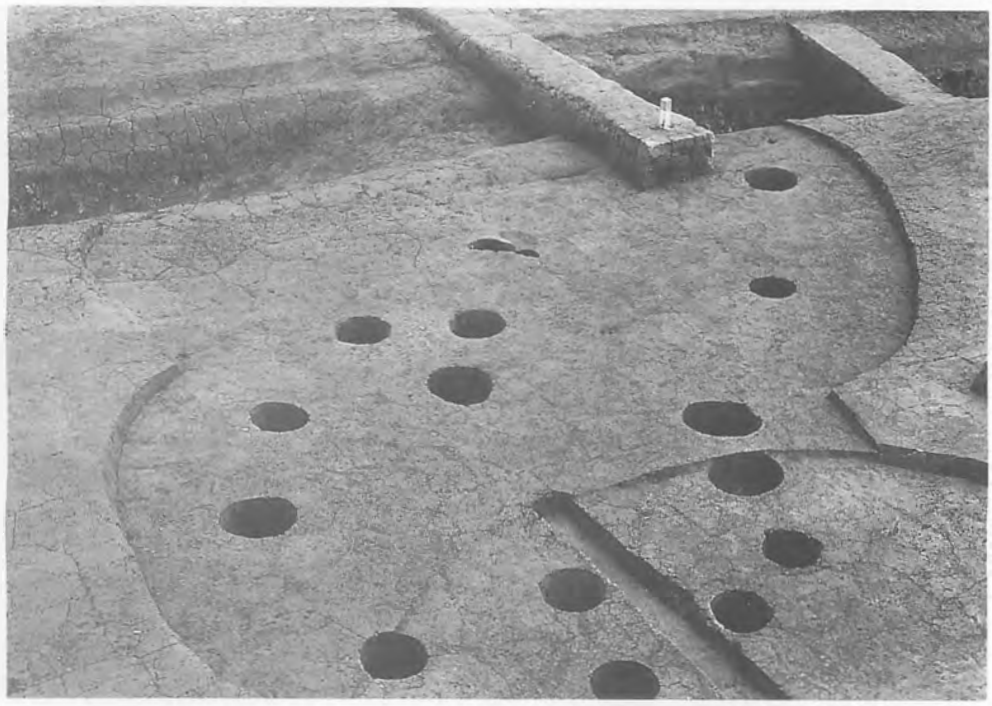


10号住居跡（遺物出土状況）

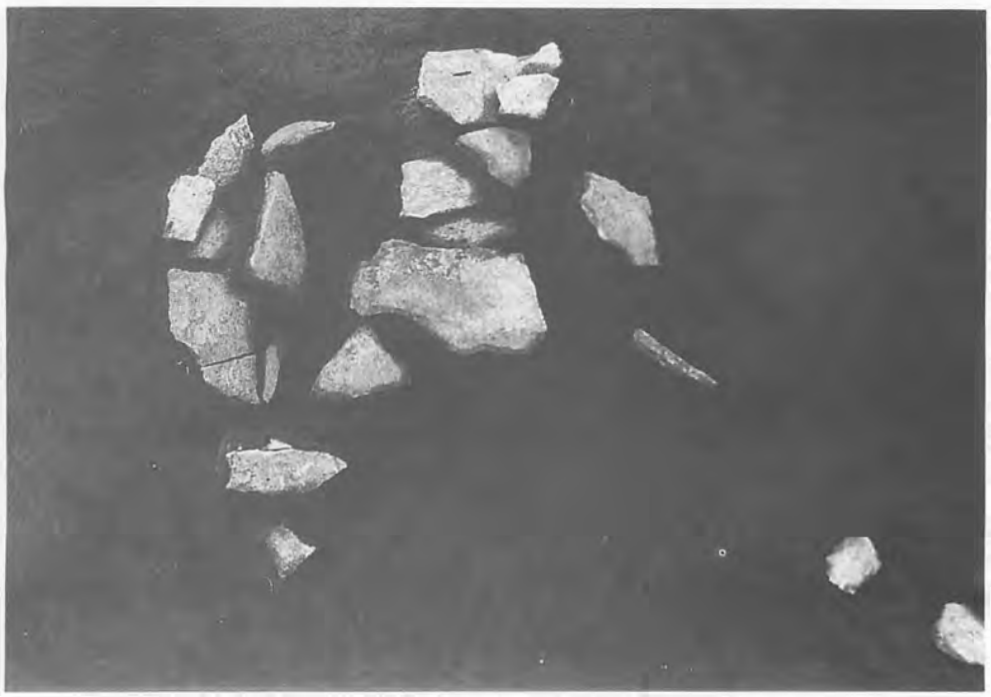
図版14



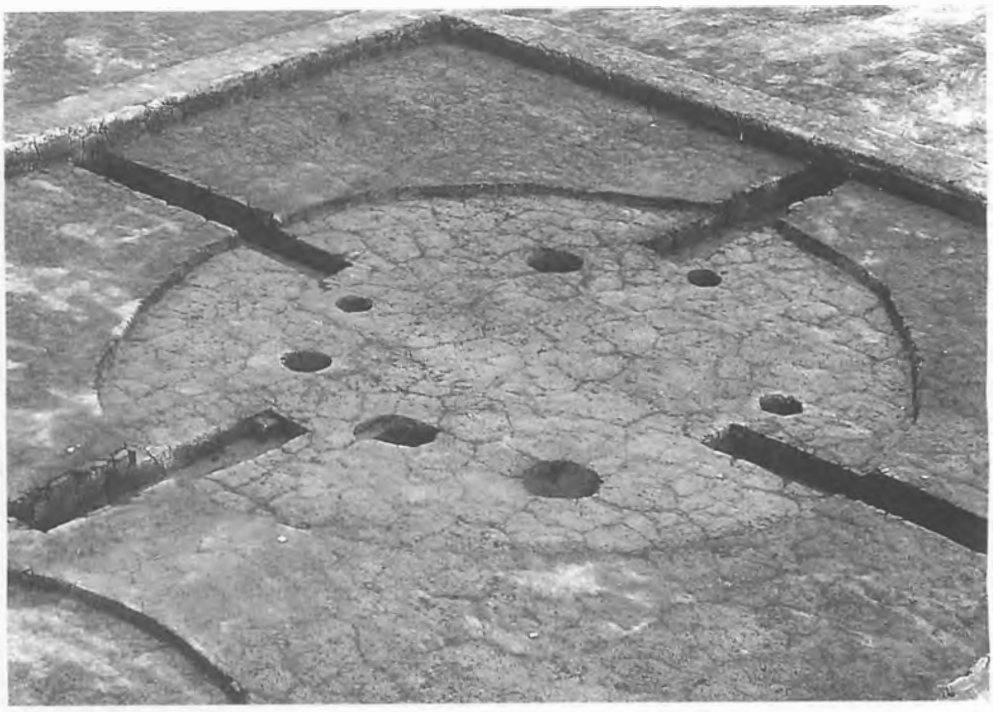
11号住居跡（完掘）



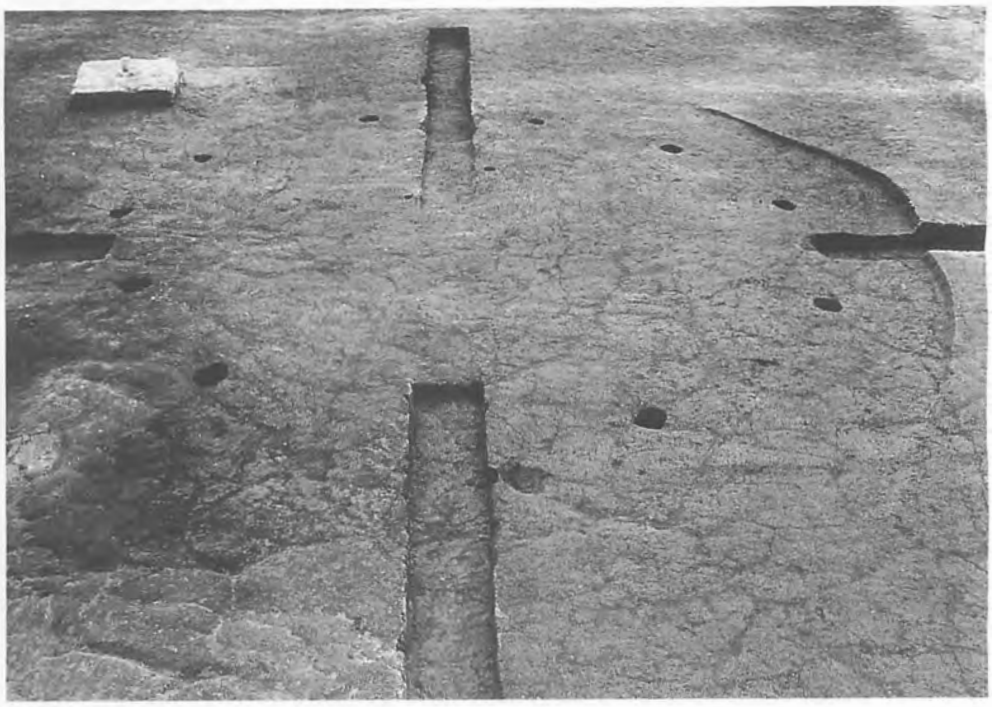
7・8・13号住居跡（完掘）



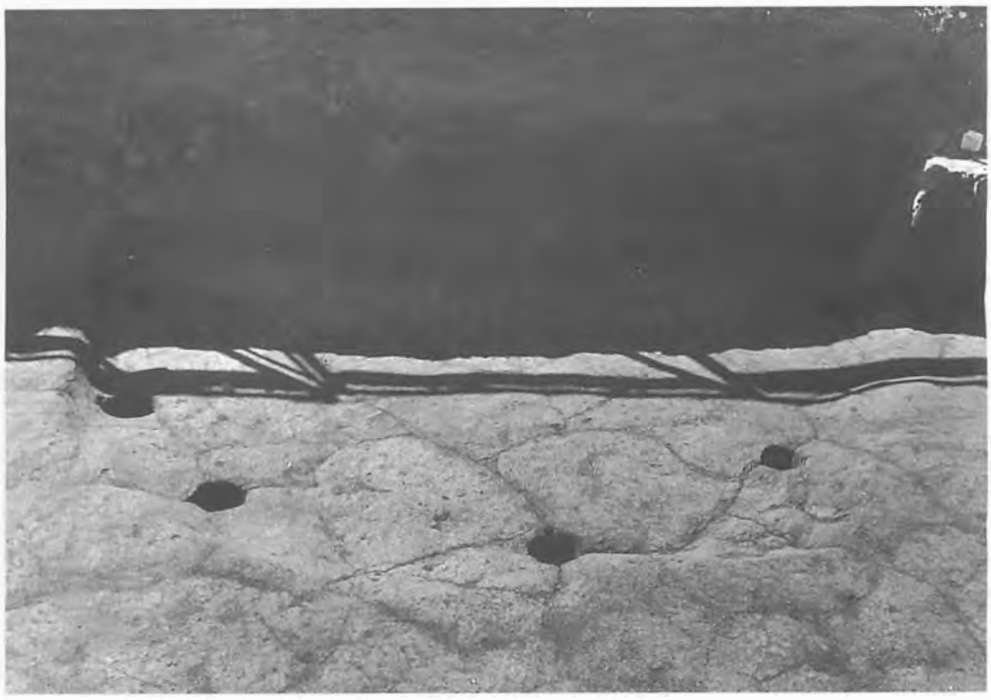
14号住居跡（遺物出土状況）



14号住居跡（完掘）



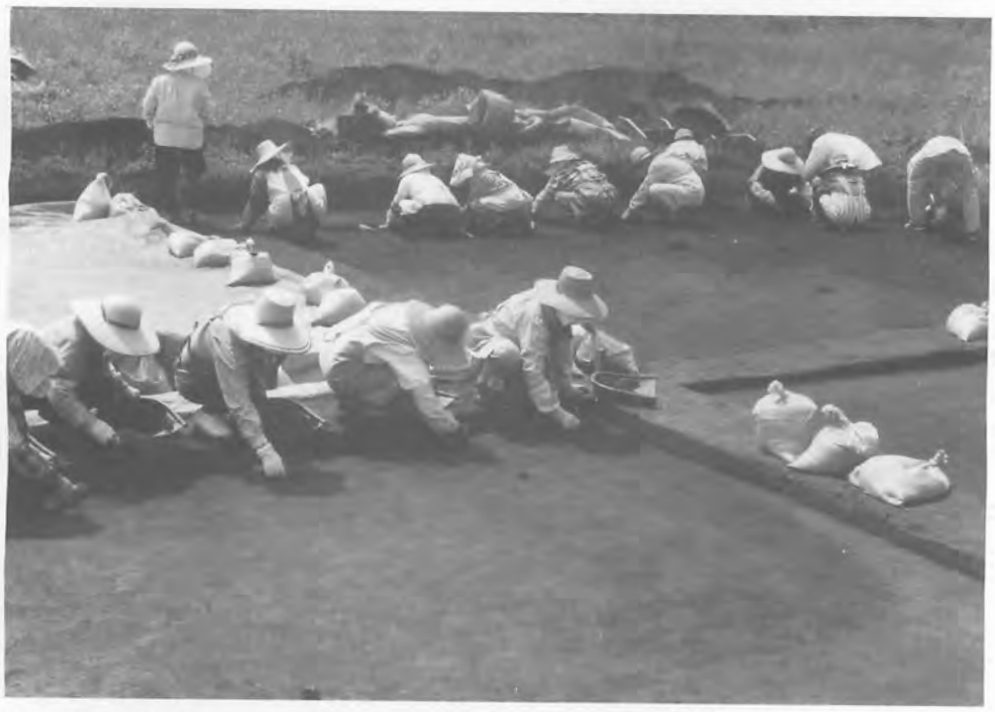
16号住居跡（完掘）



17号住居跡（完掘）

図版16

18号住居跡（完掘）

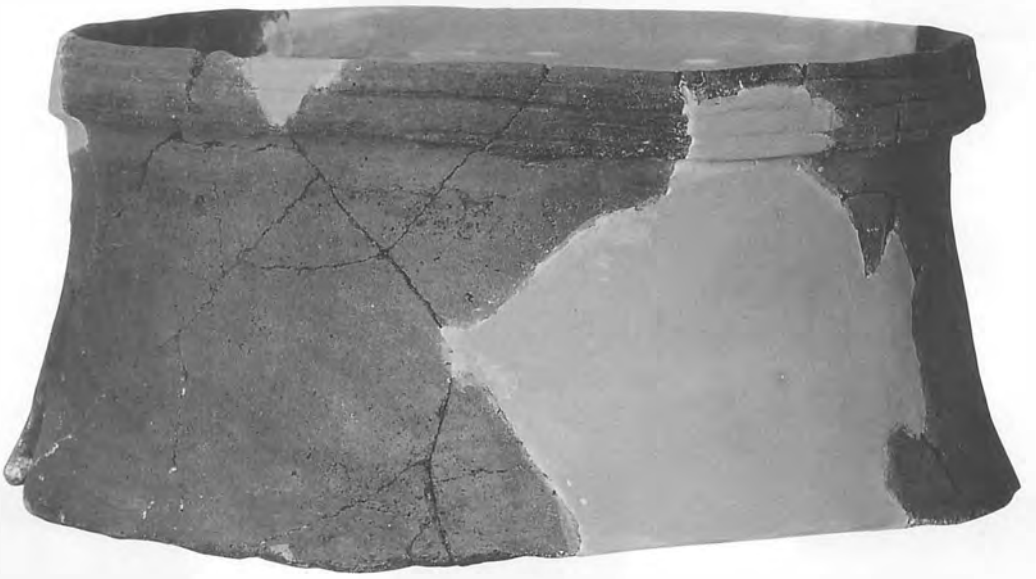


作業風景

作業員さん

住居跡出土土器（1～6、8～11、14、15）

7



23

住居跡出土土器（7、23）

12

16

17

18

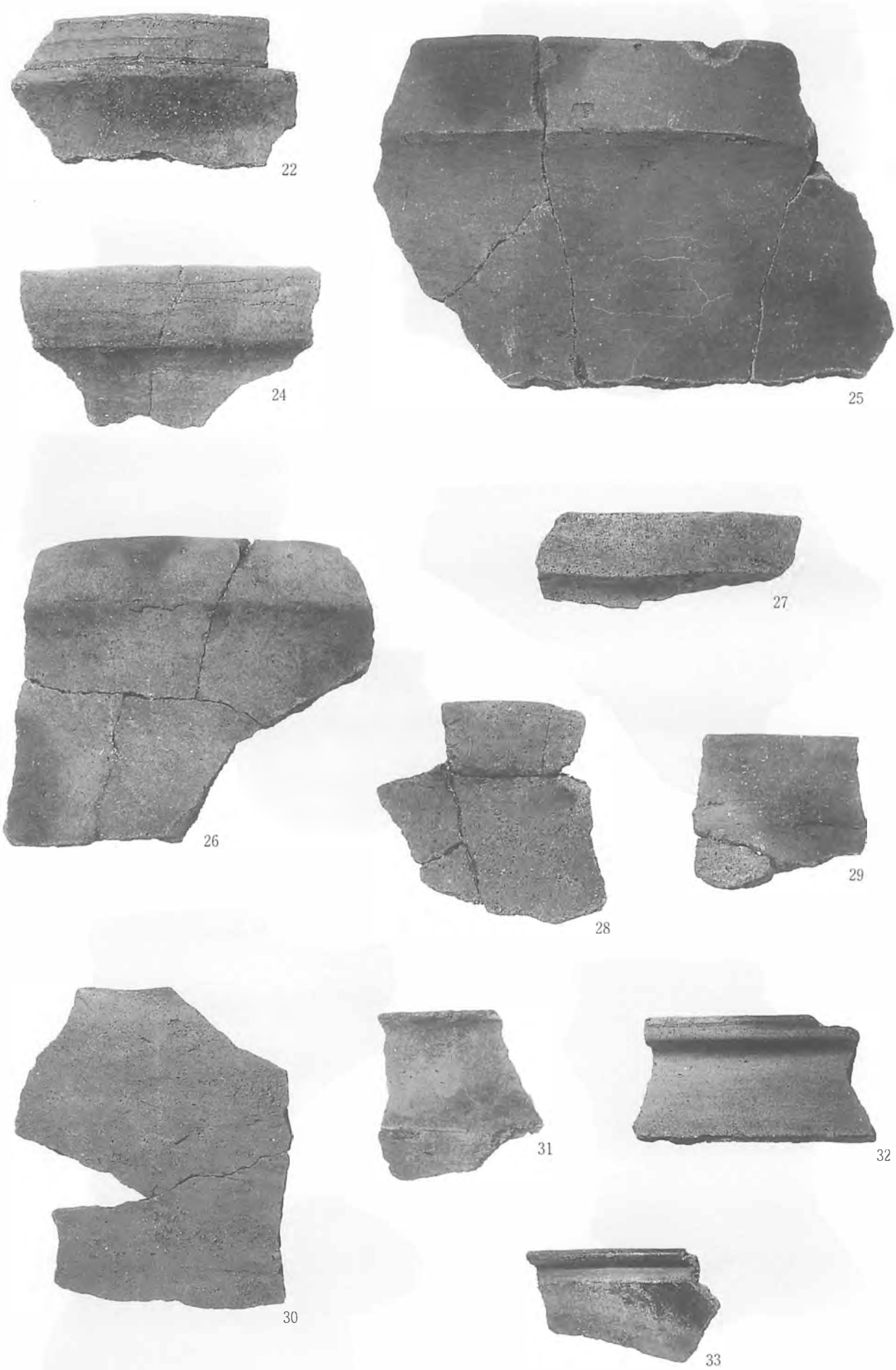
13

19

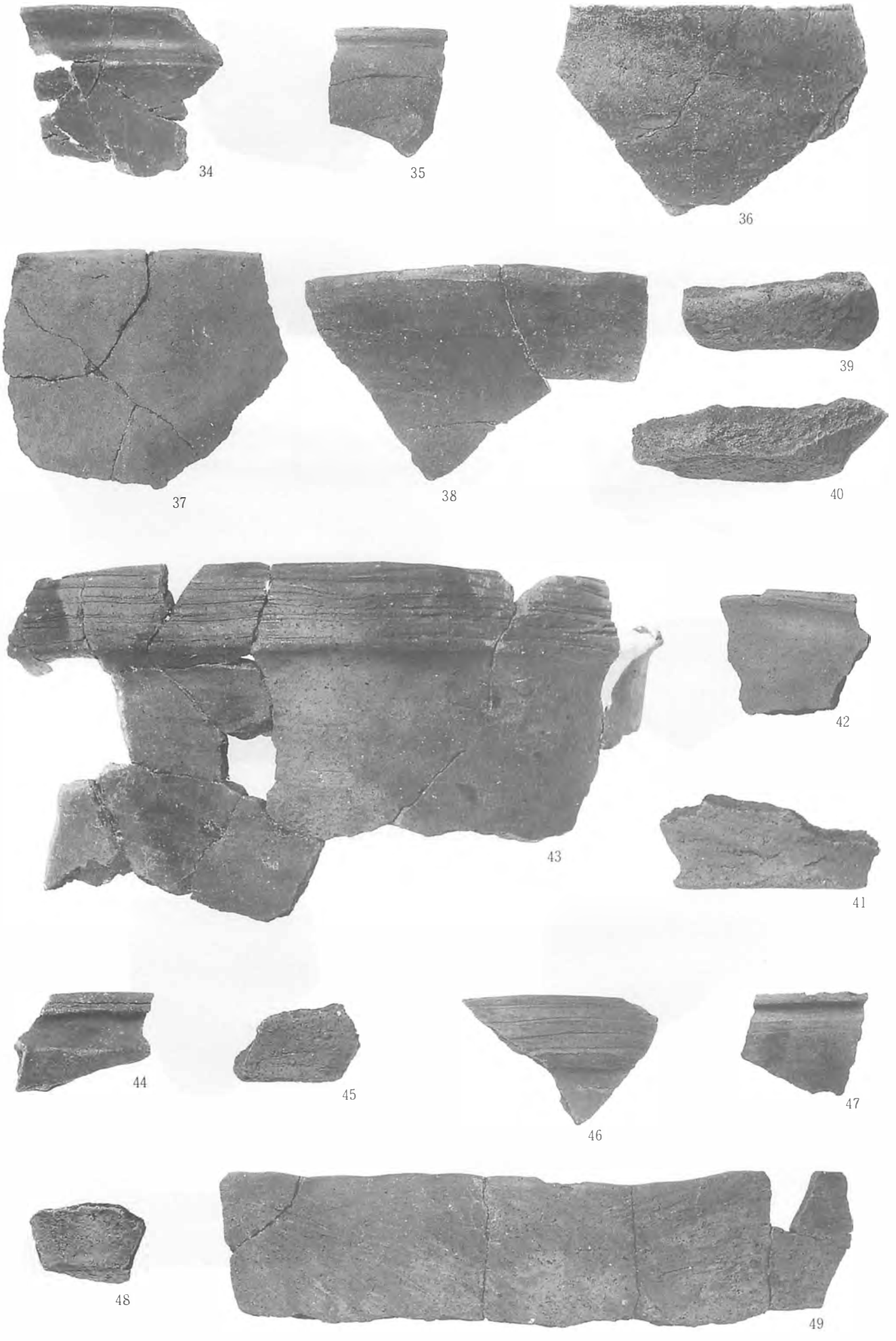
20

21

住居跡出土土器（12、13、16～21）



住居跡出土土器（22、24～33）



住居跡出土土器（34 ～ 49）

50

51

52

54

53

56

55

住居跡出土土器（50 ～ 56）

1

5

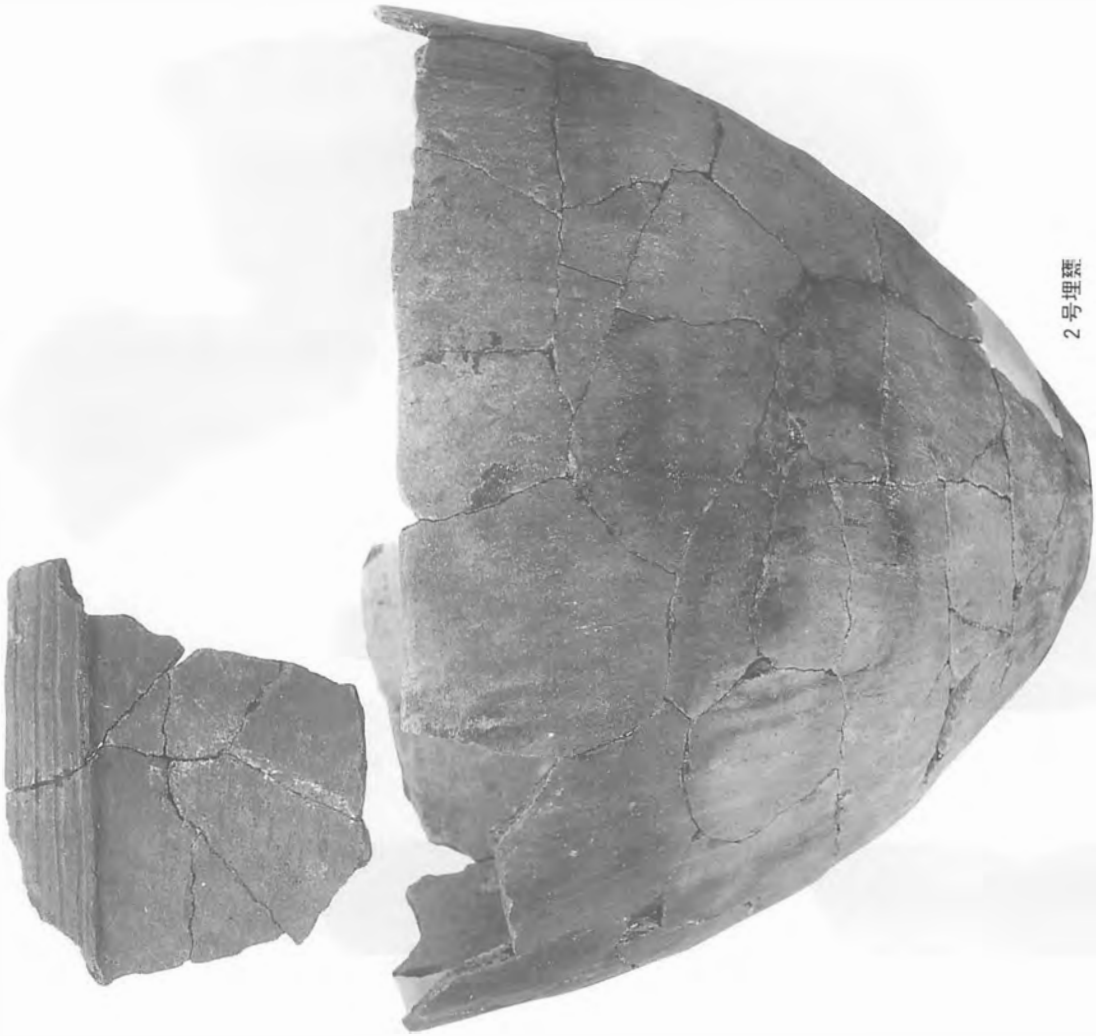
2

6

1号円形周溝遺構出土土器（1、2、5、6）

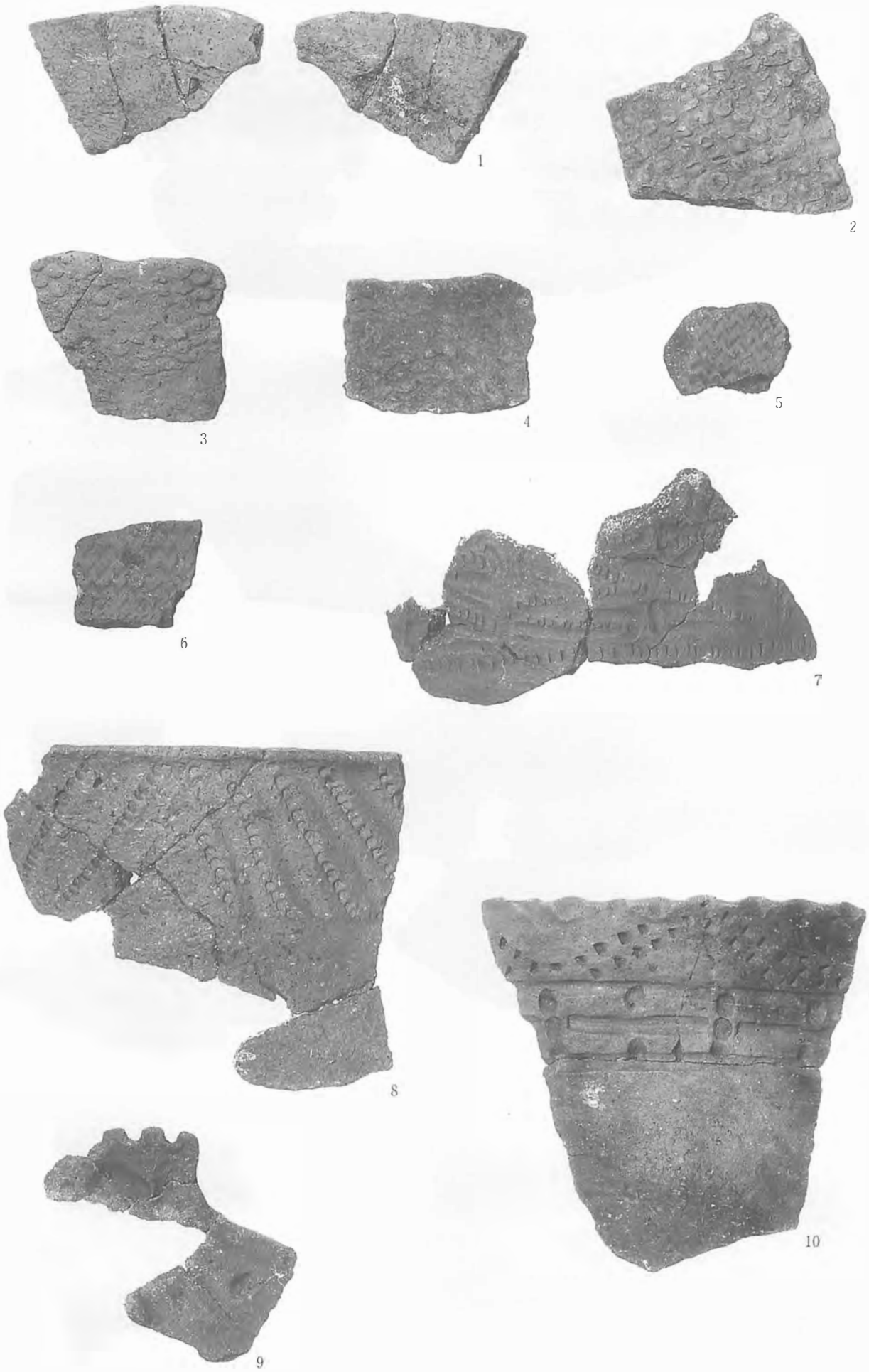
1号円形周溝遺構出土土器（3、4、7～10）

3号埋甕



2号埋甕

2、3号埋甕



出土縄文土器（1～10）

出土縄文土器（11～18）

19

20

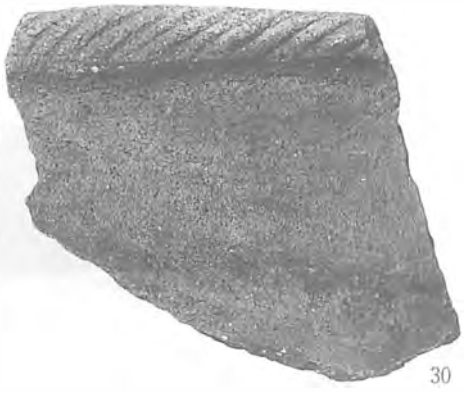
22

出土縄文土器（19、20、22）

出土縄文土器（21、23 ～ 27）

28

29


30

33

31

32

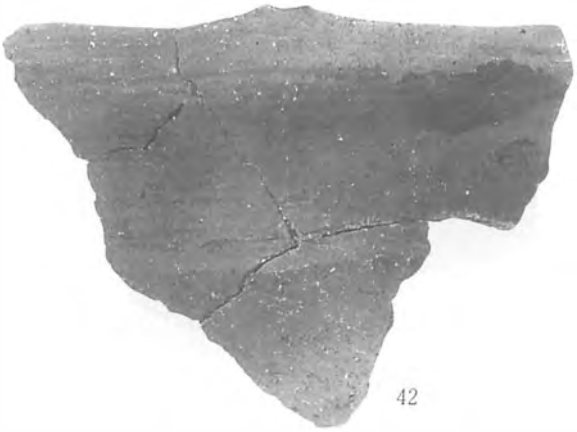
出土縄文土器（28～33）

出土縄文土器（34～39）

40

43

41


42

44

45

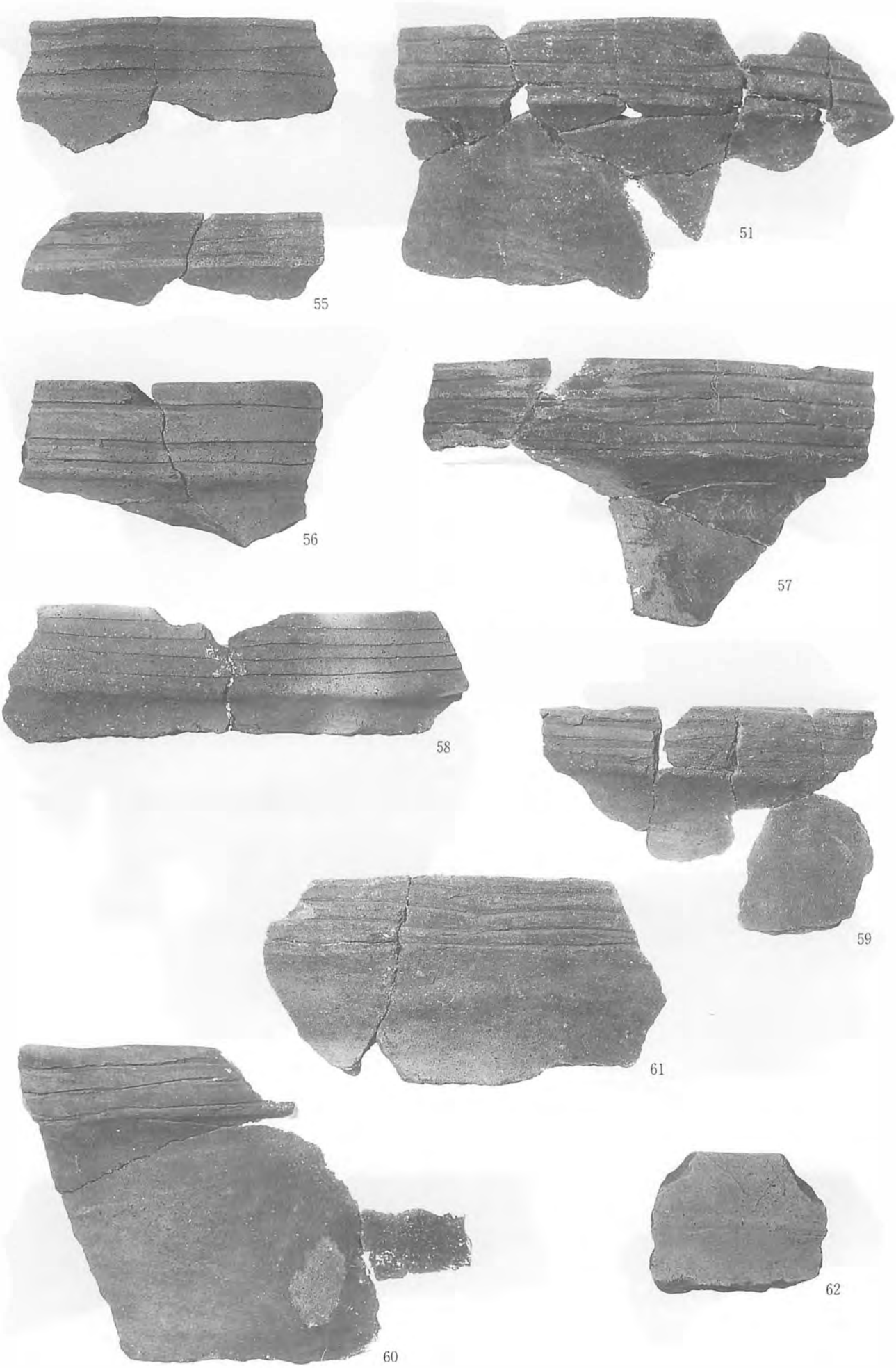
46

47

48

49

出土縄文土器（40 ～ 49）

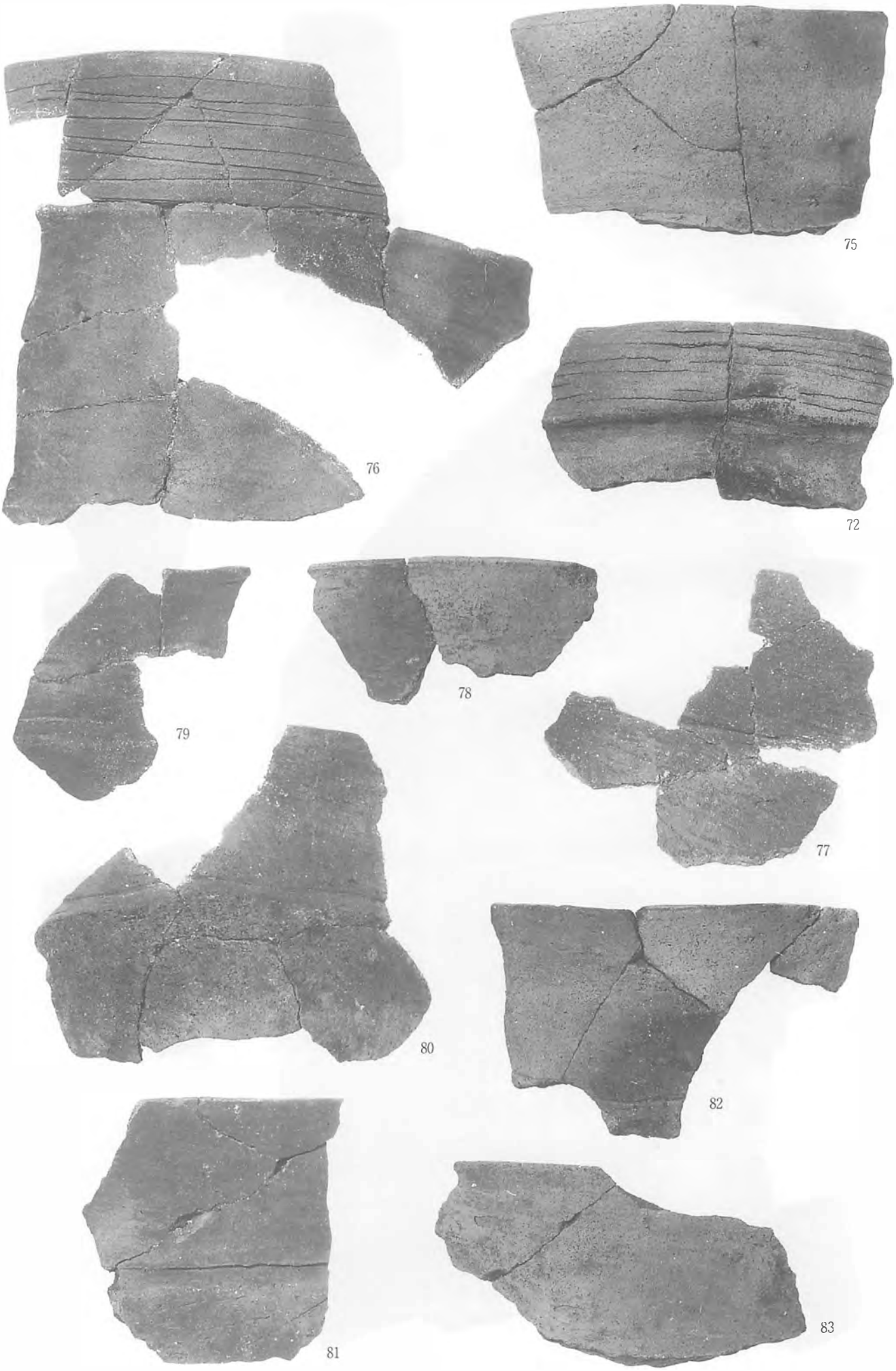


出土縄文土器（50、51、55～62）

出土縄文土器（52～54）

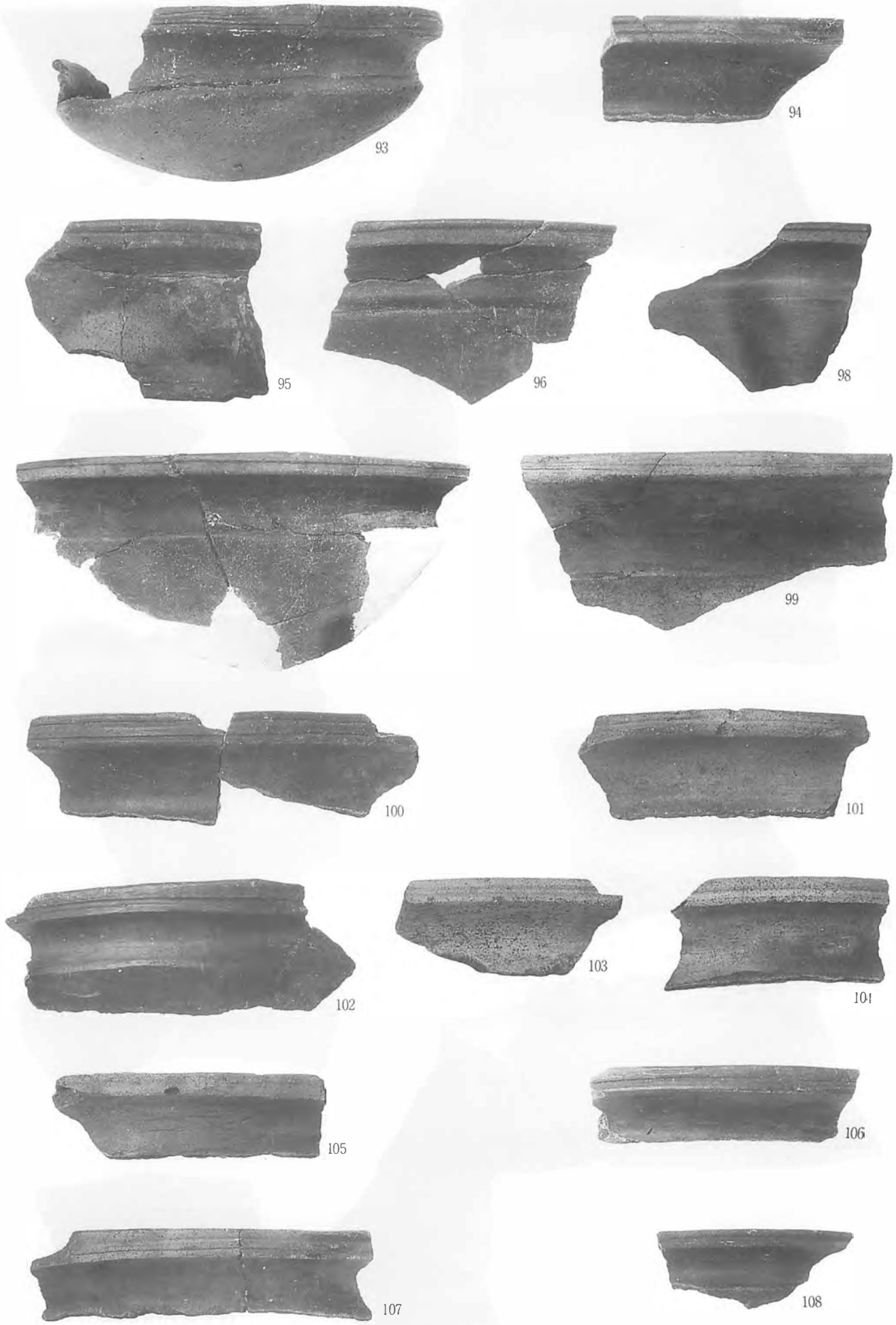
出土縄文土器（63～65、67、69、70）

出土縄文土器（66、68、71、73、74）



出土縄文土器（72、75～83）

出土縄文土器（84～92）



出土縄文土器（93～108）

出土縄文土器（109～121）

122

124

125

123

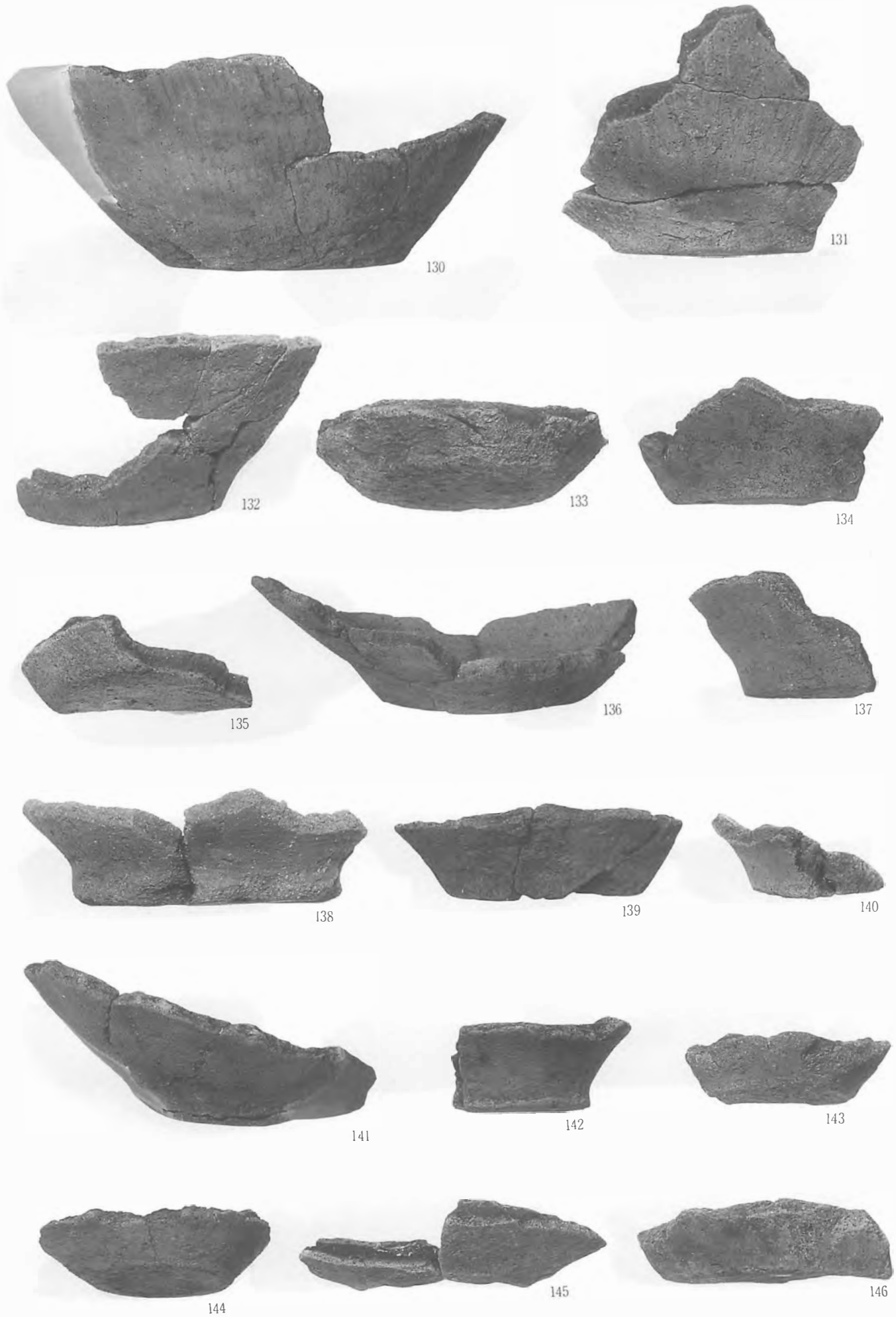
126

127

128

129

出土縄文土器（122～129）



出土縄文土器（130 ～ 146）

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

167

164

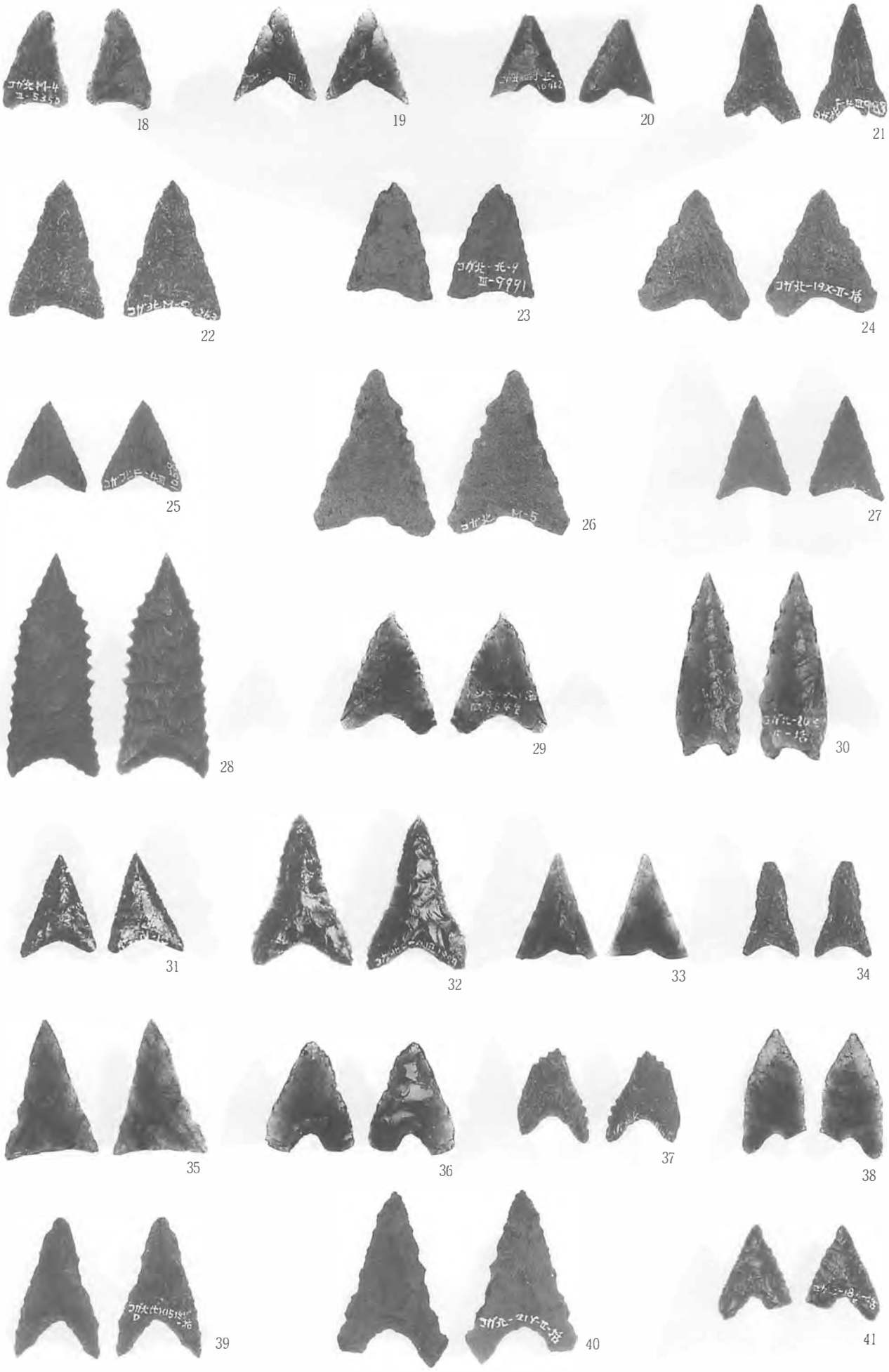
166

165

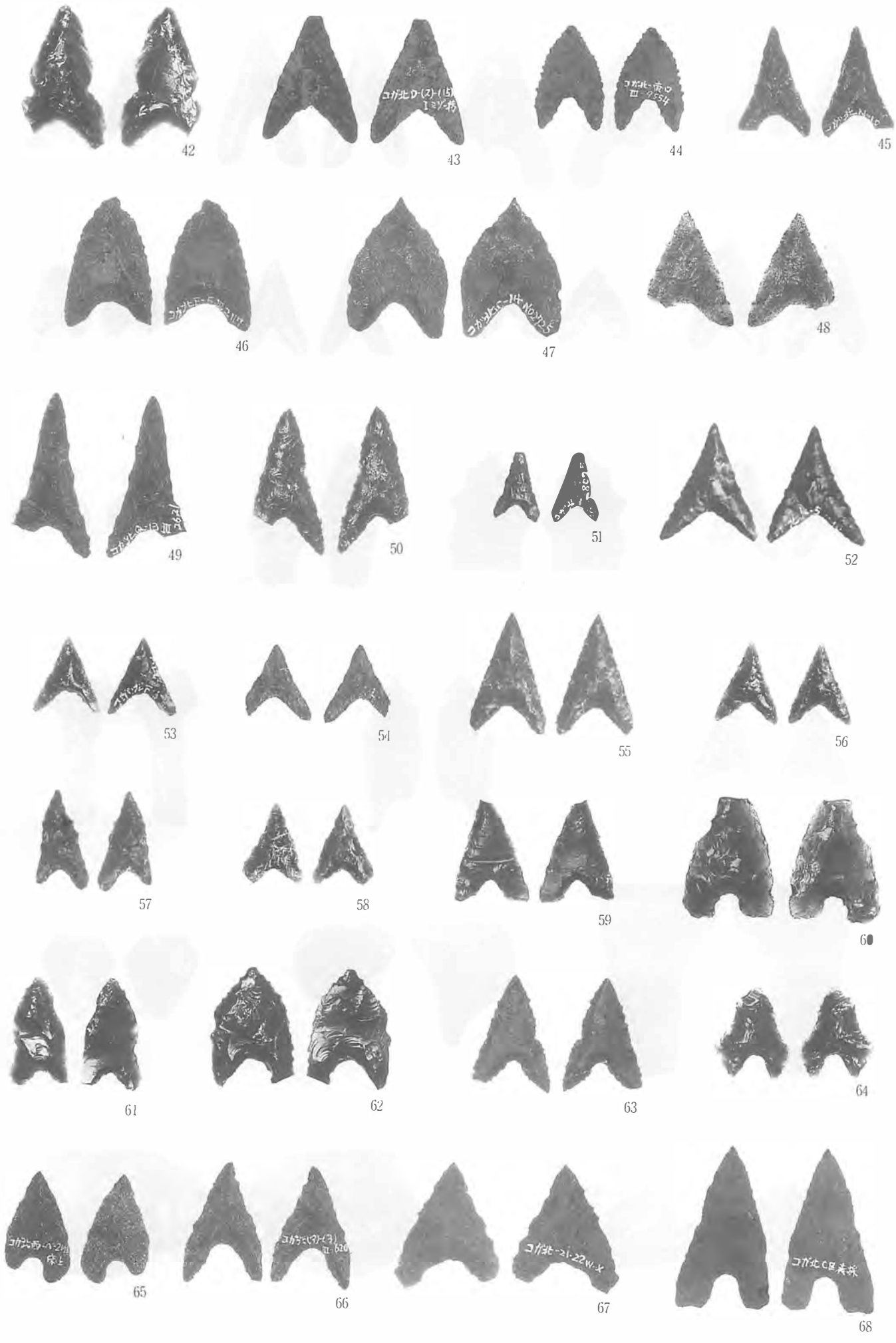
出土縄文土器（147 ～ 167）

出土縄文土器（168）

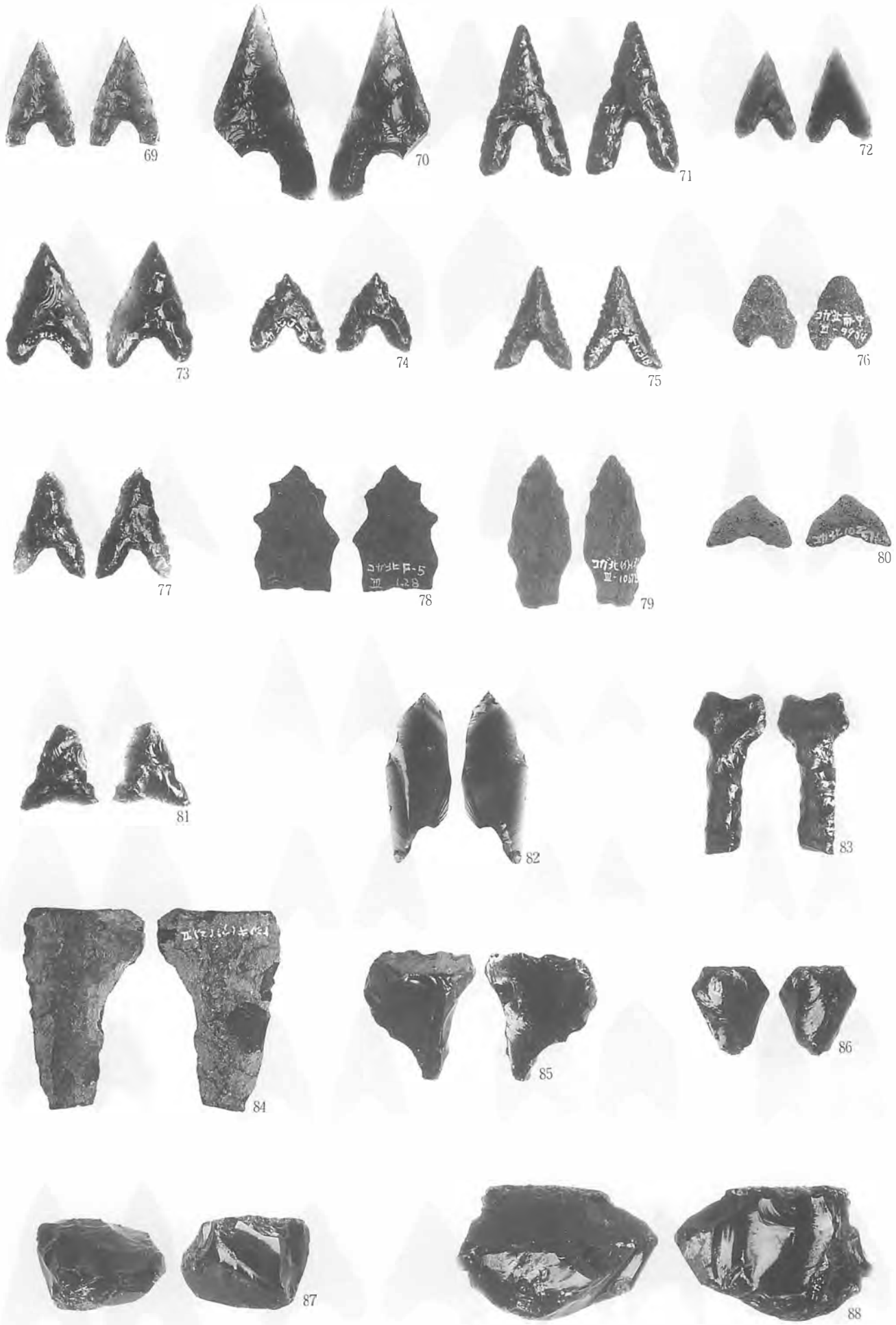
出土石器（1～17）



出土石器（18～41）


42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68

出土石器（42～68）



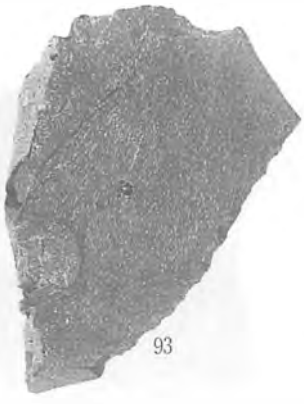
出土石器（69～88）

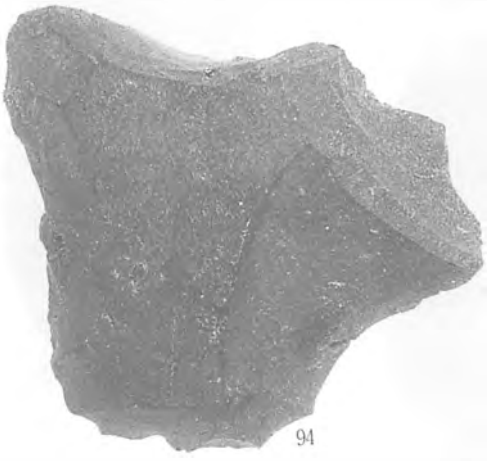
89

90

91

92


93


94

95

96

97

98

出土石器（89～98）

出土石器（99～105）

106

108

107

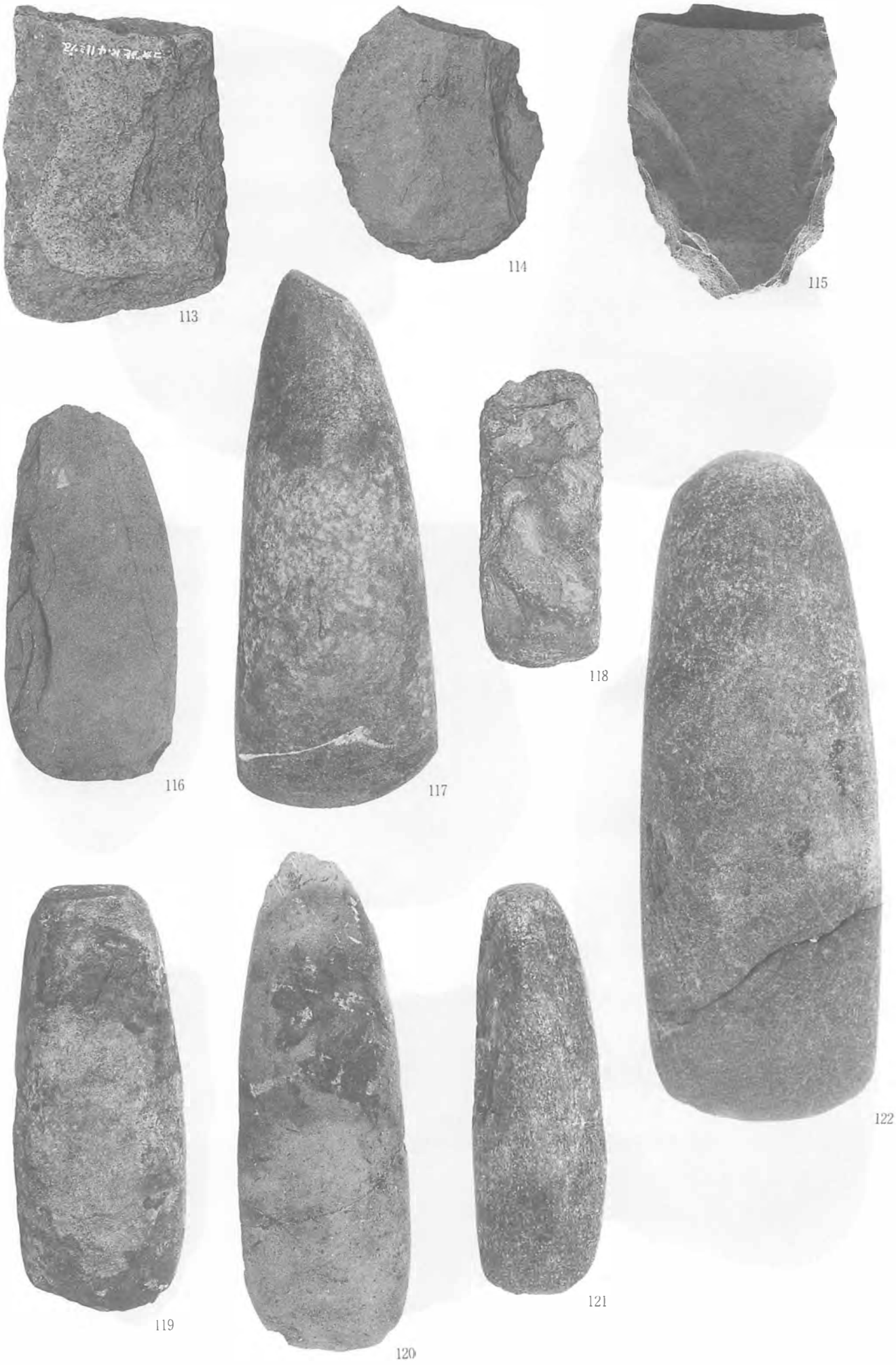
109

110

111

112

出土石器（106～112）



出土石器（113～122）

123

124

125

127

128

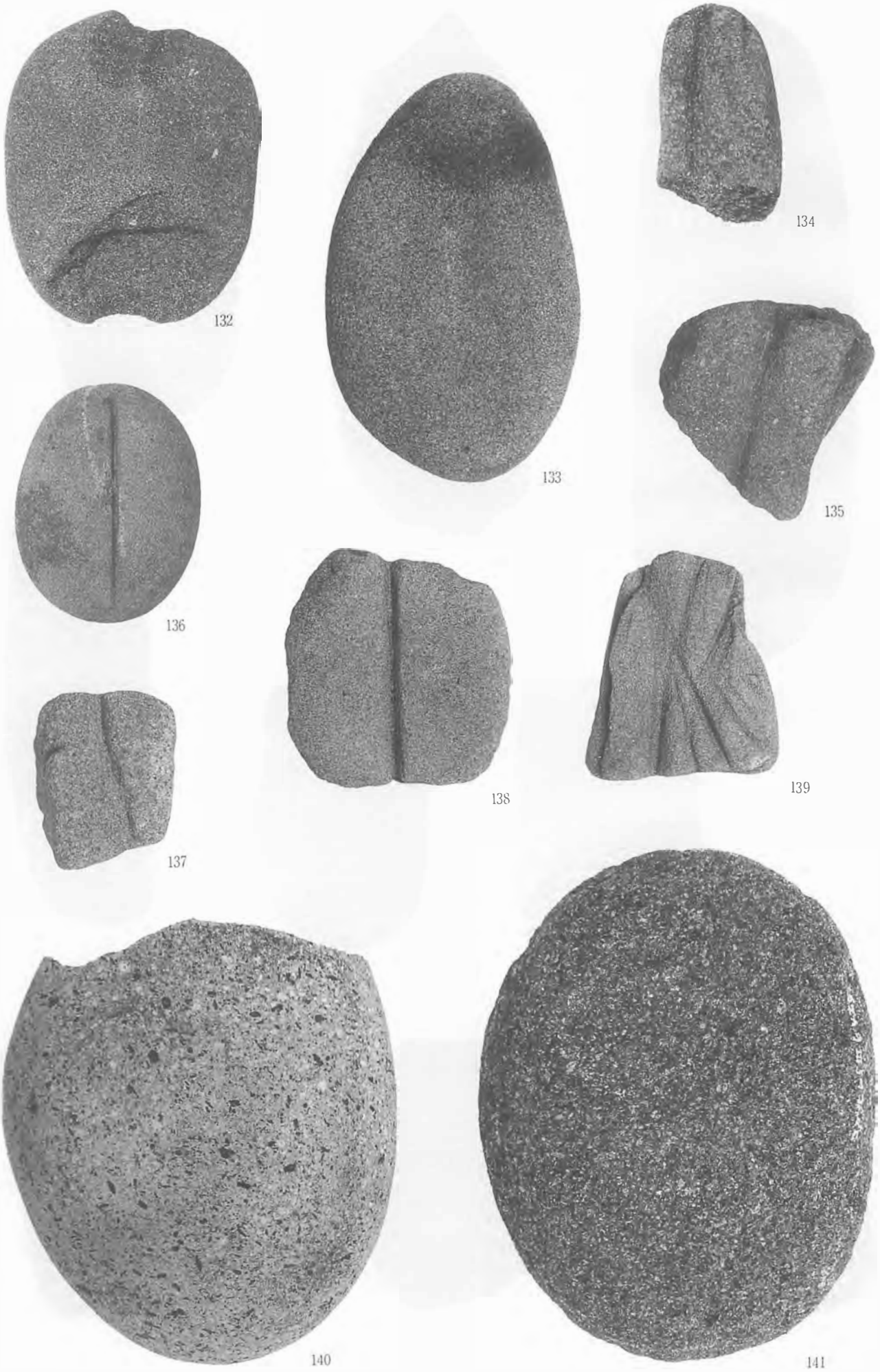
129

126

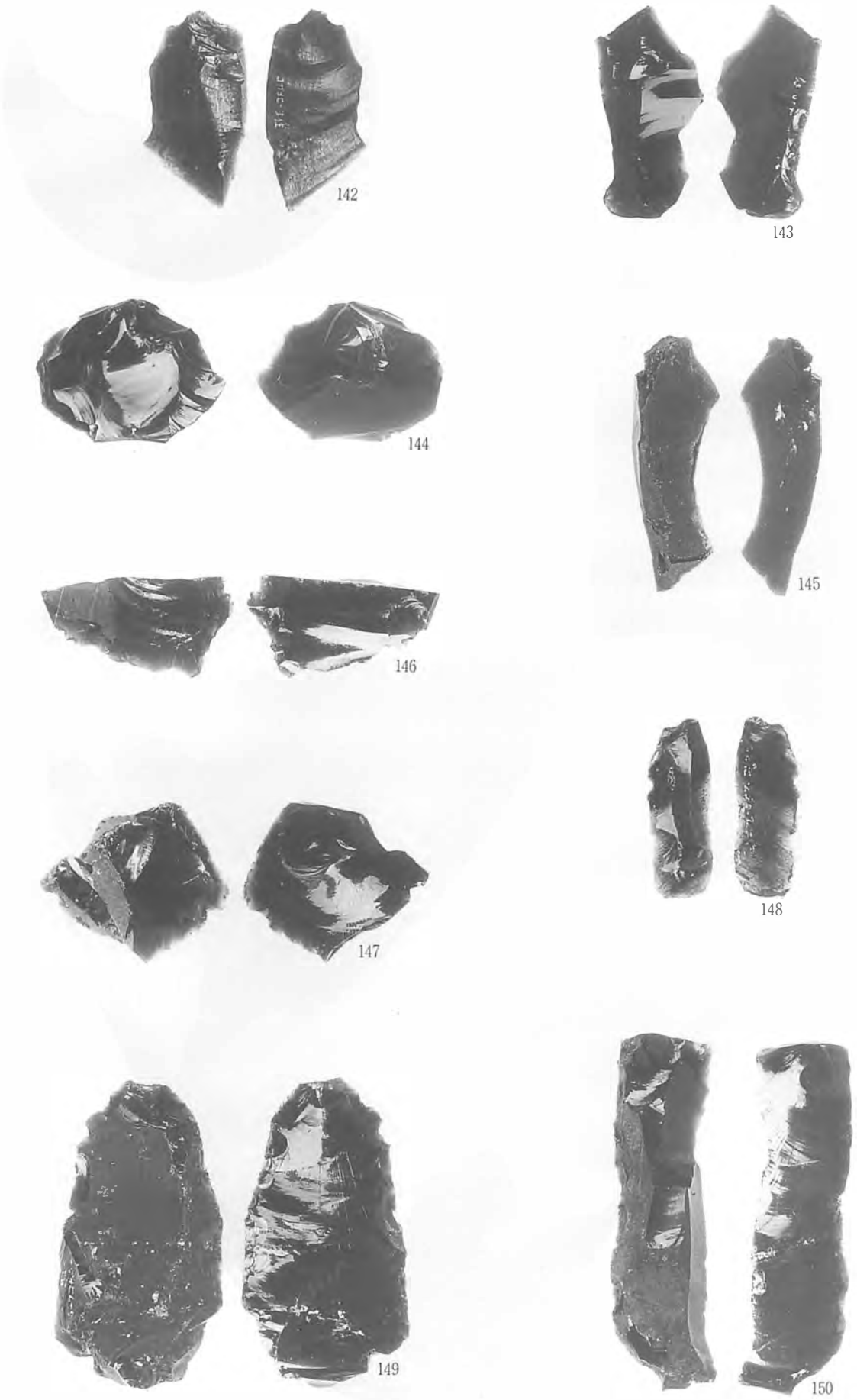
130

131

出土石器（123～131）



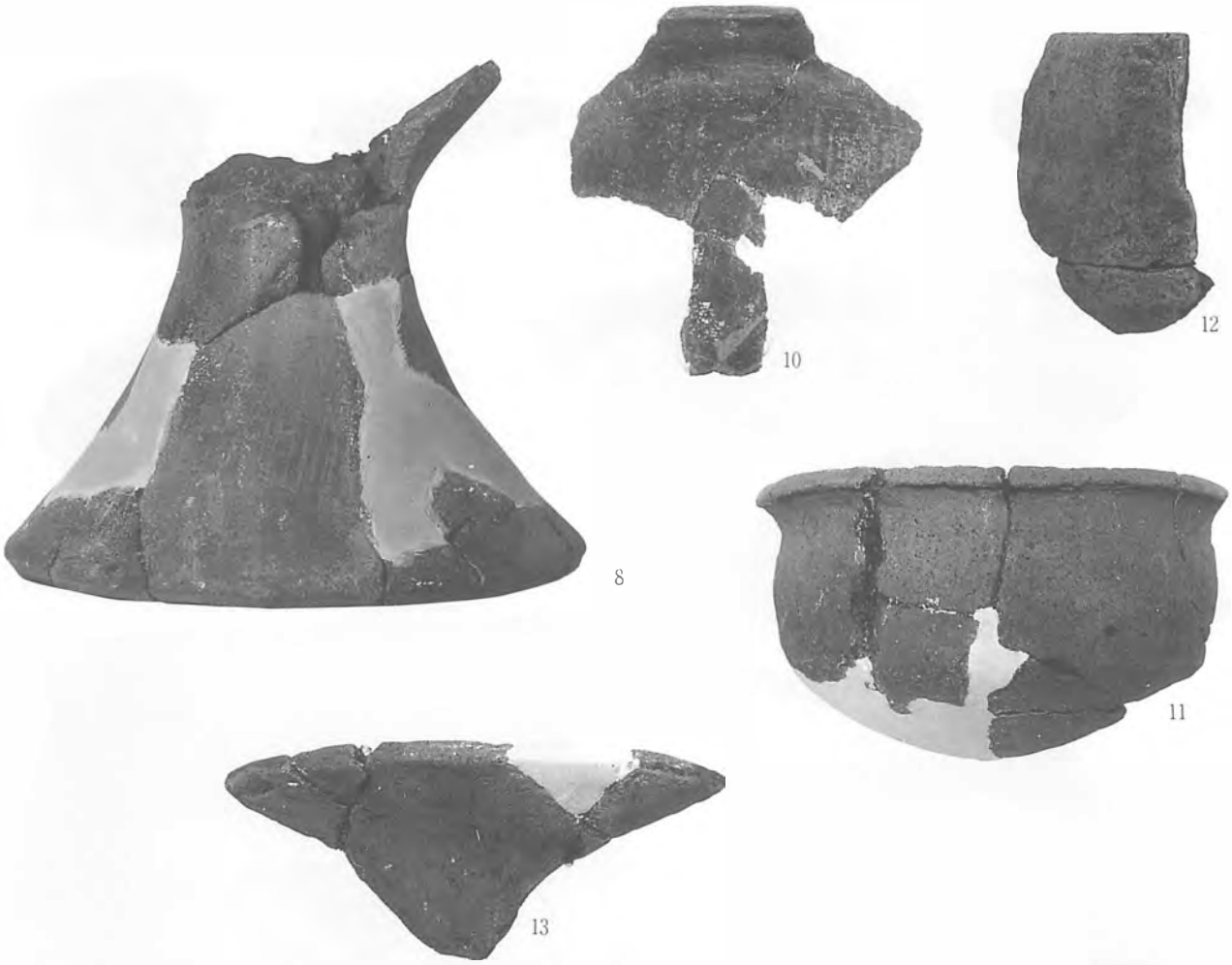
出土石器（132～141）



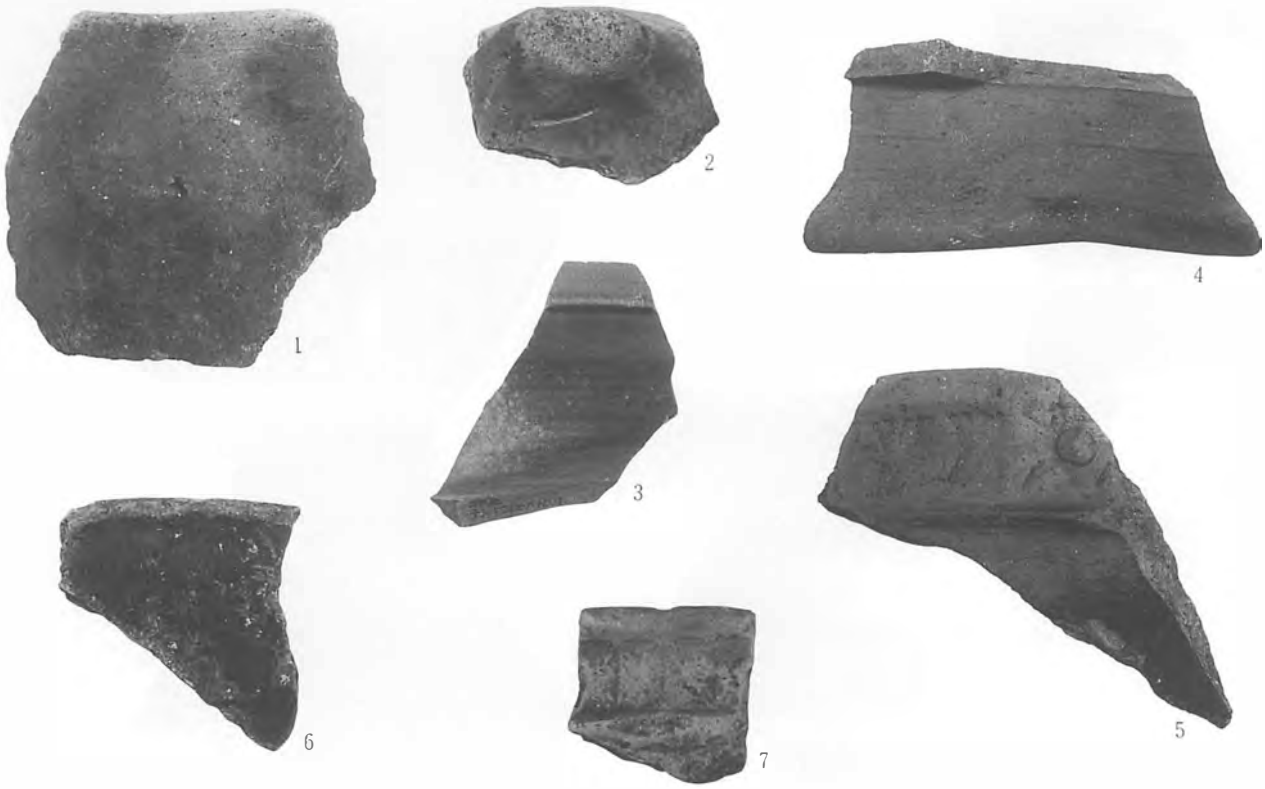
出土石器（142～150）

1号住居跡出土土器(1、2)

出土弥生土器（1～7、9）



出土弥生土器（8、10～13）



出土歴史時代土器（1～7）

報　告　書　抄　録

ふりがな	こがきたいせき
書　　名	古閑北遺跡
副書名	産業展示場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告書
シリーズ番号	第１８４集
編著者	野田恒親・濱田彰久
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609　熊本県熊本市水前寺６丁目１８番１号
発行年	西暦　１９９９年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
こがきた 古閑北	かみましきぐんましきまちおおあざこが 上益城郡益城町大字古閑 あざよこみち 字横道 あざとよのうち 字豊之内 あざさきくぼ 字崎久保	43443	072	32度 47分 26秒	130度 47分 36秒	19930614 ～ 19960515	28,700㎡	産業展示場建設及び周辺施設整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古閑北	散布地	縄文時代 草創期 早期 中期 後期 晩期	陥し穴１基 住居跡17基 埋甕２基 円形周溝遺構 ９基	有舌尖頭器 押型文土器 並木式土器、阿高式土器、南福寺式土器 出水式土器、御手洗式土器、北久根山式土器、磨消縄文土器、黒色磨研土器、粗製土器 石鏃、尖頭状石器、石匙、石錐、削器、楔形石器、円盤状石器、打製石斧、磨製石斧、石錘、砥石、二次加工のある石器、使用痕のある剥片、磨石、敲石	
		弥生時代 中期 後期	住居跡１基	弥生中後期土器	
		歴史時代		土師器、須恵器	

あとがき

産業展示場建設事業に伴う埋蔵文化財の調査は、発掘調査と整理・報告書編集作業を合わせると足かけ６年に及ぶ長期にわたる事業でありましたが、ようやく報告書を発行することができました。

これも、発掘・整理作業に携わって頂いた多くの方々のご協力とご努力のお陰であります。

報告書を終えるにあたって、そのご芳名を記し、感謝の意を表したいと思います。

発掘作業	石田　拓也	石田ミネ子	岩切美智子	岩田　政秀	内川とみえ	内田ルイ子
	大舘ムツエ	大舘　安敏	岡田伊佐央	河野　義勝	木下　政広	古閑　征一
	杉浦千枝子	杉浦りえ子	杉本　美子	田島　弘子	髙田　真吾	田上　利子
	土田　俊雄	土持アキエ	土持　励子	徳光ひろみ	中島　久枝	中島ミサエ
	中林るり子	中村　藤子	中村里和子	成松百合子	西坂スマ子	西坂　　豊
	西明ムツ子	沼田　義宏	平井　和子	福田　清子	藤本　要一	堀川　貞子
	堀野　重子	前田　博美	松田　計子	三浦キエ子	村崎美穂子	森上　栄子
	森上美和子	森川　征子	森永タエ子	矢ノ下順子	山田　友子	山本　悦子
	横田　量子	吉村久美子	吉村　寿利	吉村八千代	笠　　春美	渡辺いわ子
整理作業	荒牧　陽子	上村　孝子	宇野　玲子	大塚トシ子	後藤　直美	田中　洋子
	長野　邦子	吉岡　直子	吉田　律子	吉永恵美子		

熊本県文化財調査報告　第184集

こがきた

古閑北遺跡

産業展示場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日　　平成11年３月31日

発　　行　　熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市水前寺６丁目１８番１号

印　　刷　　株式会社 キャップ

〒860-0822 熊本市本山町189

１０　教　教文
②　０１７

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 184 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：古閑北遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/